

社会デザイン学特殊研究 1

Special Study: Social Design 1

(社会学原論)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会デザイン研究科
科目コード等：	VM101
授業形態：	ハイフレックス
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SDS5110
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、社会学の基礎を修得することを目標に講義を行う。具体的には、①社会学の基本的な理論や概念を理解する、②社会学の多様な研究分野の概要を知る、③社会学の視座を用いて具体的な社会現象を捉えることができるようになる、の三点の目標に受講者が到達することを旨とする。

The aims of this course are for students to master the foundations of sociology. Specifically, the aim is that students reach three goals: 1) understanding the basic theories and concepts of sociology, 2) obtaining overviews of various research fields in sociology, and 3) becoming able to grasp concrete social phenomena from the viewpoint of sociology.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、以下の三段階のステップを踏む。まず、M・ヴェーバーやE・デュルケームの古典理論や、役割や権力といった基本概念について説明する。次に、メディアや都市、ジェンダー論など社会学の各分野を紹介

する。最後に、リスクや公共性といったいくつかのキー概念を通して、受講生とともに現代や未来の社会について議論・構想する。なお、授業は主に講義形式で行うが、適宜、グループワークなど実習の形式も取り入れる。

This course is divided into the following three steps: (1) explain the classical theories of M. Weber and E. Durkheim, and basic concepts such as role and power; (2) introduce each field of sociology, such as media, city, and gender; and (3) discuss present and future society with students through some key concepts, such as risk and publicness. The course format is mainly lecture, but as appropriate, incorporates practical training such as group work.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：社会学とは何か
- 2回：グループワーク①——社会のイメージを描く
- 3回：社会学前史
- 4回：ヴェーバーとデュルケームの社会学
- 5回：ジンメルと相互作用論
- 6回：自己とアイデンティティ
- 7回：権力
- 8回：ジェンダー
- 9回：文化と再生産
- 10回：都市と階級
- 11回：メディア論の基礎
- 12回：グループワーク②——「より良い社会」について考える
- 13回：リスクと現代社会
- 14回：公共性とコミュニケーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特に自らが関心を持った回のテーマについては、関連書籍を調べるなどして、理解を深めておくと良い。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内で指示する提出物（リアクションペーパーなど）:40%

テキスト / Textbooks

奥井智之 社会学 第2版 東京大学出版会 2014 9784130520256 ○

参考文献 / Readings

奥井智之 社会学の歴史 東京大学出版会 2010 9784130520232

その他 / Others

研究科の行事と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることもある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究 3

Special Study:Social Design 3

(自然科学の方法)

大熊 玄 (OKUMA GEN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM103

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

(1) 「自然」に関する“哲学的”文章を読み、多様な「自然」についての基礎知識と思考方法を身につけること。(2) 各々の思想について簡単に説明・批評ができるようになること。また、(3) それらを援用または批判することで、自らの問題意識に合わせた説得力のある意見を述べる技能を身につけること。

(1) To acquire basic knowledge and thinking about various types of "shizen(nature)" by reading "philosophical" texts on "shizen(nature)". (2) To become able to briefly explain and comment on each thought. Also, (3) To acquire the skills to express persuasive opinions in line with the student's own awareness of problems by using or criticizing other theories on "shizen(nature)".

授業の内容 / Course Contents

私たちの社会は、人と人との関わりだけでなく、人と自然との関わりの中かで成り立っていると言える。しかし、そもそも自然は、人と「と」で結ばれるような「別の何か」なのだろうか。自然を「人とは別の利用対象

や周囲環境」とみなす前提それ自体を検討する必要はないだろうか。自然は、人を含めた生物が生活する「居場所」でもあり、あるいは人を含むすべてであるかもしれない。授業を通してさまざまな視点による「自然」を学び、講師および他の参加者の考えも検討することで、人間と現代社会について考える。

学生は、事前に指定の文章を読み、授業内で講師による解説を聞いて質疑・討議を行い、授業後に簡単なコメントを書く。そのコメントを次回の授業でフィードバックし、参加者全員で共有することで、授業を、循環する複方向型の「対話の場」、「知的探求の共同体」としたい。

It can be said that our society is made up not only of human-human relationships but also of human-nature relationships. But is nature, in the first place, "something else" that connects "with" people? Isn't it necessary to consider the premise itself that nature is "a different object for use or the surrounding environment"? Nature is also the "place to live" where living things including people live, or it may be everything including people. Students will learn about "nature" from various viewpoints through the classes and think about human beings and modern society by examining the thoughts of the lecturer and other participants. Students must read the designated texts in advance, listen to the commentary by the lecturer in the classes, ask questions and debate, and write brief comments after the classes. By feeding back the comments in the next class and sharing them with all the participants, we hope to make the class a multi-directional and circulatory "place of dialogue" and "community of intellectual inquiry".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：星野道夫／本当の野生
- 3回：寺田寅彦／天災と日本人
- 4回：桑子敏雄／原生自然と空間の履歴
- 5回：アルド・レオポルド／環境倫理(ランドエシックス)
- 6回：討議1
- 7回：日高敏隆／ユクスキュルの環世界・イリュージョン
- 8回：上野誠／日本人の聖なる自然
- 9回：鈴木大拙／機心と自然
- 10回：竹内整一／「おのずから」と「みずから」のあい
- 11回：討議2
- 12回：西岡常一／木のいのち木のころ
- 13回：内山節／日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか
- 14回：山尾三省／アニミズムという希望

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習／指定した文章を読んでおき、自らの興味・疑問を整理しておく。

復習／授業を振り返り、コメント（客観＋主観）を送る。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の出席とコメント:70% 授業内レポート（最終コメント）:30%

テキスト / Textbooks

CanvasLMS 上にアップする。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器（ノートパソコン・タブレット）持参が望ましい。

その他 / Others

第一回目授業「ガイダンス」にて、授業の方針・進め方を説明します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究 4

Special Study:Social Design 4

(アイデンティティ論)

大熊 玄 (OKUMA GEN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM104

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

(1) 現代社会における「アイデンティティ」という概念の多様性を理解し、その準拠枠そのものを考察すること。(2) 「アイデンティティ」に関して、多様な分野と難易度の文献を読み、講師ならびに他の受講生の思考を受けとめ、既存の「自らの考え」を吟味し、新しい「自らの考え」へと更新し、説得力をもって表現できるようになること。

(1) To understand the diversity of the concept of "identity" in this modern society, and to consider itself as the frame of reference at the meta level. (2) Regarding "identity", reading texts on various fields and degrees of difficulty, referring to thoughts and opinions of the lecturer and other students, to examine the existing "own thoughts", and to update them to new "own thoughts" and to explain it persuasively.

授業の内容 / Course Contents

私たちは、必ず何らかの「アイデンティティ (identity)」を有している。それは、いわゆる人種や民族、国

籍や使用言語に基づく「同じであること」かもしれない。あるいは、文化・伝統・ジェンダー・セクシャリティ・居住地域・所属組織・階級・趣味嗜好・宗教行為かもしれない。そうした多様な同一性や同一化 (identification) には、必ず「異なっていること (alterity)」や「差異化 (differentiation)」が伴われている。それら、社会学・心理学・文学など複数の分野で扱われる「アイデンティティ」という概念の可能性・危険性・安全性 (安心性)・脆弱性・強靱性・柔軟性・頑迷性などを多面的に“哲学”として考察し対話する講義としたい。

We all have some kind of "identity". It may be "being the same" based on so-called race, ethnicity, nationality or language. Or it could be culture, tradition, gender, sexuality, place of residence, organization, class, tastes, or religion. Such diverse identities and identifications are always accompanied by alterity and differentiation. In this lecture, we will consider and discuss philosophically the concept of "identity", paying attention to its possibilities, dangers, safeties, vulnerabilities, resilience, flexibilities, stubbornness, etc..

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：池上英子／アバター主義
- 3 回：内田樹／アイデンティティという物語
- 4 回：平野啓一郎／分人主義
- 5 回：浜口恵俊／間人主義
- 6 回：リンダグラットン／ポートフォリオワーカー
- 7 回：榎本博明／自己物語とアイデンティティ
- 8 回：鷲田清一／じぶん この不思議な存在
- 9 回：フロム／自由・決定・二者択一
- 10 回：ゲーゲン／社会構成主義的な自己
- 11 回：夏目漱石／私の個人主義
- 12 回：アミン・マアルーフ／アイデンティティが人を殺す
- 13 回：ウェンガー&レイヴ／正統的周辺参加とアイデンティティ
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習／指定した文章を読んでおき、自らの興味・疑問を整理しておく。

復習／授業を振り返り、コメント (客観+主観) を送る。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：011) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の出席とコメント:70% 授業内レポート (最終コメント) :30%

テキスト / Textbooks

CanvasLMS にアップする。

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器（ノートパソコン・タブレット）持参が望ましい。

その他/ Others

第一回目授業「ガイダンス」にて、授業の方針・進め方を説明します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究 6

Special Study:Social Design 6

(社会デザイン学への招待)

中村 陽一 (NAKAMURA YOUICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： VM106
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SDS5110
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

この科目は、本研究科が一貫して追究し続けてきた社会デザイン（学）の思想的・学問的含意から実践的な社会技術としてのありようまで、分野・領域横断的に提示し、その見取図を描いていこうとするものである。社会デザイン（学）の世界を受講者とともに「回遊」することをめざしたい。

This course is presented across fields and disciplines from the philosophical and academic implications of social design (studies) that the Graduate School has consistently pursued, to the state as a practical social technology, and attempts to draw a sketch of this field. We would like to aim at "walking" with students in the world of social design (studies).

授業の内容 / Course Contents

「野生の社会デザイン（学）」を探究したい。ちょっといいアイデアといった social design が流行り出すなか、ソリューション（問題解決）を志向する社会デザインから、さらには構造的なイノベーション（社会を変え

る)を実現する大文字の Social Design へと進むためにどうしても必要な姿勢だと考えるからである。他者と出会い、交信し、その関係性のなかで当事者性にも出くわす。そんな更新作業(対象化)の連続こそダイアログとしてのデザインであり、デザインをデザインし直すこと=野生の社会デザインなのではないだろうか。

We want to explore "wild social design (studies)". Amid the emergence of social design as a somewhat good idea, this is because we believe that this attitude is necessary to move from social design for solutions (problem-solving) to upper case Social Design for realizing structural innovation (changing society). Meet other people, communicate with them, and in these relationships also come across the parties. Such a series of renewal work (targeting) is design as a dialog, and is it not redesigning the design = wild social design?

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：なぜ社会デザインなのかー映像『みんなのための資本論』から、「知の回遊」へ向け問題関心を共有してみる
- 2 回：社会デザイン(学)とはー社会課題に取り組む<デザイン>
- 3 回：社会デザイン(学)を考える 4 冊①『姿勢としてのデザイナー「デザイン」が変革の主体となる時』
- 4 回：社会デザイン(学)を考える 4 冊②『世界を変えるデザイン2 スラムに学ぶ生活空間のイノベーション』
- 5 回：社会デザイン(学)を考える 4 冊③『グラフィックデザインで世界を変える』
- 6 回：野生の社会デザイン(学)を考える 4 冊④『ワーク・シフト 孤独と貧困から自由になる働き方の未来図<2025>』
- 7 回：社会デザイン曼荼羅①ネットワーク・ソーシャルキャピタル・サードプレイスー一人では背負えない課題を皆でシェアする
- 8 回：社会デザイン曼荼羅②NPO/NGOー社会に影響を与える市民活動の組織デザイン
- 9 回：社会デザイン曼荼羅③ソーシャルビジネス/コミュニティビジネスー社会と向き合うビジネスのデザイン
- 10 回：社会デザイン曼荼羅④社会イノベーターとの共感・信頼・協働が人びとの行動を変える
- 11 回：社会学の<デザインと方法>への旅①SOCIOLOGY：ACADEMIC OUTLINEー社会デザインの物語としての「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」(M・ウェーバー)
- 12 回：社会学の<デザインと方法>への旅②大衆社会論(E・フロム、D・リースマン)、<1968年>と新しい社会運動論
- 13 回：社会学の<デザインと方法>への旅③新たな空間デザインと社会デザイナービルディングタイプ学入門
- 14 回：21.5 世紀の社会デザインへ向けて：「知の回遊」から well-being な関係性の編み直しとパーパスの探究へ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド(パワポ等)の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、毎回の授業終了時に指示する。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：011) / Evaluation

レポート試験 :80%

平常点割合 :20% 授業と討議への参加:20%

テキスト/Textbooks

- アリス・ローソン 『姿勢としてのデザイン』 フィルムアート社 2019 9784845918324 ○
 シンシア・スミス編 『世界を変えるデザイン2 スラムに学ぶ生活空間のイノベーション』 英治出版
 2015 9784862761705 ○
 アンドリュー・シー 『グラフィックデザインで世界を変える』 ビー・エヌ・エヌ新社 2013
 9784861008542 ○
 リンダ・グラットン 『ワーク・シフト 孤独と貧困から自由になる働き方の未来図<2025>』 プレジデ
 ント社 2012 9784833420167 ○

参考文献 / Readings

- レスリー・R・クラッチフィールド 『世界を変える偉大なNPOの条件—圧倒的な影響力を発揮している組
 織が実践する6つの原則』 ダイヤモンド社 2012 9784478007280
 ロバート・D・パットナム 『孤独なボウリング—米国コミュニティの崩壊と再生』 柏書房 2006
 9784760129034
 レイ・オルデンバーグ 『サードプレイス—コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』 みすず書
 房 2013 9784622077800
 中村陽一他編著 『21.5世紀の社会と空間のデザイン—変容するビルディングタイプ』 誠文堂新光社 2022
 9784416521014
 中村陽一監修 『社会デザインをひらく』 ミネルヴァ書房 2024 刊予定

授業の性格上多岐にわたるため、他は授業内および毎回の準備学習指示時に紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

社会デザインは広範なテーマを含むため、幅広い分野への多様な知的好奇心を持って授業に臨むことが求めら
 れる。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

資料配布、課題提示などに「Canvas LMS」を使用するので、授業にPCを持参すること。

その他/ Others

関連する公開講演会、研究会、自主ゼミ等について、授業で随時紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または
 研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討
 論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究 8

Special Study:Social Design 8

(メディアとしての読書文化論)

品治 佑吉 (HONJI YUKICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM108

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

本というモノと人間が取り結んできた交渉関係の考察を通じて、人間が知識や情報に与える物質的形態の重要性を理解する。同時に、大学院での研究にとって重要な書籍に関する実践的な周縁情報を概観する。

By examining the relationship between books and human beings, we will understand the importance of the material form that humans give to knowledge and information.

授業の内容 / Course Contents

しばしば人は、読書を情報伝達のたんなる媒介過程として平板に理解しています。しかし実際には、人類は書物というモノに特別な地位を与え、図像や文字の鑑賞、音読や歌唱、集団での読書やプライベートな読書といった、きわめて多様な交渉関係を取り結んできました。美術家・装幀家の恩地孝四郎は書物をいみじくも「文明の旗」と呼んでいます。本講義では恩地の言葉に倣って、本と人間の間を考察することを通じてわたしたちの文明史を理解していきます。

Often people simply understand reading books as a process of conveying information. In reality, however, people used books for a great variety of occasions, such as visual and textual appreciation, singing, meditation, and reading sessions. The binding artist ONCHI Koshiro called the book "the flag of civilization." Following Onchi's words, this lecture aims to understand the history of our civilization by considering the relationship between books and people.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：本講義のイントロダクション：授業の目的、授業全体の概要、成績評定
- 2回：序論①読書文化とは何か：人類と知識、書物の発明、文化としての読書
- 3回：序論②読書文化の歴史的前提：「洞窟絵画から新聞漫画へ」、宗教と書物、技術の発明、産業化と印刷文化
- 4回：書物の理解①制作物としての本：製本の種類、材料、工程、書誌学的前提
- 5回：書物の理解②出版と流通：編集、出版、取次、小売、その過去と現在
- 6回：書物の理解③保存・蓄積・共有（1）：書物共有とアーカイブ化、図書館というシステム
- 7回：書物の理解④保存・蓄積・共有（2）：知的生産物としての書物、剽窃・複製、著作権の登場
- 8回：読書実践①慣行としての読書：わたしたちは「どのように」本を読んできたか、規範と実態
- 9回：読書実践②知的生産技術としての読書：記憶術、速読・多読術、省略術とリーディングス
- 10回：読書実践③教養主義と書物：「第二の誕生」の産婆役として、文化的卓越化、読書と孤独
- 11回：読書実践④会読の歴史：なぜ集団で読むのか、ゼミナールと輪読、結社のなかの読書
- 12回：読書実践⑤工芸品としての本：鑑賞、本のデザイン、コレクション、考証、「書物の趣味」とは何か
- 13回：読書と権力①読書の統制：文字・表現の統制、検閲と文学、隠れて本を読む
- 14回：読書と権力②書物の破壊：焚書、ビブリオコースト、誰が書物を破壊するのか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：	
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	○
上記いずれも用いない予定	：		：			：	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、前回の授業で紹介した事項を可能な限りリファレンスにあたり調べ、あつたりリファレンスを記録すること。復習として、授業内で紹介した本をできる限り見つけ、手に取り、可能な限りで読むこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 日本エディタースクール出版部 本の知識 日本エディタースクール 2009 9784888883856
 編集の学校／文章の学校 エディターズ・ハンドブック—編集者・ライターのための必修基礎知識 雷鳥社
 2015 9784844136668
 ロジェ・シャルチエ／グリエルモ・カヴァッロ 読むことの歴史—ヨーロッパ読書史 大修館書店 2000
 9784469250640
 茶園成樹編 著作権法 第3版 有斐閣 2021 9784641243514

その他の文献は授業内で適宜紹介します。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ZOOM にログインできる PC・タブレットなどのデバイスを準備すること。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究 14

Special Study:Social Design 14

(社会デザイン学の可能性 1)

品治 佑吉/他 (HONJI YUKICHI/ Other)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM114

授業形態： オンデマンド (全回オンデマンド)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

21 世紀に入り、環境や地域紛争など前世紀からの課題に加えて、新しい形の貧困や社会的排除 (social exclusion) が大きな課題となっている。その解決のため、政府行政・民間企業・NGO/NPO 等の組織はそれぞれどのような役割を担えるのか。また、近年、重視されることの多いセクターの垣根を越えた「協働」は、どこまでの有効性と可能性を期待できるのか。いずれにしても、その際、従来の発想と方法論を超え、社会の仕組みや人々の参画の仕方を変革し具体的に実現していくことが必要になってくる。そのような思考と実践を「社会デザイン」と呼びたい。

この科目は、本研究科が一貫して追究し続けてきた社会デザイン (学) に関し、その思想的含意から実践的な社会技術としてのありように至るまで、分野・領域横断的に明示することで、まずはその見取り図を描いていこうとするものである。それにより、社会デザイン (学) の可能性を受講者とともに切り拓くことを目指したい。

As we enter the 21st century, new forms of poverty and social exclusion have become major issues in addition to the issues from the last century such as the environment and regional conflicts. What kind of role can each

organization such as government, private enterprises, and NGOs/NPOs take to solve these problems? Also, what kind of effectiveness and potential can be expected from "collaboration" that crosses the boundaries of sectors that is often emphasized in recent years? In any case, it will be necessary to go beyond conventional ideas and methodologies and reform and specifically realize social mechanisms and ways for people to participate. I would like to call such thinking and practice "social design".

This course attempts to draw a sketch of social design (studies) that the Graduate School has consistently pursued by presenting the philosophical and academic implications across fields and disciplines. In this way, we aim to open up the possibilities of social design (studies) together with the students.

授業の内容 / Course Contents

本研究科の専任講師によるオムニバス講義である。各回で扱われるテーマは、社会デザイン(学)とは何か、その思想的背景と意味、組織・ネットワーク・マネジメント、コミュニティデザイン、危機管理、NGO/NPO、平和(学)、国際関係、CSR、社会貢献、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス・社会的企業、社会的排除と包摂、アートと社会デザイン(インクルーシブデザイン)、社会調査等多岐にわたり、対象となる事業や活動の範囲・分野も多様なものとなる。

本科目は研究科で学ぶ院生のための社会デザイン(学)案内であり、個別具体的な研究分野とテーマを選択していく際の導入科目である。それと同時に、本科目は社会デザインを考えるためにいかに多様で具体的な分析資料(データ)を加えていくのかを検討する科目としても重要な意味をもつ。以上、本科目は、今後の研究活動のなかで社会デザイン(学)の可能性をどのように拓いていくのか、その方法論とともに考え抜く契機を提供するための内容で計画されている。

This is the omnibus lectures given by the department's faculty members. Each class will cover a wide range of themes such as: What is social design (studies)?, its philosophical background and meaning, organization/network management, community design, crisis management, NGOs/NPOs, peace (studies), international relations, CSR, social contribution, social business, community business, social enterprises, social exclusion and inclusion, art and social design (inclusive design), and social research, and the scope and fields of target businesses and activities will also be diverse.

This course is social design (studies) guidance for graduate students studying at the Graduate School, and is an introductory course for selecting specific individual research fields and themes. At the same time, this course also has an important meaning of considering how to add as many various specific analysis materials (data) as possible to think about social design. As described above, this course is planned to provide an opportunity to consider how to open up the possibilities of social design (studies) in future research activities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに
- 2回：グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 1
- 3回：コミュニティデザイン学と社会デザイン学 1
- 4回：社会組織理論と社会デザイン学 1
- 5回：グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 2
- 6回：コミュニティデザイン学と社会デザイン学 2
- 7回：社会組織理論と社会デザイン学 2
- 8回：グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 3
- 9回：コミュニティデザイン学と社会デザイン学 3
- 10回：社会組織理論と社会デザイン学 3

- 11回：グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 4
 12回：コミュニティデザイン学と社会デザイン学 4
 13回：社会組織理論と社会デザイン学 4
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、授業の終わりに指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業時の質疑への参加:30%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

使用しない。

その他 / Others

平常は、毎回のオンデマンド動画を視聴し、コメントすること。期末には、重要だと思った講義に関するレポート課題をこなすこと。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究 17

Special Study:Social Design 17

(リスク学原論)

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM117

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインの視点から、リスク学に隣接する哲学・思想、倫理学、社会疫学、障害学、社会学、歴史学、行動経済学、防災学に関する理論や知見、議論の状況について俯瞰的に学び、現代社会を取り巻くリスクの分析方法や新たなリスクガバナンスのフレームワークについて考究する。

The aim of this course is to understand theories in philosophy, ethics, social epidemiology, disability studies, sociology, history studies, behavioral economics, disaster prevention science, related to risk from the perspective of social design in order to build a new risk governance framework.

授業の内容 / Course Contents

授業では、政治・公共・科学・法哲学、生命・医療・公衆衛生倫理、社会疫学、障害学、社会学、歴史学、行動経済学、防災学に関する文献を講読し、受講生による課題の発表と討論を通じて、現代社会のリスクに関する事件や社会的な論争の事例を分析する。

In class, we will read literature related to political science, public philosophy, legal philosophy, bioethics, medical ethics, public health ethics, social epidemiology, disability studies, sociology, behavioral economics, history, disaster prevention science and will discuss social issues of risk.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：オリエンテーション：リスク学と社会デザイン

リスク学：リスク学理論

2回：社会学：リスク社会論

歴史学：歴史的事実、歴史修正主義、半ポリティカルコレクトネス

3回：政治哲学・公共哲学・法哲学

功利主義

4回：防災学：自己責任、モラルハザード、パターナリズム

5回：倫理学：生命・医療・福祉（1）

・自己決定権、卵子凍結の社会的適用、AID（提供精子を用いた人工授精）、出自を知る権利

・デザインベビー、ドナーベビ、代理母ツーリズム

・出世前診断と堕胎、臓器移植

6回：倫理学：生命・医療・福祉（2）

・命の選択、命の価値、死ぬ権利

・安楽死、尊厳死、自殺ツアー、ACP

7回：倫理学：生命・医療・福祉（3）

・成年後見、意思決定支援と代行決定、権利擁護

・無益な治療；障がいのある生、すべり坂、パーソン論、優生思想

8回：災害トリアージ、パンデミック下の医療資源配分

9回：社会疫学：健康・命の格差

10回：行動経済学：レバタリアパターナリズム、ナッジ

11回：科学哲学・環境哲学

12回：発表と討論（1）

13回：発表と討論（2）

14回：総括と総合討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各授業前に Canvas LMS にアップするレジюмеと参考文献に基づき予習して授業に臨むことが望ましい。参考文献に利用し発展的に学習することを期待する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加:80% 授業内小レポート:20%

テキスト / Textbooks

なし。授業内にレジュメ、資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究 18

Special Study:Social Design 18

(論文作成法 I)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM118

授業形態： オンデマンド (全回オンデマンド)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 2 年次以上対象。2 年次以上で「社会デザイン学特殊研究 18」の履修を希望する場合は、「VM118 社会デザイン学特殊研究 18」を科目コード登録により履修登録すること。1 年次は「VM119 社会デザイン学特殊研究 18」が自動登録されるため、各自で登録する必要はない。

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、論文作成の基本的なプロセスを理解するとともに、優良な論文を作成する基礎を習得することを目指します。

The aims of the course are for students to understand the basic process of writing a dissertation and to acquire the basics of producing a good dissertation.

授業の内容 / Course Contents

受講生一人一人のレポート・論文作成歴を前提に、修士論文・研究報告等の執筆の基礎となる基本技能を習得してもらうために、実際に作業しながら授業を受けてもらいます。特に本授業では、研究の背景の執筆や問いの立て方、引用・参照の方法などについて重点的に取り上げます。また、論文を執筆する際に欠かせない資料となる、先行研究を検索・収集する練習も行います。なお、講義の計画・内容は受講生の希望等に沿って若干変更することもあります。

Based on each student's report and dissertation writing background, in order to have them acquire the basic skills that are the basis of writing a master's thesis or research report, etc., classes will take a practical training format. In particular, this lesson focuses on writing the background of the research, make the research question, and quoting and referencing methods. In addition, students will also practice searching for and collecting prior research, which is an essential resource for writing a dissertation. Note that the plans and content of the course may be slightly changed depending on the students' wishes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：学術論文の構成
- 3回：論文の種類と収集法
- 4回：研究の背景の執筆・各種資料の収集
- 5回：リサーチクエスションの立て方
- 6回：仮説について（仮説検証型の研究と仮説生成型の研究）
- 7回：レジュメを作成する
- 8回：先行研究の検討
- 9回：引用・参考の方法
- 10回：文献リストの作成
- 11回：研究方法の執筆／研究成果と図表の掲載
- 12回：研究倫理の重要性／注・付記等の書き方
- 13回：文章作成法①——パラグラフライティング
- 14回：文章作成法②——論理的構成を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自が関心のある学術書や論文を読むことで、本授業で得た知識を確認すると良い。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示する提出物:60% 成果報告:40%

テキスト / Textbooks

資料を授業時に毎回配布する。

参考文献 / Readings

上野千鶴子 情報生産者になる 筑摩書房 2018 9784480071675

齋藤 早苗 社会人のための文系大学院の学び方 青弓社 2022 9784787235077

ほか、講義中に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

最低限の PC 操作スキル

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC またはデスクトップ PC

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究 18

Special Study:Social Design 18

(論文作成法 I)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM119

授業形態： オンデマンド (全回オンデマンド)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 自動登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 1 年次自動登録科目。2 年次以上で「社会デザイン学特殊研究 18」の履修を希望する場合は、「VM118 社会デザイン学特殊研究 18」を科目コード登録により履修登録すること。

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、論文作成の基本的なプロセスを理解するとともに、優良な論文を作成する基礎を習得することを目指します。

The aims of the course are for students to understand the basic process of writing a dissertation and to acquire the basics of producing a good dissertation.

授業の内容 / Course Contents

受講生一人一人のレポート・論文作成歴を前提に、修士論文・研究報告等の執筆の基礎となる基本技能を習得してもらうために、実際に作業しながら授業を受けてもらいます。特に本授業では、研究の背景の執筆や問いの立て方、引用・参照の方法などについて重点的に取り上げます。また、論文を執筆する際に欠かせない資料となる、先行研究を検索・収集する練習も行います。なお、講義の計画・内容は受講生の希望等に沿って若干変更することもあります。

Based on each student's report and dissertation writing background, in order to have them acquire the basic skills

that are the basis of writing a master's thesis or research report, etc., classes will take a practical training format. In particular, this lesson focuses on writing the background of the research, make the research question, and quoting and referencing methods. In addition, students will also practice searching for and collecting prior research, which is an essential resource for writing a dissertation. Note that the plans and content of the course may be slightly changed depending on the students' wishes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：学術論文の構成
- 3回：論文の種類と収集法
- 4回：研究の背景の執筆・各種資料の収集
- 5回：リサーチクエスションの立て方
- 6回：仮説について（仮説検証型の研究と仮説生成型の研究）
- 7回：レジюмеを作成する
- 8回：先行研究の検討
- 9回：引用・参考の方法
- 10回：文献リストの作成
- 11回：研究方法の執筆／研究成果と図表の掲載
- 12回：研究倫理の重要性／注・付記等の書き方
- 13回：文章作成法①——パラグラフィティング
- 14回：文章作成法②——論理的構成を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自が関心のある学術書や論文を読むことで、本授業で得た知識を確認すると良い。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示する提出物:60% 成果報告:40%

テキスト / Textbooks

資料を授業時に毎回配布する。

参考文献 / Readings

上野千鶴子 情報生産者になる 筑摩書房 2018 9784480071675

齋藤 早苗 社会人のための文系大学院の学び方 青弓社 2022 9784787235077

ほか、講義中に紹介する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

最低限の PC 操作スキル

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ノート PC またはデスクトップ PC

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究 20

Special Study:Social Design 20

(論文作成法Ⅱ)

品治 佑吉 (HONJI YUKICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM120

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

学位論文・査読論文の作成をはじめとする、正確な情報発信のための技術の習得。

Acquiring skills for accurate writing, especially for writing dissertations and peer-reviewed papers.

授業の内容 / Course Contents

みなさんの社会で得た知見は、社会での共有に値する知見です。それらの知見を正確に伝達するため、この授業では、学位論文・査読論文の作成を目標に、自分に合った課題設定、文献調査、論文執筆の仕方を学び、身につけます。

The findings you have gained deserves to be shared with the society. In order to accurately communicate those findings, this class aims to help you learn how to set your own agenda, conduct literature research, and write papers. The goal is to write a dissertation or peer-reviewed paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：授業の目的の説明、受講者各自の研究関心の紹介
- 2回：ウォームアップ ①自分の関心の所在を知る：ブレインストーミング
- 3回：ウォームアップ ②自分の関心を紹介する：文献を紹介する
- 4回：アウトライン作成 ①論文の構成を知る：既存の論文を要約する
- 5回：アウトライン作成 ②調査する：図書・資料館、論文アーカイブ、データアーカイブの紹介と利用
- 6回：アウトライン作成 ③関心を疑問にし、疑問を論点にする：先行研究を発見し、自分のテーマと関連付ける
- 7回：論証する ①論証とは何か：引用、主張、根拠、結論の構造をつかむ
- 8回：論証する ②論証と論戦に慣れる：立論する
- 9回：論証する ③論証と論戦に慣れる：質問と応答
- 10回：論文を書く ①フォーマット：フォーマット類型とレポート構想
- 11回：論文を書く ②執筆：設計、ドラフト、リバイズ
- 12回：ディフェンス ①口頭試問練習：学位論文を念頭に
- 13回：ディフェンス ②査読対応練習：査読論文を念頭に、投稿先選定
- 14回：授業の総括：ふりかえりと講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:			:		:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、前回の授業で提示したトピックに関して、自分自身が経験した成功や失敗を思い出しておくことを求めます。復習として、授業内での実習内容を自分で反復し、成果に残すことを推奨します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間課題①:30% 中間課題②:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ハワード・ベッカー／パメラ・リチャーズ 論文の技法 講談社 1996 9784061592483
 井下千以子 思考を鍛える論文・レポート作成法 第3版 慶應義塾大学出版会 2019 9784766425772
 南田勝也・矢田部圭介・山下玲子 ゼミで学ぶスタディスキル 第3版 北樹出版 2019 9784779305191
 あくまで参考文献です。購入は必須ではありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ZOOM 通信用の PC・タブレットを教室に持参してください。

その他 / Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討

論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究 20

Special Study: Social Design 20

(論文作成法Ⅱ)

品治 佑吉 (HONJI YUKICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM121

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

学位論文・査読論文の作成をはじめとする、正確な情報発信のための技術の習得。

Acquiring skills for accurate writing, especially for writing dissertations and peer-reviewed papers.

授業の内容 / Course Contents

みなさんの社会で得た知見は、社会での共有に値する知見です。それらの知見を正確に伝達するため、この授業では、学位論文・査読論文の作成を目標に、自分に合った課題設定、文献調査、論文執筆の仕方を学び、身につけます。

The findings you have gained deserves to be shared with the society. In order to accurately communicate those findings, this class aims to help you learn how to set your own agenda, conduct literature research, and write papers. The goal is to write a dissertation or peer-reviewed paper.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：授業の目的の説明、受講者各自の研究関心の紹介
- 2回：ウォームアップ ①自分の関心の所在を知る：ブレインストーミング
- 3回：ウォームアップ ②自分の関心を紹介する：文献を紹介する
- 4回：アウトライン作成 ①論文の構成を知る：既存の論文を要約する
- 5回：アウトライン作成 ②調査する：図書・資料館、論文アーカイブ、データアーカイブの紹介と利用
- 6回：アウトライン作成 ③関心を疑問にし、疑問を論点にする：先行研究を発見し、自分のテーマと関連付ける
- 7回：論証する ①論証とは何か：引用、主張、根拠、結論の構造をつかむ
- 8回：論証する ②論証と論戦に慣れる：立論する
- 9回：論証する ③論証と論戦に慣れる：質問と応答
- 10回：論文を書く ①フォーマット：フォーマット類型とレポート構想
- 11回：論文を書く ②執筆：設計、ドラフト、リバイズ
- 12回：ディフェンス ①口頭試問練習：学位論文を念頭に
- 13回：ディフェンス ②査読対応練習：査読論文を念頭に、投稿先選定
- 14回：授業の総括：ふりかえりと講評

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:			:		:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、前回の授業で提示したトピックに関して、自分自身が経験した成功や失敗を思い出しておくことを求めます。復習として、授業内での実習内容を自分で反復し、成果に残すことを推奨します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：11) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 中間課題①:30% 中間課題②:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ハワード・ベッカー／パメラ・リチャーズ 論文の技法 講談社 1996 9784061592483
 井下千以子 思考を鍛える論文・レポート作成法 第3版 慶應義塾大学出版会 2019 9784766425772
 南田勝也・矢田部圭介・山下玲子 ゼミで学ぶスタディスキル 第3版 北樹出版 2019 9784779305191
 あくまで参考文献です。購入は必須ではありません。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ZOOM 通信用の PC・タブレットを教室に持参してください。

その他 / Others

研究科の学事・行事 (報告会、進学相談会等) と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討

論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究 2 4

Special Study:Social Design 24

(プラットフォームと社会デザイン)

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM124

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

成熟化、多様化、個人化、不平等格差化が進展する現代社会において協働・共生社会を実現するソーシャルプラットフォームへの期待が高まりつつある。授業では、ビジネスモデルとしてのプラットフォームや情報共有基盤としてのプラットフォームの動向を踏まえつつ、社会デザインの視点から、社会的課題を解決し協働・共生社会を支えるソーシャルプラットフォームの概念と戦略・方法、ガバナンスについて理解する。

New platforms are emerging for collaboration between diverse actors. The aim of this course is to understand concepts and practices of collaborative platforms including information-sharing platforms in business and social domains. In this course, students are expected to be able to analyze the relationship between national and local governments and public-private partnerships on proactive measures and disaster responses.

授業の内容 / Course Contents

講義では、ビジネスモデルとしてのプラットフォームと、協働・共生社会を支えるソーシャルプラットフォー

ムの戦略と方法について比較考察する。また、社会的な仕組みや場、関係性としてのプラットフォームおよび情報共有基盤としてのプラットフォームについて、社会デザインの視点から事例分析を通じてソーシャルプラットフォームに求められる機能や要件、要素を明らかにする。授業参加者は、ソーシャルプラットフォームの概念を自ら定義し、ソーシャルプラットフォームと考えられる事例を選定し、分析・評価し授業内で発表・討論する。

This course deals with the following case studies: social business, crowdfunding, disaster volunteering, peer support, and digital archiving. Students are expected to design, present, and discuss on new platforms, with a view toward a collaborative and inclusive society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：総説：社会の協働・共生を支えるプラットフォーム－社会デザインの視点から

2 回：ビジネスモデルにおけるプラットフォームの戦略と方法

[キーワード]市場、場、インフラ、仲介、交換、協業、アライアンス、クラスター、マッチング、ネットワーク、ハブ、ノード、サービス連携、サプライチェーン、ワンストップ、競争優位、価値創造、インキュベーション、eコマース、電子決済、マイレージ、共同仕入れ、ライセンス

3 回：協働・共生社会を支えるソーシャルプラットフォームの戦略と方法

[キーワード]シェア、ナレッジマネジメント、課題解決、専門知と市民知、市民活動、参加、協働、公民パートナーシップ、社会的起業、コミュニティ、ネットワーク、ソーシャルキャピタル、社会資源の開発と関係性の構築、社会的備蓄、自治、ガバナンス、補完性、当事者性、共生、支援、相互支援、中間支援、ボランティア、プロボノ、多職種連携、救済、検証、共助、ピアサポート、サードプレイス、コモンズ、地域ポータル、ファンドレイジング、クラウドファンディング、ふるさと納

4 回：情報ネットワーク社会と情報共有基盤としての情報プラットフォーム

[キーワード]オープンデータ、相互作用性、公共性、官民連携、Webサービス連携、マッシュアップ、オープンデータ、ビッグデータ、API、標準インタフェース、メタデータとクリアリングハウス、ポータルサイト、地域メディア、アグリゲーター、アーカイブ、権利処理、パブリックドメイン、SNS、Web-GIS、位置情報サービス、動画共有サイト、Web-ラジオ、寄付サイト、IoT、ネットゲーム

5 回：事例研究：

- ・ eコマース
- ・ 宿泊システム (OTA、PMS、サイトコントローラー)
- ・ オークションサイト、フリマサービス

6 回：事例研究：

- ・ GAFA
- ・ ポータルサイト、ニュースサイト
- ・ SNS

7 回：事例研究：

- ・ 地理空間情報の相互運用プラットフォーム
- ・ Google マップ、ストリートビュー

8 回：事例研究：

- ・ クラウドファンディング
- ・ 寄付サイト
- ・ ふるさと納税による寄付

9 回：事例研究：

- ・司法ソーシャルワーク（公共訴訟支援）
- ・政治参加支援
- ・環境 NGO、政策提言
- ・障がい者の意思決定支援・権利擁護

10 回：事例研究：

- ・オーラルヒストリー
- ・デジタルアーカイブ
- ・ピアサポートのプラットフォーム
- ・データシェア
- ・ナラティブシェア（難病やがん患者サバイバー等）

11 回：事例研究：

- ・シェアリングエコノミー
- ・ライドシェア

12 回：事例研究：

- ・中小企業、フリーランス、個人クリエイター支援
- ・協業、兼業
- ・著作権管理団体、協同組合、ボランタリーチェーン、知財や技術のオープン化
- ・BPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）

13 回：事例研究：

- ・災害ボランティアセンター、中間支援組織
- ・プロボノ

14 回：総括：社会デザインから見たプラットフォーム：分析枠組み、関係概念

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

上記の項目を相互に関連づけて理解を深めるため順序を変更する場合がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加・小レポート:100%

授業内小レポートの発表によって評価する。

テキスト / Textbooks

なし。授業内にレジュメ、資料を配布する。また、授業に授業内に必要な Web サイトを指示する。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討

論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究 25

Special Study:Social Design 25

(オーラルヒストリーとデジタルアーカイブ)

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM125

授業形態： ハイフレックス

授業形態(補足事項)【夏季集中講義日程】8月6日(火)2~6時限、8月7日(水)2~6時限、8月8日(木)2~5時限

春学期中に事前オンライン学習あり。「授業時間外(予習・復習等)の学習」欄参照のこと。

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

オーラル・ヒストリーとデジタル・アーカイブの戦略と方法について理論と事例から学び、ポーンデジタル時代における歴史の記録と保存、利活用、後世への伝承の方法について考察する。それらを踏まえ、オーラル・ヒストリーとデジタル・アーカイブを実践する学術的・実務的な知見を習得する。

The goal of the lesson is to learn the theory, strategies and methods of oral history and digital archiving. We consider how to record and archive history in a era of born-digital and acquire academic and practical knowledge to practice oral history and digital archiving.

授業の内容 / Course Contents

オーラル・ヒストリーは、意思決定過程を分析する研究手法として政治学(政治家や官僚など)や経営学(企業経

営者)の分野において、1990年代以降実践され、それまでブラックボックスとなってきた政府や企業の実態を明らかにする上で大きな成果をあげてきている。しかしそれは性質上、聞き手と語り手の相互作用によって強く規定されるものであるために、その方法は聞き手の個人技とされ、普及が立ち後れてきた。このような状況を打破すべく本科目では、基礎的知見の習得と事例分析を通して、「オーラル・ヒストリー&デジタル・アーカイブ」の課題と方法を解明する。

Oral history has been practiced since the 1990s in the fields of political science (politicians, bureaucrats, etc.) and business administration (business managers) as a research method for analyzing decision-making processes, and has made great achievements in clarifying the actual situation of governments and companies that had been a "black box" until then. However, since oral history is characterized as being strongly defined by the interaction between the listener and the storyteller, its method has been regarded as the individual skill of the listener, and its spread has been delayed. In order to overcome this situation, in this course, we will clarify the issues and methods of "Oral History & Digital Archive" through the acquisition of basics, case analysis, and practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：社会デザインから見たオーラルヒストリーとデジタルアーカイブ
- 2回：オーラルヒストリーの方法論：エリート・ノンエリート、マイノリティー、ピアサポート
- 3回：オーラルヒストリーの事例研究：東日本大震災（1）
 - ・民生委員の語り
- 4回：オーラルヒストリーの事例研究：東日本大震災（2）
 - ・教員の語り
- 5回：オーラルヒストリーの事例研究：東日本大震災（3）
 - ・被災市町村の首長、行政職員の語り
- 6回：記録映画のアーカイブと公開
- 7回：コミュニティアーカイブと思い出のお裾分け
- 8回：地域歴史アーカイブ、まちづくりのアーカイブ
- 9回：産業遺産の語りとアーカイブ
- 10回：戦争体験の語りとアーカイブ
- 11回：災害デジタルアーカイブ：3.11まるとアーカイブの事例
 - ・メディア、図書館、行政、研究機関等の役割
 - ・現物とデジタル、コレクション、ポーンデジタル
 - ・震災前の映像
- 12回：デジタルアーカイブ：権利処理と保存公開
 - ・著作権、肖像権、プライバシー権、パブリシティー権、疑似著作権（所有権）
 - ・オーファンワークス、ダークアーカイブ、マスキング
 - ・メタデータ、意味づけ、対価、ガイドライン、2次利用
- 13回：デジタルアーカイブと公文書管理
- 14回：総括と総合討論：

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：

上記いずれも用いない予定

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

CANVASLMS にアップするレジュメ、参考文献、参考映像等を参照しながら指示された課題に取り組むこと。
夏季集中講義であるが春学期中に映像教材などによる事前オンライン学習あり。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内で指示する課題提出:80% 授業内での討論への参加:20%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

御厨貴 オーラル・ヒストリー入門 岩波書店 2007 4000280465

御厨貴 オーラル・ヒストリー 中公新書 2002 412101636

長坂俊成 記憶と記録：311 まるごとアーカイブス 岩波書店 2012 9784000285247

福井健策監修 デジタルアーカイブ・ベーシック第1巻権利処理と法の実務 勉誠出版 2019
9784585202813

多数あるため、他は授業内で随時紹介する

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会デザイン学特殊研究 26

Special Study:Social Design 26

(社会デザイン学の可能性 2)

品治 佑吉/他 (HONJI YUKICHI/ Other)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM126

授業形態： オンデマンド (全回オンデマンド)

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5110

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

21 世紀に入り、環境や地域紛争など前世紀からの課題に加えて、新しい形の貧困や社会的排除 (social exclusion) が大きな課題となっている。その解決のため、政府行政・民間企業・NGO/NPO 等の組織はそれぞれどのような役割を担えるのか。また、近年、重視されることの多いセクターの垣根を越えた「協働」は、どこまでの有効性と可能性を期待できるのか。いずれにしても、その際、従来の発想と方法論を超え、社会の仕組みや人々の参画の仕方を変革し具体的に実現していくことが必要になってくる。そのような思考と実践を「社会デザイン」と呼びたい。

この科目は、本研究科が一貫して追究し続けてきた社会デザイン (学) に関し、その思想的含意から実践的な社会技術としてのありように至るまで、分野・領域横断的に明示することで、まずはその見取り図を描いていこうとするものである。それにより、社会デザイン (学) の可能性を受講者とともに切り拓くことを目指したい。

As we enter the 21st century, new forms of poverty and social exclusion have become major issues in addition to the issues from the last century such as the environment and regional conflicts. What kind of role can each

organization such as government, private enterprises, and NGOs/NPOs take to solve these problems? Also, what kind of effectiveness and potential can be expected from "collaboration" that crosses the boundaries of sectors that is often emphasized in recent years? In any case, it will be necessary to go beyond conventional ideas and methodologies and reform and specifically realize social mechanisms and ways for people to participate. I would like to call such thinking and practice "social design".

This course attempts to draw a sketch of social design (studies) that the Graduate School has consistently pursued by presenting the philosophical and academic implications across fields and disciplines. In this way, we aim to open up the possibilities of social design (studies) together with the students. The subject will be tackled by all faculty with effort appropriate for the size of its aims.

授業の内容 / Course Contents

本研究科の兼任講師によるオムニバス講義形式である。各回で扱われるテーマは、社会デザイン(学)とは何か、その思想的背景と意味、組織・ネットワーク・マネジメント、コミュニティデザイン、危機管理、NGO/NPO、平和(学)、国際関係、CSR、社会貢献、ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス・社会的企業、社会的排除と包摂、アートと社会デザイン(インクルーシブデザイン)、社会調査等多岐にわたり、対象となる事業や活動の範囲・分野も多様なものとなる。

本科目は研究科で学ぶ院生のための社会デザイン(学)案内であり、個別具体的な研究分野とテーマを選択していく際の導入科目である。それと同時に、本科目は社会デザインを考えるためにいかに多様で具体的な分析資料(データ)を加えていくのかを検討する科目としても重要な意味をもつ。以上、本科目は、今後の研究活動のなかで社会デザイン(学)の可能性をどのように拓いていくのか、その方法論とともに考え抜く契機を提供するための内容で計画されている。

Assistant Professor Nakamori will be the overall facilitator for the omnibus lectures given by the department's faculty members. In the first class, the aims of the subject and the meaning of social design (studies) in the Graduate School are introduced. From the next class, the lecturer in charge will give a presentation and ask questions, and conclude with a presentation on reflections and issues and preparation learning for the next class.

Each class will cover a wide range of themes such as: What is social design (studies)?, its philosophical background and meaning, organization/network management, community design, crisis management, NGOs/NPOs, peace (studies), international relations, CSR, social contribution, social business, community business, social enterprises, social exclusion and inclusion, art and social design (inclusive design), and social research, and the scope and fields of target businesses and activities will also be diverse.

This course is social design (studies) guidance for graduate students studying at the Graduate School, and is an introductory course for selecting specific individual research fields and themes. At the same time, this course also has an important meaning of considering how to add as many various specific analysis materials (data) as possible to think about social design. As described above, this course is planned to provide an opportunity to consider how to open up the possibilities of social design (studies) in future research activities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに
- 2回：グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 1
- 3回：コミュニティデザイン学と社会デザイン学 1
- 4回：社会組織理論と社会デザイン学 1
- 5回：グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 2
- 6回：コミュニティデザイン学と社会デザイン学 2

- 7回：社会組織理論と社会デザイン学 2
 8回：グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 3
 9回：コミュニティデザイン学と社会デザイン学 3
 10回：社会組織理論と社会デザイン学 3
 11回：グローバルリスクガバナンスと社会デザイン学 4
 12回：コミュニティデザイン学と社会デザイン学 4
 13回：社会組織理論と社会デザイン学 4
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、授業の終わりに指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：011) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業時の質疑への参加:30%

テキスト / Textbooks

使用しない。

参考文献 / Readings

使用しない。

その他 / Others

平常は、毎回のオンデマンド講義への感想を入力してください。期末には重要だと思った講義を選択してレポートを執筆してください。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 1

Practical Application: Social Organization 1

(社会デザインと社会学の方法)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM201

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインと社会学の異同を整理し、両者の関係性を理解する。そのうえで、社会デザインと社会的視点の双方が活きる諸事例を検討する。最終的には、受講生各自が社会課題に対して創造的かつ実現可能な提案を行うことを目指す。

We organize the differences between social design and sociology and understand the relationship between the two. After that, we will examine various cases in which both social design and sociological viewpoints can be utilized. Ultimately, each student will aim to make creative and feasible proposals for social issues.

授業の内容 / Course Contents

本授業は、授業担当者による講義と、受講者による発表 (輪読・事例検討) の二つの形式を組み合わせることで進む。まず、社会デザインと社会学のそれぞれの視点の特徴および関連性について、古典や現代の事例も踏まえつつ、解説を行う。次に、テキストを輪読し、各回のテーマについてディスカッションすることで、社会

課題を解消するためのアイデアと、それに伴う困難について検討する。最終的には、それらの問題を乗り越える実践的なアプローチを、受講者各自がデザインする。

This class consists of two types: lectures by the instructor and presentations by the students (circular reading and case study). First, the characteristics and relevance of the perspectives of social design and sociology are explained. These explanations will be given based on classical and contemporary examples. Next, we read the text in turn and discuss the topics each time. In this way, we will examine the ideas for solving social problems and the difficulties associated with them. Ultimately, each student designs an approach to overcome these difficulties.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：社会学と社会デザインの基礎
- 3回：社会デザインの時代的制約
- 4回：カリスマと社会デザイン
- 5回：サードプレイス概念の再検討
- 6回：事例検討① 社会的インフラ
- 7回：事例検討② 教育／犯罪
- 8回：事例検討③ 健康／エスニシティ
- 9回：事例検討④ 地域のレジリエンス／公共性
- 10回：事例検討⑤ 都市／環境
- 11回：事例検討⑥ 女性のキャリア
- 12回：事例検討⑦ 在宅医療
- 13回：事例検討⑧ 大学教育／留学生の居場所作り
- 14回：社会デザインを提案する方法

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

輪読・事例検討の際には、テキストの各回の範囲を、発表者以外の受講者も読んでくること（予習）。また、授業後には、各回で取り上げた社会デザインの事例を、社会学的な視点からどのようにリバイスできるかを考えるとよい（復習）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への参加状況:30% プレゼンテーションの内容:30% 最終レポート割合：40%

テキスト / Textbooks

エリック・クリネンバーグ 集まる場所が必要だ——孤立を防ぎ、暮らしを守る「開かれた場」の社会学 英治出版 2021 9784862763075 ○

萩原なつ子（監修） ジェンダー研究と社会デザインの現在 三恵社 2023 9784866935706 ○

参考文献 / Readings

レイ・オルデンバーグ サードプレイス—— コミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」 みすず書房 2013 9784622077800

荻上チキ 社会問題のつくり方 困った世界を直すには？ 翔泳社 2023 9784798174488

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

学生が作成したプレゼン資料を閲覧可能な端末（ノート PC やタブレット PC）を持参することが望ましい。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 3

Practical Application: Social Organization 3

(社会的人間存在論)

大熊 玄 (OKUMA GEN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM203

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

現代日本において「人間」を社会的存在として考察するときの基礎を、和辻哲郎に学ぶ。具体的な目標は、(1)和辻の考えを客観的に説明・批評ができるようになること。(2)それを踏まえて、自らの問題意識に合った「自らの考え」を作り出し、説得力をもって表現できるようになること。

Students will learn the basics of considering "Nin-gen(humans)" as social beings in contemporary Japan from Tetsuro Watsuji. The specific goals are, (1) To become able to objectively explain and criticize the ideas of Watsuji (2) Based on this, to become able to create "one's own ideas" in line with one's own problem awareness and become able to express them with persuasiveness.

授業の内容 / Course Contents

私たち人間は、なんらかの「しくみ」(社会・組織)のなかで生きている。たとえそれが、政治的・経済的・生態的・宗教的という、どのような「しくみ」であったとしても、個人は、その中での関わり(間柄)によって生きていく

しかない。和辻によれば、人間とは、社会であるとともにまた個人であり、「世の中」〔世間〕であるとともに「人」である。では、個人でもあり社会でもある私たち「人間」は、その「人間」であることをどう考えればよいのか。和辻の著作の中でも、独りで読むには比較的むずかしい『人間の学としての倫理学』をとりあげ、一緒に理解を深めながら“哲学的”な思考力を養っていく。

学生は、事前に指定の文章を読み、授業内で講師による（可能なかぎりやさしい）解説を聞いて質疑・討議を行い、授業後に簡単なコメントを書く。そのコメントを次回の授業でフィードバックし、参加者全員で共有することで、授業を、循環する複方向型の「対話の場」、「知的探求の共同体」としたい。

We humans live in some kind of “mechanism” (society and organization). Whatever kind of “mechanism” we consider, such as political, economic, ecological or religious, individuals have no choice but to live through their relationships within these mechanisms. According to Watsuji, a “Nin-gen(human being)” is both a society and an individual, and is a "Yononaka(World)" as well as a "Hito(person)". If so, how should we think as "Nin-gen" who are both individuals and societies. We will read Watsuji's book "Nin-gen no gaku toshiten no Rinrigaku(Ethics As the Study of Man)" which is relatively difficult to read on one's own even among the writings of Watsuji and cultivate "philosophical" thinking while deepening understanding together.

Students must read the designated text in advance, listen to the (simple as possible) commentary by the lecturer in the classes, ask questions and dialogue, and write brief comments after the classes. By feeding back the comments in the next class and sharing them with all the participants, we hope to make the class a multi-directional and circulatory "place of dialogue" and "community of intellectual inquiry".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：「倫・理」
- 3 回：「人・間」
- 4 回：「世間」あるいは「世の中」
- 5 回：「存在」
- 6 回：人間の学としての倫理学の構想
- 7 回：アリストテレスのポリティケー（1）
- 8 回：アリストテレスのポリティケー（2）
- 9 回：カントのアントロポロジー（1）
- 10 回：カントのアントロポロジー（2）
- 11 回：人間の問い（1）
- 12 回：人間の問い（2）
- 13 回：学としての目標（1）
- 14 回：学としての目標（2）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習／指定した文章を読んでおき、自らの興味・疑問を整理しておく。

復習／授業を振り返り、毎回コメントを送る。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の出席とコメント:70% 授業内レポート（最終コメント）:30%

テキスト / Textbooks

和辻哲郎 『人間の学としての倫理学』 岩波書店 2007 9784003811047 -

参考文献 / Readings

授業内で別途指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器（ノートパソコン・タブレット）持参が望ましい。

その他 / Others

- ・第一回目授業「ガイダンス」にて、授業の方針・進め方を説明します。
- ・研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 4

Practical Application: Social Organization 4

(対話と社会デザイン)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： VM204
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： SDS5210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

社会課題を巡ってはさまざまな見方が社会に存在しているが、すべてのステークホルダーから見た真の課題認識とその解決はきわめて困難なのが現代の実情だ。

しばしば「対話」の重要性が説かれるが、私たちは「対話」の本当の意味を理解しているだろうか。そして、その意味を我が身のものとして日々実践できているだろうか。日本人は対話を重ねるのが苦手だというが本当だろうか。対話と議論の違いは具体的になんだろうか。

「対話」をテーマとした古今東西のテキストを題材に、実際に「対話」を体験することを通じて、現代の社会課題に向き合うために不可欠な「対話」とは何か、その本質を探り、身体感覚としての「対話」を自分のものにするプロセスを経ることを目的とする。

There are various views regarding social issues in society, but it is the reality of today that it is extremely difficult to realize the real issues and solutions from the perspective of all stakeholders.

Although the importance of "dialog" is often described, do we understand the true meaning of "dialog"? And can we practice that meaning in our own everyday lives? It is true that Japanese people are not good at building up dialogs? What is the difference between dialog and discussion specifically?

Based on texts from all times and places on the theme of "dialog" as the subject, the aim of the course is to ask what is the essential "dialog" to face contemporary social problems by actually experiencing "dialog", search for the essence, and go through the process of making "dialog" one's own via the physical senses.

授業の内容 / Course Contents

「対話」をめぐる古今東西のテキストを一緒に読みながら、対話に求められること、対話の本質等を明らかにする。なにより、「対話」は、ある種の身体感覚を伴うものであり、自ら体験するしかない。

また、「対話」を通じた社会課題解決についても考える機会を設け、現代社会における課題の本質を明らかにすると共に、「対話」をもって臨む社会課題への向き合い方についても考えていきたい。

While reading texts on "dialog" from all times and places together, we will clarify what is required for dialog and the essence of dialog, etc. Above all, "dialog" involves some kind of physical sensation, and you have to experience it for yourself.

In addition, we would like to provide opportunities to consider about social problem solution cases through "dialog", clarify the essence of the problems in modern society, and think about how to deal with social issues through "dialog".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：総論（いまなぜ「対話」が求められているのか、小さくなる社会と分断・・・）
- 2 回：考えること、感じること（小林秀雄『美を求める心』から）
- 3 回：対話とは何か（猪木武徳『自由をめぐる思想史』から）
- 4 回：対話とは何か（猪木武徳『自由をめぐる思想史』から）
- 5 回：対話のエッセンス、作法等（モンテーニュ『エッセー』から）
- 6 回：よく「聴く」ことを考える（鷲田清一『「聴く」ことの力』から）
- 7 回：よく「聴く」ことを考える（鷲田清一『「聴く」ことの力』から）
- 8 回：日本における対話の源泉（宮本常一「忘れられた日本人」から）
- 9 回：コミュニケーションとは（デヴィッド・ボーム『ダイアログ：対立から共生へ、議論から対話へ』）
- 10 回：対話とは（デヴィッド・ボーム『ダイアログ：対立から共生へ、議論から対話へ』）
- 11 回：自己との対話、考え続けることの意味（映画『ハンナ・アーレント』、アーレントの著作から）
- 12 回：対話とは何だろうか①、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう
- 13 回：対話とは何だろうか②、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう
- 14 回：対話とは何だろうか③、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。対話で用いるテキスト（上記文献の抜粋、各回 20～30 ページ程度）は PDF ファイルの形で Canvas LMS にアップする。

文献・テキストについては、対話において積極的に発言できるよう、事前に熟読しておくことが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・演習における発表や他の発言者への貢献等:100%

3 / 4 以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

授業計画のとおり。

参考文献 / Readings

採り上げる文献は上記授業計画にあるものを予定している。小林秀雄『美を求める心』、猪木武徳『自由の思想史』、鷺田清一『聴くことの力』、モンテーニュ『エッセー』、宮本常一『忘れられた日本人』、デヴィッド・ボーム『ダイアログ：対立から共生へ、議論から対話へ』、ハンナ・アーレントを扱った映画等を採り上げる。対話の材料とするテキストについては、PDF ファイルで事前に授業支援システムにアップする。

その他 / Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる場合がある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 5

Practical Application: Social Organization 5

(持続可能社会と行政ガバナンス)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM205

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、持続可能な社会づくりに向け政府・行政が果たす役割を多面的に検討、分析することにより、持続可能な社会づくりに当たって求められる様々な関係者との連携、参画を実現するガバナンスのあり方を探り、実践や研究への手がかりを得ることを目標とする。

In this course, participating students will analyze government/administration's role to build sustainable society and will study good governance for sustainable society. Multi-stakeholder cooperation and civic participation are important aspects in this regard. By these studies, students are expected to obtain clues for their action and research.

授業の内容 / Course Contents

SDGs は共通言語と言われるように、持続可能な社会づくりでは、さまざまな関係者が連携しながら取り組むことが重要であるが、その中でも政府・行政が果たす役割は大きい。本授業では環境問題の取組を中心に、政

策立案/実施のありかた、政府と様々な関係者との関わり方などを検討する。持続可能な社会づくりに不可欠なマルチステークホルダーでの取組や、情報公開、意思決定参加、司法アクセスを内容とする環境民主主義の意義を探ることとする。

なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

SDGs are often called "common language". Building sustainable society requires various stakeholders participation, however, government and administration are regarded as major players among them. In this course, participants study policy making and implementation process, and collaborations between government and various stakeholders on mainly environmental issues. Participants will also identify the importance of multi stakeholder participation and "environmental democracy" such as access to information, public participation and access to justice, which are essential for sustainable society.

The themes and order of this course schedule may change according to the interests and questions of the course participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

今日の経済社会における政府/行政の役割についてブレインストーミング

2回：政府/行政の環境問題への取組・事例検討①

公害問題への取組を中心に政府の役割を検討する。

3回：政府/行政の環境問題への取組・事例検討②

自然環境問題への取組での政府の役割を検討する。

4回：1992年リオサミットのインパクト

リオ宣言、アジェンダ21が、政府・行政のあり方、ガバナンスに与えた影響を検討する。

5回：2000年前後の制度改革①

行政手続法、情報公開法などの行政改革とその後について検討する。

6回：2000年前後の制度改革②

国と地方との関わり方について。日本国憲法制定、地方自治法、地方分権改革といった節目を踏まえながら検討する。

7回：2000年前後の制度改革③

省庁再編、独立行政法人制度改革の今日的意義を検討する。

8回：国際的な動きと政府・行政

国際条約、EUなど主要な国/地域の動きのインパクト、国際的な枠組が国内の行政政策に与える影響を考える。

9回：科学と政府・行政

気候変動やコロナウイルス対策など、科学的知見を踏まえた政策決定、実施のあり方について検討する。

10回：司法と行政

裁判が政策や行政のあり方に与える影響を、特に環境関連の裁判例を中心に検討する。

11回：国会/政党と政府/行政

いわゆる政と官の関係について、持続可能な社会づくりの視点から再検討する。

12回：市民参画と政府/行政

市民やNPOが政策決定過程にどう関わるか、過去の事例や仕組みについて検討する。

13回：経済活動、企業と政府/行政

経済活動、企業活動への政府・行政の関わり方について、考察する。

14回：まとめ・クロージング

持続可能な社会づくりと政府/行政の役割について、今後の方向性を探る。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

持続可能性や環境問題に関する政府や行政の動きを常日頃から意識し、課題と思われる事例、興味を持った事例については背景、関係者の反応/動きなどを観察していくこと。

受講生には、1回程度、授業内容に合わせ発表してもらうことを予定している。発表については、受講生の状況・関心を踏まえて、授業の中で示す予定。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：011) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表、質疑:30% 振り返り:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

環境省 令和5年版環境白書 日経印刷株式会社 2023 4865793232

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的に議論に参加してください。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 6

Practical Application: Social Organization 6

(非営利法人制度論)

若林 朋子 (WAKABAYASHI TOMOKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： VM206
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SDS5210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

いまや、よりよい社会の実現に、非営利・市民セクターの働きは不可欠である。本演習では、非営利法人のなかで、特に特定非営利活動法人（NPO 法人）にかかわる制度（法制、税制等）を把握し、実際に自ら非営利法人を運用したり、支援したりできるレベルまで理解を深めることを目標とする。あわせて、公益法人制度についても概観する。

The work of the nonprofit and civic sectors is now essential to the realization of a better society. In this course, the aim is that students will understand the systems (legal system, taxation system, etc.) related to specified nonprofit corporations (NPO corporation) in particular among not-for-profit organizations and will deepen their understanding to the level where they could actually operate or support a nonprofit corporation. Public interest corporations are also overviewed.

授業の内容 / Course Contents

まずは、制度（法律、税制）の詳細を把握する。その上で、日本における非営利・市民セクターの概要を俯瞰し、社会において非営利法人が活躍することの意義と諸課題について理解を深める。多様な非営利法人の創造的な取り組みを学ぶとともに、現場の課題を理解する。非営利セクターで活躍するゲスト講師を適宜招き、現場の知見と最新情報を得る機会も提供する。

First, students will understand the details of the systems (laws, taxes). Then, we will give an overview of the not-for-profit and civic sectors in Japan and deepen students' understanding of the significance and issues of not-for-profit corporations being active in society. Students will learn the creative efforts of various not-for-profit corporations and understand the issues in the field. We will invite guest instructors who are active in the not-for-profit sector as appropriate, and provide opportunities to gain on-the-ground insights and updated information.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：法人の概念、非営利セクターの概況、非営利法人の歴史的歩み
- 2 回：公益・私益・共益・公共とは
- 3 回：特定非営利活動法人（NPO 法人）制度①
- 4 回：特定非営利活動法人（NPO 法人）制度②
- 5 回：特定非営利活動法人（NPO 法人）制度③
- 6 回：非営利法人ケーススタディ①
- 7 回：非営利法人ケーススタディ②
- 8 回：特定非営利活動法人（NPO 法人）制度④
- 9 回：特定非営利活動法人（NPO 法人）制度⑤
- 10 回：【ゲストレクチャー①】非営利法人の現場から
- 11 回：非営利法人の多様な形態、制度の比較（公益法人、一般法人、労働者協同組合ほか）①
- 12 回：非営利法人の多様な形態、制度の比較（公益法人、一般法人、労働者協同組合ほか）②
- 13 回：【ゲストレクチャー②】非営利法人の現場から
- 14 回：非営利法人の可能性と課題：ディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参画（発言・発表・ディスカッション）:100%

毎回のリアクションペーパー（コメント）提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない（随時紹介する）。

参考文献 / Readings

随時紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 8

Practical Application: Social Organization 8

(社会を眼差すアートの世界)

川口 智子 (KAWAGUCHI TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM208

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

社会におけるアートの役割とは、いったい何なのか？ 舞台芸術を中心に、アートの側からの視点を持ち、企画／作品をつくる力を身につけます。

What is the role of Art in our society? With focusing the performing arts, we will work out how we plan art projects or art works from the art perspective.

授業の内容 / Course Contents

「劇場」は、人が集まり、対話をし、共に創作をするための場所です。2020 年から始まった COVID-19 の世界的な感染を受け、いろんな劇場・運営者・アーティストたちは、アイデアを出し合い、感染症の対策をとった運営、コンテンツのオンライン化などを行ってきました。その事例をリサーチしながら、実際に企画をつくる、作品をつくるというプロセスを通して、劇場とは何か、その本質を探り出します。

実際に受講者が企画を立案する前に、劇場および舞台芸術の事例の紹介とリサーチ、ディスカッションを通じ

て、企画を立てる準備を段階的に行います。必要な資料等は授業内で紹介します。

また、通常は見るできない小学校等でのワークショップの事例を紹介し、意見交換の材料とします。

The theatre is the place for people to gather, to converse and to create together. Because of the pandemic of COVID-19 from 2020, theatres, organizers and artists have exchanged their ideas and tried to develop theatre management including the online contents. We will research and learn from the examples, work on planning of art projects/works, and find out the essence of Art/Theatre.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション～アートって何～
 - 2回：劇場とはどういう場所なのか リサーチと発表
 - 3回：劇場とはどういう場所なのか 事例紹介（「くにたちオペラ」「まちクラ」ほか）
 - 4回：舞台作品・小さな劇場『海のツブ』（記録映像）鑑賞とディスカッション
 - 5回：ワークショップ実施事例『太陽のタネ』（学校でのWS事例の記録映像）をめぐるディスカッション
 - 6回：企画を考えるための準備～これからの劇場とは？
 - 7回：ワーク① これからの劇場を考える
 - 8回：ワーク② これからの劇場を考える
 - 9回：中間プレゼンテーション
 - 10回：中間プレゼンテーション
 - 11回：ワーク③ これからの劇場を考える
 - 12回：ワーク④ これからの劇場を考える
 - 13回：発表 これからの劇場に関する企画提案（オンラインでの公開）
- これまでの修了生や現職のホール職員・自治体職員等にプレゼンを聞いていただき、企画発表についての意見交換を行います。
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：○	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

期間中、実際に行われている劇場のプログラム等（オンラインのプログラムを含む）を紹介します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% リアクションペーパー：40% 最終プレゼンテーション：30% 最終レポート割合：30%

2/3以上の出席をしていない場合は単位習得不可。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ハンス＝ティース・レーマン ポストドラマ演劇はいかに政治的か 白水社 2022 9784560094372

谷川道子、谷口幸代【編】 多和田葉子の〈演劇〉を読むー切り拓かれる未踏の地平 論創社 2021 9784846019877

内野儀 「J演劇」の場所 トランスナショナルな移動性へ 東京大学出版会 2016 9784130802178

河邑 厚徳+グループ現代 エンデの遺言:「根源からお金を問うこと」 講談社 2011 9784062814195

ロラン・バルト 恋愛のディスクール 水声社 2021 9784801004894

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

他の受講者と積極的に意見交換をする。

企画立案について毎週進捗を伺います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

プレゼンにあたって必要なもの

その他/ Others

川口智子→<https://www.tomococafe.com/>

みんなのまちを考える1ヵ月『まちクラ』→(演劇ワークショップの手法を用いて子どもたちと町づくりを行うプロジェクト)→<https://machicra.amebaownd.com/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 9

Practical Application: Social Organization 9

(持続可能社会と地域ガバナンス)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM209

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

人口減社会、グローバル化の中で地域が持続可能になるとはどのようなことか。経済、社会、環境の視点から検討し、21 世紀の地域の持続可能性について考え、取り組んでいく糸口を探る。

Participating students will study sustainability of local communities, which suffer from population decrease and globalization, from points of view on economy, society and the environment.. Participants will obtain clues for investigating and implementing sustainability of local communities of 21 century.

授業の内容 / Course Contents

持続可能性を身近に体感できるのは、わたしたちが生活、生業を営む「地域」においてである。この地域は、人口減、気候変動自体やカーボンニュートラルなど気候変動対策によって、地域の生活、生業の基盤が変わろうとしている。その変化に対し、地域の人たちは、主体的に立ち向かうか、変化に流されていくか。取組の方向性、取り組む主体など地域のトランスフォーメーションの位相を検討し、変化の時代の地域ガバナンスのあ

り方を探る。

なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

We can understand "sustainability" with reality in the communities where we live and work. The communities are changing because of various challenges such as population decrease, climate change and the measures to combat it. Will local people succeed in fighting for changes or be swept away by them? We will analyze the situation of local changes, and try to figure out good local governance in transition..

The themes and order of the course schedule may change according to the interests and questions of the participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

地域とは何か、地域の持続性とは何か。地域開発の歴史を踏まえ、地域の今を考える。

2回：地域の持続性①人口

人口減とは何なのか、その地域社会に与える影響を検討する。

3回：地域の持続性②自然資源

自然資源の考え方を踏まえ、環境、自然からみた地域の持続性を考える。

4回：地域の持続性③地域経済

地域経済について、何がどのように回っているか、検討する。

5回：地域ガバナンス①地域振興政策

地域活性化、地方創生など、地域向けの振興政策の歴史と現在、持続可能性への貢献について考える。

6回：地域ガバナンス②国立公園/自然遺産地域

自然資源を利用した活性化 国立公園や世界自然遺産を活用した地域づくりについて考える。

7回：地域ガバナンス③脱炭素

カーボンニュートラル、脱プラスチック時代の地域のあり方について考える。

8回：地域ガバナンス④人材育成

地域を担う人材育成について、考える。

9回：地域ガバナンス⑤インフラストラクチャーと持続性

水道/下水道、道路などのインフラが地域のガバナンス維持に果たす役割、老朽化等によるその基盤の揺らぎを考える。

10回：地域のステークホルダー①地方自治体

地方自治体が地域の持続性確保に果たす役割を、ビジョンづくり、総合計画、プラットフォーム提供などを通して考えてみる。

11回：地域のステークホルダー②市民団体

地域で公的な役割を果たす市民団体について、現状と今後の展開を考える。

12回：地域のステークホルダー③ビジネス

ビジネス（企業、ベンチャーなど）は地域の持続性に貢献するのか、損なうのか考える。

13回：地域のステークホルダー④研究者

専門家、研究者、高等教育/研究機関が地域の持続性確保のために果たす役割について考える。

14回：まとめ・クロージング

再度、地域の持続可能性について、検討し、21世紀の地域のあり方を考え直してみる。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

地域活性化、地方振興など、地域を「元気に」しようとしている政策、活動を日頃からフォローし、地域の持続可能性の観点からどう評価できるか考察してみる。

受講生には、1回程度、授業内容に合わせ発表してもらうことを予定している。発表については、受講生の状況・関心を踏まえて、授業の中で示す予定。

その他必要な事柄は授業内で提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 振り返り:30% 発表、質疑など:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

環境省 令和5年版環境白書 日経印刷 2023 4865793232

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

議論に積極的に参加すること。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 1 3

Practical Application: Social Organization 13

(ライフコースとキャリア)

品治 佑吉 (HONJI YUKICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM213

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

ライフ・キャリアの視点を通じて、受講者とともに、「社会を生きる」ということを平板なイメージにとらわれず、柔軟に想像するための糸口を提供することをめざす。

This course aims to provide participants with clues to imagine "living in society" in a flexible manner, from the perspective of life-career

授業の内容 / Course Contents

理系・文系を問わず人間を対象とする科学はすでにきわめて多くの知見を挙げています。しかしながら、これらの知見が持つ意義をそれぞれの生活者が統一的に把握することはかえって難しくなっている現状があります。そうした状況を克服するために、この授業ではライフコース論とキャリア論の視点から、ひとりひとりの人生の歩みに即して、その岐路を左右するさまざまな社会的現象についての考察を深めていきます。

The science, whether in the sciences or the humanities, has already produced a great deal of knowledge about

human beings. However, it is becoming more and more difficult for each person to grasp the significance of these findings in a unified manner. In order to overcome such a situation, this class aims to deepen the consideration of various social phenomena that influence the crossroads of each individual's life from the perspective of life course theory and career theory.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：ライフコース論の輪郭、授業全体の概要、成績評定の方法
- 2回：序論①歴史的前提：「人生」はいかに形づくられてきたか、家族・教育・仕事・福祉とその歴史、産業構造とライフコース
- 3回：序論②概念的 premise：ライフサイクル、ライフステージ、ライフコース、エイジング、キャリア、ケア
- 4回：家族①家族とは何か：家族の基礎、定位家族と生殖家族、人生にとっての家族
- 5回：家族②結婚：出会いと交際、自己決定と社会的条件、家族生活をつくる
- 6回：家族③出産と成長：出生のきずな、子供という身分、親の役割とは
- 7回：家族④生活基盤としての家族：世代間関係、相互扶助、財産・資産
- 8回：成長過程①「青年期」とは何か：自己への目覚め、第二の誕生、教養と交友、「モラトリアム」
- 9回：成長過程②教育：競争と選抜、過熱と冷却、教育キャリアの意義とは
- 10回：仕事①仕事とは何だろうか：職業社会を俯瞰する、「キャリア設計」の可能性、働き方の類型
- 11回：仕事②労働時間と生活時間：余暇、家事、労働、勤勉と怠惰
- 12回：仕事③働くこととジェンダー：就業システムと「ワークライフバランス」、ロングスパンのライフキャリア
- 13回：老いる①老いるということ：「エンプティ・ネスト」か「第二の人生」か、「おひとりさま」を生きる
- 14回：老いる②介護とケア：「ケアの社会化」、自己決定、家族の役割？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、前の授業で指示された事項を1時間程度調べておいてください。復習として、授業内で参考文献を指示しますので、適宜目を通しておいてください（購入・通読は必須ではありません）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :100%

平常点割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ジル・ジョーンズ／クレア・ウォーラス 若者はなぜ大人になれないのか：家族・国家・シティズンシップ 第二版 新評論 2002 9784794805843

ジャン・パール マネー&マリッジ：貨幣をめぐる制度と家族 ミネルヴァ書房 1994 9784623024261

ドナルド・エドウィン・スーパー 職業生活の心理学：職業経歴と職業的発達 誠信書房 1960 02908112

森岡清美・望月嵩 新しい家族社会学 四訂版 培風館 1997 9784563050344

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

ZOOM での通信が可能な PC・タブレットを持参してください。

その他/ Others

学内他研究科からの履修を歓迎します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 15

Practical Application: Social Organization 15

(社会調査法 I)

品治 佑吉 (HONJI YUKICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM215

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

データに基づいて社会を捉える方法と、態度を学ぶ。

Learn methods and attitudes for observing social events based on data.

授業の内容 / Course Contents

現在の社会には、統計やインタビューといった社会調査データに基づく情報があふれています。私たちがこうした情報の受け手であることはもちろん、同時にその送り手であることを要求される場合も少なくありません。しかし、こうした情報を評価するのはもちろん、自分の手で調査し発信するためには、正確な知識の裏付けと社会的・倫理的な配慮が必要になります。そこで本講義では、いくつかの社会調査手法を支える基礎的な発想とその実践方法を学ぶことを通じて、社会調査データに基づく情報の意義を見極める能力を培うこと、そしてそれを自分自身の情報発信に生かす技法を身につけます。

In today's society, there is a great deal of information based on social survey data such as statistics and interviews.

We are required to be both the recipients and the senders of such information. However, in order to evaluate and use such information on one's own, it is necessary to have the support of accurate knowledge and ethics. In this course, students will learn the basic concepts of social research methods and how to use them. And we aim to assess correctly the significance of information based on social survey data, and to acquire skills in accurate information analysis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：授業全体の概観
- 2回：基礎①：社会調査の基本的プロセス、事前調査
- 3回：基礎②：利用できる統計・データ、集計の実習
- 4回：基礎③：調査目的の定義、サンプリング
- 5回：集計①：調査票の構成、項目の作成、データ収集
- 6回：集計②：変数と尺度（名義尺度、順序尺度ほか）、データ集計と代表値の利用の活用方法を知る
- 7回：量的データ分析①：分散と標準偏差、偏差値の活用方法を知る
- 8回：量的データ分析②：統計的有意性の考え方、検定、クロス表の連関を求める
- 9回：実地調査①：参与観察・インタビューの進め方
- 10回：実地調査②：インタビューの種類、実習
- 11回：調査と分析①：事例分析、コード・マトリックス表、GTA（1）
- 12回：調査と分析②：事例分析、コード・マトリックス表、GTA（2）
- 13回：調査倫理・研究倫理①：概説
- 14回：調査倫理・研究倫理②：倫理に則った調査遂行の実習

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、前回で紹介した事項について調べてください。場合によっては事前に指定した課題をこなしてください。復習として、その回に履修したデータの計算・出力を反復してください。場合によっては課題としての提出を求めることがあります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 平常課題の提出:30% 中間レポート:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋 新・社会調査へのアプローチ—論理と方法 ミネルヴァ書房
2013 9784623066544

佐藤郁哉 フィールドワークの技法—問いを育てる、仮説をきたえる 新曜社 2002 9784788507883

村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士 SPSSによる多変量解析 オーム社 2007 9784274066269

戈木クレイグヒル ワードマップ グラウンデッド・セオリー・アプローチ—理論を産み出すまで 改訂版 新曜社 2016 9784788514843

参考書は購入必須ではありません。

その他/ Others

「社会調査法」では、春学期にインタビュー、実地調査も含めた広範な授業を行います。秋学期は統計的手法に絞った演習・実習を行います。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 17

Practical Application: Social Organization 17

(社会調査法Ⅱ)

品治 佑吉 (HONJI YUKICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM217

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

データに基づいて社会を捉える方法と、態度を学ぶ。

Learn methods and attitudes for observing social events based on data.

授業の内容 / Course Contents

現在の社会には、統計やインタビューといった社会調査データに基づく情報があふれています。私たちがこうした情報の受け手であることはもちろん、同時にその送り手であることを要求される場合も少なくありません。しかし、こうした情報を評価するのはもちろん、自分の手で調査し発信するためには、正確な知識の裏付けと社会的・倫理的な配慮が必要になります。そこで本講義では、いくつかの社会調査手法を支える基礎的な発想とその実践方法を学ぶことを通じて、社会調査データに基づく情報の意義を見極める能力を培うこと、そしてそれを自分自身の情報発信に生かす技法を身につけます。

In today's society, there is a great deal of information based on social survey data such as statistics and interviews.

We are required to be both the recipients and the senders of such information. However, in order to evaluate and use such information on one's own, it is necessary to have the support of accurate knowledge and ethics. In this course, students will learn the basic concepts of social research methods and how to use them. And we aim to assess correctly the significance of information based on social survey data, and to acquire skills in accurate information analysis.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：授業全体の概観
- 2回：基礎①：社会調査のプロセスと統計学の考え方
- 3回：基礎②：母集団と標本、サンプリングの考え方
- 4回：基礎③：有用な既存データ、表・グラフの作成
- 5回：集計①：データと調査票の構成、調査票項目の作成、配布方法
- 6回：集計②：変数と尺度（名義尺度、順序尺度ほか）、集計表・代表値の使い分け
- 7回：分析・検証①：分散と標準偏差、偏差値の活用方法を知る
- 8回：分析・検証②：統計的有意性の検定と考え方、クロス表の連関を求める
- 9回：分析・検証③：変数間の強さの測定、相関係数を求める
- 10回：分析・検証④：回帰分析、多変量解析
- 11回：分析・検証⑤：ロジスティック回帰分析
- 12回：分析・検証⑥：仮説定立と検証の実習（1）仮説決めとデータの探索
- 13回：分析・検証⑦：仮説定立と検証の実習（2）分析結果の解釈
- 14回：分析・検証⑧：仮説定立と検証の実習（3）レポートの完成

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、前回で紹介した事項について調べてください。場合によっては事前に指定した課題をこなしてください。復習として、その回に履修したデータの計算・出力を反復してください。場合によっては課題としての提出を求めることがあります。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 平常の課題提出:30% 中間レポート:30% 最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

村瀬洋一・高田洋・廣瀬毅士 SPSSによる多変量解析 オーム社 2007 9784274066269

三輪哲・林雄亮 SPSSによる応用多変量解析 オーム社 2014 9784274050114

本田由紀・須藤康介・古市憲寿 新版 文系でもわかる統計分析 朝日新聞出版 2018 9784274066269

参考書は購入必須ではありません。

その他 / Others

「社会調査法」では、春学期にインタビュー、実地調査も含めた広範な授業を行います。秋学期に統計的手法

に絞った演習・実習を行います。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 19

Practical Application: Social Organization 19
(市民社会論)

奥田 裕之 (OKUDA HIROYUKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： VM219
授業形態： ハイフレックス
授業形態 (補足事項)
校地： 池袋
学期： 秋学期
単位： 2
科目ナンバリング： SDS5210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

この授業は、下記の 2 点を目的とする。

- (1) NPO 法人に限らず“広義の NPO”が様々な分野で行っている、先駆的な活動実態を学ぶ
- (2) 幅広い視点から日本の市民社会の実態と課題について理解を得ることで、今後の市民社会の可能性について自らの意見を持つ。

This course aims for students to:

- (1) learn the reality of various pioneering activities of nonprofit organizations (NPOs) in a broad sense (not just NPO corporations) and,
- (2) from a broad viewpoint, have individual opinions about the possibility of a future civil society through understanding of the reality and problems of Japanese civil society.

授業の内容 / Course Contents

この演習では、NPOの基本的な知識を獲得したうえで、人権の視点を持つ様々な分野の先駆的なNPOの活動を学ぶ。そして日本の市民社会が持つ可能性と、その課題について考えていく。

なお、授業内容は受講生の人数や希望等に沿って若干変更する場合がある。

In this course, after acquiring basic knowledge of nonprofit organizations (NPOs), students learn activities of pioneering NPOs in various fields with a human rights basis. Moreover, students also learn the potential and the problems of Japan's civil society.

Note: Course plans and content might change slightly depending on students' wishes.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション、今後の進め方・NPO概論
- 2回：NPOの歴史と現在の課題
- 3回：NPO法人の仕組みと実際
- 4回：NPOとアドボカシー
- 5回：NPOと資金、運営
- 6回：実例紹介1；震災復興とNPO
- 7回：実例紹介2；LGBTとNPO
- 8回：実例紹介3；まちづくりとNPO
- 9回：実例紹介4；宗教法人とNPO
- 10回：実例紹介5；子どもや若い女性への支援とNPO
- 11回：実例紹介6；コロナ禍とNPO
- 12回：実例紹介7；貧困・労働問題とNPO
- 13回：実例紹介8；多文化共生とNPO
- 14回：まとめ；NPOと現代日本の市民社会

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 出席票兼リアクションペーパー:30% 授業への積極的参加:30% 最終レポート
割合：:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ブレイディ みかこ THIS IS JAPAN :英国保育士が見た日本 太田出版 2016 10 4778315332

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 2 1

Practical Application: Social Organization 21

(地方自治と社会政策)

牧 慎太郎 (MAKI SHINTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM221

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

人口減少、ポストコロナ、DX など地域社会を取り巻く環境変化の中で、地域の人口動態や産業構造を踏まえながら、活気あるまちづくり、コミュニティ、地域の安心安全、交通・通信インフラ、地域経済循環などの観点から地方自治体が講じるべき政策や持続可能な地域づくりのあり方を考えます。

Amidst environmental changes surrounding local communities such as population decline, post-COVID situations, and digital transformation (DX), this considers the policies local governments should adopt and the approaches for sustainable community development. It takes into account the demographics, industrial structure, vibrant town planning, community, local safety, transportation/communication infrastructure, and regional economic sustainability.

授業の内容 / Course Contents

具体的な進め方としては、地方自治体の政策や持続可能な地域づくりに関する各回のテーマに沿った講義とデ

イスカッションを基本とし、後半では地域の活性化に向けて地方自治体が行っている政策の事例について、受講生からも発表（事例検討）してもらいます。

受講生の関心や最新の社会動向に応じて、テーマと順序は変更される場合があります。

As a specific approach, the fundamental approach involves lectures and discussions aligned with the themes concerning local government policies and sustainable regional development. In the latter part, participants will present case studies on policies implemented by local governments to revitalize the region (case study discussions). Depending on the interests of participants and the latest societal trends, themes and sequences may be subject to change.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション～今後の進め方
- 2回：人口減少社会の現状と課題
- 3回：地方自治の現状
- 4回：我が国における地域振興策
- 5回：地域おこし協力隊と地域活性化起業人
- 6回：観光とまちづくり、エリアマネジメント
- 7回：持続可能な環境と地域経済循環
- 8回：地域の安心安全とコミュニティ
- 9回：ICTの活用、地域公共交通
- 10回：事例検討（1）兵庫県豊岡市
- 11回：事例検討（2）徳島県神山町
- 12回：事例発表（1）
- 13回：事例発表（2）
- 14回：クロージング～まとめと振り返り

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業を振り返り、毎回アクションペーパー（コメント）を送ること。

持続可能な地域づくりや地域活性化に取り組む地方自治体の事例についてレポートにまとめ、発表してもらう予定なので、興味・関心を持った事例について調べておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加とアクションペーパー:40% レポート:30% 発表:30%

テキスト / Textbooks

なし。授業中に必要な Web サイトを指示する。

参考文献 / Readings

牧 慎太郎 『山族公務員の流儀』 時事通信社 2021 9784788717503

その他/ Others

牧 慎太郎の HP

<https://maki13378.jimdofree.com>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 2 2

Practical Application: Social Organization 22

(インクルーシブキャピタリズム)

谷本 有香 (TANIMOTO YUKA)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： VM222
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SDS5210
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

人々の欲深き心が生み出した、歪んだ資本主義の結露としてのリーマンショックを迎えたあたりから、私たちは真剣にポスト資本主義の姿を模索してきた。あれから 10 年以上の歳月が流れ、いまだ新しい言葉を見出すことができていない。

しかし、この授業を担当させていただく講師が所属する経済誌「Forbes JAPAN」では、「Inclusive Capitalism」というコンセプトを打ち出し、経済合理性や市場システムから離れたところで生き、暮らしている者たちをも包括し、共感を生み出す社会・経済の形成を目指している。

そのような新しい仕組みには何が必要なのか。受講生の皆さんと議論を重ねながら、新しい経済や社会の形を模索したい。

We have been looking for a post-capitalism image since the Lehman Shock, more than 10 years have passed since then, and we have yet to find a new word for it.

But Forbes JAPAN, the economic magazine, which the lecturer in charge of this class belongs, has launched the concept of "Inclusive Capitalism". It is an economy that aims for empathy and true wealth, not economic rationality.

What is needed for such a new system? We would like to explore the shape of a new economy and society through discussions with the students.

授業の内容 / Course Contents

新しい時代において大切な「社会的インパクト」という概念にフォーカスをして、次のような事例

- ・ 社会課題の解決と事業成長を両立している企業やリーダー
- ・ 日本で長きに渡って繁栄続ける長寿中小企業
- ・ 海外の事例
- ・ 文化・アートや建築
- ・ サイエンス

等を用い、ビジネスを超えた領域からのアプローチも含め、時代をつくる考え方や組織や企業のあり方を通して、新しい経済の姿を探る。

Focusing on the concept of "social impact," which is important in this new era, the following case studies, we will explore the

shape of the new economy through the way of thinking, organizations, and companies that will create the era including approaches from areas beyond business.

- ・ Companies and leaders who are both solving social issues and growing their businesses.
- ・ Long-lived small and medium-sized enterprises that have been thriving in Japan for a long time.
- ・ Global cases
- ・ Art and architecture
- ・ Science

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：チェックイン「Inclusive Capitalism」とは
- 2 回：フィランソロピーと資本主義(1)
- 3 回：地域経済から考える Inclusive Capitalism(1)
- 4 回：地域経済から考える Inclusive Capitalism (2)
- 5 回：地域経済から考える Inclusive Capitalism (3)
- 6 回：新しい資本主義への挑戦～ゼブラ：社会課題解決と持続的な経営とは～
- 7 回：フィランソロピーと資本主義 (2)
- 8 回：SINIC 理論が描く、自然（じねん）社会を目指す経済とは
- 9 回：スモールジャイアンツ（中小企業、長寿企業）から考える Inclusive Capitalism
- 10 回：パーパスモデル 建築設計の世界から考えるインクルーシブキャピタリズム
- 11 回：日本芸能「能」梅若流から考える、文化資本の時代
- 12 回：リーダーから考える Inclusive Capitalism
- 13 回：受講者の方々と考える「Inclusive Capitalism」
- 14 回：チェックアウト：講義ラップアップ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて別途指示

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内容の理解、発言・提案等の授業に対する貢献:100% 最終レポート割合 :0% 最終テスト割合 :0%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 2 3

Practical Application: Social Organization 23

(コーオウンド・ビジネス)

細川 淳 (HOSOKAWA ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM223

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

「しあわせな資本主義」「分かち合いの資本主義」と呼ばれ、従業員が自ら働く会社のオーナー (影響株主・支配株主) になるというコーオウンド・ビジネス。従業員や関わる人びとをハッピーにし、かつ収益性が高い事が数々の研究で明らかにされています。コーオウンド・ビジネス (従業員所有事業) は欧米で確かな潮流となっています。日本では研究、実践ともに緒についたばかりの新しい事業モデルで、今後躍進が期待されます。

多くのケース・スタディを通じて、コーオウンド・ビジネスに限定せず「しあわせなしごと」とは何か、企業とステークホルダーの関係性、起業家精神とは何か、そもそもビジネスは何のためにあるのか、などについての様相を浮き彫りにし、皆さんの問題意識の深化を図ります。

事業組織研究を目指す学生、新たな企業/組織のあり方の研究を目指す学生、ソーシャル・ビジネス/CSR/ステークホルダー論研究を目指す学生、起業や社会起業を目指す学生の皆さんとともに、本概念の深耕を目標

とします。

The employee ownership model, in which employees and executives collectively become influential or controlling shareholders of the companies they work for, is known as “shared capitalism” or “happy capitalism.” According to multiple studies, the model is proven to generate happiness among employees and stakeholders, and is more profitable than non-employee owned companies. While employee ownership occupies a sound base in American and British economies, it is still at an introductory stage in Japan both in practice and academically, but shows signs of taking off.

This course aims for students to study and deepen understanding of the concept, especially those in pursuit of business organization studies, social business/CSR/CSV/stakeholder studies, and entrepreneurship/intrapreneurship studies.

Through case studies, the course aims to deepen students' discussions regarding the relations between work/business and happiness, business and stakeholders, entrepreneurship, the very purpose of business, and other aspects of business activities.

授業の内容 / Course Contents

実践事例を中心にコーオウンド・ビジネスの様相や最新の動向を見て行きます。

講義、ケース・スタディ、実践家からのヒアリングなどを組み合わせ、また皆さんとのディスカッションによって、コーオウンド・ビジネスのみならず、「しあわせなしごと」「しあわせな事業」にまつわる研究の深耕を図ります。

適宜ゲスト・スピーカーによる講演を織り込み、コーオウンド・ビジネスの最新の動向を把握します。

本講義（一般社団法人従業員所有事業協会寄付講座）は日本で最初かつ唯一のコーオウンド・ビジネス（従業員所有事業）に関する講義です。

This course is conducted three dimensionally, in theoretical, institutional, and practical aspects. By combining lectures, case studies, interviews with practitioners, and discussions with students, we will together explore the employee ownership model. Presentations by guest speakers may be made as appropriate to highlight the current state of employee ownership. Note: This course (sponsored by Japan Employee Ownership Association) is the first and only course on employee ownership in Japan.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション： コーオウンド・ビジネスとは？
- 2回：ケース・スタディ： 躍動するコーオウンド企業とそのワクワクの様相
- 3回：百花繚乱の事例：ハーブーン・ブルワリー、EBOグループ、スコット・バーダー、等
- 4回：ウォール・ストリート型資本主義の真逆 ボブズ・レッド・ミルの事業構築： しごととは？起業家精神とは？
- 5回：ステークホルダーとガバナンス： 会社はだれのために、何のために存在するのか？
- 6回：ステークホルダーとガバナンス： 事例から見る経営戦略のコントラスト
- 7回：日本のコーオウンド・ビジネス
- 8回：ステークホルダー徹底主義 イコール・エクステンジ： 最高利益達成をよろこばない会社って？
- 9回：あらためて産業革命を見つめる①： 今の私たちの生き方・経済のあり方を規定してしまった仕組み
- 10回：あらためて産業革命を見つめる②： 第1次～第4次産業革命 今になって露呈してきたきしみ
- 11回：元祖コーオウンド企業 ジョン・ルイス・パートナーシップ： 理想への夢が生んだコーオウンド・カンパニー
- 12回：組織のあり方を考える 「成長」と「規模」の問題： ウィルキン&サンズからの学び

13 回：コーオウンド・ビジネス・モデルだからこそ遭遇するチャレンジ： 経営のコクなのか、エグみなのか？

14 回：コーオウンド・ビジネス研究の地平

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	: ○	スライド (パワポ等) の使用	: ○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	: ○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習については、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：011) / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業参画： 質問、発言を歓迎します。:30%

テキスト / Textbooks

細川あつし 『コーオウンド・ビジネス - 従業員が所有する会社』 築地書館 2015 9784806715023 ○
必要に応じてプリント等資料を配布します。

参考文献 / Readings

内山節 (細川あつし共著：第2章 エシカル・ビジネス) 『半市場経済 - 成長だけでない「共創社会」の時代』 角川新書 2015 9784040820255

その他 / Others

<授業形態について>

上記にある通り対面とオンラインのハイフレックス授業に対応します。授業での議論が活発になり、また授業前後でのアドバイス等にも対応できるので、対面での出席を奨励します。

<参考 HP>

一般社団法人従業員所有事業協会 <http://jeoa.org/>

株式会社コア・ドライビング・フォース <http://www.cdforce.co.jp/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論演習 25

Practical Application: Social Organization 25

(ライフストーリーと社会的帰属)

梅本 龍夫 (UMEMOTO TATSUO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM225

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5210

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

安定した社会においては、個人の人生は、節目ごとの「通過儀礼」をなぞります。それは社会的規範を象徴的な体験を通して学び、帰属を深めていくプロセスといえます。しかし、変化が激しく不安定な社会においては、規範自体も流動化し、社会的帰属を確立することが難しくなります。

2011 年の東日本大震災は、未曾有の大災害であっただけでなく、私たちが築き上げてきた社会の前提を揺るがすアイデンティティ・クライシスでした。そして 2020 年以降、コロナ・パンデミックを体験した人類は、世界はひとつにつながっていることを痛烈に実感させられました。並行して進む地政学的な緊張により、グローバリズムとローカリズムがせめぎ合う時代に入りました。各地で勃発する紛争や戦争による破壊行為も、いっけん平和な経済活動をもたらす地球環境の破壊も、おおもとは、私たち一人ひとりの人間としての営為があります。「他人事、よその国のこと」と思うこともすべてつながっています。

私たちの社会そのものが、出口の見えない巨大な「通過儀礼」に遭遇しています。そういう時代にあっては、

個人は自分の人生の軌跡を現代史の中に積極的に刻む責務を負っています。それは、不安定化し流動化する社会状況に流されず、主体的に社会的規範と帰属を再興していくプロセスとなります。私自身、仕事で燃え尽きる通過儀礼を経験しました。過去の人生を振り返り、他者に助けられることで、今の時代にふさわしい社会的規範と帰属を再興し、未来の人生へと踏み出すことができました。

本授業では、私が実体験を通して学んだことを体系化した物語マトリクス理論を礎にし、人生の起承転結をナビゲートしていきます。「過去」の人生体験を振り返り、新しい意味づけ（語り直し）をします。それは時に、現在の自己を規定する（古い）アイデンティティの変容を意味します（特に「沈黙のストーリー」が出現するとき）。そして、刷新された「今」を起点に、「未来」を展望するライフデザインを通して「理想の人生」を手繰り寄せていきます。この一連のプロセスにチーム（コミュニティ）で向き合うことで、新しいソーシャルストーリー（社会的規範と帰属の物語）の協働編集が始まります。

In a stable society, an individual's life is traced through "rites of passage" at each milestone. It is a process of learning social norms through symbolic experiences and deepening one's belonging. However, in a rapidly changing and unstable society, norms themselves become fluid, making it difficult to establish social belonging. The Great East Japan Earthquake of 2011 was not only a disaster of unprecedented scale, but also an identity crisis that shook the very assumptions on which our society was built. And after 2020, humanity experienced the Corona Pandemic, which made us keenly aware that the world is connected as one. Due to parallel geopolitical tensions, we have entered an era in which globalism and localism are at odds with each other. The destruction caused by conflicts and wars that have erupted in various parts of the world, as well as the destruction of the global environment caused by seemingly peaceful economic activities, are all rooted in the activities of each and every one of us as human beings. What we may think of as "someone else's problem," or "something that happens in another country," is all connected.

Our society itself is going through a huge "rite of passage" with no way out in sight. In such times, individuals have a responsibility to actively mark the trajectory of their lives in contemporary history. It is a process of proactively reestablishing social norms and belonging without being swept away by destabilizing and fluid social conditions. I myself have experienced a rite of passage of burnout in my work. By reflecting on my past life and being helped by others, I was able to re-establish social norms and belonging appropriate to the present time and step forward into my future life.

In this class, I will navigate through the origins and endings of life, using the Narrative Matrix Theory, which systematizes what I have learned through my own experiences, as a foundation. We look back on our "past" life experiences and give them new meaning (re-telling). This sometimes means a transformation of the (old) identity that defines the present self (especially when "silent stories" emerge). Then, starting from the renewed "now," the "ideal life" is brought forth through life design that looks to the "future". By facing this series of processes as a team (community), the collaborative editing of a new social story (a story of social norms and belonging) begins.

授業の内容 / Course Contents

第1回のオリエンテーションのあと、4ステージ（「起承転結」）で展開し、最後に総括の時間をもつ。本授業全体が「ひとつの物語」として展開します。

- (1) 起—ライフストーリー概論（過去・現在・未来を貫く物語）
- (2) 承—パーソナリティの発見（自己を客観視する枠組み）
- (3) 転—通過儀礼と社会（自己成長の契機）
- (4) 結—英雄の旅としてのライフストーリー（「理想の人生」のデザイン）

本授業では、社会学や心理学などの手法としてのライフストーリーを参考にしつつ、厳密な学問的定義にはこだわらず、社会デザインの現場を立体化する手法のひとつとして活用します。「3.11」とコロナ・パンデミックを共有体験の起点とし、「幼年期・青年期・中年期・老年期」という4ライフステージと、80年近く経つ戦後史の「時代論・世代論」を組み合わせ、それぞれのライフストーリーをひとつなぎにすることで、「私の物語」を「私たちの物語・社会の物語」に変換していきます。そうした集合的な物語は、多様な「理想の人生」を実現する社会デザイン実践のプラットフォームとなります。

After the first orientation session, the class will unfold in four stages ("introduction, development, transformation, conclusion"), with time for a summary at the end. The entire class will unfold as "one story".

- (1) Introduction: Outline of life story (a story that goes through the past, present, and future)
- (2) Developoment: Discovery of personality (framework for viewing oneself objectively)
- (3) Transformation: Rites of passage and society (opportunities for personal growth)
- (4) Conclusion: Life story as a hero's journey (designing an "ideal life")

In this class, while referring to life story as a method in sociology and psychology, we will not stick to a strict academic definition, but will use it as one of the methods to make the field of social design three-dimensional. Taking "3.11" and the Corona pandemic as the starting point of shared experiences, we will combine the four life stages of "childhood, adolescence, middle age, and old age" with the "chronology and generational theory" of nearly 80 years of postwar history, and by linking each life story together, transform "my story" into "our story and society's story" by combining the life stages and generational theories of nearly 80 years of postwar history and connecting the life stories of each individual. Such a collective narrative will serve as a platform for social design practices to realize diverse "ideal lives".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーションー「ライフストーリーとは何か」
- 2回：起ーライフストーリー概論1（ライフストーリーの理論的系譜）
- 3回：起ーライフストーリー概論2（「個人の物語」の枠組み）
- 4回：承ーパーソナリティの発見1（外部環境（1）時代が育てるライフストーリー）
- 5回：承ーパーソナリティの発見2（外部環境（2）世代で共有するライフストーリー）
- 6回：承ーパーソナリティの発見3（内部環境（1）パーソナリティを知る）
- 7回：承ーパーソナリティの発見4（内部環境（2）9つのタイプ・9つのレベル）
- 8回：転ー通過儀礼と社会1（伝統社会における「成人」）
- 9回：転ー通過儀礼と社会2（現代社会と「中年の危機」）
- 10回：転ー通過儀礼と社会3（老年の可能性ー「100年人生」の時代）
- 11回：結ー英雄の旅としてのライフストーリー1（ライフデザイン（1）過去の再編集）
- 12回：結ー英雄の旅としてのライフストーリー2（ライフデザイン（2）現在の再認識）
- 13回：結ー英雄の旅としてのライフストーリー3（ライフデザイン（3）未来の再創造）
- 14回：総括ー「英雄の旅ー理想の人生を生きる」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：

上記いずれも用いない予定　：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験　:50%

平常点割合　:50%　クラスディスカッションへの参加:25%　リアクションメール:25%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

桜井厚　ライフストーリー論　せりか書房　2005

やまだようこ　人生を物語る一生成のライフストーリー　ミネルヴァ書房　2000

谷口貢　日本人の一生一通過儀礼の民俗学　八千代出版　2014

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 2

Practical Application:Community Design 2

(福祉課題に取り組む実践活動 1)

三浦 建太郎 (MIURA KENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM302

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

社会で暮らし人の生活を支える福祉の仕組みは、公的な制度や機関により提供される機能だけでは充足できない。社会で暮らす私たち自身が、広い意味での福祉の仕組みに参加し一翼を担うことは、単に公的な資源の不足を補う労働力を補完することではなく、社会で暮らし支える主体として、自らどのような社会を作っていくのかを体現していく行為とも言える。そしてその方法は、個人としてのボランティアやプロボノ活動、組織としての NPO や営利企業の起業を通じての活動など様々である。

この講義は、自ら問題意識をもって認識した社会の福祉的課題に対し、取り組んでいく方法を考えることを目標とする。

The public system alone cannot sufficiently solve welfare problems. It is important that citizens living in society work on solving their welfare problems.

This course aims to help students think and act on ways to solve welfare problems.

授業の内容 / Course Contents

- ・福祉の仕組みに対する私たちの活動の位置づけを学ぶ
- ・福祉課題に主体的に取り組んでいく様々な方法を知る
- ・自分の持っている資源を想像し、福祉の仕組みに参加し一翼を担う形を具体的に考える
- ・講義の後半では、履修学生同士数名のグループで、具体的な福祉活動の取り組み提案を議論する
- ・ Learn the position of citizens' activities in the welfare issues.
- ・ Know various ways to participate in resolving welfare issues.
- ・ Based on the resources you have, think concretely about the form that plays a part in welfare.
- ・ In the final session of the course, students will work in groups to discuss proposals for specific welfare activities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：福祉制度と地域で暮らす人に期待される役割
- 3回：福祉課題に取り組む方法と課題1
- 4回：福祉課題に取り組む方法と課題2
- 5回：実践活動の事例1（生活困窮者支援等）
- 6回：実践活動の事例2（児童養護・子供のグリーフケア等）
- 7回：実践活動の事例3（地域生活支援等）
- 8回：事例調査発表（自らの活動経験の報告または気になる活動を調べる）
- 9回：事例調査発表（自らの活動経験の報告または気になる活動を調べる）
- 10回：企画提案のテーマ決め（具体的な福祉課題のテーマを選択し解決するための活動提案を考える）
- 11回：企画提案プランニング1（グループワーク）
- 12回：企画提案プランニング2（グループワーク）
- 13回：企画提案プランニング3（グループワーク）
- 14回：企画提案発表会（グループ毎に提案を発表）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

時事問題等を通じて、社会の福祉的課題について、関心を払い、自分の意見を考えておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義への出席と理解:60% 議論への参加と貢献度:20% 企画提案発表内容:20%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

講義の中で適宜紹介する。

その他 / Others

オンライン（zoom）での受講も可能なミックス型で実施予定
研究科の行事と重なる場合はオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習3

Practical Application:Community Design 3

(社会デザインと福祉課題2)

三浦 建太郎 (MIURA KENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM303

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

福祉とは「生きづらさ」を抱える人を支え、人の幸福を高めるための様々な取組と考えられる。その在り方には、明確な正解があるわけではなく、社会で暮らす私たち自身が、どのような社会を望むのかという意思を持ち、試行錯誤を重ねることで進化していく。まさに社会デザインの発想と取組が求められている。

この講義は、現代社会の福祉的課題を踏まえた上で、高齢化や人口減少、価値観の多様化、科学技術の発展、グローバル化など、社会に既に影響を与えつつある変化、将来、影響を及ぼす可能性のある変化を取り上げ、社会で日々暮らしている私たち自身が、どのような社会になることを望み、どう対応していくべきか、自らの意見と行動の判断ができるようになることを目標とする。

This course aims for students to learn about changes already impacting society, such as aging and declining populations, diversifying values, development of science and technology, globalization, and changes that might affect the future.

The purpose of this course is to be able to judge our own opinions and actions on what kind of society we want to be and how we should respond to change.

授業の内容 / Course Contents

- ・ 想定される社会の変化を踏まえ、今後直面するであろう福祉的課題を考える
- ・ 様々な言説を元に、議論を重ね、多様な視点から考える
- ・ 社会に起こりうる変化に対し、どう対応するべきか、自分の意見をまとめる
- ・ 講義の後半では、履修学生同士数名のグループで、目指す未来社会へ向けての提案を議論する
- ・ Consider the welfare issues that will be faced in the future as society changes.
- ・ Based on various discourses, repeatedly discuss and think about the welfare system from various viewpoints
- ・ Summarize your individual opinions on how to respond to possible changes in society.
- ・ In the final session of the lecture, students will work in groups to discuss proposals for an ideal future society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：日本の現状の福祉課題を確認し未来社会を考える 1
- 3回：日本の現状の福祉課題を確認し未来社会を考える 2
- 4回：人口減少社会を考える
- 5回：人生 100 年時代を考える
- 6回：幸福を考える
- 7回：技術の進化を考える
- 8回：資本主義と民主主義を考える
- 9回：未来社会の予想と創造の方法を考える
- 10回：企画提案のテーマ決め（目指す未来社会を想定し、その社会を実現する取組のステップを考えて提案する）
- 11回：企画提案プランニング 1（グループワーク）
- 12回：企画提案プランニング 2（グループワーク）
- 13回：企画提案プランニング 3（グループワーク）
- 14回：企画提案発表会（グループ毎に提案を発表）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

時事問題等を通じて、社会の変化に関心を払い、起こりうる福祉的課題とその対応方法について自分の意見を考えておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義への出席と理解:60% 議論への参加と貢献度:20% 発表内容:20%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

ダニエル・カーネマン ファスト&スロー 早川書房 2014 9784150504106

リンダ・グラットン アンドリュー・スコット LIFE SHIFT(ライフ・シフト) 東洋経済新報社 2016
9784492533871

広井良典 人口減少社会のデザイン 東洋経済新報社 2019 9784492396476

講義の中で適宜紹介する。

その他/ Others

オンライン (zoom) での受講も可能なミックス型で実施予定

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習4

Practical Application:Community Design 4

(ローカリズム原論1)

中野 佳裕 (NAKANO YOSHIHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM304

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、現代日本におけるコミュニティデザインの潮流の理論と実践をテーマ別に整理し理解することを目指す。地域開発などの歴史的背景を踏まえてコミュニティの現代的課題を検証し、持続可能な未来をローカルな変革の中からデザインできるようになることを目指す。加えて、コミュニティデザインの実践の多元性を理論的に理解・評価する規範的アプローチも学ぶ。

This coursework aims to understand diverse currents of community design theory and practice in Japan. Each lecture scrutinizes history of local development and contemporary problems associated with community building. By doing so, students will learn designs for sustainable future from within diverse experiments of local change. Students also learn normative theoretical approach in the analysis and evaluation of community design practices.

授業の内容 / Course Contents

全14回の講義は、(1) 基本理論、(2) アクターになる、(3) ローカル・コモンズの政治学、(4) 公共政

策を再生する、の4つのテーマに分かれる。(1)では、日本のコミュニティデザインの基本理論を紹介し、鍵となる概念や理論枠組みを学ぶ。(2)～(4)では、具体的事例をテーマ別に整理して学ぶ。授業は講義とディスカッションで構成される。受講生は各回のトピックに関連する文献資料に事前に目を通し、それらの内容に基づいてプレゼンテーションやディスカッションを行う。

The coursework divides into 4 parts: (1) Basic Theory; (2) Becoming Actor; (3) Politics of Local Commons; (4) Remaking Urban Commons. Part I introduces basic theories of community designs in Japan, deepening our understanding of key concepts and theoretical framework. Part II to IV discuss concrete cases from the vantage of specific thematic issues. Each class consists of lecture, small presentation and discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション (4月15日)
- 2回：第1部：基本理論
玉野井芳郎の地域主義(1)：歴史的背景と理論について(4月22日) *オンデマンド講義
- 3回：玉野井芳郎の地域主義(2)；現代的課題と応用可能性について(ディスカッション)(4月29日)
- 4回：モビリティーズと田園回帰—ネットワーク時代のコミュニティデザインを考える(5月6日)
- 5回：第2部：アクターになる
協同で仕事をおこす—労働者協同組合の可能性(5月13日)
- 6回：有機農業から地域協同組合へ：愛媛県西予市・無茶々園の取り組み(5月20日)
- 7回：分解者たちの実践と思想(1)—都市の周縁性と地域史を考察する方法論として(5月27日) *オンデマンド講義
- 8回：分解者たちの実践と思想(2)—埼玉県見沼田んぼの農的営みから学ぶ(ディスカッション)(6月3日)
- 9回：第3部：ローカル・コモنزの政治学
グローバル時代のローカル・コモنز：日本の歴史的・制度的背景を整理する(6月10日)
- 10回：ローカル・コモنزをめぐる社会運動：事例研究(6月17日)
- 11回：コミュニティ・サヴァイヴァルとコモنز：山口県上関町の地域開発史と原発建設計画を事例に(6月24日) *オンデマンド講義
- 12回：第4部：公共政策を再生する
学校給食改革とまちづくり—愛媛県今治市と千葉県いすみ市の実践(7月1日)
- 13回：都市公共空間の再生—企業主導型アーバニズムから創発的アーバニズムへ(7月8日)
- 14回：最終プレゼンテーション(*受講者数が多い場合は、グループ・プレゼンテーションとする)(7月15日)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド(パワポ等)の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業に関するリーディング・マテリアルに事前に目を通し、プレゼンテーションとディスカッションの準備をすること。

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：011) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終プレゼンテーション (第14回) :10% 授業 (第1回~第13回) の課題 (リーディング、報告、討論) への積極的参加:80% 最終レポート割合 :10%

テキスト/ Textbooks

特に指定しない。下記の参考文献リストから適宜リーディング課題を指定する。

参考文献 / Readings

J・アーリ 『モビリティーズ—移動の社会学』 作品社 2015

猪瀬浩平 『分解者たち: 見沼田んぼのほとりを生きる』 生活書院 2019

室田武 『グローバル時代のローカル・コモンズ』 ミネルヴァ書房 2009

内山節 『ローカリズム原論』 農文協 2012

ホルヘ・アルマザン+Studiolab 著 『東京の創発的アーバニズム』 学芸出版社 2022

広井良典編、日本労働者協同組合監修 『協同で仕事をおこす—社会を変える生き方・働き方』 コモンズ 2011

榎文彦・真壁智治編著 『アナザーユートピア—「オープンスペース」から都市を考える』 NTT出版 2019

(8) 井上恭介、NHK「里海」取材班 (2015)『里海資本論 日本社会は「共生の原理」で動く』角川新書。

(9) 大江正章 (2015)『地域に希望あり』岩波新書。

(10) 小田切徳美 (2014)『農山村は消滅しない』岩波新書。

(11) 陣内秀信 (1992)『東京の空間人類学』ちくま学芸文庫。

(12) 広井良典 (2015)『ポスト資本主義』岩波新書。

(13) 藻谷浩介、NHK 広島取材班 (2013)『里山資本主義—日本経済は「安心の原理」で動く』角川新書。

(14) 山崎亮 (2017)『縮充する日本—「参加」が創

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

- * 大学院講義であることを考慮し、事例だけでなく、理論や方法論に関する議論も重視する。
- * 講師の専門分野の関係上、批判開発学・政治理論・社会理論に関する概念的な議論を行うこともある。
- * 毎週指定されている課題図書・論文を事前に読了した上で授業に参加すること。
- * 国際的な研究動向の中に位置づけて議論を行うため、授業内では外国語文献を紹介することがある。

その他/ Others

* 4月22日、5月27日、6月24日は、オンデマンド講義となる。

* 講師のウェブ研究室：<https://postcapitalism.jp/index/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 5

Practical Application:Community Design 5

(ローカリズム原論2)

中野 佳裕 (NAKANO YOSHIHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM305

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

この講義では、コミュニティデザインの国際的動向を理論と実践の両側面から学ぶ。市民社会によるローカルな変革運動の歴史的展開と現代的意義を検証すると同時に、それらを支える国際的規範 (国連の政策アジェンダ、国際法 etc)、各国政府の制度についても理解を深める。講義全体を通じて、持続可能な世界への移行シナリオをデザインできるようになることを目指す。

This coursework discusses the diversity of community design theory and practice from an international perspective. Each lecture scrutinizes historical evolution and contemporary agendas of social innovations by citizens, whilst deepening our understanding of the role of international norms (UN policies, international law, etc) and political institutions of the state. At the end of coursework, students will be able to design scenarios of transition to a sustainable world.

授業の内容 / Course Contents

全 14 回の授業は (1) アソシエーションの政治、(2) 豊かさを変える、(3) 地域コミュニティの再生、(4) 公共性の再構築の 4 つのテーマに分かれる。(1) では 19 世紀以降のアソシエーション運動の歴史・理論・現代の実践について学ぶ。(2) では豊かさの再定義を試みるコミュニティデザイン思想について学ぶ。(3) では地域コミュニティの再生を目指すソーシャル・イノベーションの多様な実践について学ぶ。(4) では脱新自由主義を標榜する革新自治体の公共政策に学ぶ。各回の授業は講義とディスカッションで構成される。受講生は事前に関連する文献資料に目を通し、プレゼンテーションとディスカッションに望むこと。最終プレゼンテーションでは、本講義で扱うコミュニティデザイン理論&実践を踏まえたトランジション・シナリオを作成してもらう。

The coursework divides into 4 parts: (1) Politics of Association; (2) Transforming Wealth; (3) Community Regeneration; (4) Reconstructing Public Sphere. Part I discusses history, theory, and practice of association as well as their implication for social innovation in the 21st century. Part II discusses diverse currents of community design that aim to create new idea of wealth. Part III examines diverse experiments of social innovation that contribute to community regeneration. Part IV scrutinizes the emerging progressive municipal politics challenging neoliberalism. Each lecture consists of lecture and discussion. Students must read reading materials and prepare for presentation and discussion. In the final presentation, students will present scenarios of socio-ecological transition based on community design theory and practice.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション (9月26日)
- 2 回：第1部：アソシエーションの政治
アソシエーションの政治—協同組合運動から連帯経済の台頭まで (10月3日)
- 3 回：つながりの経済をつくる—連帯経済の様々な実践 (10月10日)
- 4 回：第2部：豊かさを変える
消費社会から抜け出す (1) —防衛的経済成長モデルと幸福の逆説 (10月17日)
- 5 回：消費社会から抜け出す (2) —脱成長のシナリオ (10月24日)
- 6 回：消費社会から抜け出す (3) —海外のローカリゼーション運動の事例研究 (グループ・プレゼンテーション) (11月7日)
- 7 回：第3部：地域コミュニティを再生する
食のローカル化—イタリア・スローフード運動の理論と実践に学ぶ (11月14日)
- 8 回：イタリア市民的経済の理論と実践—倫理銀行の取り組みに学ぶ (11月21日)
- 9 回：地域レジリエンスを高める—英国発トランジション・タウン運動の展開 (11月28日)
- 10 回：都市農村共生社会を目指して—韓国ソウル市の学校給食改革に学ぶ (12月5日)
- 11 回：第4部：公共性の再構築
欧州ミュニシパリズムの歴史—社会主義ミュニシパリズムからプラットフォーム民主主義へ *オンデマンド講義 (12月12日)
- 12 回：公共サービスを取り戻す—欧州ミュニシパリズムの実践 (12月19日)
- 13 回：気候民主主義—欧州の気候市民会議の実践に学ぶ (1月9日)
- 14 回：最終プレゼンテーション (*受講人数が多い場合は、グループ・プレゼンテーションとする) (1月16日)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ 教材 (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 : ○

個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回の講義に関連するリーディング・マテリアルに事前に目を通し、プレゼンテーションとディスカッションの準備をすること。*多くの場合、日本語資料であるが、一部、英語資料も含まれることもある（例—国連報告書など）。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 最終プレゼンテーション（第14回）:10% グループ・プレゼンテーション（第6回）:20% 授業（第1回～第5回、第7回～第13回）の課題（リーディング、報告、討論）:60% 最終レポート割合：:10%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。下記の参考文献リストから適宜リーディング課題を指定する。

参考文献 / Readings

- R・ウィルキンソン、K・ピケット 『格差は心を壊す—比較という呪縛』 東洋経済新報社 2020
 枝廣淳子 『レジリエンスとは何か—何があっても折れないところ、暮らし、地域、社会をつくる』 東洋経済新報社 2015
 工藤律子 『つながりの経済を創る—スペイン発「もうひとつの世界」への道』 岩波書店 2020
 西川潤、生活経済政策研究所編著 『連帯経済—グローバル化への対案』 明石書店 2007
 S・バルトリーニ 『幸せのマニフェスト—消費社会から関係の豊かな社会へ』 コモンズ 2018
 R・ホプキンス 『トランジション・ハンドブック—地域レジリエンスで脱石油社会へ』 第三書館 2013
 S・ラトゥーシュ 『脱成長』 白水社クセジュ 2020
 (8) 勝俣誠、M・アンベール編 (2011) 『脱成長の道—分かち合いの社会を創る』 コモンズ。
 (9) G・カリスほか著 (2021) 『なぜ、脱成長なのか』 上原裕美子・保科京子訳、NHK 出版。
 (10) 工藤律子 (2016) 『雇用なしで生きる—スペイン発「もうひとつの生き方」への挑戦』 岩波書店。
 (11) N・シュナイダー (2020) 『ネクスト・シェア—ポスト資本主義を生み出す「協同」プラットフォーム』 東洋経済新報社。
 (12) 中野佳裕編・訳、ジャン＝ルイ・ラヴィル、ホセ・ルイス・コラッジオ編 (2016) 『21世

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

- * 大学院講義であることを考慮して、事例の内容だけでなく、理論や方法論に重心を置いて講義を行う。
- * 講師の専門分野の関係上、批判開発学、社会哲学、政治理論に関する議論が中心となる場合がある。
- * 講義内では、外国語文献（英語、フランス語、イタリア語、スペイン語など）を紹介することがある。
- * 各回のリーディング・マテリアルを事前に読了し、授業に参加されたい。
- * グループ・プレゼンテーションでは、共同作業による研究調査（collaborative research）を行うこと。
- * コミュニティ・オーガナイズिंगの

その他 / Others

講師のウェブ研究室：<https://postcapitalism.jp/index/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討

論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 9

Practical Application:Community Design 9

(資源と環境の経済社会論)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM309

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

2050 年カーボンニュートラル目標が目指す社会は、産業革命以降発展してきた経済、社会に、大きな変革 (transformation) をもたらすものになるはずである、おそらく 21 世紀全体をかけて取り組むことになるこの変革について、脱炭素、プラスチック資源循環の様々な局面から検討し、今後の経済/社会の進む方向を考察する。

The society, which 2050 carbon neutral target is trying to create, will require transformation of our economy and society developed since industrial revolution. Participating students will examine the 21 century transformation process from various aspects of decarbonization and plastic circulation. This study might give good image of future economy and society.

授業の内容 / Course Contents

パリ協定の 1.5°C 目標、IPCC の知見により、主要国は 2050 年前後にカーボンニュートラルを実現するとの

目標を掲げることになった。今世紀半ばには、石油、石炭、天然ガスを燃料や素材に用いることが困難になってくる。これは産業革命以降のエネルギー革命が形作ってきた経済社会を大きく変えることを意味する。その移行過程で何が起きるのか、主立った分野、技術毎に検討を加え、脱炭素、プラスチック資源循環が経済/社会に与えるインパクトを探っていく。

なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

Guided by the 1.5 degree target of the Paris Agreement and the IPCC reports, major countries now have targets which achieve carbon neutral around 2050. Utilizing oil, coal and natural gas as fuel or material will be quite difficult by mid century. This means that the economy and society created by industrial revolution will be widely transformed in coming decades. This course will examine what will happen in this transition, review major industrial groups' activities and technologies, and will study potential impacts of decarbonization and plastic circulation on the economy and society.

The themes and order of the course schedule may change according to the interests and questions of the course participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

気候変動対策、プラスチック資源循環対策とは何か、概観する。

2回：気候変動対策の国際的取組

気候変動枠組条約から京都議定書、パリ協定への国際交渉を振り返る。

3回：気候変動の国内対策枠組

日本の温室効果ガス削減目標と戦略の概要を過去、現在について検討、考察する。

4回：プラスチックと環境政策/廃棄物政策

プラスチック使用拡大を押し止めようとした環境政策、廃棄物政策の歴史を振り返る。

5回：気候変動対策の経済学

気候変動対策は経済の悪影響を及ぼすか、経済学的な論争の歴史や、カーボンプライシングの政策的意味を考える。

6回：気候変動の抵抗学

気候変動問題への市民、NPO や若者の動き、国際的な活動について、考察する。

7回：気候変動対策①電力、製造業

エネルギー転換部門（発電）、製鉄、セメントなど製造業での取組と今後の方向を探る。

8回：気候変動対策②自動車、交通

自動車の電動化、航空機燃料のグリーン化、船舶の動力源など運輸部門での取組お現状、今後について考察する。

9回：気候変動対策③家庭/オフィスでのエネルギー使用

家庭や商業ビルなどでのエネルギー（電気）使用での対策を、断熱、ZEB/ZEHなどの取組から考察する。

10回：気候変動対策④農業

農業部門での取組を、緩和策、適応策双方の視点から検討する。

11回：プラスチック対策①マテリアルフロー

プラスチックのマテリアルフローを踏まえつつ、プラスチック資源の利用のあり方、途上国への輸出の問題点などを考察する。

12回：プラスチック対策②素材代替

バイオマスプラスチックなど新素材の開発や、紙/金属など代替素材への移行、その問題点、政策について現状を考察する。

13回：金融・経済活動とカーボンニュートラル

ESG投資やTCFD、EUタクソミーと言った経済活動を左右するような政策と経済活動やCO2削減へのインパクトを考察する。

14回：まとめ・クロージング

脱炭素、プラスチック資源循環の今後について、予測、考察する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

カーボンニュートラル、プラスチック資源循環に関わる政策や、企業の動きはとても速い。日頃から政策・事業・技術の状況に目を配り、興味ある分野の活動については深掘りしておくこと。

そのほかの学習関連事項については、授業の中で提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表、発言など:30% 振り返り:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

環境省 令和5年版環境白書 日経印刷 2023 4865793232

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的な議論への参加

その他 / Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 1 1

Practical Application:Community Design 11

(コミュニティマネジメント論)

広石 拓司 (HIROISHI TAKUJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM311

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

現代社会において「コミュニティ」には、どのような意味と可能性があるのか？ プライバシーと自己責任が重視される中で、「コミュニティ」を構築するには何が必要なのか？ コミュニティ活動を活性化し、継続し発展するには何が必要なのか？ そして、個人が社会を良くするために、どのようにコミュニティの力を活かしていく必要があるのか？ これからの社会におけるコミュニティの意義と構築、運営の方法を考える。

What does "community" mean in modern society and what are the possibilities? On the other hand, while privacy and self-responsibility are emphasized, what do we need to build a "community"? What do we need to continue and develop without becoming an inner circle? We will consider the meaning of community in the future society and how to build and operate it.

授業の内容 / Course Contents

これからの社会で「コミュニティ」を構築し、運営していくには、どのような発想、仕組み、手法、ツールが

必要なのだろうか？

かつての地域社会や職場では、そこに属する人は共同体の一員であると自覚し、行動していた。しかし、価値観もライフスタイルも多様化した現代では、同じ地域や職場であっても共同体の一員という自覚は弱く、関わり方もまちまちで、参加しないことを選ぶ場合も少なくない。そのような中で、まちづくり団体やNPOが、コミュニティの一員としての責任、参加、行動を呼びかけても、参加者は広がらず、専門家や意識の高い層に参加が限られてしまいがちだ。これからの社会活動やビジネスにおいて、どのようなコミュニティ・マネジメントの力が必要なのか。実践手法を考える。

本授業では、これからの社会におけるコミュニティづくりとは何かを考え、受講者が自ら事例分析を行い、コミュニティ・マネジメントの効果を高めるツールの企画に取り組む。それを踏まえて、現代社会における人と人のつながりやコミュニティの再構築に何が求められているのかを実践的に考察していく。

What ideas, mechanisms, methods, and tools will be needed to build and operate "communities" in future society?

In communities and workplaces in the past, people who belonged to them were aware that they were members of the community and acted accordingly. However, with today's diverse values and lifestyles, even in the same region or workplace, the awareness of being a member of a community is weak, and the way of involvement varies, and there are many cases where people choose not to participate. Under such circumstances, even if a community development group or NPO calls for responsibility, participation, and action as a member of the community, there are few participants and participation tends to be limited to experts and people with a high awareness of community. What kind of community management skills are needed for future social activities and businesses? We will think about the practical methods.

In this course, students will think about what community building is in society in the future, conduct case analyses, and plan tools to enhance the effectiveness of community management by themselves. Based on this, students will consider what is required for the connection between people and people in modern society and the rebuilding of communities from a practical perspective.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（現代社会におけるコミュニティを考える視点を整理し、授業の概要と実施内容について解説する）
- 2回：コミュニティが成立するための条件と条件を整える方法を学ぶ
- 3回：社会起業家とコミュニティの相互に影響を与え合う関係を考える
- 4回：千代田区、文京区などの都心エリアにおけるコミュニティの課題と再構築の方法を考える
- 5回：受講生による事例分析の発表と討議
- 6回：受講生による事例分析の発表と討議
- 7回：受講生による事例分析の発表と討議
- 8回：受講生による事例分析の発表と討議
- 9回：受講生による事例分析の発表と討議
- 10回：受講生による事例分析の発表と討議
- 11回：社会変化を起こすために人々の力を持ち寄るには何が必要か考える
- 12回：コレクティブ・インパクトを生み出す多様な主体の協働について考える
- 13回：日本社会におけるコミュニティの現状とそれを生み出した歴史的背景を考える
- 14回：これからの社会に求められるコミュニティ・マネジメントの手法を考える

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

受講生は自分の関わっている・関心のあるコミュニティの事例分析を行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内のリアクションペーパーの内容:25% 授業内でのワークへの参画:35%

最終レポート割合：:40%

テキスト / Textbooks

特定の教科書は利用しない

参考文献 / Readings

Peter Block Community: The Structure of Belonging Berrett-Koehler Pub 2008

広石拓司 専門家主導から住民主体へ エンパブリック 2020

佐藤真久・広石拓司 ソーシャルプロジェクトを成功に導く12のステップ みくに出版 2018

SSRI Japan これからの「社会の変え方」を探しに行こう。 英知出版 2021

その他 / Others

講師の会社のホームページ <http://empublic.jp>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 14

Practical Application:Community Design 14

(文化政策論1)

若林 朋子 (WAKABAYASHI TOMOKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会デザイン研究科
科目コード等：	VM314
授業形態：	ハイフレックス
授業形態 (補足事項)	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SDS5310
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

文化政策は公共政策であることを踏まえ、文化と社会の関係性や、具体的な文化政策の内容について理解を深める。社会デザインの視点で文化政策を捉えなおし、かつ、文化の視点から社会デザインを考える。

Based on the fact that cultural policy is public policy, students will deepen their understanding of the relationships between culture and society, and the specific content of cultural policy. Students will reconsider cultural policy from the perspective of social design, and consider social design from the perspective of culture.

授業の内容 / Course Contents

文化政策が対象とする「文化、芸術、アート」とは何かを考えることからはじめ、国や自治体による公共政策としての文化政策、企業をはじめとする民間の文化の取り組みについて概観する。特に文化政策の歴史的な変遷のなかでも、大きく様変わりした直近 30 年の展開を重点的に扱う。

なお、ここでいう「文化」の範囲は、狭義の芸術文化から、地域社会の歴史に根ざした文化、よりよく生きる

人間の営みとしての文化まで、幅広いものとする。ゲストを迎えてのレクチャーや文化施設等の見学（任意参加）も行う。

Starting with thinking about what is "culture and the arts", that is the object of cultural policy, we will give an overview of public cultural policy by the national and local governments, and civic cultural efforts such as by business companies. Among historical changes in cultural policy, we will focus on developments in the last 30 years when the situation has changed dramatically.

In addition, the scope of "culture" described here shall be wide, stretching from art culture in a narrow sense, to culture rooted in the history of local communities, and culture as a human activity to live better. We will also invite guest lecturers and visit cultural facilities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：文化、芸術、アート
- 2 回：文化政策をめぐって：文化政策の意義、日本の文化政策の変遷
- 3 回：文化政策と法律：文化芸術基本法
- 4 回：国の文化政策①
- 5 回：国の文化政策②
- 6 回：国の文化政策③
- 7 回：ゲストレクチャー①
- 8 回：地方自治体の文化政策①
- 9 回：地方自治体の文化政策②
- 10 回：地方自治体の文化政策③
- 11 回：企業の文化政策①
- 12 回：企業の文化政策②
- 13 回：ゲストレクチャー②
- 14 回：広がる文化政策領域

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への参画（発言・発表・ディスカッション）：100%

毎回のリアクションペーパー（コメント）提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない（随時紹介する）。

参考文献 / Readings

随時紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 17

Practical Application:Community Design 17

(ジェンダーとリプロダクション)

菊地 栄 (KIKUCHI SAKAE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM317

授業形態： オンライン (全回オンライン)

授業形態 (補足事項) 第1回と第14回はハイフレックス形式 (対面・オンライン併用) で授業を実施し、教室での対面参加を推奨する。発話を伴う授業を学内で受講する場合は、対面受講・オンライン受講に関わらず、9202 教室の利用が可能。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、身近に存在する性差及びリプロダクションに関わる課題について、ジェンダーの視点から再考する。性役割、セクシュアリティ、リプロダクションをめぐる事象が社会でどのように認識されてきたのか、またその現状を確認し、様々な思い込みや制度に対し、新たな視点を提供するジェンダー概念を理解することを目標とする。

In this lecture, we will reconsider the issues related to gender differences and reproduction that exist in our daily lives from a gender perspective. The goal of this lecture is to understand how gender roles, sexuality and reproductive events are perceived in society currently, as well as the concept of gender, leading to new perspectives on existing transitional beliefs and institutions.

授業の内容 / Course Contents

性差に固定化されているものは役割のみならず、セクシュアリティもまた文化的に構築された概念であることが認識されるようになってきた。セクシュアリティは SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity：性的思考と性自認) において様々なあり方が存在し、ジェンダー概念は性の多様性へと新たな視点を提供してくれる。一方で、性差を特徴づけるとされてきた妊娠・出産・哺育などリプロダクションの生物学的事象と、それらに影響を与えるテクノロジーや政策について検討する。性役割・セクシュアリティ・リプロダクション・身体へのまなざしは、人権・環境へと広がっている。気候変動やパンデミックなど危機管理が喫緊の課題となっている社会において、これまで女性の役割とされてきたケアが見直されていることから、持続可能性や包摂の概念を一步進めた身体性を含むケア論についても触れていきたい。

Today, society recognizes sexuality as a culturally constructed concept along with roles determined by gender. SOGI (Sexual Orientation and Gender Identity) exists in a number of ways, while the concept of gender provides new perspectives on sexual diversity.

We will examine the biological events of reproduction such as pregnancy, childbirth, and nursing, which have been regarded as characterizing gender differences, as well as the technologies and policies that affect these events.

The beliefs surrounding gender roles, sexuality, reversion, and the physical body are extending toward human rights and the environment.

In a society where there is urgency in managing crises such as climate change and pandemics, the role of care, which has been assigned largely to women, is being reexamined. Accordingly, we will touch on the theories of sustainability and inclusion, and take a step further into the concept of care, including physicality.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：イントロダクション、ジェンダーとは何か

2 回：メディアに表象されたジェンダー

3 回：規範化された性別役割、フェミニズム

4 回：身体とセクシュアリティ SOGI

5 回：子どもの困難 女の子の育つ環境、児童虐待、貧困

6 回：研究発表(1)

受講生自身の研究を軸にジェンダーの視点から論じ、報告する

ディスカッション

7 回：研究発表(2)

受講生自身の研究を軸にジェンダーの視点から論じ、報告する

ディスカッション

8 回：Woman's Body 生理、避妊、中絶、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ

9 回：近代家族と少子化社会

10 回：リプロダクション(1) 出産の歴史と身体

11 回：リプロダクション(2) 不妊治療とグローバル生殖産業

12 回：ジェンダーハラスメント 労働、セクハラ、DV、#MeToo

13 回：環境とジェンダー 気候変動、核・原発、エコフェミニズム

14 回：まとめ 人権とケア

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

ジェンダー、リプロダクション、環境、ケア等、関連の図書を予習し、日頃のニュースや出来事に注目する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：011) / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 出席、リアクションペーパー:50%

原則として毎回リアクションペーパーを提出する。レポートの提出方法と内容は授業内で説明する。

テキスト / Textbooks

講義時に適宜紹介する。

参考文献 / Readings

ケア・コレクティブ ケア宣言：相互依存の政治へ 大月書店 2021

ナオミ・クライン 地球が燃えている 大月書店 2020

チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ 男も女もみんなフェミニストでなきゃ 河出書房新社 2017

白井千晶ほか 産み育てと助産の歴史 医学書院 2016

荻野美穂 ジェンダー化される身体 勁草書房 2002

江原由美子 自己決定権とジェンダー 岩波書店 2002

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 20

Practical Application:Community Design 20

(CSR/ESG 金融総論 - 1)

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM320

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

2015 年に成立した SDG s は 2030 年までの折り返し点を超え、2030 年まで後 6 年である。残念ながら成立当初の盛り上がりとは裏腹、コロナ禍、ウクライナにつづき中東での紛争、世界的な異常気象などにより、世界的なエネルギー価格や食料価格の高騰、移民難民問題の深刻化などにより、ゴール達成は遠のいている。しかし、SDG s が大きなきっかけとなった、経済社会の在り方、ビジネス界金融界の意識の転換の流れは変わらない。岸田内閣でも「新しい資本主義」を標ぼうしているが、20 世紀型資本主義の在り方が根本的に転換しはじめていのである。人々の意識もそうであるが、資本主義の根幹である、企業の目的、投資家の求める成果が変わりつつある。財務価値に加えて社会課題解決を企業の目的と考える経営者・投資家が増えている。これらは CSR や SDG s 経営、ESG 投資、ESG 金融といわれる。本講義では、新たな資本主義への転換がなぜ生まれたのか、解決すべき社会課題とはなにか？新たな企業経営と金融の在り方はどうなるのか。考察していく。

SDGs are already less than a half way to go. Unfortunately achieving goals are now less feasible due to COVID-19, and international conflicts in Ukraine and in Middle East, besides extreme weathers damaging our society caused by climate crisis, resulting in price hikes of energy and food and other commodities. However, on the other hand our market based capitalism society has started to transform into a more sustainable one, which Kishida Cabinet called New Capitalism. Not just peoples mind but the purpose of the corporation, and the return investors are seeking are also transforming. Besides financial return, solving social issues will be the purpose of the business, and such social impacts are the return that more and more investors are seeking, which are indicated by CSR, SDGs management, ESG investment and ESG finance. In this course we will see why this transformation to stakeholder capitalism has happened and what are the social issues to be solved and will seek to learn about the new role of business and finance as promoters of sustainable society.

授業の内容 / Course Contents

新たな資本主義と期待されるステークホルダー資本主義においては、気候変動などの社会課題解決が企業の目的となる。本講座では、そもそも SDGs の S (サステナビリティ=持続可能性) の考え方を理解し環境の持続可能性、社会の持続可能性について主要な課題について概観する。そして、現在のグローバル社会を持続可能に転換させるシステム SDGs とパリ協定などの国際的なイニシアチブの目的と進捗について理解を深める。それを受けて、ビジネスの在り方 (CSR・ステークホルダー資本主義) と金融 (ESG 金融) の取り組みについて様々な観点から考察する。

Stakeholder capitalism, which is regarded as new and sustainable capitalism, will require business to solve social issues such as climate change, as their purpose of corporate activities. In order to understand such transformation, we must first ask what is the meaning of sustainability represented by SDGs? In this course we will go over the major environmental and social issues, and study about the role of the international initiatives such as SDGs and Paris Agreement, both of which are intended to transform our society. We will also study the missions and roles of business sector and also of finance to make the society more sustainable.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：サステナビリティからウェルビーイングへ。サステナビリティ SX とはなにか？
更にその先のウェルビーイングとは何か？
- 2 回：持続可能でない社会課題 1：環境問題（気候変動、生物多様性、サーキュラーエコノミー 有害化学物質）
- 3 回：持続可能でない社会課題 2：人権問題
- 4 回：社会転換へのイニシアチブ SDGs、パリ協定、生物多様性
- 5 回：新たな資本主義と企業倫理
- 6 回：CSR 経営 1 CSR の歴史、定義
- 7 回：CSR 経営 2 環境経営
- 8 回：CSR 経営 3 人的資本経営
- 9 回：CSR とコミュニケーション
- 10 回：ソーシャルファイナンス
- 11 回：ESG 金融 歴史と意義
- 12 回：ESG 評価
- 13 回：ESG 投資の実際
- 14 回：サステナブルなビジネスと金融の未来

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

なし

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー:25% 授業態度:25%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

- 岩井克人 『資本主義から市民主義へ』 ちくま文庫 2014 9784480096197
 河口真理子 『ソーシャルファイナンスの教科書』 生産性出版 2015 97848201204380036
 高巖他 『CSR 企業価値をどう高めるか』 日本経済新聞社 2004 9784532311810
 塚越寛 『いい会社をつくりましょう』 文屋 2004 49900858760034
 谷本寛治 『SRI 社会的責任投資入門』 日本経済新聞社 2003 4532350506
 名和高司 『パーパス経営』 東洋経済出版社 2021 9784492534366
 水口剛 『ESG 投資』 日本経済新聞出版社 2017 9784532357443

その他 / Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 2 1

Practical Application:Community Design 21

(助成と評価)

若林 朋子 (WAKABAYASHI TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM321

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

寄付、助成、協賛、プロボノ、クラウド・ファンディングなど、市民や非営利団体の取り組みを支援する方法は多数ある。そのなかで「助成」は、助成者（資金の出し手）側に変化を期待する課題や達成目標があり、被助成者（資金の受け手）に対して具体的な成果を求める点、一連の過程や手続きが制度化されている点に特徴がある。本演習では、助成の特質について理解を深めながら、助成プログラムや助成財団の社会的役割について実践的に学ぶ。同時に、助成と不可分の「評価」についても基本的な方法論を把握し、最新動向についても学ぶ。

There are many ways to support the efforts of citizens and nonprofit organizations such as donations, subsidies, co-sponsoring, pro bono, and crowdfunding. Among them, "subsidies" have the characteristics that the subsidy grantor (the originator of the funds) has some problem that they expect to change or has achievement goals, and desires specific outcomes from the subsidy recipient (the recipient of the funds), and that there is a series of

institutionalized processes and procedures concerning the subsidies. In this course, as students deepen their understanding of the nature of subsidies, they will learn about the social role of subsidy programs and foundations in practice. At the same time, students will learn about the basic methodology of subsidies and indivisible "evaluation" and learn about the latest trends.

授業の内容 / Course Contents

助成財団の活動や、実際に運用されている「助成プログラム」を参照し、助成のミッション、政策、プログラムの構築、具体的な助成プロセス等について分析する。また、運用上の課題や、助成が持つ可能性についても考察し、今後の日本社会に必要とされる助成財団や助成プログラムのあり方、専門人材の育成についても考察する。同時に、助成プロセスに不可欠である「評価」についても、基本的事柄をおさえたうえで、バリエーションや最新の傾向を紹介する。

具体的な進め方としては、各回のテーマに沿った発題に対する意見発表、ディスカッションを基本とする。当該分野の最前線で活躍するゲストを迎えてのレクチャーも適宜行う。

Referencing the activities of subsidy foundations and "subsidy programs" that are actually operated, students will analyze the missions, policies, program construction, and specific subsidy processes, etc. of subsidies. In addition, students will consider operational issues and the possibilities of subsidies, and also consider the ideal form of foundations and subsidy programs required for Japanese society in the future, and the development of specialized human resources. At the same time, with regard to "evaluation" that is essential to the subsidy process, after covering the basics, we will introduce the variations and the latest trends.

The specific approach of the course will be based on presentation of opinions and discussions of the subjects along the theme of each class. Lectures will also be given by guests who are active at the forefront of their fields.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：助成とは何か①
- 2 回：助成とは何か②
- 3 回：助成財団の現況
- 4 回：助成プログラム事例発表①
- 5 回：助成プログラム事例発表②
- 6 回：助成プログラム事例発表③
- 7 回：ゲストレクチャー①
- 8 回：評価とは何か①：イントロダクション
- 9 回：評価とは何か②：助成における評価
- 10 回：多様な評価方法①
- 11 回：多様な評価方法②
- 12 回：多様な評価方法③
- 13 回：ゲストレクチャー①
- 14 回：助成・評価におけるプログラム・オフィサーの役割と今後の課題、可能性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参画（発言・発表・ディスカッション）:100%

毎回のリアクションペーパー（コメント）提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない（随時紹介する）。

参考文献 / Readings**その他 / Others**

随時紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 2 2

Practical Application:Community Design 22

(文化政策論 2)

若林 朋子 (WAKABAYASHI TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM322

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインの視点、すなわち、社会との関係性から文化政策を捉え直す。芸術や文化、アートの多様性や創造性が、社会の諸領域とどのように共振し、時代の要請に応答し、あるいは課題提起しているのかを把握し、文化政策の今後の方向性を考える。

Students will reconsider cultural policy from the perspective of social design, that is, the relationship with society. Students will understand how art and culture, art diversity and creativity resonate with social areas, respond to the demands of the times, or pose challenges, and consider the future direction of cultural policy.

授業の内容 / Course Contents

拡張しつつある昨今の文化政策を、文化・芸術・アートと社会の関わり領域の拡大から捉えていく。各回の授業では、「文化、アート×○○○」に該当する現場の実践事例をとりあげ、そうした取り組みの意義を文化政策的観点で考える。各分野の現場で活躍するゲストを招いた講義を行いつつ、ディスカッションで理解を深めて

いく。

Students will understand the current cultural policies that are expanding from the growth of the area of relationships between culture, art, and society. In each class, we will take practical examples from the field corresponding to "Culture, Art + XXX", and consider the significance of such efforts from a cultural policy perspective. Discussion will be the basic format, and we will also have presentations and lectures from invited guests as appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文化政策概論、拡張する文化政策：文化・アートと社会の関わり領域の拡大／文化・アート×社会包摂①
- 2 回：文化・アート×社会包摂②【ディスカッション】
- 3 回：文化・アート×生きづらさ支援①
- 4 回：文化・アート×生きづらさ支援②【ディスカッション】
- 5 回：文化・アート×医療・福祉①
- 6 回：文化・アート×医療・福祉②【ディスカッション】
- 7 回：文化・アート×障害者支援①
- 8 回：文化・アート×障害者支援②【ディスカッション】
- 9 回：文化・アート×まちづくり・多文化共生①
- 10 回：文化・アート×まちづくり・多文化共生②【ディスカッション】
- 11 回：文化・アート×防災①
- 12 回：文化・アート×防災②【ディスカッション】
- 13 回：文化・アート×介護・高齢者支援①
- 14 回：文化・アート×介護・高齢者支援②【ディスカッション】、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

コミュニティデザイン学演習 14 (文化政策論 1) を履修しておくこと、文化政策の背景を理解した上での受講が可能となる。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：011) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参画 (発言・発表・ディスカッション) :100%

毎回のリアクションペーパー (コメント) 提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない (随時紹介する)。

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討

論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 25

Practical Application:Community Design 25

(公共と市民社会)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM325

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

市民社会をテーマとした社会科学の古典等のテキストを用いた「対話」を通じて、市民（あなた自身）が社会課題に向き合うこと、その解決を担うこととはどういうことなのか、その意義を明らかにする。

社会デザインの前提とも言える「市民社会」については、ややもすればステレオタイプ的あるいは感覚的な理解に留まりがちだが、これに関する古典に立ち返ることを通じて、市民と政府の関係、社会との関係を考える機会とする。

併せて、現代における市民社会が目指していく方向の一つの具体例として、市民自らが地域社会の基本的なルール（法令）を作成した事例を採り上げ、その理念や構造等を学び、自らが社会に対して提言をする基本姿勢を作っていく。

Through "dialog" using texts on social science classics, etc. on the theme of civic society, we will clarify the meaning of what it means for citizens (yourself) to face social issues and to be responsible for their solutions.

Regarding "civic society" which can be regarded as a premise of social design, people tend to stick with stereotypes or intuitive understanding if anything, but this course will be an opportunity for students to think about the relationship of citizens with government and society.

At the same time, as a concrete example of the direction that civic society in the present day aims for, we will take up the case where citizens themselves have created the basic rules (laws) of the local community, and learn their principles and structures, to create a basic position from which students will be able to make recommendations.

授業の内容 / Course Contents

前半は、市民社会の基本的な考え方を理解するため、デモクラシー（民主制）、独立した個人、市民社会の構造等について書かれた古典を読み、受講者相互の対話を通じて、社会と個人の関係を明らかにする。

後半は、そうした理念と優れた実践の積み重ねの集大成とも言える、自治基本条例の先進地である北海道ニセコ町における住民自治の事例を採り上げ、その背景にある考え方や具体的な条文への展開および構造等について、また、条例がその後のまちづくりにどのような影響をもたらしているのかを見ていく。

In the first half, in order to understand the basic way of thinking about civic society, students will read the classics written on democracy, independent individuals, and civic society structure, etc. and identify relationships between society and individuals through dialog among students.

In the second half, we will take up the case of resident autonomy in Niseko Town, Hokkaido, which is an advanced area for autonomy basic ordinances, and which can be said to be a culmination of the accumulation of such principles and good practices. We will look at the development and structure, etc. of the way of thinking and concrete articles behind this case, and what kind of influence the regulations have had on subsequent community development.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション（「小さな政府、大きな社会」等、民による政策提言を必要とする背景等の基本認識の整理）
- 2 回：デモクラシー①（自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等）
- 3 回：デモクラシー②（自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等）
- 4 回：デモクラシー③（自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等）
- 5 回：独立した個人が作る社会像（独立とは何か、社会との関係等）
- 6 回：独立した個人の意味（独立した考え、市民社会における個人像等）
- 7 回：理想社会の実現（理想社会をどこに置くのか等）
- 8 回：正義とは何か（正義のあり方、分配をめぐる考え方等）
- 9 回：市民政府論（市民と政府の関係等）
- 10 回：自治からつくるまち①（まちづくり基本条例から考える自治等）
- 11 回：自治からつくるまち②（まちづくり基本条例から考える自治等）
- 12 回：自治からつくるまち③（まちづくり基本条例から考える自治等）
- 13 回：住民自治の実践例（実践者による講義、対談）
- 14 回：民が担う政策提言の実践に向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト・文献については、授業時の対話において積極的に発言できるよう、事前によく読んでおくことが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業・演習時における発表、他の参加者に対する貢献:100%

3/4以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

採り上げる文献・テキスト等としては、以下の著作を予定している。

いずれの文献も PDF ファイルにて授業支援システムにアップするので、対話で発言できるよう、しっかり読んでおくこと。

亀井「企業は社会の公器」（イントロダクション）、トクヴィル「アメリカのデモクラシー」、福沢諭吉「学問のすすめ」、ロック「市民政府論」、木佐茂雄・片山健也ほか「自治基本条例は活きているか!?!—ニセコ町まちづくり基本条例 10 年」他

参考文献 / Readings

その他 / Others

秋学期の「政策立案・評価」は、アドボカシーやその前提となる政策立案や評価に関する理論や方法を学ぶが、本授業では、その基礎となるデモクラシーや社会における意思決定のあり方（統治機構）について、各種テキストを対話形式で読み重ねることを通じて、理解を深める。

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる場合がある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 26

Practical Application:Community Design 26

(政策立案・評価)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM326

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

市民が担う社会デザインの一つとして、政策提言やアドボカシーがあるが、どのように実践するのがよいのだろうか。

そもそも、政府によって行われる「政策」は社会課題解決の一つの手段であるが、社会課題解決において、どのような位置づけを占めるのだろうか。とくに持続可能な社会を考えた場合、政策とはどのようなものであり、その位置づけはどのようなのだろうか。また、市民との関係性はいかなるものであるべきなのだろうか。様々な社会課題のケースや政策を採り上げながら、また、よりよい政策に進化させていくために不可欠な政策評価について触れながら、パブリック（公益）を担うための政策とは何か、そこに市民としてどう関わっていくのがよいか、その原則と具体的な手法について、近年、政府において導入が進む EBPM（Evidence Based Policy Making）を中心に理解する。

Policy recommendation or advocacy are one aspect of social design that a citizen bears, but how should they be

implemented in practice?

In the first place, "policies" implemented by government are one means of solving social problems, but what role do they occupy in solving social problems? Especially in the context of a sustainable society, what is policy and what is its position? In addition, what kind of relationship should policy have with citizens?

While taking up cases and policies of various social issues, and touching on policy evaluation that is essential to evolve better policies, we will ask, what is policy that takes responsibility for the public (public interest), and how should citizens get involved. Students will understand the principles and specific methods of policy, in particular, EBPM (Evidence Based Policy Making), which has been introduced in recent years in governments.

授業の内容 / Course Contents

政策とは何か、その構造や原則、さらには限界を踏まえながら、様々な社会課題の具体的な事例や政策を採り上げ、また、よりよい政策に進化させていくために不可欠な政策評価についても触れながら、近年、政府において導入が進む EBPM (Evidence Based Policy Making) を中心に、その理論と具体的な手法を考える。

また、新聞等の報道だけではわかりづらい日本の政策決定プロセスをよく知ることを通じて、効果的な政策提言やアドボカシーはどのように行われるのかを明らかにする（市民の立場から政策等に対してアドボカシーを行う実務家の話を聞く機会も予定している）。

講義・演習のおわりには、各自の政策提言や既存の政策に関する評価の発表を相互に行い、さらに理解を深める。

We will take up specific cases and policies of various social issues, while taking into consideration what policy is, its structure and principles, and its limits, and while also touching on policy evaluation that is essential to evolve better policies. Also, students will think about the principles and specific methods of policy, in particular, EBPM (Evidence Based Policy Making), which has been introduced in recent years in governments.

In addition, we will clarify how effective policy recommendations and advocacy is carried out by thoroughly understanding Japan's policy-making process, which is difficult to understand from newspapers and other media alone. (We also plan to hear from practitioners who are advocating policy, etc. from the perspective of citizens). At the end of the lectures and exercises, students will mutually present their own policy recommendations and evaluations on existing policies to deepen their understanding.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション（小さな政府と大きな社会、市民の役割等）
- 2 回：政策とは何か①（様々な社会課題解決、政府の役割と弊害等）
- 3 回：政策とは何か②（まちづくりと政策、市民主体の取り組みと政策の関係）
- 4 回：政策立案と評価、EBPM (Evidence Based Policy Making) とロジックモデル①
- 5 回：政策立案と評価、EBPM とロジックモデル②
- 6 回：政策の立案や執行、さらには評価における「文書」の意味
- 7 回：政策立案と評価、EBPM とロジックモデル③（政府における実践、アジャイルな社会への対応）
- 8 回：政策決定プロセス（スケジュール、アプローチ先、その後のフォロー等）
- 9 回：政策提言の具体例（亀井の経験から①、将来世代の視点の導入、独立財政機関）
- 10 回：政策提言の具体例（亀井の経験から②、統治機構改革）
- 11 回：政策提言・評価発表会：社会課題の発見、分析（演習、発表、相互インプット等）
- 12 回：政策提言・評価発表会：社会課題の発見、分析（演習、発表、相互インプット等）
- 13 回：政策提言・評価発表会：社会課題の発見、分析（演習、発表、相互インプット等）
- 14 回：全体のまとめ、これからの市民社会と政治

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。必要なテキストは授業支援システムに事前にアップする。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：011) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・演習における発表、他の参加者への貢献等:70% 独自の政策提言の作成・発表:30%

3 / 4 以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

亀井「EBPM の実践的活用とその意義」(評価クォータリー2021年4月号)、Kellogg Foundation "Logic Model Development Guide"、中央および地方政府の政策文書 (審議会資料等の政策立案プロセスにおける文書を含む)、各種団体等による政策提言等の公表資料を採り上げる。

必要なテキスト等は Canvas LMS に随時掲載するので事前に確認すること。

参考文献 / Readings

必要に応じて指示する。

その他 / Others

春学期の「公共と市民社会」は、デモクラシー (民主制) や統治機構といった政治や社会における意思決定に関する理解を深めるためのものであり、必ずしも受講している必要はない。

なお、本講義で学ぶ EBPM やロジックモデルといった論理思考は、それぞれの研究や論文執筆にも資するものであり、その観点からの受講も歓迎する。

研究科の学事・行事 (報告会、進学相談会等) と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる場合がある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 27

Practical Application:Community Design 27

(貧困と社会的排除 1)

稲葉 剛 (INABA TSUYOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM327

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、現代の日本社会における貧困と社会的排除の全体像とその背景を学び、その解決の方向性を模索する。

In this course, students will study the overall picture and background of poverty and social exclusion in contemporary Japanese society, and seek directions for its solution.

授業の内容 / Course Contents

現代の日本社会における貧困と社会的排除に関する問題として、「ホームレス問題」、「生活保護制度をめぐる諸問題」、「子どもの貧困」を取り上げ、それぞれの問題の歴史的経緯や社会的な背景を考察する。また、民間の各セクターによる生活困窮者支援の取り組みに学びながら、解決の方向性を探る。

As problems related to poverty and social exclusion in contemporary Japanese society, we will take up the problems of "homelessness", "various problems concerning the welfare system", and "child poverty" and consider

the historical context and social background. In addition, while learning about efforts by the private sector to support people in need, we will seek directions for solutions.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション、授業意図の説明、今後の進め方など
- 2回：現代日本における貧困と社会的排除の概要
- 3回：生活保護をめぐる諸問題
- 4回：貧困の戦後史
- 5回：住まいの貧困に見る社会的排除
- 6回：官民による居住支援の取り組み
- 7回：社会的企業によるホームレス支援
- 8回：子どもの貧困をどう捉えるか
- 9回：生活保護制度と子どもの貧困
- 10回：社会的養護のもとにある子どもたちの状況
- 11回：「環状島モデル」から社会的排除を考える
- 12回：受講生による事例分析の発表と討議(1)
- 13回：受講生による事例分析の発表と討議(2)
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：011) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席票兼リアクションコメント:30% 授業への積極的な参加:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

稲葉剛 『貧困パンデミック』 明石書店 2021 9784750352398 -
 中嶋哲彦、平湯真人、松本伊智朗、湯澤直美、山野良一 『子どもの貧困ハンドブック』 かがわ出版
 2016 9784780308143 -

参考文献 / Readings

稲葉剛 『閉ざされた扉をこじ開ける』 朝日新聞出版 2020 9784022950598
 岩田正美 『社会的排除』 有斐閣 2008 9784641178038
 岩田正美 『貧困の戦後史』 筑摩書房 2017 9784480016591
 生田武志 『釜ヶ崎から～貧困と野宿の日本』 筑摩書房 2016 9784480433145
 松本伊智朗編 『「子どもの貧困」を問いなおす～家族・ジェンダーの視点から』 法律文化社 2017
 9784589038708

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

授業に PC を持参すること。

その他/ Others

以下の科目担当者の HP も参照すること。URL： <http://inabatsuyoshi.net/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 28

Practical Application:Community Design 28

(福祉課題に取り組む実践活動2)

三浦 建太郎 (MIURA KENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM328

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

社会で暮らし人の生活を支える福祉の仕組みは、公的な制度や機関により提供される機能だけでは充足できない。社会で暮らす私たち自らが、様々な福祉課題に取り組んでいくことが、社会の福祉を補完するとともに、福祉の制度そのものにも影響を与え進化させていく。

この講義は、福祉課題に取り組む活動を立ち上げるスタートアップ時の考え方や課題、継続、発展させていくための経営的視点と実務上の課題を、様々な事例を踏まえながら学ぶことを目標とする。

The public system alone cannot sufficiently solve welfare problems. It is important that citizens living in society work on solving their welfare problems.

this course aims to learn how to set up and continue activities to solve welfare issues, based on various cases.

授業の内容 / Course Contents

- 福祉の仕組みを補完する民間の活動の位置づけを学ぶ

- ・福祉的課題に取り組む様々な組織の活動の事例を経営の基礎的視点から検討する
- ・講義の後半では、履修学生同士数名のグループで、具体的な福祉活動の取り組み提案を議論する
- ・ Learn the role of private activities that complement the welfare system.
- ・ Examine the cases of activities of various organizations working on welfare problems.
- ・ In the final session of the course, students will work in groups to discuss proposals for specific welfare activities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：福祉を実現する自助互助共助公助
- 3回：実践活動のための基本知識1（スタートアップ・ヒトモノカネ）
- 4回：実践活動のための基本知識2（活動の継続と発展のための実務）
- 5回：福祉課題解決のための実践活動の事例1
- 6回：福祉課題解決のための実践活動の事例2
- 7回：福祉課題解決のための実践活動の事例3
- 8回：福祉課題解決のための実践活動の事例4
- 9回：実践活動事例の振り返りと論点の整理
- 10回：企画提案のテーマ決め（具体的な福祉課題のテーマを選択し解決するための活動提案を考える）
- 11回：企画提案プランニング1（グループワーク）
- 12回：企画提案プランニング2（グループワーク）
- 13回：企画提案プランニング3（グループワーク）
- 14回：企画提案発表会（グループ毎に提案を発表）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

時事問題等を通じて、社会の福祉的課題について、関心を払い、自分の意見を考えておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義への出席と理解:60% 議論への参加と貢献度:20% 発表内容:20%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

講義の中で適宜紹介する。

その他 / Others

オンライン（zoom）での受講も可能なミックス型で実施予定

研究科の行事と重なる場合はオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または

研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 29

Practical Application:Community Design 29

(都市環境生活論)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM329

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

都市は、大気や水、廃棄物、生物など環境の切り口からも分析することができる。環境面の切り口から都市の特性を考察し、経済や社会からは見えない課題を描き出し、都市の持続性を考える視座を得る。

Cities can be analyzed from environment aspects such as air, water, solid waste and wild life. In this course, participating students will study characteristics of cities from environmental point of view, find hidden issue which economy and society tend to ignore, and obtain good picture of sustainability of cities..

授業の内容 / Course Contents

今や都市地域に居住する人は多数派となり、都市での経済/社会のありかた抜きに現代社会は語れなくなってきている。一方で、都市の持続可能性を考える際に、環境問題への取組は、軽視されがちだが欠かすことができない要素である。本授業では、都市のあり方を様々な環境の側面から検討し、その抱える問題点を明らかにし、21世紀の都市の持続性を考えるきっかけを得る。

なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

Major population lives now in urban areas and we cannot get good insight on modern society without reviewing economy and society of cities. On the other hands, when reviewing urban sustainability, environmental issues are often overlooked but essential elements. In this course, participating students will study cities from various environment aspects, realize issues to be tackled, and obtain clues to think about sustainability of cities in 21 century.

The themes and order of the course schedule may change according to the interests and questions of the course participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

都市の定義、都市の特性を議論し、都市の持続性、都市とその外とのつながりを考える。

2回：都市と環境①廃棄物

都市での廃棄物処理問題について、取組の歴史、現在の課題について検討する。

3回：都市と環境②水道、下水道

都市の水インフラである上水道、下水道をめぐる課題を明らかにする。

4回：都市と環境③エネルギー

都市でのエネルギー消費の特徴とその環境への影響、取組の方向性を検討する。

5回：都市と環境④自動車交通と大気汚染

都市での車、トラック利用とそれによる大気汚染について、裁判の歴史や自治体の取組を踏まえながら、考察する。

6回：都市と環境⑤都市の野生生物

都市に生きる野生生物とわたしたちの都市生活との関わりを考察する。

7回：都市と環境⑥土壌・地下水

都市、特に工場跡地での土壌汚染、地下水汚濁とその除去対策を考える。

8回：都市と環境⑦気候変動とその適応

都市での気温上昇、都市型洪水への「適応」の可能性を探る。

9回：都市と環境⑧都市と建築物、アスベスト

都市景観の構成要素でもある建築物のあり方や、多くの建築物に残されてるアスベストといった都市建築物をめぐる問題について検討する。

10回：都市の土地利用・都市農業

都市計画と土地利用のあり方、都市農業について考える。

11回：都市の持続性を担う人々

市民やNPO、町内会といった市民活動、地域活動を担う人々について、その現状、支援や育成について考察する。

12回：都市と海外とのつながり

都市の生活は海外で生産、採取されたものによって支えられており、サプライチェーンによるつながりの現状、問題点を検討する。

13回：都市と地方とのつながり

都市は、地方の自然が提供する生態系サービス（水、大気、防災など）の恵みを受けている。その関係を地域循環共生圏の考えなども踏まえて考察する。

14回：まとめ・クロージング

都市の持続可能性を環境をベースに考え、これからの持続可能な都市づくりの方向性について、検討する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

日々の都市生活について、日頃から環境の視点で見つめ直してみる。

そのほか必要なことは、授業内で提示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：011) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発言、質疑応答など:30% 振り返り:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

環境省 令和5年版環境白書 日経印刷 2023 4865793232

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

議論への積極的な参加

その他 / Others

研究科の学事・行事 (報告会、進学相談会等) と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 32

Practical Application:Community Design 32

(ソーシャル・マーケティング論)

高宮 知数 (TAKAMIYA TOMOKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM332

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

「ソーシャル・マーケティング」は、ソーシャル・デザインはもちろん、ソーシャル・イノベーションと比べても聞き慣れない用語かもしれません。でも、ここ数年話題にあった、クラウドファンディングやパーパス、ナッジは、ソーシャル・マーケティングの実践ツールでもありますし、CI やブランディング、CSR などもソーシャル・マーケティングに起源を持つ取り組みなのです。ソーシャル・マーケティングという概念が、現在も第一線で活躍するマーケティングの大家フィリップ・コトラーたちによって提唱されてから半世紀が過ぎましたが、気候変動や頻発する大規模な災害、そして貧困や格差、差別、さらには薬物乱用など深刻な社会課題が山積する現在、その役割や意義が再評価される状況にあります。この授業では、以下の3点を獲得目標とします。まずは「ソーシャル・マーケティング」について、大学院レベルとして必要な知見として、その起源や背景、代表的な論考や最新の動向について見ていきます。なお、学部や実務でマーケティングに触れる機会の少なかった受講生のためにマーケティングや関連分野の主要な概念や理論については、理解・議論参加できるよ

う、講義中で適宜紹介していきます。次に、最近の CSV や SDG's、ESG 投資といった動きについて、ソーシャル・マーケティングの視点からその課題と可能性と一緒に議論し、同様な社会トレンドを自身で考える姿勢や意識を習得できるようにします。3 点目として、授業内での課題と発表を通じて、修了後に皆さんがソーシャル・マーケティングを実践のツールとして使えるようその発想や技法の習得を目指します。

Social marketing" may be an unfamiliar term compared to social innovation, let alone social design. However, crowdfunding, purpose, and nudges, which have been talked about for the past few years, are tools of social marketing practice. And initiatives of such as CI, branding, and CSR also have their origins in social marketing. Half a century has passed since the concept of social marketing firstly proposed by marketing guru Philip Kotler and his colleagues and now that we are facing serious social issues such as climate change, frequent large-scale disasters, poverty, inequality, discrimination, and even drug abuse, so it's role and significance of the is now being reevaluated.

In this class, we aim to acquire the following three points. First, we will look at a origins and background of "social marketing," as well as representative theories and the latest trends, as necessary knowledge at the graduate level. For students who have not had many opportunities to come into contact with marketing in their undergraduate or professional careers, major concepts and theories in marketing and related fields will be introduced as appropriate in the lecture so that they can understand and participate in discussions.

Secondly, we will discuss the issues and possibilities of recent trends such as CSV, SDG's, and ESG investment from the perspective of social marketing, so that the students can acquire the attitude and awareness to think about similar social trends on their own.

Thirdly, through the assignments and presentations in the class, we will aim to acquire ideas and techniques so that you can use social marketing as a practical tool after completing the course.

授業の内容 / Course Contents

昨年までのこの授業では、最初にソーシャル・マーケティングの半世紀前の誕生からの発展を紹介してきました。そして、ソーシャル・マーケティングが内包してきた問題意識や着眼点は、言ってみれば次世代の可能性を先取りしている動きであり、クラウドファンディングやパーパス等の社会デザインの意味を理解するのにも有益であることを確認しました。また、COVID-19 で顕在化してきたように、世界がゆっくりとしかしおそらく大きく変貌していく中で、せいぜい 100 年程度の現代消費社会を前提とするのではなく、数世紀を超える消費社会や数千年を超える都市と消費の源流に立ち戻って、思考のフレームを再構築する時期を迎えているのではという仮説の下で、マーケット、交換様式、贈与、公共性といった基本的概念そのものに立ち返っての議論もしてきました。今年度の講義では、これら先輩達との議論の成果も活かしながら、現在の社会課題は、グローバル化の拡大、インターネットの普及と高度化などによって、より深刻かつ複雑に諸問題が絡み合い、従来の先進国と発展途上国、都市部と農村部、企業活動と個人生活といった枠組みではとらえにくいものになってきていることを踏まえ、21 世紀の都市再生、テクノロジー信仰といった補助線をひくことで、ソーシャルマーケティングのこれからの可能性を皆さんと考えてみたいと思います。

In this class, until the last year, we have introduced the development of social marketing since its birth half a century ago at first, . We then confirmed that the problem consciousness and focus that social marketing has encompassed is, in a manner of speaking, a movement that anticipates the possibilities of the next generation, and that it is also useful for understanding the social design implications of crowdfunding, purpose, and others.

In addition, as the world is slowly but perhaps significantly transforming, as manifested in post COVID-19, instead of thinking with a modern consumer society of 100 years at most, we thought it is time to reconstruct the framework with the origins of cities and consumer societies of over thousands of years. So, we have also

discussed to basic concepts such as markets, modes of exchange, gift-giving, and publicness.

In this year's lecture, we will utilize the results of these discussions with our seniors and discuss how, with the expansion of globalism and the spread and sophistication of the Internet, current social issues have become more serious and complex, and are difficult to grasp within the conventional framework of developed and developing countries, urban and rural areas, corporate activities and personal lives. In light of this, I would like to discuss the future possibilities of social marketing with you by drawing a supporting line of urban renewal and faith in technology in the 21st century.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション 社会デザインへのマーケティング視点での取組み
- 2 回：マーケティングとソーシャル・マーケティングの基本概念を 100 分で
- 3 回：ソーシャル・マーケティングが誕生した時代と現在の危機意識の近似性
- 4 回：ブランディング、CSR、CS を生んだ誕生から現在までの 50 年間
- 5 回：企業セクター、行政セクターとソーシャル・マーケティング
- 6 回：非営利組織におけるソーシャル・マーケティング
- 7 回：カンヌ受賞作品に見る世界のソーシャル・マーケティングの最前線
- 8 回：日本におけるソーシャル・マーケティングの受容と歴史
- 9 回：SDG's、ナッジ、パーパスをソーシャル・マーケティングで考えると
- 10 回：ソーシャル・マーケティングで考える“推し活”の光と影
- 11 回：ニューアーバンクライシス (R.フロリダ) とソーシャル・マーケティング
- 12 回：ショックドクトリン (N.クライン) とソーシャル・マーケティング
- 13 回：加速主義 (N.ランド) とソーシャル・マーケティング
- 14 回：まとめ 社会デザインツールとしてのソーシャル・マーケティング

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド (パワポ等) の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて授業時間中に行います。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：011) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への出席や講義内容への質問:40% 授業中の議論における発言や見解表明などディスカッションへの参加度:30% 授業時のレポート・発表:30%

テキスト / Textbooks

決まったテキストは使用しません。都度必要な文献や講義資料を配布する他、参考文献や資料を紹介していきますが、初期の基本文献の多くは絶版であり、容易に入手可能な資料は限られているので、大学図書館等を利用してください。

参考文献 / Readings

フィリップ・コトラー, エデュアルド・L・ロベルト 『ソーシャル・マーケティングー行動変革のための戦

略』ダイヤモンド社 1995年 4478501173

フィリップ コトラー, アラン・R. アンドリーセン 『非営利組織のマーケティング戦略』 第一法規株式会社 2005年 4474017595

C・K・プラハラード, ベンカト・ラワスマミ 『価値共創の未来へー顧客と企業の Co-Creation』 ランダムハウス講談社 2004年 4270000430

リチャード・フロリダ 『グレート・リセット』 早川書房 2011年 4152091886

ナオミ・クライン 『ショック・ドクトリン』 岩波書店 2011年 4000234935

ローレンス・レッシング 『CODEーインターネットの合法・違法・プライバシー』 翔泳社 2001年 4881359932

各回の予習や課題の指示は、授業時に掲出するとともに Canvas LMS 等で行います。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 39

Practical Application:Community Design 39

(ジェンダーとコミュニティ)

倉本 由紀子 (KURAMOTO YUKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM339

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

ジェンダーとは何かについて、その背景にあるフェミニズム運動の歴史、理論や研究を学び、ジェンダーの視点から様々な社会的問題を分析することの重要性について理解します。

This course aims to equip students with tools to explore a variety of key topics within the larger field of gender. The tools include the theories, approaches, and research methods necessary to integrate information and articulate their ideas.

授業の内容 / Course Contents

ジェンダーという概念を用い、現代社会に、どのような問題や課題が生じているのか分析します。

ジェンダー視点は、身近な日常における新たな「気づき」を可能にすることも確認します。また日本と米国の比較ジェンダー分析を行い、日本の社会を客観的に考察します。

This course offers a survey of classic and contemporary scholarship on gender.

By studying gender from various sociological perspectives, students acquire the necessary skills to analyze social issues using a theoretical approach.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：ジェンダーとは
- 3回：ジェンダーの社会的構築
- 4回：ジェンダー構造と実践
- 5回：ゲストスピーカーによる特別講義
- 6回：ジェンダー秩序
- 7回：ジェンダー体制
- 8回：ジェンダーとメディア
- 9回：ジェンダー知の産出と流通
- 10回：ジェンダーと性支配
- 11回：ジェンダーの再生産・変動・フェミニズム
- 12回：ジェンダー視点：日米比較
- 13回：研究発表
- 14回：総括・まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

事前に配布した資料や指定した参考図書の前読をして出席してください。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への参加度、課題発表など:50%

テキスト / Textbooks

江原由美子 『ジェンダー秩序』 勁草書房 2021 9784326654314 ○

参考文献 / Readings

加藤周一 『はじめてのジェンダー論』 有斐閣ストゥディア 2017 9784641150397

上野千鶴子 『家父長制と資本制』 岩波書店 2009 9784006002169

ジュディス・バトラー 『ジェンダー・トラブル』 青土社 2009 4791757033

江原由美子 『持続するフェミニズムのために』 有斐閣 2022 9784641174788

辻村みよ子 『壁を超える——政治と行政のジェンダー主流化』 岩波書店 2011 9784000284738

江原由美子・山田昌弘 『ジェンダーの社会学入門』 岩波書店 2008 9784000280488

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または

研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 4 4

Practical Application:Community Design 44

(アジア・アフリカの社会デザイン)

本間 まり子 (HOMMA MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM344

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

持続可能な開発の概念を分析視角として用いて開発課題を捉える力を身に着けることにより、誰一人取り残さない社会デザインを描くことを目標とする。

The main objective of the course is for the students to be able to draw a social design that leaves no one behind by acquiring knowledge about 'Sustainable Development' and the capacity to apply it from an analytical perspective.

授業の内容 / Course Contents

本授業では、持続可能な開発という視点を用いて、特にジェンダーと多様性を重視して、アジアとアフリカにおける開発課題を捉えなおし、課題の解決方法 (社会デザイン) を検討します。

授業は 2 部構成です。前半は、国際協力の事例紹介、後半は、参加者自身による調査分析が中心になります。

参加者の状況により、シラバスの内容は一部変更する場合があります。

This course content includes the issues and challenges stipulated in the Sustainable Development Goals (SDGs), with special reference to the gender and development perspective in the Asian and African regions.

This course will be divided into two parts: 1) studying case studies from international cooperation projects; and 2) conducting field research and drawing gender-responsive social designs.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：誰一人取り残さない社会デザインとは
- 2回：持続可能な開発とは
- 3回：誰一人取り残さない開発とは①：ジェンダー平等と女性/女子のエンパワメント
- 4回：誰一人取り残さない開発とは②：ジェンダー平等と女性/女子のエンパワメントの推進
- 5回：アジアアフリカの人々の生活と開発
- 6回：国際協力
- 7回：アフリカの農村とグローバルバリューチェーン
- 8回：中間発表
- 9回：調査分析手法①：グローバル指標
- 10回：調査分析手法②：ジェンダー分析
- 11回：調査の実施
- 12回：調査結果の取りまとめと分析
- 13回：調査結果の発表
- 14回：発表へのフィードバックとまとめ（期末レポートの提出）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	○
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義の前にリーディングアサインメント（ケースマテリアルなど）の予習や、調査に関する情報収集を求められることがある。復習の課題が提示されることもある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 最終発表:20% 中間レポートと発表:30% 授業参加とディスカッション:30%
最終レポート割合：:20%

テキスト / Textbooks

特定のテキストは用いず、毎回参考資料を提示します。

参考文献 / Readings

田中由美子 「近代化」は女性の地位をどう変えたかータンザニア農村のジェンダーと土地権をめぐる変遷
新評論 2016 9784794810502

遠藤環・青山和佳・韓載香訳 選択するカーバングラデシュ人女性によるロンドンとダッカの労働市場における意思決定 ハーベスト社 2016 9784863390744

高柳彰夫、大橋正明 SDGsを学ぶ：国際開発・国際協力入門 法律文化社 2018 9784589039699

多賀太監訳 ジェンダー学の最前線 世界思想社 2008 9784790713425

田中 由美子、伊藤 るり、大沢 真理（編著） 開発とジェンダー—エンパワーメントの国際協力 国際協力出版会 2002 9784906352388

参考文献や資料は、授業ごとに提示します。

その他/ Others

授業は、グループディスカッションなどの参加型でおこないますので、アクティブ・ラーニングに積極的に参加してください。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 4 5

Practical Application:Community Design 45

(親密性と現代社会)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： VM345
授業形態： ハイフレックス
授業形態 (補足事項)
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SDS5310
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

家族や友人、恋人などの親密な関係は、現代社会を理解するための重要な要素の一つである。本授業では、親密な関係が近代以降にどのような変化を遂げていて、また現在いかなる状況にあるのかを講義する。そうすることで、主に社会学の立場から、親密性を分析する視座を修得することを目指す。

Intimate relationships such as family, friends and lovers are one of the key elements to understanding modern society. In this course, we will give lectures on what kind of changes have occurred to intimacy since the modern age and what the current situation of intimacy is. By doing so, the aim is that students acquire the perspectives required to analyze intimacy, mainly from the standpoint of sociology.

授業の内容 / Course Contents

具体的には、以下の手順で授業を進める。まず、いくつかの親密性の定義を紹介したうえで、現代社会における親密性の特徴を捉えるための、「個人化」や「純粋な関係性」といったキー概念を説明する。次に、家族や友

人、恋人といった関係をそれぞれ取り上げ、具体的な事例を交えつつ、上述の観点から分析する。そのうえで、現代の親密性のあり方にどのような問題性や課題が存在するのかを、共依存やDVといった現象を取り上げつつ、受講生と共に議論する。

Specifically, the class will proceed as follows: First, we will introduce some definitions of intimacy and then explain key concepts such as "individualization" and "pure relationships" to capture the characteristics of intimacy in modern society. Next, we will take up relationships such as family, friends, and lovers, and analyze them from the above perspectives, using specific examples. After that, we will discuss with students what kind of problems and issues exist in intimacy in the modern world, taking up phenomena such as codependence and DV.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：親密性とは何か
- 3回：親密な関係の両義性——「無縁」という言葉から考える
- 4回：後期近代としての現代社会
- 5回：ギデنزの親密性論
- 6回：ディスカッション——家族のイメージの変化について
- 7回：家族社会学の基礎
- 8回：家族① 家族の戦後史
- 9回：家族② 家族の現代史
- 10回：恋愛の変容と現在
- 11回：友人関係の変容と現在
- 12回：親密圏は家族を代替しうるか
- 13回：親密性の現代的な事例① ケアと共依存
- 14回：親密性の現代的な事例② シェアハウス

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特に自らが関心を持った回のテーマについては、復習を行い、理解を深めておく和良好的。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への積極的参加:30%

平常点は授業時の積極性や出席状況で評価する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

- 落合恵美子 21世紀家族へ -- 家族の戦後体制の見かた・超えかた 第4版 有斐閣 2019 9784641281462
 中森弘樹 失踪の社会学——親密性と責任をめぐる試論 慶応義塾大学出版会 2017 9784766424812
 中森弘樹 『「死にたい」とつぶやく——座間9人殺害事件と親密圏の社会学 慶応義塾大学出版会 2022
 9784766428186

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 48

Practical Application:Community Design 48

(社会問題の分析理論)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM348

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

より良い社会やコミュニティを構想するにあたって、社会問題や社会病理とされている現象を研究することは重要な手段の一つである。そこで本授業では、主に社会学における、社会問題を分析するための様々な理論枠組を紹介する。そのうえで、どのような視座が自らの関心や研究目的に合っているのかを、受講者が自身で判断できるようになることを目指す。

In order to design better societies and communities, studying social problems and phenomena called social pathology is one of the important tools. In this course, we will introduce various theoretical frameworks for analyzing social problems, mainly from sociology. In addition, the aim is that students will be able to decide for themselves what perspectives are suitable for their own interests and research objectives.

授業の内容 / Course Contents

まず、社会問題を研究する視座が、大別すると実証主義と解釈主義の二つに分かれることを説明する。次に、

それぞれの視座に対応する理論枠組み（実証主義の場合は社会解体論や逸脱行動論や機能主義など、解釈主義の場合はラベリング理論や構築主義アプローチなど）を、有名な研究の事例を取り上げつつ解説する。加えて、多変量解析やテキストマイニングなどの研究手法についても概観する。最終的には、受講者に各自が関心のある社会問題を一つ選んでもらい、紹介したいいずれかの理論枠組みを用いて分析・報告をしてもらう。

First, we will explain that the perspective to study social problems is roughly divided into positivism and interpretivism. Next, we will introduce the theoretical frameworks corresponding to each perspective (in the case of positivism, social disintegration theory, deviant behavior theory, and functionalism; in the case of interpretivism, labeling theory and constructivism approach) using examples of famous pieces of research. In addition, research methods such as multivariate analysis and text mining will be reviewed. Finally, the students will select one social problem that they are interested in and analyze and report on it using any of the theoretical frameworks introduced.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：社会問題／社会病理とは何か
- 3 回：実証主義アプローチと解釈主義アプローチ
- 4 回：起源としてのデュルケーム社会学
- 5 回：マートンの機能主義
- 6 回：ディスカッション—逸脱行動について
- 7 回：逸脱行動論① 社会解体論、学習理論、漂流理論
- 8 回：逸脱行動論② コントロール理論
- 9 回：実証主義と統計分析
- 10 回：逸脱行動論③ ラベリング論
- 11 回：構築主義
- 12 回：構築主義と医療化
- 13 回：言説／内容分析の方法
- 14 回：当事者運動と社会問題研究の現在

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特に関心を持ったアプローチや理論に関しては、積極的に復習を行い、理解を深めるようにすると良い。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業への積極的参加:30%

平常点は講義時の積極性や出席状況で評価する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

岡邊健（編） 犯罪・非行の社会学 -- 常識をとらえなおす視座 補訂版 有斐閣 2020 9784641184534

日本社会病理学会（監修） 社会病理学の足跡と再構成 学文社 2019 9784762029363

ほか、授業内で適宜紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 50

Practical Application:Community Design 50

(場の人間学)

大熊 玄 (OKUMA GEN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM350

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

「日本最初の哲学書」と言われる『善の研究』に基づき、倫理学の基礎や東西における倫理的諸説を学ぶ。具体的な学習目標は、(1) 西田の基本的な考え方を、客観的に説明・批評ができるようになること、また、(2) それを援用または批判しながら、自らの考えや主張を表現できるようになること。

Based on "An Inquiry into the Good", which is said to be "the first Japanese philosophy book", students will learn the basics of ethics and ethical theories in the East and West. The specific learning goals are 1) To become able to objectively explain and criticize Nishida's basic ideas, and 2) To become able to express one's own ideas and claims while using or criticizing Nishida's ideas.

授業の内容 / Course Contents

西田幾多郎の『善の研究』は、1911年の出版から百年を過ぎながら、現在でも国内外で多く読まれ、影響力の強い哲学書である。特にこの書が広く一般人にも読まれた大正・昭和初期は、江戸時代までの伝統的な倫理

観がくずれながらもまだ影響力を持ち続け、かつ、明治期を通して欧米からの新たな倫理が取り入れられ浸透してきた時期でもあった。価値の相対性が常態化した現代社会に生きる人間にとって、あらためて「よく生きる」とは何なのか、西田の哲学が実効的な倫理の基礎となりうるのかを考え、“哲学的”な思考力を養っていく。

学生は、事前に指定の文章を読み、授業内で講師による（可能なかぎりやさしい）内容解説を聞いて質疑・討議を行い、授業後に簡単なコメントを書く。そのコメントを次回の授業でフィードバックし、参加者全員で共有することで、授業を、循環する複方向型の「対話の場」、「知的探求の共同体」としたい。

Kitaro Nishida's "An Inquiry into the Good" is an influential philosophical book that has been read by many people in Japan and overseas, even though it is over one hundred years since its publication in 1911. Especially, this book had been widely read by the general public in the Taisho and early Showa periods which continued to be influential although the traditional sense of ethics up to the Edo period had been broken, and which was also a time when new ethics from Europe and the United States were adopted and infiltrated after the Meiji period. For people living in modern society where relativism has become normal, students will think again about what "living well" means, think about whether Nishida's philosophy can be the basis of effective ethics, and develop "philosophical" thinking skills.

Students must read the designated texts in advance, listen to the (simple as possible) commentary by the lecturer in the classes, ask questions and dialogue, and write brief comments after the classes. By feeding back the comments in the next class and sharing them with all the participants, we hope to make the class a multi-directional and circulatory "place of dialogue" and "community of intellectual inquiry".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス、西田哲学入門
- 2 回：人間の行為は意識が重要
- 3 回：意志（行為）を哲学する
- 4 回：自由意志と必然性
- 5 回：価値とリアリティ
- 6 回：倫理学説 1 直覚主義
- 7 回：倫理学説 2 権威主義
- 8 回：倫理学説 3 主知主義
- 9 回：倫理学説 4 功利主義
- 10 回：倫理学説 5 主意主義
- 11 回：人格と善
- 12 回：善い行為をしようとする動機
- 13 回：善い行為をする具体的目的
- 14 回：完全なる善行、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:		:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習／テキストの各授業での該当箇所を事前に読み、考えてくること。

復習／授業を振り返り、毎回コメントを送る。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 各回の出席とコメント:70% 授業内レポート（最終コメント）:30%

テキスト / Textbooks

西田幾多郎 善の研究 岩波書店 2012 9784003312414 -

参考文献 / Readings

大熊玄 善とは何か: 西田幾多郎『善の研究』講義 新泉社 978-4787720054

CanvasLMS にアップする。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器（ノートパソコン・タブレット）持参が望ましい。

その他 / Others

- ・第一回目授業「ガイダンス」にて、授業の方針・進め方を説明します。
- ・研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 5 2

Practical Application:Community Design 52

(アフリカ地域研究)

村尾 るみこ (MURAO RUMIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM352

授業形態： オンライン (全回オンライン)

授業形態 (補足事項) 発話を伴う授業を学内で受講する場合は 7253 教室の利用可

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

本講義では、アフリカの社会文化について、多様なテーマから総合的に理解することを目標とします。特に、市場や資源供給地として注目されがちなアフリカ地域ですが、アフリカ各地の価値観や地域性を知り、異文化を捉えなおす姿勢を重要とします。

This course aims to give students a comprehensive understanding of the social and cultural context of Africa from diverse themes. In particular, we will place importance on the perspectives of knowing different values and understanding different cultures. Trough above, students will seek pluralistic understanding on social design.

授業の内容 / Course Contents

現代のアフリカ社会はウクライナ紛争の波及や前世紀までの諸問題の波及をうけ、激動の渦中にあります。同時に、市場や資源供給地として昨今の世界情勢のなか重要な地位を占めています。また今後 100 年のうちに、アフリカ大陸の人口は世界人口のうち 4 割を占めると推計され、アフリカ社会への注目はますます高まるものと考えられます。そのため、生態環境、民族、歴史、言語、家族、宗教、生業、食文化等のテーマごとに学び、アフリカ社会を総合的に理解する講義内容となっています。

Modern African society is in the midst of turmoil and at the same time occupies an important position in the world. In the next 100 years, it is estimated that the population of the African continent will account for 40% of the world's population, and the focus on African society is expected to increase further. Therefore, this course teaches themes such as ecological environment, ethnicity, history, language, family, religion, livelihood, and food culture to understand African society comprehensively.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：アフリカの社会文化とグローバル化
- 2 回：生態と地理から捉える「資源供給地」
- 3 回：10 億人市場を歴史から再考する
- 4 回：政治経済は安定したか
- 5 回：アフリカ開発援助と社会福祉
- 6 回：自然保護と観光産業
- 7 回：古くから他地域と交流した食文化
- 8 回：宗教生活
- 9 回：ポピュラーアート
- 10 回：ジェンダー、結婚と家族
- 11 回：紛争・難民
- 12 回：教育は充実してきたのか
- 13 回：公衆衛生と医療
- 14 回：総論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド* (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

- ・テキストはかならず事前に読むこと
- ・受講生の人数や希望、講師との相談によって、授業計画・内容を若干変更することがある
- ・必要に応じて資料を作成することを求める

成績評価方法・基準(成績評価方法区分：011) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義での取り組み等:50% 発表・議論:50%

全回オンラインで実施します

テキスト/ Textbooks

松田素二 アフリカ社会を学ぶ人のために 世界思想社 2014 9784790716167 ○

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 53

Practical Application:Community Design 53

(CSR/ESG 金融総論 - 2)

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM353

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

SDGs では持続可能な社会づくりのため 17 のゴールと 169 のターゲットという「すべきこと」が提示されているが、その中で重要なのは企業と金融の役割である。本講座は、VM320 とセットになっているので、VM320 と併せてとることが望ましい。VM320 では、気候変動などの社会課題、および CSR と ESG 金融について理論的に学ぶが、本講座では、CSR、ESG 金融を発展させる契機となったレポートや、資料を読み込み、そのメッセージを自分なりに理解解釈する力をつける。

SDGs defines 17 goals and 169 targets to be achieved by 2030. In order to achieve these goals, the role of finance is inevitable. Goal 17 refers to partnership, indicating the importance of business and finance. This course is linked with VM320, which focus on the theoretical development of CSR and ESG finance, while this course will read epoch making reports and articles promoting CSR and ESG finance. So, it is preferable to take VM320 as well.

授業の内容 / Course Contents

社会人になると、政策に関する論文や政府の提言書などを直接読み込み勉強する機会は意外に少ない。要約文であったりコンサルタントなどの資料から内容を理解することが多い。業務上はそれで事足れることが多いからだ。しかし、その要約にはかならず要約した人のバイアスがはいるし、現物のメッセージとは違うことも少なくない。現物を読んでみることで新たな気づきも得られる。そこでこの講義では、基礎となる一次資料を読み込み、そのメッセージについて議論する。想定する教材は ESG 投資発展に寄与したエポックメイキングな報告書や提言に加えて、最新の報告書なども状況に応じて随時とりあげる。毎回の授業で取り上げるレポートは、参考までに、昨年の授業で取り上げたものを記載しているが、状況に応じてよりタイムリーなものを取り上げる。

Being business persons, there are few chance to read reports and proposals directly. Usually, summarized documents by consultants will be enough for business use. But summarized documents are biased and reading full documents may have different messages and giving different messages/ In this course, we take time to read some of the epoch making reports and articles which promotes development of ESG finance as well as up-to-date reports and proposals. The below is the list of texts read in previous years class, which will be update, if necessary.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：サステナブルな社会構築の基礎となった文献：リオ宣言、世界人権宣言、経済団体の取り組み
- 2 回：地球環境問題の文献：IPCC 報告書、スターン報告、ダスグプタレポートなど
- 3 回：地球環境問題：ダスグプタレポート、GX 基本戦略レポートなど
- 4 回：CSR 関連：経済同友会の企業白書、人権問題のラギー報告など
- 5 回：経営倫理、日本の商人道徳に関する文献など
- 6 回：CSR 関連：経済同友会報告書、経産省 伊藤レポート、経団連企業行動憲章など
- 7 回：CSR 関連：経産省 サプライチェーン人権ガイドライン
- 8 回：CSR 関連：GCNJ SDG s 進捗レポート、男女共同参画白書など
- 9 回：金融教育関連 文献：日銀資料、「お金の規律を考える」など
- 10 回：ESG 投資関連：21 世紀金融行動原則、三井住友信託銀行「持続可能な社会の形成に向けた金融機関の役割」など
- 11 回：ESG 投資関連：ESG 金融懇談会 提言、事業会社サステナビリティレポートなど
- 12 回：ESG 投資関連：金融リテラシー報告
- 13 回：ESG 投資関連 GPIF レポート、運用会社スチュワードシップレポート
- 14 回：ソーシャルファイナンス関連：SIIF「新しいフィランソロフィーを発展させるためのエコシステム」など

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特になし

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席率・授業態度・発言など:20% リアクションペーパー:20%

テキスト/Textbooks

参考文献 / Readings

その他/ Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 54

Practical Application:Community Design 54

(エシカル・ビジネス論)

細川 淳 (HOSOKAWA ATSUSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM354

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

近年、ソーシャル・ビジネスの台頭、営利企業の CSR 戦略化、非営利組織の事業化、というように、異なる基盤を持つ多くの組織が「社会性」と「事業性」の両ミッション（デュアル・ミッション）追求という共通の方向性を見出すようになってきています。また一般企業においても SDG s やパーパス経営への関心が高まっています。

本講義ではデュアル・ミッション追求の事業モデルを「エシカル・ビジネス」と定義し、その関連する諸概念であるソーシャル・ビジネス、ソーシャル・エンタープライズ、CSR、CSV、ステークホルダー論等の内容や発展過程をわかりやすく解説した上で、経営の実際、課題を検討して行きます。

事業組織研究を目指す学生、ソーシャル・ビジネス／CSR／CSV／SDG s ／ステークホルダー論研究を目指す学生、起業や社内起業を目指す学生の皆さんとともに、本概念の考察と深耕を目標とします。

In recent years, multiple organizations with different foundations have come to find a common direction in

pursuing both "social" and "business" missions (dual missions), such as the rise of social businesses, CSR strategies of for-profit companies, and commercialization of nonprofit organizations.

In this course, we define the business model of dual mission pursuit as "ethical business", and will examine the related concepts, development process, management practices and issues.

The course is designed for students to study and deepen understanding of the concept, who are in pursuit of business organization studies, social business/CSR/CSV/stakeholder studies, and entrepreneurship/intrapreneurship studies.

授業の内容 / Course Contents

理論と実践の両側面からのアプローチによって、エシカル・ビジネスの様相を浮き彫りにして行きます。講義、ケース・スタディ、実践家からのヒアリングなどを組み合わせ、また皆さんとのディスカッションと創発によって、ともにエシカル・ビジネスの地平を探求していきます。適宜ゲスト・スピーカーによる講演を織り込み、エシカル・ビジネスの現状を浮き彫りにします。

The class will be conducted bi-dimensionally, highlighting theoretical and practical approaches of ethical business models.

By combining lectures, case studies, interviews to entrepreneurs, and discussions with students, we will together explore the world of ethical business.

Presentations by guest speakers may be conducted as appropriate, to highlight the current state of ethical business.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：よいコトをビジネスにする – エシカル・ビジネスとは？： 林立する諸概念
- 2回：躍動するエシカル・ビジネス組織： ワクワクの事例
- 3回：いろいろな概念をわかりやすく整理する： グラデーションで把握
- 4回：元祖 グレゴリー・ディーズのソーシャル・エンタープライズ論
- 5回：ソーシャル・ビジネス論
- 6回：マイケル・ポーターの CSV 論
- 7回：事例を通してポーターの CSV 論を検討すると・・・
- 8回：ステークホルダー論： ここまで進んだ「関係性」の世界
- 9回：事例を通してステークホルダー論を検討する
- 10回：エシカル・ビジネス論
- 11回：エシカル・ビジネス組織の実際
- 12回：コーオウンド・ビジネス（従業員所有事業）
- 13回：産業革命に端を発する私たちの社会
- 14回：エシカル・ビジネス・アントレプレナーの行状

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関しては、必要に応じて別途指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :70%

平常点割合 :30% 授業参画：質問、発言を歓迎します。:30%

テキスト / Textbooks

細川あつし 『コーオウンド・ビジネス -従業員が所有する会社』 築地書館 2015 9784806715023 ○

必要に応じてプリント等資料を配布します。

参考文献 / Readings

内山節（細川あつし共著：第2章 エシカル・ビジネス） 『半市場経済 -成長だけでない「共創社会」の時代』 角川新書 2015 9784040820255

必要に応じてプリント等資料を配布します。

その他 / Others

<授業形態について>

上記にある通り対面とオンラインのハイフレックス授業に対応します。授業での議論が活発になり、また授業前後でのアドバイス等にも対応できるので、対面での出席を奨励します。

<参考 HP>

一般社団法人従業員所有事業協会 <http://jeoa.org/>

株式会社コア・ドライビング・フォース <http://www.cdforce.co.jp/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 55

Practical Application:Community Design 55

(看取り・弔いの社会デザイン)

星野 哲 (HOSHINO SATOSHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM355

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

コロナ禍で、人は一人では生きられないという事実を改めて認識した人も多いだろう。本授業では、少子高齢化や非婚者の増加といった家族関係の変化などを背景として、看取りや弔いを担う主体の不在が顕在化していることから、主体のありようを考えることを通じて、人と人との、人と社会との関係性について考え、理解を深める。

Many people may have reaffirmed the fact that a person cannot live alone due to the corona sickness. In this class, the absence of a subject who is responsible for caring for and mourning has become apparent against the backdrop of changes in family relationships such as the declining birthrate and aging population and the increase in unmarried people. Think about and deepen your understanding of the relationship between people and society.

授業の内容 / Course Contents

死は万人に不可避の自然現象だが、それをどう受け止めるかは、社会的・文化的に規定される。コロナ禍で事実上「いのち」の順位付けが行われる一方、最後のお別れができない「あいまいな喪失」が広がった。現在、死をどう受容するかが喫緊の社会的課題となっている。尊厳死や安楽死、孤立死、葬儀や墓の変容…。現代日本で死がどのように扱われているのかを考察することで、日本社会の構造、家族やコミュニティの現状を明らかにする。死は、社会学や哲学、民俗学、宗教学など様々な学問的アプローチが可能なだけに、できるだけ文献や資料を共有したい。

Death is a natural phenomenon that is inevitable for all, but how to accept it is socially and culturally regulated. While the corona wreck has effectively ranked "life", the "ambiguous loss" of the last farewell has spread. Currently, how to accept death is an urgent social issue. Dignified death, euthanasia, isolated death, funerals and grave transformations ... By considering how death is treated in modern Japan, we will clarify the structure of Japanese society and the current state of families and communities. Death wants to share literature and materials as much as possible because various academic approaches such as sociology, philosophy, folklore, and religion are possible.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：死をどうとらえるか（1）
- 3回：死をどうとらえるか（2）
- 4回：死に関する社会意識の表象（1）
- 5回：死に関する社会意識の表象（2）
- 6回：死に関する社会意識の表象（3）
- 7回：死はだれのものか（1）
- 8回：死はだれのものか（2）
- 9回：死はだれのものか（3）
- 10回：看取り・弔いの主体を考える（1）
- 11回：看取り・弔いの主体を考える（2）
- 12回：看取り・弔いの主体を考える（3）
- 13回：看取り・弔いの主体を考える（4）
- 14回：まとめ 看取り・弔いの社会デザインの可能性

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回の授業時に、必要に応じて指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業での発言など参加度:40%

忌引きなどやむを得ない事情以外で欠席が4回以上となった場合、単位修得不可。

テキスト / Textbooks

トニー・ウォルター 『いま、死の意味とは』 岩波書店 2020 -

内山節 『増補 共同体の基礎理論』 農文協 2015 -

ジークムント・バウマン 『リキッド・モダニティ』 大槻書店 2001 -

島藺進・竹内整一 『死生学』1-5 東京大学出版会 2008 -

ノベルト・エリアス 『死にゆく者の孤独』 法政大学出版 1990 -

テキストは購入を前提とするものではないが、本講座の基礎的文献と位置付ける。可能な範囲で目を通して欲しい。その他文献は適宜、指示する。

参考文献 / Readings

加藤泰史・後藤玲子 『尊厳と生存』 法政大学出版局 2022

近内悠太 『世界は贈与でできている 資本主義の「すきま」を埋める倫理学』 NEWSPICKSPUBLISHING 2020

森岡正博 『生まれてこないほうが良かったのか？ 生命の哲学へ！』 筑摩書房 2020

井上治代 『墓と家族の変容』 岩波書店 2003

松田純 『安楽死・尊厳死の現在』 中公新書 2018

浮ヶ谷幸代・田代志門・山田慎也 『現代日本の「看取り文化」を構想する』 東京大学出版会 2022

アラン・ケレハー 『コンパッション都市 公衆衛生と終末期ケアの融合』 慶応義塾大学出版会 2022

テキスト同様、可能な範囲で目を通してほしい。

その他 / Others

パワーポイントを使った講義形式が中心。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 57

Practical Application:Community Design 57

(社会デザインと福祉課題1)

三浦 建太郎 (MIURA KENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM357

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

福祉とは「生きづらさ」を抱える人を支え、人の幸福を高めるための様々な取組と考えられる。その在り方には、明確な正解があるわけではなく、社会で暮らす私たち自身が、どのような社会を望むのかという意思を持ち、試行錯誤を重ねることで進化していく。まさに社会デザインの発想と取組が求められている。

この講義は、福祉に携わる専門家としての知識の習得を目標とするものではなく、社会で日々暮らしている私たち自身が、現代社会に存在する様々な福祉的課題について、ジブンゴトとして認識し、どう考えどう対応していくべきか、自らの意見と行動の判断ができるようになることを目標とする。

There is no right answer in the welfare system.

We have our own will of trial and error, evolution, and the kind of society we want.

This course aims to help students recognize the various welfare issues that exist in modern society and make decisions about how they think and respond.

授業の内容 / Course Contents

- ・福祉の発展の経緯と現状の課題の基本的な知識を学ぶ
- ・時事ニュースや様々な言説を元に、議論を重ね、多様な視点から考える
- ・福祉的課題の解決のための方法について、自分の意見をまとめる
- ・講義の後半では、履修学生同士数名のグループで、現代社会の福祉課題への取組の提案を検討し発表する。
- ・ Learn the background of welfare development and basic knowledge of current issues.
- ・ Continue discussions and think from various perspectives about welfare issues.
- ・ Summarize your individual opinions on methods for solving welfare issues.
- ・ In the final session of the lecture, students will work in groups to discuss proposals to solve the welfare issues of modern society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：「社会デザイン」と「福祉」の視点
- 3回：社会保障と福祉制度の誕生と発展
- 4回：超高齢社会を考える1（現状と未来を確認）
- 5回：超高齢社会を考える2（介護・年金・社会保障）
- 6回：働く世代の生きづらさを考える1（非正規雇用・働き方改革）
- 7回：働く世代の生きづらさを考える2（外国人労働者・移民政策）
- 8回：子どもの生きづらさ、育てづらさを考える1（子育て・児童養護）
- 9回：障がい者の生きづらさを考える2（社会的排除・働き方）
- 10回：企画提案のテーマ決め（社会の福祉課題を選び、その解決の方法を考えて提案する）
- 11回：企画提案プランニング1（グループワーク）
- 12回：企画提案プランニング2（グループワーク）
- 13回：企画提案プランニング3（グループワーク）
- 14回：企画提案発表会（グループ毎に提案を発表）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

時事問題等を通じて、社会の福祉的課題について、関心を払い、自分の意見を考えておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への出席と理解:60% 議論への参加と貢献度:20% 発表内容:20%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

- 宮本太郎 生活保障 排除しない社会へ 岩波新書 2009 9784004312161
 広井良典 創造的福祉社会 ちくま新書 2011 9784480066190

高橋紘士 地域包括ケアを現場で語る 木星舎 2022 9784909317254

講義の中で適宜紹介する。

その他/ Others

オンライン（zoom）での受講も可能なミックス型で実施予定

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 58

Practical Application:Community Design 58

(「新しい公共」の社会学)

仁平 典宏 (NIHEI NORIHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM358

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

計量社会調査の基礎を学ぶことを通じて、社会課題や市民活動に関するデータを理解し調査を行うスキルを向上させる。

Students will improve their skills in understanding quantitative data by learning the basics of quantitative social research in the civic sector.

授業の内容 / Course Contents

市民セクターの領域では、これまで理念や規範をめぐる議論が重要な役割を果たしてきたが、近年では、数値によってエビデンスを示し、それを活動や評価の指針にすることを望ましいとする動きもめだつ。

しかし、このようなエビデンス至上主義は、データの意味を的確に理解しないと、逆に現実を歪めてしまうリスクもある。本授業では、量的なデータを収集・分析・理解する基本的な知識を身につけることをめざす。

具体的には、調査票はどのように作るのか、信頼できるサンプリングとは何か、原因と結果を分析するにはど

うしたらいいのか、「差がある」とはどういうことかといったことについて学ぶ。

授業の前半では講義を行い、後半では、jamovi というフリーの統計ソフト（卒業後も使用可能で操作も簡単）を用いた 2 次データの分析実習を通じて、計量社会調査の基礎を習得する。

以上に加え、KH コーダーを用いて、自由記述欄などのテキストデータの計量的な分析を行う実習も行い、計量テキスト分析の基礎も習得する。

In the field of the civic sector, discussions on philosophies and norms have played an important role in the past, but in recent years there is a clear trend that it has become desirable to show numerical evidence and use data to guide activities and evaluations.

However, such evidence-based principles have the risk of distorting reality unless the meaning of the data is properly understood.

In this course, the aim is that students acquire basic knowledge to collect, analyze and understand quantitative data from the perspective of positivist sociology.

Specifically, students will learn: how to make a questionnaire; what is reliable sampling; how is it possible to estimate the population from a small number of samples; how to understand the relationships between multiple variables; and what it means to say there is a statistical difference.

In the first half of the course, lectures will be given, and in the second half, students will learn the basics of quantitative social research through practical training in analysis of secondary data (cross-table analysis, multiple regression analysis, etc.) using statistical software ("jamovi").

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：質問紙調査の作成の基礎
- 3 回：サンプリングはなぜ重要か
- 4 回：コーディングの基礎
- 5 回：クロス集計と χ^2 二乗検定
- 6 回：相関係数と回帰分析
- 7 回：重回帰分析とロジスティック回帰分析 1
- 8 回：重回帰分析とロジスティック回帰分析 2
- 9 回：計量社会調査の研究を読む
- 10 回：jamovi 実習 1
- 11 回：jamovi 実習 2
- 12 回：jamovi 実習 3
- 13 回：計量テキスト分析（テキストマイニング）実習 1
- 14 回：計量テキスト分析（テキストマイニング）実習 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：		ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

購読文献の指示がある場合は、読んでくること。

復習をしっかりと、分からなかった点を確認しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 文献検討への積極的参加:50% 計量社会調査実習への積極的参加:50%

テキスト / Textbooks

授業時に指示する。

参考文献 / Readings

後房雄・坂本治也編 『現代日本の市民社会：サードセクター調査による実証分析』 法律文化社 2019

轟亮・杉野勇編 『入門・社会調査法〔第4版〕：2ステップで基礎から学ぶ』 法律文化社 2021

樋口耕一 『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して【第2版】』 ナカニシヤ出版 2020

ボーンシュテット&ノーキ 『社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門』 ハーベスト社 1996

授業時に指示する。

その他 / Others

担当者の経歴・研究

<https://researchmap.jp/nihenori>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 59

Practical Application:Community Design 59

(社会課題と企業経営)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM359

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

CSR (Corporate Social Responsibility) は、企業の社会貢献であって、寄付やボランティア等、本業とは異なるものと理解されることが多いが本当にそうなのだろうか。一方、CSR は「経営そのもの」であると位置付け、企業の社会における存在意義から企業のバリューチェーンから見た様々な関わり方を見ている企業もある。そこにはどんな違いがあるのだろうか。

「CSR 経営」は"企業"にとってどんな意味があるのだろうか。そしてなにより、私たちの"社会"にとっての意味はなんだろうか。

事業活動にとっての利益と社会にとっての利益の"統合"は難しいと言われるが、それでよいのだろうか。統合させるためには具体的に何が必要なのだろうか。

グローバル化や社会の分断が進むポスト近代社会において、CSR は企業経営そのものであり、社会にとっても必要不可欠なものはずだが、社会のリーダーや企業経営者はもちろんのこと、あなた自身もその確信は持て

ているだろうか。

企業にとっての社会との関わりであり、具体的な実践である「CSR 経営」を題材に、パブリック（公益）の実現のため、社会課題の解決のために企業が担うべきことについて、明らかにしていく。

また、そのためには、①社会課題の発見をどのように行うのか（課題発見）、②発見した社会課題の解決を企業のミッションとしていかに落とし込むか（内包化）、③組織力や技術力を用いた具体的な社会課題の解決（課題解決）のそれぞれのプロセスについて、企業経営や事業運営において何が具体的に必要なのかを考える。

CSR (Corporate Social Responsibility) is a corporate social contribution, and is often understood as something different from the main business, like a donation or voluntary work, but is it really so? On the other hand, some companies position CSR as "management itself" and look at various ways of involvement from the perspective of the company's value chain based on the meaning of existence of the company in society. What kind of differences are there?

What does "CSR management" mean to companies? And above all, what is the meaning for our society?

It is said that "integration" of profit for business and profit for society is difficult, but is that acceptable? What specifically is needed to integrate?

In our post-modern society where globalization and social divisions are progressing, CSR is business management itself and must be indispensable to society, but do you yourself have confidence that this is true, not just social leaders and business owners?

Based on "CSR management," which is both a company's relationship with society and a set of concrete practices, we will clarify the issues that companies should be responsible for in solving social issues in order to realize the public interest.

And, we will think about what is specifically needed in corporate management and business operations for that purpose, considering the processes: 1) How do we identify social issues? (problem identification) 2) How should we incorporate solving the identified social issues into the corporate missions of companies? (inclusion) and 3) The solution of specific social issues using organizational and technical skills (problem-solving).

授業の内容 / Course Contents

具体的な「CSR 経営」の事例分析を通じて、どのような視座や視点で取り組むのか、また、具体的な手法としてどのような取り組みがあるのか、とくに、課題発見、内包化、課題解決のそれぞれのプロセスについて、企業が取り組むにあたってどのような課題があり、これを克服するためにどのような行動が求められるのか等を明らかにする。また、これを通じて、CSR 経営の企業と社会にとっての意義も明らかにしていく。

講義のまとめとして、各自の関心領域に従い、具体的な事例を研究し、発表する機会も設けることを予定している。

Through specific case studies of "CSR management", we will clarify: From what perspectives we should tackle problems; what approaches there are as specific measures; in particular in the processes of identification, inclusion, and problem-solving, what kind of issues are there as companies tackle social issues, and what actions are required to overcome them, etc. In addition, through this, we will clarify the significance of CSR management for companies and society.

As a summary of the course, we plan to provide opportunities to study and present specific cases according to students' areas of interest.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：なぜ「企業は社会の公器」なのか（背景、前提等）、社会課題と企業経営の「統合」

2 回：日本の CSR 経営の課題、潮流（内包化、人材育成等）、そもそも社会課題とは何か（SDGs、ISO24000

等)

- 3回：CSR経営はいかに実現されるか（「統合」の実現、バリューチェーンを使った社会との関係性分析等）
 4回：事例①社会課題解決と企業活動の統合（五常・アンド・カンパニー、ネスレジャパンほか）
 5回：事例②内包化：KPIやストーリーへの落とし込み（富士ゼロックス、中小企業における事例）
 6回：事例③会社・経営を動かすフレームワーク（武田薬品工業ほか）
 7回：事例④人材育成、働き甲斐（ディーセント・ワーク）の観点から（石井造園、黒木本店、伊藤忠商事、ファンケル、デンソー等）
 8回：事例⑤中小企業におけるCSR経営（印刷業界におけるCSR認定制度等）
 9回：事例⑥新しい社会課題と企業（ポラリス、N9.5、電通ダイバーシティラボなど）
 10回：事例⑦地域社会と企業（南山城）
 11回：実務家による講義と対話（ゲストスピーカー）
 12回：事例研究発表会：CSRとの関わり方（自分自身の課題としてCSRを改めて考える等）
 13回：事例研究発表会：CSRとの関わり方（自分自身の課題としてCSRを改めて考える等）
 14回：事例研究発表会：CSRとの関わり方（自分自身の課題としてCSRを改めて考える等）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。テキストについては授業支援システムに掲載するので、事前に確認しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業・演習時における発表（CSRに関する事例分析を含む）、他の参加者への貢献等:100%

3/4以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

授業で使うテキストは授業支援システムに予めアップする。個々の事例やCSR経営に関する考え方は亀井『企業は社会の公器』（PHP研究所）、亀井等『CSR白書2014、2015、2016』（東京財団）等が詳しい。

参考文献 / Readings

必要に応じて授業時に指示する。企業のCSR報告書等を使用する予定。

その他 / Others

CSRやCSV、SDGsと企業経営に関する授業が、研究科の他の授業にもあるので附言しておきたい。

この授業は、公共政策（みんなのためによりよいことをいかに実現していくか）の研究者である亀井が、公共政策の担い手である企業経営に着目した研究を元に行っている。また、同時に、企業経営や戦略立案に様々な形で関わってきた経験も踏まえ、現代社会における企業の競争力の源泉である人材と組織に着眼した経営論としても、CSR経営について話題を展開する予定である。

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または

研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 6 1

Practical Application:Community Design 61

(ドキュメンタリーと社会デザイン1)

宮本 聖二 (MIYAMOTO SEIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM361

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の上承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインの実践的手法としてドキュメンタリー制作を行います。自らの周囲で気付いた「社会課題」や「課題解決に資する動き」などを見つけ、取材、撮影して映像コンテンツにして可視化。そのコンテンツを視聴することで社会課題を多くの人々と共有し、課題解決に踏み出す動きを作ることを目標にします。特にみなさんの専門領域や修論の主題やリサーチクエストに関わるテーマにも取り組むことを勧めます。

Students will make documentaries as a practical method of social design. Students will find "social issues" and "movements that help solve the issues" that they have noticed around themselves, collect data, film, and visualize the issues as video content. The goal is to share the social issues with many people by showing the content and to create a movement to solve the issues.

授業の内容 / Course Contents

地域社会における社会デザインの実践的手法としてドキュメンタリー制作を行います。自分の研究テーマや

普段違和感を感じている事象、自らの社会的な活動、周囲にある先進的な取り組みなどを取材、撮影して映像コンテンツで可視化します。映像は情報量も多く、編集などによってわかりやすくメッセージを多くの人々と共有することができます。

まず企画から取材、構成、撮影、インタビュー、編集、ナレーション等制作に関する一連の理論と技法を報道番組に長年取り組んできた教員が講義を行います。その後、ビデオカメラ・PC等編集機材を使用した実技演習を行います。授業内に実施する実技演習では実際に取材・撮影を行い、作品を制作する。希望者を対象に、休日等を利用して地域取材のフィールドワークを実施します。また、状況によってはオンラインでの演習と取材も行います。この地域ドキュメンタリーの制作を通して課題解決のためのネットワーク形成やナレッジマネジメント、コミュニティの自治、地域のプロデュースなどの社会デザイン手法の取得を目指します。

Students will learn a series of theories and techniques on planning, collecting data, composition, filming, interviewing, editing, and narration, etc. The course will be based on lectures on theory and case studies of existing documentaries, and practical exercises using video cameras and editing equipment will be conducted. In the practical exercises that will be carried out in the course, students will be divided into groups to collect data, film, and produce works. Students who wish will carry out fieldwork for regional data collection during their holidays and other time.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：社会デザインとしての地域ドキュメンタリーの意義：映像の持つ力と作り手の課題意識を接続する
- 2回：あらゆる事象は映像コンテンツ化できることを確認
- 3回：企画の立て方：まずはテーマとねらいを練る
- 4回：課題確認～取材
- 5回：映像ドキュメンタリーの構成：流れを作る～視聴した人が理解を進めるために
- 6回：先行ドキュメンタリー事例研究
- 7回：企画意図と撮影手法（理論編）
- 8回：企画意図と撮影手法（実技演習）
- 9回：編集手法（理論編）
- 10回：編集手法（実技演習）
- 11回：ナレーションの編集手法（理論編）
- 12回：ナレーションの編集手法（実技演習）
- 13回：映像の仕上げと視聴
- 14回：まとめ 視聴と議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外でフィールドワークによる撮影や編集を行うことがありますが、教員ができる限り同行するようにします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 企画書作成と発表:20% 構成表の制作と取材:20% 議論への参加:20% 最終レポート割合 :40%

テキスト/ Textbooks

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

自分の主観で捉えた事象を、客観的に伝えたいという意欲がある方ならどなたでも映像コンテンツを制作できます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

スマホを撮影に使うことがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 62

Practical Application:Community Design 62

(エシカル消費総論－1)

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM362

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

コロナ禍が収束する一方で、ウクライナ紛争につづき、中東での紛争と地政学リスクが休息に高まり、気候危機による異常気象の影響もあり、エネルギー価格や食料価格が世界的に高騰するなど、世界はVUCAの様相を高めている。台風や洪水、干ばつなどの世界各地での異常気象は加速化し、我々の経済社会生活に大きな影響をあたえつつある。しかしこの異常気象は人間活動がもたらした帰結でもある。人類が農耕生活を始めて以来世界の森林面積の1/3は失われた。また2050年の海には魚よりプラスチックの方が多くなるといわれるように、経済活動は生物多様性を損ね、地球に大きな影響を与えている。また、コロナ禍とウクライナ紛争は、貧困層と環境に打撃を与えて、SDGsのゴール達成を遠ざけている。環境破壊や人権侵害は直接的には企業が引き起こすことが多いが、その背後には消費者のニーズがある。今や政府や企業だけでなく、私たち消費者のライフスタイル自体をサステナブルに変革することが求められている。本コースでは、消費者の立場からサステナビリティの取り組みを考察する。

While Covid-19 turmoil is fading, geopolitical risks are rising due to conflicts in Ukraine and in Middle East triggering food and energy price hikes. On the other hand extreme weathers caused by climate change continues to harm our society, which is caused by human activities. A third of the forest was lost since humans began agriculture. Our global economic value chain enabling mass consumption is damaging the planet by destroying biodiversity and by exhausting natural resource. Covid19 and military conflicts are also harming the lives of vulnerable people such as immigrant workers and small scale farmers and thus widening the income gap, making the attainment of SDGs more difficult. Usually business is to be blamed for climate change and human rights fraud, but business activities are led by consumer needs. Now that not only government and business but consumer must change our lifestyle to more sustainable way.

授業の内容 / Course Contents

そもそも SDGs の S (サステナビリティ=持続可能性) とは何か? 本講義では環境の持続可能性、社会の持続可能性について主要な課題について概観し、現在のグローバル社会を持続可能に転換させるシステム SDGs とパリ協定や生物多様性保全の枠組みなど目的と進捗について理解を深める。それを受けて、消費生活の在り方をどのように変えるべきか検討していく。ライフスタイル全体の見直し、食・衣・住・エネルギーの3つの分野において、サプライチェーンに潜む課題と解決策を考察する。

What is the meaning of sustainability represented by SDGs? In this course we will go over the major environmental and social issues, and study about the role of SDGs and Paris Agreement and biodiversity framework, all of which are intended to transform our society. Then we will discuss the necessary lifestyle change and also ethical consumption on each food, apparel, and housing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：グローバルな社会課題：地球環境問題&人権・人の課題
- 3回：SDGs、パリ協定 などグローバルなイニシアチブの動向
- 4回：エネルギー問題
- 5回：サーキュラーエコノミー
- 6回：食の課題1
- 7回：食の課題2
- 8回：食の課題3
- 9回：衣の課題1
- 10回：衣の課題2
- 11回：住の課題
- 12回：その他消費の課題
- 13回：エシカル金融
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のリアクションペーパーの提出

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席率・発言・リアクションペーパー提出など:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

ハーマン・デイリー 『持続可能な発展の経済学』 みすず書房 2005 9784622071747

竹村真一 『地球の目線』 PHP 研究所 2008 4569700861

アリス・ウオーターズ 『スローフード宣言』 海士の風 2022 9784909934024

ジャック・アタリ 『食の歴史』 プレジデント社 2020 9784833423618

河口真理子 「SDG sで「変わる経済」と「新たな暮らし」」 生産性出版 2020 9784820121077

その他 / Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 63

Practical Application:Community Design 63

(聞き書きとコミュニケーション)

吉田 敏浩 (YOSHIDA TOSHIHIRO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM363

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインにとって、個人と個人のコミュニケーションは重要です。様々な社会問題の当事者が何に直面し、何を悩み、何を求めているのかを理解していくためにも、コミュニケーションが大切です。

そのようなコミュニケーションの力を磨くための方法として、この演習で取り組むのは、個人史 (ライフストーリー) の聞き書きです。語りに耳を傾け、その人が生きてきた歩みを知り、共感を覚えることを通じて、相手の身になって考えてみる、その人の立場から現実、社会、世界はどう見えるのか考えてみる、という試みを経験できるでしょう。それはコミュニケーションを深めるための要点だといえます。

Communication between individuals is important for social design. Communication is also important to understand what people with social problems face, what they are troubled by, and what they are looking for.

As a way to improve the power of such communication, we will write down the life history stories that we hear in this course. We will listen to the stories, learn about the life that the person has lived, and think about it as the

other person through empathy, and consider how reality, society, and the world looks from that person's point of view. We hope that students will experience through these activities. That is the point of deepening the communication.

授業の内容 / Course Contents

具体的には、聞き書きの相手（同国人でも外国人でもいい）を決め、その人に関連する事柄や歴史的背景など資料調査をし、質問を考え、インタビューをし、構成を立て、文章にまとめます。参考になる聞き書きの記事や本の輪読、ディスカッション、担当者による文章の添削などもします。

以下を主な項目として、受講生の人数や各自の進行状況に応じて複数回にわたる項目もあるので、柔軟に対応しながら進めます。完成させた聞き書きをレポートとして提出してもらいます。

Students will decide the person to be interviewed (someone from the same or a different country), conduct research on materials related to the person and their historical background, consider questions, conduct an interview, create a composition, and summarize in a document. Students will also read articles and books on writing down what one hears, hold discussions, and have their texts corrected by staff.

The following are the main items, and there are multiple items depending on the number of students and their progress, so we will respond with flexibility. Students will submit the completed writing down of what they hear.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：コミュニケーションと聞き書きのつながり、その意義。聞き書きの完成に向けての進め方。

2回：参考になる聞き書き・インタビューの記事や本を輪読する。

なお、こうした輪読は別の回でも必要に応じてする。

聞き書きの相手を決め、何を中心に聞いてゆくのかなどを明らかにする。

3回：受講生各自が決めた聞き書きの相手について、どのような人か、なぜその人に興味を持ったのか、何を中心的に聞いていくのかを説明し、方向性を定めるための短文を書く。

4回：それぞれの短文を読み合い、検討をする。

5回：インタビューに備えて、相手に関連する事柄や歴史背景などの資料調査、関連年表の作成。

6回：インタビューの質問表作り、インタビュー・聞き書きをする際のポイント。

7回：インタビューした内容、どんな発見があったかなど、各自の進行状況の報告と検討。

8回：インタビューした内容、どんな発見があったかなど、各自の進行状況の報告と検討。

9回：インタビューした内容、どんな発見があったかなど、各自の進行状況の報告と検討。

10回：インタビューした内容、どんな発見があったかなど、各自の進行状況の報告と検討。

11回：構成表作り、インタビューした内容と資料を組み合わせる文章化するときのポイント。

12回：構成表作り、インタビューした内容と資料を組み合わせる文章化するときのポイント。

13回：インタビューした内容、どんな発見があったかなど、各自の進行状況の報告と検討。

14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に、必要に応じて指示します。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業時の課題（短文、関連年表、質問表、構成表など）の提出:40%

テキスト / Textbooks

特に指定しません。資料プリントを配布します。

参考文献 / Readings

宮本常一著『忘れられた日本人』（岩波文庫 1984年）

その他は随時、授業時に紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 65

Practical Application:Community Design 65

(映像ジャーナリズム論)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM365

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

戦後アメリカの歩みを、映画作品も含む様々な映像を通して検証することを通して (1) 映像表現/映像記録の可能性を考察する。(2) 日本、欧州との比較の視点も踏まえて、アメリカ社会の文化、風土について仮説を立てる。(3) 比較文化の方法論について考究を深める。

"The objectives of the course are: (1) To examine the possibilities of visual expression and documentation through the scrutiny of the post-war history of the United States, including various visual media, including film.

(2) To formulate hypotheses regarding the culture and ethos of American society, considering a comparative perspective with Japan and Europe. (3) To deepen the study of the methodology of cross-cultural analysis, taking into account comparative viewpoints with Japan and Europe."

授業の内容 / Course Contents

自他ともに認める「世界の盟主」として、民主主義国家としての「理想」を追究したアメリカは、いかにして

現在の姿へと至ったのでしょうか？ともすれば分断が叫ばれ、不透明感が高まるとされる「超大国」の本質は？戦後アメリカの歩みを、サブカルチャー的な視点も含めて、フィクション／ノンフィクション、様々な映像表現の記録から辿ることを軸に、国の形とその文化風土を探究していきます。同時に、映像を通して社会や歴史、集団の論理を考察することの意義を発見していきます。ヨーロッパ、日本との文化比較の視点も交えて、「実験国家」アメリカの実像を多角度から考察してみましょう。オルタナティブなものの方考え方を習得することで、社会の新たな読み解き方の可能性を発見することも狙いです。

"What is the essence of the 'superpower,' often characterized by calls for division and a heightened sense of opacity, and how did the United States, acknowledged as the undisputed 'leader of the world' and an ideal democracy, evolve into its present form?"

This course will explore the trajectory of post-war America, incorporating a subcultural perspective, by tracing the records of various visual expressions, including fiction/non-fiction, to investigate the form of the nation and its cultural ethos. Simultaneously, we will discover the significance of examining society, history, and group dynamics through visual media.

With a comparative cultural perspective, including Europe and Japan, let's consider the reality of the 'experimental nation' America from multiple angles. The aim is also to discover possibilities for new interpretations of society by acquiring alternative viewpoints and ways of thinking."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：はじめに 第二次世界大戦後の世界 アメリカの「理想」とは何だったのか？
- 2回：60年代①テレビの時代の「正義」と夢
- 3回：60年代②闘争の果ての「卒業」
- 4回：70年代①幻想の「自由」を求めて
- 5回：70年代②「タクシードライバー」の憂鬱
- 6回：80年代①再び「偉大な国」への葛藤
- 7回：80年代②「強欲は善」の時代
- 8回：90年代①失われた「美德」
- 9回：90年代②虚構の中のリアル
- 10回：2000年代①「不信」の時代の幕開け
- 11回：2000年代②「アメリカンドリーム」の終焉？
- 12回：2010年代①システムの中の「孤独」
- 13回：2010年代②「分断」はなぜ起きたか？
- 14回：まとめ アメリカとは？実像と虚像の狭間で～映像ジャーナリズムの可能性とは？～

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義で扱う事象、文献など一部、受講生の皆さんにリサーチと報告を行ってもらいディスカッション、そこから議論を深めていく予定です。ことさらに構える必要はありませんが、様々な映像メディアの報じ方などに、

日々少し意識を高めて過ごしてもらえればうれしく思います。講義内容の性格上、その都度、時にジャーナ的な素材も取り上げ、受講生の皆さんの志向性も見極めつつ、議論となるテーマ、教材選びも柔軟に進めていきたいと考えます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

丸山俊一+NHK制作班 『映画から読む超大国の欲望 アメリカ流転の1950-2010』 祥伝社 2023 ○

丸山俊一+NHK制作班 『世界サブカルチャー史 欲望の系譜 アメリカ70-90s「超大国」の憂鬱』 祥伝社 2022 ○

参考文献 / Readings

ジェニファー・ラトナー＝ローゼンハーゲン 『アメリカを作った思想』 ちくま学芸文庫 2021

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

必修ではありませんが、「VM371 コミュニティデザイン学特講1（現代文化と社会デザイン）」も併せて履修されると、さらに理解が深まると思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

パソコンの携帯を毎回お願いできるとありがたく存じます。

その他 / Others

初回受講生の皆さんと対話し、それぞれの学びの志向性、背景、目指す目標などを確かめた上で、講義の進め方など柔軟に調整していきたいと思えます。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 67

Practical Application:Community Design 67

(メディア研究方法論)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM367

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項) 【夏季集中講義日程】 8月1日 (木) 2~6限、8月2日 (金) 2~6限、8月5日 (月) 2~5限

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

(1) 様々なメディアの基本的な性質を捉え直し、その背後にある論理への理解を深めること。(2) 現代社会にあって、どのようなメディアをどう機能させることが望ましいのか?メディアの定義を更新することでビジョンを持つ。そして、(3) 自らの表現の手法についても意識を高める。

"The objectives of the course are: (1) To reevaluate the fundamental nature of various media and deepen understanding of the underlying logic. (2) In contemporary society, to consider what kind of media functions are desirable and how to achieve them. To develop a vision by redefining the concept of media.

(3) To raise awareness of one's own methods of expression."

授業の内容 / Course Contents

メディアとは何か?新聞、テレビ、週刊誌…、21世紀以降、近年では様々なネットメディアを思い浮かべる方

も多いでしょう。「媒体」として、人と人、人と社会をつなぐメディア。しかし現代では、時につなぐどころか、むしろ分断を招くものになってしまうことも少なくありません。19世紀末以降、主として20世紀から21世紀へ、大衆の欲望がメディアを通して爆発した時代の「メディア」のありようを考察します。メディアの出現が人々のものの見方を変え、また同時に、大衆の欲望が無意識が、メディアを社会を変えていく…。そのあざなえる縄のような関係性から何を学び、どう対応していくべきなのでしょう。社会学、哲学、AI社会論、記号論、表象文化論などの方法論を意識しつつ、現代社会にあってメディアの可能性を考えると同時に、社会で有効な表現の可能性を高めていくことについても探究します。

"What is media? In recent years, especially since the 21st century, many might think of various online media in addition to traditional forms like newspapers, television, and magazines. Media serves as a 'medium' connecting people to people and individuals to society. However, in contemporary times, instead of fostering connections, it sometimes becomes a source of division.

We will examine the nature of 'media' during the era when the desires of the masses exploded through the media, primarily from the late 19th century to the 21st century. The emergence of media has altered people's perspectives, and simultaneously, the unconscious desires of the masses, through media, have been shaping society. What can we learn from this intricate relationship, and how should we respond?

Conscious of methodologies such as sociology, philosophy, AI social theory, semiotics, and representation culture theory, we will explore the possibilities of media in contemporary society. Simultaneously, we will delve into enhancing the potential for effective expression in society."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション 言葉で、映像で、社会を「切りとる」ということ
- 2回：表象文化論① 新聞、映画、テレビ、ネットの誕生…メディアが社会の読み方を変える
- 3回：表象文化論② 現前性とは？ ニューベルヴァーグが問いかけたものとは？
- 4回：AI社会論① 人間を模倣する「メディア」AIの意識と倫理
- 5回：AI社会論② 「心はどこにあるのか？」AIの自律と進化～デネット他～
- 6回：時代と哲学① マルクス・ガブリエル「新实在論」が問うもの
- 7回：時代と哲学② 実存から構造へ、ポスト構造主義へ 思想とメディア
- 8回：メディアの社会学① 大衆の欲望が爆発した時代の力学
- 9回：メディアの社会学② ニクラス・ルーマンの問題提起
- 10回：メディアの現在、過去、未来を考える～ゲーム／メタバースの時代に～
- 11回：課題発表①
- 12回：課題発表②
- 13回：ディスカッション
- 14回：まとめ 21世紀型社会の中でのメディアとは？

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

土日を挟み3日間の集中講義である為、週末に課題を提示し、週明け発表してもらい、討議を行う予定です。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

丸山俊一+NHK 取材班 A I 以後 NHK 出版新書 2019 ○

丸山俊一+NHK 制作班 マルクス・ガブリエル欲望の時代を哲学する NHK 出版新書 2018 ○

参考文献 / Readings**履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course**

様々なメディアに対する、日常的な、基礎的な関心。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義の際にパソコンを携帯くださればありがたく存じます。

その他 / Others

最初に受講生の志向性、背景などを確かめ、講義のテーマ、内容、素材など、柔軟に対応していきたいと思えます。

土日を含み3日間の集中講義です。週末に課題を提示し週明け発表してもらうなど、週末を挟んだ短期のスケジュールであることを学習効果を高める為に利用したいと考えています。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習 69

Practical Application:Community Design 69

(「デジタル化」と社会デザイン)

佐野 敦子 (SANO ATSUKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM369

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

AI の発展や ICT の普及といった「デジタル化」は多分野に影響を及ぼし、領域を超えた取組を促す。このようなデジタル化の特性は、社会をデザインするにあたってどのような課題と変革を迫るのか、受講者自身のテーマを題材に掘り下げる。

“Digitalization,” which is defined as the development of Artificial Intelligence (AI) and the expansion of Internet Communication Tools (ICTs), engenders a major impact on society in many different fields. Furthermore, it encourages us to tackle cross-border challenges, which has never been done before.

In terms of social design studies, what kinds of efforts and tasks are needed facing to such characteristics of “Digitalization”? In accordance with the participants’ research interests, this course aims to deepen the understanding of “Digitalization” and social design studies.

授業の内容 / Course Contents

この講義では「デジタル化」の定義および性質を皮切りに、「デジタル化」は社会デザインを考えるにあたり、どのような影響を及ぼすかを議論する。

そして、前半の講義内容・議論をもとに、受講者自身の抱える研究テーマが「デジタル化」の視点から見るといかにとらえられるかを考えるとともに、領域を超える「デジタル化」の性質をふまえて、他分野や視点からはどのように考察できるかを、受講者同士の議論で掘り下げる機会とする。

In this course, we will consider what kinds of influences “Digitalization” brings us and how to transform or re-design society via its adoption. Starting with its definition and phenomena regarding “Digitalization”, we will consider how these paradigms could be captured from the perspective of social design studies and connect to each participant’s research interest. After that we will make the opportunity to realize the breadth and depth of social design studies through sharing with other participants’ views.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：「デジタル化」の定義とその背景、社会デザインとのつながり
- 2回：「デジタル化」の性質1 正負の影響 (Double Edged Sword)
- 3回：「デジタル化」の性質2 結びつける、分断する (Networking、Divide)
- 4回：「デジタル化」の性質3 変革を促す (Transformation)
- 5回：「デジタル化」の性質4 領域を超える (Cross Border)
- 6回：「デジタル化」と社会デザイン1 リスクガバナンス
- 7回：「デジタル化」と社会デザイン2 コミュニティデザイン
- 8回：「デジタル化」と社会デザイン3 社会組織理論
- 9回：「デジタル化」と社会デザイン4 事例を用いた考察
- 10回：受講者による発表 (デジタル化の視点から見た自分の研究テーマ)
- 11回：受講者による発表 (デジタル化の視点から見た自分の研究テーマ)
- 12回：受講者による発表 (デジタル化の視点から見た自分の研究テーマ)
- 13回：受講者による発表 (デジタル化の視点から見た自分の研究テーマ)
- 14回：まとめの議論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

本講義は、「デジタル変容」「Society5.0」「SDGs」「AI」といった、現在、動向が目まぐるしく変化している内容を扱う。授業で積極的に議論に加われるように、新聞やネットなどでこれらのキーワードに常にアンテナをはっておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：011) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 議論への貢献:30% プレゼンテーション:30% 最終レポート割合 :40%

議論への貢献 (平常点)、授業内での発表、および最終レポートの総合評価

テキスト / Textbooks

インターネット経由で入手できるニュースや公式文書等を主に使用する予定。講義内で適宜配布、もしくは指

示する。

参考文献 / Readings

- ウルリッヒ・ベック 危険社会: 新しい近代への道 法政大学出版局 1998 9784588006098
- ウルリッヒ・ベック 変態する世界 岩波書店 2017 9784000247214
- 伊藤 美登里 ウルリッヒ・ベックの社会理論: リスク社会を生きるということ 勁草書房 2017 9784326654093
- ミシェル・フーコー 監獄の誕生 — 監視と処罰 新潮社 1977 9784105067038
- キャロライン・クリアド=ペレス 存在しない女たち: 男性優位の世界にひそむ見せかけのファクトを暴く 河出書房新社 2020 9784309249834
- 板津木綿子・久野愛編 AI から読み解く社会—権力化する最新技術 東京大学出版会 2023 9784130530330
- 佐野敦子 デジタル化時代のジェンダー平等—メルケルが拓いた未来の社会デザイン 春風社 2023 9784861108594

その他/ Others

講義や受講者の興味・人数に応じて授業の順番が入れ替わる可能性もある。また、議論に刺激を与えるために、受講者の興味や要望とあえばゲストスピーカーによるコメントも検討する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学演習70

Practical Application:Community Design 70

(文化財保護と社会デザイン)

森屋 雅幸 (MORIYA MASAYUKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM370

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

この授業では、文化財保護と社会デザインという視角から文化財と現代社会の関わり、そしてコミュニティ形成や地域づくりに文化財がどのように関係するのかについて、日本国内を中心にさまざまな事例を通して理解を深めることを目標とする。

This class understands cultural properties and relations with the modern society from the viewpoint of cultural properties conservation and the social design through various examples in Japan. In addition, I aim for deepening understanding how cultural properties are related to the formation and community development of the community.

授業の内容 / Course Contents

- 近年の文化財保護の動向と社会デザインとの関係性を理解する。
- 文化財のもつ経済的な価値と地域の中で果たす役割と価値を理解する。

3. 実践事例を通して、文化財とコミュニティの関係性と地域づくりへのつながりを理解する。
1. Understand the relationship with a trend of the recent cultural properties conservation and the social design.
 2. Understand the economic value to have of cultural properties and a role and value to achieve in an area.
 3. Understand cultural properties and a relationship of the community and a relationship of cultural properties and the community development through a practice example.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文化財とは何か
- 2 回：文化財保護の歴史と仕組み
- 3 回：地域開発と文化財保存運動
- 4 回：地域主義にもとづく文化財保存と活用の展開
- 5 回：日本における近年の文化財保護の動向
- 6 回：文化財保護と観光のかかわり
- 7 回：文化財保護と災害
- 8 回：文化財保護とコミュニティのかかわり
- 9 回：文化財保護の担い手と現状
- 10 回：文化財を活用した地域づくり
- 11 回：文化財保護と市民参加
- 12 回：文化財保護と博物館活動
- 13 回：文化財保護と社会デザイン
- 14 回：まとめ ※授業計画は予定であり、一部変更となることがある。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

文化財保護をめぐる国内の動向について最近の報道内容等を調べておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および授業への参加:30% 授業内課題（発表）:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

- 馬場憲一 地域文化政策の新視点—文化遺産保護から伝統文化の継承へ— 雄山閣 1998 9784639015574
- 川村恒明他 文化財政策概論—文化遺産保護の新たな展開— 東海大学出版会 2002 9784486015956
- 森屋雅幸 地域文化財の保存・活用とコミュニティ—山梨県の擬洋風建築を中心に— 岩田書院 2018 9784866020204
- 岩城卓二他 博物館と文化財の危機 人文書院 2020 9784409241318
- 松本茂章他 ヘリテージマネジメント—地域を変える文化遺産の活かし方— 学芸出版社 2022

9784761528171

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学特講 1

Advanced Seminar on Community Design 1

(現代文化と社会デザイン)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM371

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

日本の戦後社会の変化を、主に 60 年代から 90 年代までサブカルチャーを含む様々な事象から多面的に考察する。そのことによって (1) 日本社会の性質、特徴について仮説を立てられるようになること。(2) 歴史の因果関係について考察できる眼を養うこと。(3) オルタナティブなものの見方、多角度からの柔軟な視点を身につけること。

This course aims to comprehensively examine the changes in post-war Japanese society, primarily from the 1960s to the 1990s, through various phenomena, including subcultures. By doing so, students will develop the ability to: (1) formulate hypotheses about the nature and characteristics of Japanese society; (2) cultivate an analytical perspective on the causal relationships within history; and (3) acquire alternative viewpoints and ways of interpreting events.

授業の内容 / Course Contents

私たちは今、どんな社会に生きているのでしょうか？複雑化する現代社会、そして世界情勢。その中で日本は時に「ガラパゴス」などとも呼ばれ、様々な意味で諸外国とは異なる「空気」の中にあるかのように表現されることも多いのはご存知の通りです。日本社会の底に流れる思考様式には、何か独特なものがあるのでしょうか？それを解く為に、意識を過去へと飛ばし、現代との対話を試みませんか？戦後の日本社会の変遷を、特に60年代から90年代の変化に焦点を当てて考えます。サブカルチャーを含む様々な文化的な要素を、残された映像や言葉を通して味わい、時代の「空気」を解読する試みです。戦後の日本人の「自画像」、日本人の「無意識」を読み解き、今これからの社会を考える手がかりをつかむ為の思考の旅に出ましょう。今当たり前を感じる光景から新たな意味を引き出し、歴史や社会を見る遠近法が少しでも変わる体験を皆さんとご一緒できればうれしく思います。

"What kind of society do we live in today? In the complex modern society and global circumstances, Japan is sometimes referred to as "Galapagos," suggesting a unique atmosphere that differs from other countries in various ways. Are there distinctive thought patterns underlying Japanese society?

To unravel this, why not shift our awareness to the past and attempt a dialogue with the present? We will contemplate the transformations in post-war Japanese society, with a particular focus on the changes from the 1960s to the 1990s. This endeavor involves experiencing various cultural elements, including subcultures, through remaining images and words, attempting to decode the "atmosphere" of the times.

Let's embark on a journey of thought to decipher the "self-image" and "unconscious" of post-war Japanese people, grasping clues to contemplate the society that lies ahead. I hope that together, we can derive new meanings from seemingly ordinary scenes and share experiences that may alter our perspective on history and society, even if only slightly."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション 日本社会とは？日本にあってサブカルチャーの可能性とは？
- 2回：60年代①「青春残酷物語」と「ニッポン無責任時代」
- 3回：60年代②「天才バカボン」と「にっぽん昆虫記」
- 4回：60年代③「任侠映画」と「日本の思想」
- 5回：70年代①モーレツからビューティフルへ
- 6回：70年代②オカルトブームと「仁義なき戦い」
- 7回：70年代③ニューファミリーと「モラトリアム人間の時代」
- 8回：80年代①YMOと「おいしい生活」
- 9回：80年代②お笑いブームとコムデギャルソン論争
- 10回：80年代③トレンドドラマと「構造と力」
- 11回：90年代①バブルの余韻の中で
- 12回：90年代②95年という「切断」
- 13回：90年代③「戦後日本社会」とは？
- 14回：まとめ サブカルチャー的な思考から見えてくる「この国」の形

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義、映像で扱う事象、文献などについて、一部受講生の皆さんにその背景などをリサーチしてもらい、その報告をきっかけに議論を深めていくことも予定しています。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

丸山眞男 『日本の思想』 岩波新書 1961 ○

小此木啓吾 『モラトリアム人間の時代』 中公文庫 2010 ○

浅田彰 『構造と力』 ちくま学芸文庫 2023 ○

参考文献 / Readings

加藤周一 『雑種文化 日本の小さな希望』 講談社文庫 1974

丸山俊一 『14歳からの個人主義』 大和書房 2021

丸山俊一 『結論は出さなくていい』 光文社新書 2017

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

必修ではありませんが、「VM365 コミュニティデザイン学演習65（映像ジャーナリズム論）」も併せて履修されると、さらに理解が立体的になると思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、パソコンを携帯してもらえるとありがたく存じます。

その他 / Others

初回受講生の皆さんと対話し、それぞれの学びの背景、目指す目標などを確かめた上で、講義の進め方など調整していきたいと考えます。

また、研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

コミュニティデザイン学特講 2

Advanced Seminar on Community Design 2

(持続可能な開発と教育・学習)

二ノ宮リム さち (NINOMIYA-LIM SACHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM372

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5310

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

あなたにとって、わたしたちにとって、「持続可能性」とは、「教育」「学習」とは、なんだろうか。この科目では、これまでの ESD (持続可能な開発のための教育) の発展と、わたしたちが生きる社会のあり方をふりかえりつつ、持続可能な未来へ向けた人間や社会の変容・変革プロセスとしての ESD について考え、この問いに自分なりの答えを導き出すことを目指す。

What do “education,” “learning,” and “sustainability” mean for you, and for all of us? In this course, we will explore this question by reflecting on the development of education for sustainable development (ESD) and reviewing the world that we live in, while discussing ESD as a transformative process of people and society.

授業の内容 / Course Contents

1980 年代以降の「持続可能な開発 (発展)」概念の広がりとともに、環境・経済・社会の問題を長期的・全体的視野から理解し行動するための教育として議論と実践が発展してきた ESD (Education for Sustainable

Development/持続可能な開発のための教育)。いま、持続可能な開発目標（SDGs）の広がりも背景に、持続可能な未来の実現へ向けた学習と教育の必要性がますます注目される。

本科目では、ESD を取り巻く議論や実践に関する講義のほか、関連文書の精読、ESD プログラムの体験、身近な地域や組織に必要な ESD 計画の構想、それらにもとづくディスカッションやプレゼンテーションなどを通じ、上記授業目標に向けて受講者全員で学び合う。

なお、授業で扱うテーマや順序は、受講生の関心等を踏まえて変更する場合がある。

In this course, the students will collaboratively learn from each other through not only lectures and readings but also groupworks, discussions, role-plays, and other diverse methods.

Since the concept of sustainable development was introduced in the 1980s, discussion and practice to promote education for sustainable development (ESD) has evolved in the international community. ESD plays a role to create greater awareness of the interplay of environmental, economic, and social issues using a long-term, holistic perspective, and to facilitate action for sustainability. With Sustainable Development Goals (SDGs: 2016-2030), the importance of ESD has been recognized further, as a transformative process of people and society in a borderless collaboration of diverse stakeholders.

Topics to be focused in each class are subject to change based on students' interest.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション～授業の詳細を確認し履修者の関心を共有する
- 2 回：持続可能な開発とは何か～普遍的理念？空っぽの記号？
- 3 回：持続可能な開発は「教える」「学ぶ」ことができるのか
- 4 回：持続可能な開発のための教育（ESD）の発展～「環境教育」「学習権保障」二つの経緯をたどる
- 5 回：ESD の実像：環境教育の視点から～ESD としての環境教育実践を知る
- 6 回：ESD の実像：シティズンシップ教育の視点から～ESD としてのシティズンシップ教育実践を知る
- 7 回：ESD の内容と方法～ESD アクティビティを体験する
- 8 回：ESD の内容と方法～ESD アクティビティを体験する
- 9 回：ESD の内容と方法～4つのアプローチ「in/about/for/as」
- 10 回：ESD のいま：国内編～関連する国内の政策文書を読み解く
- 11 回：ESD のいま：国際編～関連する国際文書を読み解く
- 12 回：ESD の構想発表～身近な地域や組織に必要な ESD 計画の構想、発表
- 13 回：ESD の構想発表～身近な地域や組織に必要な ESD 計画の構想、発表
- 14 回：全体のふりかえり～わたし（たち）にとっての「持続可能性」「教育」「学習」とはなにか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習：終盤の授業では身近な地域や組織で求められる ESD について構想を発表するが、その計画・準備は授業時間外におこなう。授業を通じて気がついたこと、気になったことを、都度、自らの生活や仕事の中でふりかえり、必要な ESD のあり方について自分なりに考えていく。そのほかの学習については、必要に応じて別途提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・ディスカッションへの参加・貢献:20% 各回のふりかえり:20% ESD 計画の構
想・発表:30% 最終レポート：わたしにとっての持続可能性・教育・学習とは:30%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

阿部治・野田恵（編著） 知る・わかる・伝える SDGs I 貧困・食料・健康・ジェンダー・水と衛生 学文社
2019 9784762029233

阿部治・二ノ宮リムさち（編著） 知る・わかる・伝える SDGsII エネルギー・しごと・産業と技術・平等・
まちづくり 学文社 2021 9784762031090

阿部治・岩本泰（編著） 知る・わかる・伝える SDGsIII 生産と消費・気候変動・海の豊かさ・陸の豊か
さ・平和と公正 学文社 2022 9784762031106

阿部治・朝岡幸彦（編著） 知る・わかる・伝える・伝える SDGsIV 教育・パートナーシップ・ポストコロ
ナ 学文社 2022 9784762031168

二ノ宮リムさち・朝岡幸彦（編著） 社会教育・生涯学習入門—誰ひとり置き去りにしない未来へ 人言洞
2023 9784910917030

日本社会教育学会（編） SDGs と社会教育・生涯学習 日本の社会教育 第 67 集 東洋館出版社 2023
9784491053219

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンラインで受講する場合は、ディスカッションやアクティビティに参加するためマイクやカメラを準備する
こと。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または
研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討
論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 2

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 2

(経済学と人間学)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM452

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

(1) 不透明感を増している資本主義、その本質をつかむ。(2) 歴史上の経済学、社会思想の巨人たちの発想のエッセンスを理解する。その上で、人間の本質と現代の経済、社会の構造との関係性を探究する。

"The objectives of the course are: (1) To grasp the essence of capitalism, which is becoming increasingly opaque. (2) To understand the essence of economic thought and social ideas from historical giants in the field. Subsequently, to explore the relationship between human nature and the structures of contemporary economics and society."

授業の内容 / Course Contents

現代の経済学と人間に関わる問題の本質を、欲望、市場、合理性などをキーワードに、多角度から考えていきます。その時、人間の居場所はどこにあるのか？システムが強大化し、人々の疎外感が高まっているかに見える現代社会にどこからどのようにアプローチすべきか？かつての「経済学の巨人」たちの思想の可能性を探究

し、併せて社会学、哲学など社会思想のフレームでも問題を捉え直すことで、大きな視野で現代社会の構図の読み解きを目指します。「経済学の父」アダム・スミスの真意はどこにあったのか？ ケインズ、マルクス、シュンペーター、ハイエク、ヴェブレンなど、巨人たちの思想を吟味、現代的な意義を考えます。「経済」という事象も、人と社会と時代が織りなす「物語」として捉え直す時、新たな光景が広がります。人と経済と、人と社会の関係の再構築の為に、皆さんと一緒に考える機会となれば幸いです。

"We will explore the essence of contemporary economics and issues related to human beings by examining concepts such as desire, the market, and rationality from multiple perspectives. At this juncture, where does the place of humans lie? How should we approach the seemingly escalating alienation in modern society, where systems are becoming more powerful?

By delving into the possibilities of the thoughts of past 'giants of economics' and reconsidering issues through the frameworks of sociology, philosophy, and other social sciences, we aim to decipher the composition of contemporary society with a broad perspective. Where did the true intention of the 'father of economics,' Adam Smith, lie? We will critically examine the ideas of giants such as Keynes, Marx, Schumpeter, Hayek, Veblen, and contemplate their contemporary significance.

When we reinterpret the phenomenon of 'economics' as a narrative woven by individuals, society, and the times, new perspectives emerge. I hope that this will be an opportunity for us to think together about the reconstruction of the relationships between individuals and economics, as well as individuals and society."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション 「経済」とは？「近代経済学」とは？今資本主義が直面する問題
- 2 回：「アダム・スミスは間違っていた？」「経済学の父」の真意は？
- 3 回：「ケインズの発想に今何を学ぶ？」大衆社会の本質を考察したその着想の本質は？
- 4 回：「マルクスの可能性をどこに見出す？」“革命家”ではなく哲学者としてのマルクス
- 5 回：「シュンペーターの預言」イノベーションの提唱者が見抜いていた社会構造の変化
- 6 回：「ハイエクが市場に賭けた真意」“新自由主義の教祖”の素顔
- 7 回：「ヴェブレン“異端”の眼差しが捉えていた真理」逆説の経済と人間
- 8 回：「再びスミスへ“見えざる手”を可視化する時」あらためて欲望とは？
- 9 回：マルクス・ガブリエル「倫理資本主義」の可能性
- 10 回：無形資産/AI/ポスト産業資本主義 時代の経済と人間
- 11 回：中間報告/ディスカッション 現代資本主義の可能性と限界 人間の行方
- 12 回：デジタル経済時代の倫理と貨幣論
- 13 回：20世紀アメリカ型資本主義と大衆社会論の系譜
- 14 回：まとめ 最終報告とディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

時に、講義で扱う事象、文献など受講生の皆さんにリサーチと報告を行ってもらい、そこから議論を深めていく予定です。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

丸山俊一 14歳からの資本主義 大和書房 2017 ○

丸山俊一 働く悩みは「経済学」で答えが見つかる SB新書 2022 ○

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義の際は、パソコンを携帯していただけましたら幸いです。

その他 / Others

初回受講生の皆さんと対話し、それぞれの学びの志向性、背景、目指す目標などを確かめた上で、講義の進め方など柔軟に調整していきたいと思えます。

また、研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 4

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 4

(ダークツーリズム)

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM454

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

ジェノサイドや紛争、大規模な人権侵害、災害といった地域の苦しみ・悲しみの現場や跡地、遺跡・遺構をめぐる旅「ダークツーリズム」。この現象を、歴史、政治、社会、倫理、文化といった広範な文脈の中に位置づけ、内外の事象の理解を深め、事件の再発防止や予防に寄与する。

"Dark Tourism" is tourism associated with travel to sites of genocide, conflicts, large-scale human rights abuses, struggle and sadness in disaster-hit regions. We will position these phenomena in a wide range of contexts such as history, politics, society, ethics, and culture, deepen students' understanding of internal and external events, and contribute to the prevention.

授業の内容 / Course Contents

内外を問わず、人の「死」や暴力・惨劇にまつわる場所を旅する行為自体は新しいことではない。しかし、こうした現象に「ダークツーリズム」という名称が与えられ、学術研究の対象となったのは近年、1990 年代のこ

とである。

「ダークツーリズム」を副題とする本講座では、「ダークツーリズム」概念を体系的・包括的に学び、人類の負の遺産は誰が、どのような目的で保存し（あるいは破壊し）、観光資源とする（あるいは消し去る）のか。そこから私たちは何を、どのように学ぶのか。悲劇的な「死」を消費・商品化するとはどのようなことか。これらの問いを、社会的、倫理的、文化的、歴史的、政治的文脈の中に位置づけ、理解を試みる。そのうえで、受講生一人ひとりが、自ら「ダークツーリズム」の旅行者として、場所を選定し、事例研究として発表する。

The travel to sites associated with death, violence and misery, both in Japan and overseas, is not new. However, these phenomena were given the name "dark tourism" and have been the subject of academic research since the 1990s.

In this course, the concept of "dark tourism" is comprehensively studied, and we will ask who save (or destroy) the site as a tourist resource and for what purpose we should do so. What does it mean to consume and commercialize tragic death? We will try to understand these questions in social, ethical, cultural, historical, and political contexts. Then, each student will choose a "dark tourism site" and present it as a case study.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：導入：ダークツーリズムとは何か。ダークツーリズム研究の射程、様々な定義と類似概念の比較検討
- 2回：ダークツーリズムの歴史的発展：歴史の中にみるダークツーリズム
- 3回：日本におけるダークツーリズム研究の展開：東日本大震災・フクシマ、産業遺構との関係から
- 4回：ダークツーリズムの場所・対象地を類型化する(1)
 - ・ 事象、地域、年代（時代背景）
- 5回：ダークツーリズムの場所・対象地を類型化する（2）
 - ・ 保存と展示の形（墓地、博物館・記念館、収容所跡、IT技術の利用など）
- 6回：ダークツーリズムの主体を類型化する
 - ・ 誰が何の目的で旅をするのか、旅行者のアイデンティティと当事者性
- 7回：ダークツーリズム対象地・施設の主催者・運営者を類型化する
 - ・ 誰が何を選択し、どのような目的で保存・運営・宣伝しているのか～政治・地域の開発・記憶の整理の観点から考える
- 8回：ダークツーリズムの裏側
 - ・ 記憶や遺跡の格差・ディスパリティ（記憶・保存される遺構・遺跡と、記憶・保存されない惨劇の地）
否定・修正主義と政治利用
- 9回：事例研究1：ホロコースト
 - ・ アウシュビッツ・ビルケナウ・アンネ・フランクの隠れ家など
- 10回：事例研究2：戦争・民族紛争の地
 - ・ ウクライナ、パレスチナ、ボスニア・ヘルツェゴビナ（スレブレニツァ、モスタル、サラエボ）、カンボジア・キリングフィールド（トゥールスレン博物館・チュンエク）、ルワンダ（キガリ・ムランビ虐殺記念館、ニヤマタ教会）
- 11回：事例研究3：太平洋戦争の地
 - ・ 沖縄、バンザイクリフ、硫黄島、レイテ島、南京資料館、フィリピン、ミャンマーなど
- 12回：事例研究4：植民地支配と文化的ジェノサイド
 - ・ 先住民虐殺の跡地（アフリカ諸国、オーストラリア、アメリカ、カナダ、グアテマラ、日本）
- 13回：事例研究5：原爆・原子力災害

・ ヒロシマ・ナガサキ、福島第一原発、チェルノブイリ原発

14回：事例研究6：日本のダークツーリズム

・ 災害（東日本大震災、神戸、熊本、能登）、産業遺産（足尾銅山、軍艦島）、強制連行（花岡事件）、関東大震災（朝鮮人虐殺の地）、事件・事故の現場など

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

準備学習については授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業内での発表:25% ディスカッションへの参加度・貢献度:25%

テキスト / Textbooks

授業中に適宜プリントを配布する。

参考文献 / Readings

Lennon, J., & Foley, M. Dark tourism— The Attraction of Death and Disaster Continuum 2000

Sharpley, R., & Stone, P.R. (eds) The Darker Side of Travel: The Theory and Practice of Dark Tourism Channel View Publications 2009

Stone, P.R. “Dark Tourism Scholarship: A Critical Review”, International Journal of Culture, Tourism and Hospitality Research, 7(3):307-18 International Journal of Culture, Tourism and Hospitality Research 2013

Dalton, D. Dark Tourism and Crime Routledge 2015

井出明 ダークツーリズム 悲しみの記憶を巡る旅 幻冬舎 2018

井出明 ダークツーリズム拡張 —近代の再構築 美術出版社 2018

いろは出版編 人類の悲しみと対峙する ダークツーリズム入門ガイド いろは出版 2016

その他 / Others

セントラル・ランカシャー大学ダークツーリズム研究所 HP, The Institute for Dark Tourism Research (iDTR), the University of Central Lancashire, England,

http://www.uclan.ac.uk/research/explore/groups/institute_for_dark_tourism_research.php

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習10

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 10

(リスクガバナンス論)

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM460

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

リスク学の知見を踏まえ、様々な領域で展開されているリスク管理やリスク政策の事例を分析し、リスクガバナンス (多様なステークホルダーによるリスクの社会的な協治) 上の課題を明らかにし、あるべきリスクガバナンスについて考究する。

Risk governance is a social co-operation of risk management among diverse stakeholders. In order for society to respond to risks with uncertainties, it is essential to enhance risk governance.

The aims of this course are to understand risk management and risk policy based on the theory and knowledge of risk science from a risk governance perspective.

授業の内容 / Course Contents

授業では、講義とディスカッションを実施する。講義ではリスク学の基礎的知見や理論を批判的に考察する。

ケーススタディーでは、超長期の不確実性を特徴とする高レベル放射性廃棄物の地層処分、福島原発事故の被

災者のふるさと喪失、石巻市立大川小学校の津波避難を巡る学校危機管理、災害ボランティアと公民連携、避難生活の QOL の向上、防災気象情報の民間開放などの事例を扱う。映像資料や判例、議事録、報告書等を用いて分析し考察を深める。

Students are expected to understand theories and applications of risk management, risk communication, and risk governance through literature review and discussion. This course deals with the following case studies:

- ・ The geological disposal of high-level radioactive waste;
- ・ The Fukushima nuclear power plant accident;
- ・ School risk management for tsunami disaster;
- ・ The role of disaster volunteers;
- ・ The provision of temporary housing for disaster victims and Compensation for damage caused by elderly people with dementia.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：リスクガバナンスの理論と分析枠組み
- 2 回：リスク学の基礎理論（1）：リスク評価
 - ・ リスクの定義
 - ・ リスクと社会
 - ・ リスク評価
- 3 回：リスク学の基礎理論（2）：リスク管理
 - ・ リスクマネジメント
 - ・ リスクベネフィット
 - ・ リスクトレードオフ
 - ・ リスク比較
 - ・ 予防原則
 - ・ 残余リスク
 - ・ リスクファンナンス
- 4 回：リスク学の基礎理論（3）：リスクコミュニケーション
 - ・ リスク認知とバイアス
 - ・ 社会的増幅
 - ・ 社会的受容
 - ・ 自発的・非自発的リスク
 - ・ 自己決定権
 - ・ リスク管理者の信頼
 - ・ 風評被害
- 5 回：リスク学の基礎理論（4）：共生社会のリスクガバナンス
 - ・ 社会的排除と貧困
 - ・ 障がい者の意思決定支援、パターナリズム
 - ・ マイノリティーと差別
 - ・ 多文化共生
 - ・ リスクの地域的偏在
- 6 回：リスク学の基礎理論（5）：雇用・フリーランスのリスクガバナンス
 - ・ 労働者の保護（解雇、過労死、過労自殺）

・フリーランス、副業・兼業者の安全配慮義務とリスク創出者管理責任原則

7回：リスク学の基礎理論（6）

・消費者保護

・消費者の権利と責任

8回：事例分析：高レベル放射性廃棄物の地層処分

9回：事例分析：福島原発事故の被災者のふるさと喪失（原子力事故の賠償）

10回：事例分析：石巻市立大川小学校の津波被害（学校危機管理と組織的過失）

11回：事例分析：災害ボランティアの保護と公民連携

12回：事例分析：避難生活のQOL向上と被災者生活再建支援（公的支援とモラルハザード）

13回：事例分析：防災気象情報の民間開放（シングルボイス、パニック論、情報統制）

14回：総括：リスクガバナンスと社会デザイン

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

上記の項目を相互に関連づけて理解を深めるため順序を変更する場合がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加:80% 授業内小レポート:20%

テキスト / Textbooks

なし。授業内にレジュメ、資料を配布する。また、授業に授業内に必要な Web サイトを指示する。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 1 1

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 11

(リスクコミュニケーション論)

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM461

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

リスクコミュニケーションは、市民がリスクを民主的にガバナンスするためのステークホルダー間の社会的相互作用過程として発展してきた。授業ではリスクコミュニケーションの理論と戦略、方法を理解するとともに、合意形成や政策提言、意思決定との連続性を踏まえ、現代社会におけるリスクコミュニケーションの意義や課題について考究する。

The aim of this course is to help students acquire the basic concepts of risk communication. The goals of this course for students are to be able to explain major theories, evaluate practices, and apply theories or findings to real-world situations.

授業の内容 / Course Contents

授業では、講義とディスカッションを実施する。様々な分野の事例分析を通じて、リスクコミュニケーションの意義と課題を分析し、リスクガバナンスの視点から適用場面に応じたリスクコミュニケーションの新たな戦

略と方法を検討する。

This course deals with the following case studies: natural disasters, BSE, GMO technology, GMO food, the geological disposal of high-level radioactive waste, nuclear power plant accidents, infectious disease control, pesticide regulations and risk trade-offs, global warming, and the precautionary principle. All students are expected to discuss the presentations on actual cases. Students are required to submit two small papers in this course.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：市民社会とリスクコミュニケーション
- 2 回：リスクコミュニケーションと市民参加：
 - ・熟議民主主義、社会的意思決定、知る権利、パブリックコメント、パブリックインボルブメント、合意形成、紛争解決、仲裁、裁判
 - ・市民参加と科学コミュニケーション：テクノロジーアセスメント、コンセンサス会議、市民陪審
- 3 回：リスクコミュニケーションの基礎理論（1）
 - ・リスクとハザードの定義、リスク管理のフレームワーク、政策決定とリスク比較、コスト・ベネフィット、リスクベネフィット、リスクトレードオフと倫理、基準、規制、裁量権、政策的介入と自由意志・自己決定
- 4 回：リスクコミュニケーションの基礎理論（2）
 - ・リスク認知と受容、ゼロリスク、許容レベル、自発的・非自発的リスク、意思決定と認知バイアス、メディアとフレーミング、風評被害、パニック
- 5 回：リスクコミュニケーションの基礎理論（3）
 - ・ステークホルダー、当事者性、第三者性、リスク管理者の信頼、市民知と専門知、リスクリテラシー、欠陥モデル、パターナリズム
- 6 回：リスクコミュニケーションの基礎理論（4）
 - ・予防原則の科学性と社会性、不確実性を巡る科学的判断と社会的価値判断
 - ・水俣病（因果関係の照明と予防的措置）
- 7 回：事例研究：BSE：全頭検査神話
- 8 回：事例研究：遺伝子組み換え食品：リスク管理と自己決定権
- 9 回：事例研究：高レベル放射性廃棄物の地層処分：超長期の不確実性と世代間倫理
- 10 回：事例研究：認知症高齢者の他害リスクと権利擁護
- 11 回：事例研究：残留農薬、食品添加物：自然由来 VS 人工
- 12 回：事例研究：災害リスクと自己責任：避難生活支援と人権
- 13 回：事例研究：災害情報とシングルボイス
- 14 回：総括：リスクコミュニケーションの有効性と課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

上記の項目を相互に関連づけて理解を深めるため順序を変更する場合がある。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業への積極的参加:80% 授業内小レポート:20%

授業内小レポートによって評価する。

テキスト / Textbooks

なし。授業内にレジユメ、資料を配布する。また、授業に授業内に必要な Web サイトを指示する。

参考文献 / Readings

授業時に紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 19

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 19

(グローバル社会から考える人権)

寺中 誠 (TERANAKA MAKOTO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM469

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項） 各自の研究の進展具合を確認しつつ、人権の観点からの補足と、必要な教養や研究情報を提供する。そのため、演習形式での授業を基本とする。

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

グローバル化とネーション=ステートという近代社会を特徴づける二つの方向性が、人権や安全保障に影響するさまざまな危機を生み出している構造を理解する。

権利と義務の体系として作られた人権保障制度について、各国や国際社会がそれぞれどのような仕組みを講じているかを理解する。

Students will understand the structure, in which the two directions of modern society; globalization and nation-state system create various crises affecting human rights and security.

Students will understand how each country and the international community have adopted human rights protection systems formulated as systems of rights and obligations.

授業の内容 / Course Contents

人権は、近代社会を規律する重要な法的概念である。

グローバル化の時代を迎えて、世界規模での戦争や武力紛争が生み出した国際刑事司法や難民保護の制度は、従来の国境管理を基本とした国家の枠を超えてきている。一方で、移民排斥に見られるような排除型社会の進展は、従来の民族国家概念を頑なに守ろうとしている。また、世界経済の大きな流れは、従来の国家を超える存在としての世界企業を生み出し、人びとの生活に直接の影響を及ぼしている。

後期近代とも言われる現在、国や国際社会は、こうしたグローバルな動きに対して、人権という制度をどのように用いて対応しようとしているのか。さまざまなケースを通じて、問題の構造と、どのような対策を講じるかを考える。

受講者の研究内容に応じて、強弱を設ける予定。

Human rights are important legal concepts that govern modern society.

In the age of globalization, the international criminal justice and refugee protection systems created by world wars and armed conflicts have come to transcend national borders based on traditional border control. On the other hand, the development of exclusionary societies as seen in immigration exclusion is a stubborn attempt to keep the traditional nation-state concept. In addition, the great flow of the world economy has created global companies that are more powerful than traditional states, and this has a direct impact on people's lives.

How are governments and the international community trying to respond to such global movements using the human rights system, in this period which is said to be late modernity? We will consider the structure of the problem and what action to take in various cases.

We plan to change the priority of the topics as appropriate according to the study content of the students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：グローバル化とネーション＝ステートで考える人権
- 2 回：権利基盤アプローチ論：開発分野における権利義務の構造
- 3 回：グローバル化する企業を取り巻く国際的な人権基準
- 4 回：移民政策とグローバル危機
難民／入管政策と刑事司法の国際化
- 5 回：安全保障政策と刑事政策、人権政策
「国際組織犯罪」と「テロリズム」をめぐる
- 6 回：国際刑事裁判所と戦争の違法化
安全保障政策と「法の支配」
- 7 回：紛争地域と「保護する責任」
人道的介入と非軍事的措置
- 8 回：修復的司法（正義）と「和解」プロセス
- 9 回：「紛争下のジェンダー」を考える
- 10 回：「紛争鉱物」を考える
- 11 回：「児童労働」を考える
- 12 回：国際社会における人権基準化プロセス（死刑／拷問）
- 13 回：人権分野の NGO が果たすアドボカシー機能
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書 : ○ スライド (パワポ等) の使用 : ○ 上記以外の視聴覚教材の使用 :

個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク :
上記いずれも用いない予定	:		:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各自必ず講義ノートを作成すること。

- ①事前に概説書等を参考にする。(参考文献に挙げた資料などを読んでみる)
- ②授業に参加し、ノートに必要な事項を記録する。
- ③ノートの内容を確認しつつ、疑問点があれば質問する。
- ④授業中に示された参考図書等を調べて、ノートに反映させる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% コメントカード兼出席票:20% 授業中の発言等の参加度:20%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

アムネスティ・インターナショナル日本・国際人権法チーム 編著 ぼくのお母さんを殺した大統領をつかまえて。一人権を守る新しいしくみ・国際刑事裁判所 合同出版 2014 9784772611923

藤岡美恵子・越田清和・中野憲志 国家・社会変革・NGO 新評論 2006 4794807198

ジョック・ヤング 排除型社会 洛北出版 2007 9784903127040

ソーシャルジャスティス基金 民主主義をつくるお金 ハンズオン! 埼玉出版部 2015 9784990679125

ロイック・ヴァカン 貧困という監獄ーグローバル化と刑罰国家の到来 新曜社 2008 9784788511408

ハワード・S・ベッカー 完訳アウトサイダーズ 現代人文社 2011 9784877984946

その他 / Others

<http://www.teramako.jp/>

<http://www.ohchr.org/>

<http://www.amnesty.or.jp/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 20

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 20

(イスラム社会と国際協力)

景平 義文 (KAGEHIRA YOSHIFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM470

授業形態： ハイフレックス

授業形態(補足事項)【夏季集中講義日程】8月1日(木)2~6限、8月2日(金)2~6限、8月5日(月)2~5限

校地： 池袋

学期： 春学期他

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

シリアやアフガニスタンなど中東地域の混乱は、政治的あるいは軍事的なマクロな課題だけではなく、大規模な難民の流出に代表されるように、その地域で生きる人々をどのように支援するのかというミクロな課題を国際社会に突き付けている。しかしながら、日本における中東地域に対する理解は必ずしも高くはない。その要因としては、中東地域に関する情報が十分に流通していないことと、同地域における「イスラム」に基づいた社会規範が日本にとって馴染みのないものであることが挙げられる。本授業では、中東地域およびイスラム社会への理解を深め、援助や難民支援に関する知識を得ることを目的とするとともに、援助者にとって馴染みのない「他者」を支援すること、そして被援助者にとってなじみのない「他者」によって支援されることに生じる諸課題について考察を加える。

Recent unrest in the Middle East region, such as Syria and Afghanistan, has been posing a lot of challenges to the

world. These challenges are not limited to political or military issues in a macro perspective, but also include how the world is able to support the people of the region in a micro perspective. For instance, the world needs to seek for the better supporting mechanism to respond massive scale of displacement of refugees. However, knowledge and understanding on the Middle East is not always sufficient. This is simply because that quantity of information about the Middle East is low in Japan, and also because of unfamiliarity to social norms based on "Islam" in the region for Japanese people. This course aims to give the basic picture of the Middle East region and also to give knowledge on international aid and assistance for refugees. In addition, this course gives a focus on practical challenges when aid workers support the people with different culture and norms.

授業の内容 / Course Contents

現在の中東地域の混乱は、歴史に多くの原因を見ることができる。特に、オスマントルコ帝国崩壊前後の歴史について概観することで、中東地域の現代的課題を明らかにする。また、イスラム教を社会の基盤としている中東地域において、西洋的価値観を基盤とした開発あるいは国際協力を進める上での課題について説明する。その後、アフガニスタンとシリアの2ヵ国を例として、その歴史や社会について詳細に説明し、これらの国の現在の状況、そして国際社会の対応について掘り下げる。また、シリア危機によって生み出された大量の難民は、現代の世界が直面する大きな課題となっているため、難民支援および難民政策についても論じる。

The roots of recent unrest in the Middle East can be found in the history. In particular, by examining the history before and after the fall of the Ottoman Empire, we will clarify the challenges of the Middle East at present. In addition, we will clarify the thresholds to conduct development assistant based on Western concept of values in the Middle East where Islam is the foundation of society. We will look into the past and current situation of Afghanistan and Syria as examples to have deeper understanding how international society took actions for these countries. We will also discuss assistance for refugees, as it is a major challenge the world is now facing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：中東地域の保守的な社会規範に見る日本社会との隔たり
- 2 回：保守的な社会規範は改められるべきか否かについて考えてみる
- 3 回：アラブ民族主義やイスラム主義の淵源を歴史からたどる
- 4 回：アラブ民族主義やイスラム主義的な考え方は単に「過激」で「危険」なのか
- 5 回：難民に関する基礎知識
- 6 回：難民を支援するということ-トルコはどのようにシリア難民を支援しているのか-
- 7 回：難民はどのような支援を必要としているのか
- 8 回：国際社会は難民支援において何ができて、何ができないのか
- 9 回：日本における難民受け入れ論争について考えてみる
- 10 回：アフガニスタンにおける紛争の歴史を振り返る
- 11 回：タリバン政権は「邪悪」であり「打倒」されなければならないのか
- 12 回：国際社会によるアフガニスタン復興支援が破綻に至るまで
- 13 回：アフガニスタンの農村地域における調査から見える復興支援のほころび
- 14 回：まとめ-「他者」が「他者」を支援するということ-

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：

上記いずれも用いない予定　：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時間外の学習に関する指示は、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合　:100%　コメントカード兼出席票:60%　最終レポート:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

山内昌之　民族と国家-イスラム史の視覚から　岩波新書　1993　9784004302605

池内恵　サイクス=ピコ協定　百年の呪縛　新潮選書　2016　9784106037863

酒井啓子　＜中東＞の考え方　講談社現代新書　2010　9784062880534

墓田桂　難民問題 - イスラム圏の動揺、EU の苦悩、日本の課題　中公新書　2016　9784121023940

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 23

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 23

(人間の安全保障論)

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM473

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

「人間の安全保障」という概念・アプローチについて理論と実践双方から学び、同時に「人間の安全保障」の視点から、地球規模の様々な課題と対策について、また課題先進国日本が抱える諸課題について、当事者意識をもちつつ、理解を深めることを目的とする。

Students will learn the concepts and approaches of "human security" from both theory and practice. The purpose of the course is to deepen students' understanding from the perspective of "human security", on various global and local issues and measures,

授業の内容 / Course Contents

「人間の安全保障」は、インド出身の経済学者アマルティア・センの人間開発論を下敷きに、国連開発計画 (UNDP) が、1994 年の『人間開発報告書』の中で提唱した比較的新しい概念である。個人やコミュニティに焦点をあて、人間の安全保障を脅かす 2 つの脅威「欠乏」と「恐怖」からの自由を目指し、また「尊厳」とと

もに生きる自由、保護とエンパワーメントを提唱した。「人間の安全保障」へは様々なアプローチが可能だが、本講座では国際社会の危機管理という視点から、その歴史的背景と理論的枠組み、概念的広がり、実践と課題、関連する概念について、地球環境との共生も重要課題としつつ、学んでゆく。

また、ウクライナやガザ、シリア、アフガニスタン、スーダン、DRC などにおける人道問題、東日本大震災や日本の諸課題を「人間の安全保障」の視点から改めて検討し、元来、途上国を対象に提案された「人間の安全保障」概念が、現在進行形の紛争や先進国の課題分析にどのような視点をもたらさうか考察する。

"Human security" is based on the theory of human development by economist Amartya Sen from India, and is a relatively new concept proposed by the United Nations Development Program (UNDP) in the Human Development Report 1994. Focusing on individuals and communities, the concept advocated the protection and empowerment of each and every human being for freedom from "want" and "fear" as well as freedom to live with "dignity". Although various approaches to "human security" are possible, in this course, we will learn about the historical background, theoretical framework, conceptual spread, practice and issues, and related concepts from the perspective of crisis management in the international community.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：【第 1 部】理論・概念編

導入：国際社会の成り立ち、国連憲章を読む（1）

2 回：国連憲章を読む（2）

3 回：「人間の安全保障」概念登場の背景とその系譜・理論的枠組

・国家主権との関係、政策概念としての「人間の安全保障」、援助の実務概念・実践的アプローチとしての「人間の安全保障」

4 回：「人間の安全保障」の主要概念：

・保護と能力強化（エンパワーメント）、恐怖からの自由、欠乏からの自由、尊厳をもって生きる自由

5 回：「人間の安全保障」と「保護する責任（R2P:Responsibility to Protect）」、平和構築、「文民の保護（POC）」,紛争予防

6 回：「人間の安全保障と自然災害、減災・防災とレジリエンス（resilience）」

7 回：人間の安全保障と人権

8 回：【第 2 部】：地球規模課題各論

「人間の安全保障」と「持続可能な開発目標（SDGs）」

9 回：恐怖からの自由（1）：難民・国内避難民問題、小型武器、テロ

10 回：恐怖からの自由（2）：子ども兵、紛争鉱物、地雷、クラスター爆弾

11 回：欠乏からの自由（1）：貧困対策・環境・水問題

12 回：欠乏からの自由（2）：HIV/AIDS、エボラ、新型コロナ感染症、マラリア、結核など

13 回：尊厳をもって生きる自由：途上国の労働基準とサプライ・チェーンをめぐる課題、ジェンダー、紛争下の性暴力、人権

14 回：東日本大震災・課題先進国日本が抱える問題と「人間の安全保障」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワーポイント等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストおよび配布資料の講読

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業への積極的参加:25% 授業内での発表:25%

テキスト / Textbooks

長有紀枝 増補改訂版『入門 人間の安全保障 恐怖と欠乏からの自由を求めて』 中央公論新社 2021
412192195 ○

参考文献 / Readings

東大作・峯陽一他 『人間の安全保障と平和構築』 日本評論社 2017

人間の安全保障委員会 『安全保障の今日的課題』 朝日新聞社 2003

その他、授業中に指示・紹介する

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 24

Practical Application: Global Governance-Risk Governance 24

(メディアと政治・世論)

今里 義和 (IMAZATO YOSHIKAZU)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM474

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

政治、外交の新しい話題を取り上げつつ、広い視野の中で問題点を理解する。たとえば外交・安全保障の分野では米国、中国、ロシア、ウクライナ、中東、北朝鮮、韓国などに関連する時事問題を取り上げ、背景や今後の展開について考える。主要紙の論調を分析しながら、民主主義社会におけるメディアの役割、世論の影響について意見交換する。

We try to understand the significance of key issues of politics and diplomacy from a broad perspective on new topics. For example, in the field of diplomacy and security, current affairs related to the United States, China, Russia, Ukraine, Middle East, North Korea, South Korea, etc. will be taken up, and we will look into the background as well as future developments. While analyzing the tone of major newspapers, we will exchange views on the role of the media in our democratic society and the influential power of public opinion.

授業の内容 / Course Contents

- (1) 主要な時事問題を伝える各紙の報道、社説を比較する。紙面の傾向は、新聞各紙の間だけでなく、同じ新聞の各面の間でも違いがある実態を知る。それぞれの論調の背景などを考察し、意見交換する。
- (2) 外交・安保など硬派の政策の理解に必要な基礎知識を、具体例に即して解説する。
- (3) 報道にはさまざまな現実的な制約や、過誤もある。記者クラブ制、オフレコ取材、締め切り時間、コスト、禁止用語、社の経営上の立場などの実態と、報道への影響の例を検証する。
- (4) 記者の取材から紙面の製作に至る各現場の実情や、海外の新聞と比べた日本の新聞の特性、課題など新聞製作の基礎知識について、必要に応じて解説する。
- (5) 授業は討論、個人発表に重点を置く。受講生が順次それぞれテーマを選び、論点をまとめて発表、質疑応答する形式を中心とする。討論は互いの信条、立場を尊重しつつ展開する。
- (6) 期末には受講生が順次それぞれ小論文を書いて発表し、これをレポートとする。その際、文章論について具体例に沿って解説する。
- (7) 社説や記事など、討論に必要な資料は講師または発表者がファイルやコピーを用意し、配布する。
- (8) 政治、安全保障など、本科目と関連する分野について、補足的な講義を企画する可能性がある。

- (1) We compare the reports and editorials of major newspapers that cover current meaningful events. Students will get to know the tendency of each newspaper, which is different not only among newspapers but also on different pages of the same newspaper. Let's analyze and exchange opinions on the background of each tone.
- (2) Briefing the basic knowledge is available to understand complicated policies such as foreign policy and security, in line with specific examples.
- (3) There are various practical limitations and errors in the news. We will examine the reality of the press club system, off-the-record interviews, deadlines, costs, prohibited terms, and company management positions, etc. and consider examples of their influence on the news.
- (4) We will explain the basic knowledge of newspaper production such as the facts of each site from data collection by reporters to the production of pages, the characteristics and issues of Japanese newspapers compared with foreign newspapers.
- (5) The classes will emphasize discussion and individual presentations. Students will select themes respectively, summarize the issues, present them, and ask questions and give answers. We will have debates while respecting each other's beliefs and positions.
- (6) At the end of the course, each student will write a short editorial and present it, and make it into a report. At that time, comments on writing skill will be available in light of specific examples.
- (7) The lecturer or presenter will prepare and distribute files and copies of materials that would be necessary for discussion, such as editorials and articles.
- (8) We may plan supplementary lectures in the fields related to this subject such as politics, security, etc.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス。自己紹介の後、講義の目標と内容を説明し、学生らの質問に答える。
- 2回：講義と質疑応答、意見交換。テーマは、直近の時事問題から選ぶ。昨年は岸田首相のウクライナ訪問を取り上げ、その意義について日本外交の理念、日本の内政への影響などの観点から考え、外交と内政・世論が密接に絡み合うことを再認識した。
- 3回：講義と質疑応答、意見交換。昨年は、国際刑事裁判所(ICC)に焦点を当て、ロシアのプーチン大統領らの戦争犯罪を追及する国際刑事司法の役割について分析した。

- 4回：講義と質疑応答，意見交換。昨年は北朝鮮の核・ミサイル開発，拉致問題について知識を深め，これらの問題が日朝関係に及ぼす影響と今後の課題を考察した。
- 5回：講義と質疑応答，意見交換。昨年は，日本の政府開発援助(ODA)の意義，現状，安全保障政策との関連，今後の方向などについて分析した。日本自身，戦後復興でODAの助けを借りた経緯も再認識した。
- 6回：補足的な講義。昨年は英王立防衛安保研(RUSI)の秋元千明特別代表を教室に招き，ウクライナの軍事情勢や，地政学的な位置づけなどをめぐって最新の未公開映像で学び，自由に質疑応答した。
- 7回：講義と質疑応答，意見交換。昨年は2024年の大統領選を控えた米国の政治情勢を取り上げ，米中関係や日米関係など外交への影響を分析した。
- 8回：講義と質疑応答，意見交換。昨年は「中国」をテーマとして，G7各国が広島サミットで対中政策を「デカップリング」から「デリスクング」に修正した背景などについて考えた。
- 9回：講義と質疑応答，意見交換。昨年は日韓関係をめぐり，改善に至った経緯や背景，今後の課題などを分析した。
- 10回：講義と質疑応答，意見交換。昨年は台湾情勢を取り上げ，兩岸関係をめぐる台湾世論について学びつつ，2024年総統選を展望した。台湾情勢の展開に日本がどう備えるべきか，その課題も考えた。
- 11回：講義と質疑応答，意見交換。昨年は日本の防衛政策をめぐり，「反撃能力」の意味合いや，国産装備品の輸出問題，国内防衛産業の状況など，防衛力整備の直近の課題について分析した。
- 12回：講義と質疑応答，意見交換。昨年は「インド」に焦点を当てて，人口増に伴う経済成長の可能性，国内の複雑な社会構造，独自の外交政策などについて分析した。
- 13回：受講生による小論文発表と意見交換。講師は関連情報や基礎知識，文章論を解説する。
- 14回：受講生による小論文発表と意見交換。講師は関連情報や基礎知識，文章論を解説する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

教科書は指定しない。日常的に新聞などが報じる政治・外交ニュースや関連の社説，評論などを教材とする。講義で用いるニュース，記事があれば，随時，配布または連絡する。受講者の発表に際しては，先端的な話題をめぐり，まず主要2紙の社説の比較を推奨する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業に出席して発言、討論、発表する姿勢:60% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて，理論等学術的な知見を踏まえつつ，担当教員の実務家としての経験，または研究成果を活かし，教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には，課題の発表や討論など，授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 25

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 25

(気候変動とリスクマネジメント)

指田 朝久 (SASHIDA TOMOHISA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM475

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

人為的な温室効果ガスの排出による気候変動はほぼ確実といわれている。未来の地球を救うためにどのような政策をとってきたのか、またどのように考えればよいかを学ぶ。また増加する異常気象や気象災害から身を守るために気象現象の基礎を学び、天気予報や警報、避難指示などの制度を理解する。

Climate change due to anthropogenic greenhouse gas emissions is said to be almost certain. Students will learn what policies have been implemented to save the future Earth and how to think about them. Also, students will learn the basics of weather phenomena to protect themselves from the increasing number of extreme weather incidents and meteorological disasters, and understand systems such as weather forecasts, warnings, and evacuation advisories.

授業の内容 / Course Contents

気候変動を引き起こす二酸化炭素などの温室効果ガスによる気温上昇のメカニズムを学ぶ。その温室効果ガス

を減らす国際的枠組みであるパリ協定や COP およびエネルギー政策の現状を学ぶ。太陽光発電や風力発電の可能性には気象の理解が大きくかかわってくる。また、異常気象や気象災害から身を守るために、気象現象の基礎を学ぶ。気象予報士として、天気予報の仕組み、雨や雲、高気圧や低気圧、台風や梅雨のメカニズムをわかりやすく解説する。大雨警報や避難指示などの制度の解説を行う。授業当日の天気予報についても適宜解説する。

Students will learn about the mechanisms of rising temperatures due to greenhouse gases such as carbon dioxide that cause climate change. Students will learn about the current state of Paris Agreement, the international framework for reducing greenhouse gases, COP, and the current state of energy policies. An understanding of the weather is greatly relevant to the possibilities of solar and wind power. Students will also learn the basics of weather phenomena to protect themselves from extreme weather and weather disasters. As a weather forecaster, the lecturer will explain the mechanism of weather forecasts, rain and clouds, high pressure and low pressure, and the mechanism of typhoons and rainy seasons in an easy-to-understand manner. We will provide commentary on systems such as heavy rain warnings and evacuation advisories. We will provide commentary on the weather forecast on the day of class as appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：気候変動とリスクマネジメント ガイダンス、教科書の説明、近年の気象災害（2018年西日本豪雨、令和元年東日本台風災害）猛暑など
- 2 回：地球温暖化の科学（第1章） 気温上昇で困ること、なぜ起きるのか
- 3 回：気候変動枠組みの国際交渉（第2章） COP21、京都議定書、パリ協定ができるまで
- 4 回：日本のエネルギー政策（第3章） 代替エネルギーと気候、太陽光発電、風力発電
- 5 回：私たちに何ができるか（第4章） 日本の取り組み、気候変動適応法
- 6 回：気象災害に備える：天気予報の基礎、CO2サーモスタット、過去の気候、日本の四季
- 7 回：天気予報の仕組み、高層天気図、大気の大循環、海洋の熱塩循環、世界の気候
- 8 回：偏西風、高気圧・低気圧
- 9 回：温帯低気圧の理解、前線の理解
- 10 回：雨はなぜ降るのか、ゲリラ豪雨、雲の種類、上空の寒気とは
- 11 回：梅雨のメカニズム、線状降水帯、その他の気象災害
- 12 回：台風のメカニズム、温暖化と台風、高潮、強風、過去の台風災害
- 13 回：気象災害に遭わないために、ハザードマップ、警報・注意報、避難指示などの基礎知識
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日々の新聞などで気候変動に関するニュースを確認すること、授業期間中に開催される COP 会議の内容につき確認すること、天気予報・天気図を確認すること

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業時の積極的な発言・意見交換への参加:40%

テキスト/Textbooks

小西雅子 地球温暖化は解決できるのかーパリ協定から未来へ 岩波書店 2016 9784005008377 ○

参考文献 / Readings

岩谷忠幸 史上最強カラー図解プロが教える気象・天気図のすべてがわかる本 ナツメ社 2013
9784816350108

筆俣弘徳、芳村圭 天気と気象についてわかっていること知らないこと ペレ出版 2011 9784860643515

ニュートン ニュートン別冊天気と気象 ニュートンプレス 2011 9784315519044

渡部雅浩 絵で分かる地球温暖化 講談社 2018 9784065119464

その他/ Others

気候変動に関する国際情勢は日々変化しています。様々なニュースに注目してください。空を見上げて雲など興味を持って眺めてみてください。なお、顕著な気象災害が発生した場合は、その解説を行うなどにより授業内容を組み替えることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 27

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 27

(人新世の社会デザイン学概論)

中野 佳裕 (NAKANO YOSHIHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会デザイン研究科
科目コード等：	VM477
授業形態：	ハイフレックス
授業形態 (補足事項)	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SDS5410
使用言語：	日本語
授業形式：	講義
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、人新世の大加速化時代に生きる人類が直面する主要課題をテーマ別に学ぶことを目標とする。関連する海外の最新記事や重要論文を英語で読み、国際的な議論の最前線を追いかけることで「人新世の社会デザイン学」の輪郭を受講生とともに描いていく。

The objectives of this course are to examine diverse socio-ecological issues concerning the Great Acceleration of the Anthropocene. It aims to design 'Social Design Studies in the Anthropocene' through reading key research articles and documents written in English.

授業の内容 / Course Contents

20 世紀の「開発」の時代、国際社会は世界規模での経済開発を進めてきた。その結果として起こった消費社会のグローバル化は地球システムの均衡を大きく改変し、気候変動と生物多様性の喪失に付随する複合的な危機 (e.g., 新型コロナウイルスのパンデミック、食料危機、エネルギー危機) を生じさせるにいたっている。本講義では、

国際社会でこれらの諸問題が議論される時によく言及される鍵概念や視点を海外の論文／記事から紹介し、人新世の社会デザイン学の基本的視座を養う。

- * 各回の授業で海外の重要論文／記事（英語）を読み、ディスカッションを通じて理解を深めていく。
- * 授業自体は日本語で行う。

In the late 20th century, the international society implemented a global development project leading to the rise of globalised consumerist society. This globalization of consumerist civilization is transforming Earth's biophysical equilibrium, which eventually leads to multiple climate change-related crises such as pandemics and food and energy crises. In this course, students discuss diverse socio-ecological issues concerning the Great Acceleration of the Anthropocene.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：Introduction
- 2 回：What is the Anthropocene?
- 3 回：Planetary Boundaries and their implications for Sustainable Development Goals
- 4 回：Climate Anxiety: a Growing Impact of Climate Change on Mental Health
- 5 回：Planetary Health: a New Guide for Global Health Ethics
- 6 回：Politics of Sustainability: UN Sustainable Development Policies re-examined
- 7 回：Politics of Global Food System: Corporate Strategies of 'New Green Revolution'
- 8 回：Why Does Agroecology Matter in Food Sovereignty and Food Justice?
- 9 回：Inequality Kills: State of Global Inequality in a Time of Pandemic
- 10 回：Transition Discourses: Design for the Pluriverse
- 11 回：Degrowth and Re-politicizing the Global Sustainability Debate
- 12 回：Why Do Happiness and Social Capital Matter in Sustainability? A Guide to Public Policies
- 13 回：Reclaiming Public Services: the Rise of Global Municipalist Movement
- 14 回：Beyond Covid-19: A Feminist Plan for Sustainability and Social Justice

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

各回のリーディング・マテリアルを事前に読んで上で授業に参加すること。

Students must read reading materials in advance and prepare for in-class discussion.

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への積極的な参加（Active participation to the class）：50% 各回の個人プレゼンテーション（In-class presentation）：50%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。各回の授業内容に合わせたリーディング・マテリアルを配布する予定。

Reading materials will be provided.

参考文献 / Readings**履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course**

* 当該分野に関する人文・社会・自然科学系の英語論文・報告書を精読し、日本語でまとめるだけの語学力を必要とする。

* 講義自体は日本語で実施する。

その他/ Others

講師のウェブ研究室：<https://postcapitalism.jp/index/>

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 29

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 29

(災害と事業継続計画 BCP)

指田 朝久 (SASHIDA TOMOHISA)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM479

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

2016 年の熊本地震、また 2018 年は西日本豪雨、台風 21 号、北海道胆振東部地震、2019 年は台風 15 号、19 号など、風水害や地震が相次ぎ自治体と企業が被災したことは記憶に新しい。地震、津波、台風、水害、火山など自然災害について東日本大震災などの事例と今後発生しうる首都直下地震、などの被害想定を取り上げ、人的被害および経済的被害の極小化の最新の経営管理手法である事業継続計画 B C P につき解説する。また、災害発生時の組織の危機管理手法を学ぶ。災害対応における国、自治体、企業、NPO/NGO、自治会・市民などそれぞれの役割と関係性を理解する。

In recent memory, local governments and companies have been damaged by storms, floods and earthquakes, such as the 2016 Kumamoto Earthquake, the 2018 West Japan heavy rain, typhoon 21, and the Hokkaido Iburi Eastern Earthquake, and the 2019 typhoon15, typhoon19. Regarding natural disasters such as earthquakes, tsunamis, typhoons, floods and volcanoes, we will explain business continuity plans (BCP), which are the latest business

management method of minimizing human and economic damage, considering cases such as the Great East Japan Earthquake and possible future damage caused by the Tokyo Inland Earthquake, etc. In addition, students will learn crisis management methods of organizations at the time of disaster occurrence. Students will understand the roles and relationships of Government, local governments, companies, NPOs/NGOs, community associations, and citizens, etc.

授業の内容 / Course Contents

一度に多くの被害が発生している災害として、地震とこれに付随する災害、気象災害、感染症などがあり、日本においてはこれらの災害のいずれについても歴史上の記録がある。東日本大震災や阪神・淡路大震災などでは多くの人的被害が発生し、必ずしも防災、減災対策が機能していないことが明らかとなった。気象災害などでは予兆をとらえることができ、災害発生メカニズムや地域社会の特性を知ることにより、人命安全をはじめとする適切な回避行動をとることができる場合もあるが、2018年の西日本豪雨のように多くの人が逃げ遅れて救助される結果となっている。一方、東日本大震災でも明らかのように、人命が助かってもその後の経済活動の復旧がなければ生活は厳しいものとなる。本科目では自然災害について事例を取り上げ、人的被害の極小化とともに、組織の事業継続計画（BCP）についてグローバル・リスクガバナンスおよび危機管理の視点で研究し、地域社会の継続に向けた社会デザインを考える。

授業は国の被害想定や各種報告書、対策大綱、国際標準規格などを読み解くとともに、災害の時系列に伴う諸事情と被災の関係性を適宜議論およびディスカッションしていく。また、ゲームも実施することにより、事業継続計画をはじめとする組織としての危機管理や災害対応につき受講生の理解を深める。

As disasters where much damage occurs at one time, we can consider earthquakes and associated disasters, meteorological disasters, and infectious diseases, etc., and in Japan, there is a historical record of all of these disasters. The Great East Japan Earthquake, the Hanshin-Awaji Earthquake, etc. caused a large amount of human damage, and it became clear that disaster prevention and mitigation measures did not necessarily work. In the case of meteorological disasters, etc., it is possible to see the signs, and by knowing the mechanism of disaster occurrence and the characteristics of the local community, it may be possible to take appropriate evasive actions including saving lives. However, in the heavy rains of 2018 in West Japan, many people were too slow to escape and had to be rescued as a result. On the other hand, as is clear from the Great East Japan Earthquake, even if lives are saved, life will be difficult unless economic activity is restored. In this course, we will consider cases of natural disasters, research organization's business continuity plans (BCP) from the perspective of global risk governance and crisis management while minimizing human damage, and think about social design for the continuity of local communities.

In the classes, we will interpret the Government's damage assumptions, various reports, measures guidelines, and international standards, etc., and will discuss the relationships between circumstances and disasters that accompany the time series of disasters as appropriate. In addition, by playing games, students will deepen their understanding of crisis management and disaster response for organizations including business continuity plans.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション、東日本大震災を振り返る
- 2 回：気象災害、ハザードマップ・警報と避難；西日本豪雨を振り返る
- 3 回：被害想定を読み解く；首都直下地震被害想定
- 4 回：被害想定を読み解く；南海トラフ地震被害想定
- 5 回：被害想定を読み解く；火山災害、富士山噴火被害想定、破局噴火
- 6 回：人命安全の基礎；建築基準法の基礎、帰宅困難者問題と組織、要援護者の保護

- 7回：事業継続計画（BCP）の基礎
 8回：事業継続計画のコア概念：代替戦略、重要製品の選択、サプライチェーン
 9回：事業継続計画：企業の新型コロナ対応
 10回：政府・自治体の業務継続計画、応援支援体制
 11回：企業の地域貢献、地域との協調
 12回：危機管理と意思決定：意思決定ゲーム（クロスロード）
 13回：地域継続計画（DCP）および市町村地域継続計画（MCP）について
 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業の進行とともに立教オンライン授業支援システム CanvasLMS に講義に関連する政府の各種被害想定および報告書、大綱、ガイドラインなどを適宜提供してゆく。これらを閲覧し予習しておくこと。自然災害の現状や国の取り組みなどにつき把握し、組織としてどのように対応を考えるべきか自分の意見をまとめておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業における発言の積極性および内容:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

東京海上日動リスクコンサルティング 『企業の地震リスクマネジメント入門』 日科技連 2013
 9784817194985

東京海上日動リスクコンサルティング 実践事業継続マネジメント第4版 同文館 2018 9784495376444

東京海上ディーアール株式会社 これだけは知っておきたいリスクマネジメントと危機管理ガイドブック 同文館 2022 9784495390662

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 3 1

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 31

(エシカル消費総論－2)

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： VM481
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SDS5410
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

3 年におよぶコロナ禍の収束を喜ぶ間もなく、ウクライナ危機につづき、中東での紛争にが今のグローバル社会を脅かしている。また、地球温暖化は今や気候危機といわれるようになり、世界各地での異常気象は加速化常態化し、我々の経済社会生活に大きな影響をあたえつつある。しかしこの異常気象は人間活動がもたらした帰結でもある。人類が農耕生活を始めて以来世界の森林面積の 1/3 は失われた。それにとどまらず、2050 年の海には魚よりプラスチックの方が多くなるといわれるように、私たちの消費活動は地球に大きな影響を与えている。また、コロナ禍につづく戦火と異常気象は移民労働者や途上国の一次産業従事者など最も脆弱な人たちの生活を脅かし、SDGs のゴール達成を遠ざけている。今や政府や企業だけでなく、私たち消費者の立場から、いかにサウテナブルな社会構築にコミットできるかを考える。

After Covid19, the global society is suffering from geopolitical risks both in Ukraine and in Middle East while extreme weathers caused by climate change continues to harm our society, which is caused by human activities.

A third of the forest was lost since humans began agriculture. Our mass consumption is damaging the planet. Covid 19 and conflicts are especially damaging the lives of the most vulnerable low income people, hindering the attainment of SDGs. Now that not only government and business but also consumers should play the key role in transforming to our society into more sustainable one.

授業の内容 / Course Contents

社会人になると、論文や提言など全部を読んで勉強する機会は意外に少ない。要約文であったりコンサルタントなどの資料から内容を理解することが多い。業務上はそれで事足れることが多いからだ。しかし、その要約にはかならず要約した人のバイアスがはいるし、現物のメッセージとは違っていることも少なくない。現物を読んでみて気が付くことも少なくない。

そこでこの講義では①持続可能な社会づくりにエポックメイキングな提言となっている文献を時間内にしっかり読み、その内容について議論していくことで、持続可能な社会づくりのために必要な基礎知識を得る。この講座は VM320 と連動しており、VM320 の講義に合致する文献を読むので、できれば両方受講することが望ましい。文献は、サステナビリティの基礎となる文献も読むが、最新動向を見る上で最新の文献も目を通したい。よって、以下の文献は、前年までの講義で使ったものを掲載しており、必要に応じて変更する。

Being business persons, there are few chance to read reports and proposals directly. Usually, summarized documents by consultants will be enough for business use. But summarized documents are biased and reading full documents may have different messages and giving different messages/ In this course , we take time to read some of the epoch making reports in sustainability arena and discuss over the contents of these documents, and will acquire better knowledge and perspectives of each sustainability issues. This course is related to VM320, so it is preferable to take both course, since VM320 will cover the theoretic part and this course offers time to read reports related to the topic covered in VM320. The candidates of the reports and sometimes interesting articles are those related to SDGs, environmental issues, and social issues. The list is the candidate of reports to cover, since updated reports are more preferable.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：国連人間環境会議（ストックホルム会議：1972 年）（env.go.jp）

1992年

国連環境開発会議（地球サミット：1992 年、リオ・デ・ジャネイロ）環境と開発に関するリオ宣言（env.go.jp）

2002年

持続可能な開発に関するヨハネスブルグ宣言（仮訳）（mofa.go.jp）

2015年 SDGs

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf>

事務総長報告『私たちの共通の課題（Our Common Agenda）』概要の日本語訳は

2 回：2. 気候変動に関する環境省レポート、生物多様性に関する 30 by 30 ロードマップなど

3 回：人権問題：ラギー報告企業と人権に関するガイディング原則：日本のビジネスと人権に関する行動計画など

4 回：SDGs についての報告書「2030 アジェンダの履行に関する 自発的国家レビュー2021」など

5 回：エネルギー：第六次エネルギー基本計画、自然エネルギー財団 「脱炭素の日本の自然エネルギー戦略」、河口真理子「一次産業としての再生可能エネルギー」など

6 回：サーキュラー：プラスチックリサイクルに関する「Plastic+Atlas+Asia+2022」家電リサイクル法の報告

書など

7回：食：農水省 「緑の食料戦略」、食糧・農業・農村基本法見直し、NGO などによる食品会社の評価レポートなど

8回：食品会社各社のサステナビリティレポート、消費者白書など

9回：エシカルファッションに関するレポート：インドにおけるオーガニックコットン レポートなど

10回：エシカル消費に関する資料、報告書

11回：住に関する文献：グリーンビルディングジャパン 学生オピニオンチャレンジ2021の入賞作など、住宅メーカーサステナビリティレポートなど

12回：交通に関する報告書 国交省「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会中間とりまとめ」など

13回：ソーシャルファイナンス：寄付白書、クラウドファンディングサイト セキュリティサイト情報など

14回：サステナブルライフスタイルに関するもの：「1. 5℃ライフスタイル」、日本政府「SDGsアクションプラン」など

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

毎回リアクションペーパーを提出すること

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席率・発言・リアクションペーパーなど:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 3 3

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 33

(アジアと平和1)

倉本 由紀子 (KURAMOTO YUKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM483

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

日本を取り巻くアジア情勢は、多様な価値観や考え方が衝突することが多く、国内外での対立が絶えません。国際政治学の重要なテーマの一つである「戦争と平和」について学びながら、戦争や紛争は、なぜなくなるのか、平和な社会には、何が必要なのかという「問い」へ答えを考察し、追求することを目標とします。

How can we achieve world peace? To address this question, this course aims to equip students with relevant academic tools to analyze "war and peace" as a dominant theme of international relations.

授業の内容 / Course Contents

授業では、戦争や紛争が起こる要因や解決方法について、国際政治の歴史や先行研究から学びます。冷戦終結後 30 年経過した国際社会において、平和や平和主義の概念についてあらためて考察し議論することで、日本の安全保障政策や「日本の平和外交」についても再検証します。

Through a survey of world history and research literature reviews of international relations, this course aims to

help students to understand the causes of war and how military hostilities can be avoided. Additionally, students will also study concepts and methods of conflict resolution and peacebuilding, examine Japanese pacifism, and evaluate security policies for the future.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：国際政治学と「戦争と平和」について
- 2 回：国家の安全と個人の安全は両立するのか
- 3 回：新自由主義的グローバル化は暴力をもたらしているのか
- 4 回：差別・排除の克服は平和の礎となるのか
- 5 回：ジェンダー平等は平和の基礎か
- 6 回：国連は普遍的平和を目指せるか
- 7 回：市民や NGO による国境を越えた連帯は国際平和に貢献しているのか
- 8 回：人道介入は正当か
- 9 回：援助は貧困削減に有効なのか
- 10 回：紛争後の社会の平和を再建するには謝罪と償いが必要か
- 11 回：被爆地の訴えは核軍備を促進したか
- 12 回：日米安全保障条約は日本の平和の礎であるのか
- 13 回：日本国憲法の平和主義は日本の安全と世界平和に貢献しているのか
- 14 回：戦後補償問題はすでに解決済みであるか

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキストの章立てに沿って授業を進めるので、該当箇所を読んで授業に臨んで下さい。

また、授業に実施するディスカッションに参加するためにも、国際問題に興味を持ち、国内外から発信される信頼可能な情報を積極的に入手するようにしましょう。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% 授業参加度・課題発表など:50%

テキスト / Textbooks

日本平和学会 編 『平和をめぐる 14 の論点』 法律文化社 2018 9784589039545 ○

参考文献 / Readings

篠田英朗 『国際紛争を読み解く五つの視座』 講談社 2018 9784062586177

宮城大蔵 『戦後日本とアジア外交』 ミネルヴァ書房 2019 9784623072163

石井明・朱建栄 編 『東アジア国境紛争の歴史と論理』 藤原書店 2022 9784865783605

ジョセフ ナイ Jr・デイヴィッド ウェルチ 『国際紛争 理論と歴史 原著第 10 版』 有斐閣 2017
9784641149175

大矢根聡 編 『国際関係理論と日本外交史』 勁草書房 2020 9784326302857

山田満 『平和構築のトリロジー』 明石書店 2021 9784750352046

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 4 4

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 44

(自己決定権と意思決定支援)

水島 俊彦 (MIZUSHIMA TOSHIHIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM494

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

障害者権利条約に基づく障害のある人の支援付き意思決定の考え方と厚生労働省等が発出したガイドラインにおける意思決定支援プロセスについての理解を深めること、本人の表出された意思・心からの希望 (expressed wish) や選好や価値観 (values and preferences) を把握するための基礎的な実践手法を学ぶこと、そして、社会デザインとしての自己決定権のあり方について議論すること、が本授業の目的です。

前記目的達成のため、以下の目標を設定します。

- (1) 障害のある人の自己決定権の重要性と本人中心アプローチが必要な根拠や背景を知る。
- (2) 認知症の人の日常生活・社会生活、障害福祉サービス、人生の最終段階における医療ケア (身寄りのない人を含む)、成年後見など、それぞれの場面に適用される「意思決定支援」ガイドラインを概観し、その共通点及び課題を理解する。
- (3) 障害者権利条約及び同委員会による日本への総括所見の内容を踏まえ、日本の司法、福祉現場等におけ

る最善の利益に基づく代行決定型のアプローチに対する問題点を理解する。

(4) 本人の意思、選好や価値観を把握するための実践手法及び意思決定への本人参加を保障するための具体例を知る。

(5) 受講者が現場や日常生活に戻って意思決定支援に取り組むためのヒントを得る。

(6) 国内の意思決定支援、代行決定に関わる制度・実務上の課題を発見・整理し、人権モデルに基づく支援付き意思決定の理念を広く社会に浸透させるために必要な社会デザインを考える。

This course aims to improve students' understanding of the concept of supported decision-making by persons with disabilities based on the United Nations Convention on the Rights of Persons with Disabilities (UNCRPD), and the decision-making support process in the guidelines published by the Ministry of Health, Labor and Welfare, and so on.

Students can also learn basic practical methods for grasping persons' expressed wishes, values, and preferences and also discuss the rights of self-determination as social design.

The following goals are set to achieve the aims above:

(1) Understand the importance of the rights of decision-making by persons with disabilities and the rationale and background for the need for person-centered approach.

(2) Understand the commonalities and challenges the "Guidelines of decision-making support" in the field of the daily and social life of persons with dementia, disability welfare services, medical care in the end of life (including persons without relatives), adult guardianship.

(3) Understanding problems with the substitute decision-making based on the best interest approach in judicial and welfare fields in Japan, according to the UNCRPD and concluding observations for Japan.

(4) Learning practical methods for finding will, value and preferences of persons with disabilities and concrete examples of how to guarantee their right of participation in the decision-making process.

(5) Acquire hints regarding supported decision-making in practice for students in the field of their work and daily life.

(6) Discover systems and practical issues related to decision-making support and substituted decision-making in Japan and consider the social design necessary to spread the philosophy of supported decision-making based on the human rights model widely.

授業の内容 / Course Contents

授業では、学生は意思決定支援の基本的姿勢と具体的スキルを学びます。講義は原則としてパワーポイントを使用し、映像資料や現物資料なども適宜活用します。さらに、各意思決定支援に関するガイドラインをよりよく理解するために、テキスト及びビデオ素材等を使用したロールプレイングやグループディスカッション等を取り入れて演習を行います。

In this course, students learn the basic attitude and specific skills of supported decision-making. The lecturer principally uses PowerPoint slides but also video and actual materials as appropriate. In addition, for students to understand better the guidelines for each decision-making support, exercises incorporate role-playing and group discussions using text and video materials.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：【ガイダンス】 自己決定権と意思決定支援について – 表出された意思 (expressed wish) vs 最善の利益 (best interests) –

2 回：【全般】 意思決定支援に関わる制度と実践 – 英国意思決定能力法 (MCA2005) と障害者権利条約

(UNCRPD) -

- 3回：【高齢障害領域】認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン（1）講義
 4回：【高齢障害領域】認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン（2）演習
 5回：【障害領域】障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン（1）講義
 6回：【障害領域】障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン（2）演習
 7回：【障害領域】障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン（3）トーキングマット演習
 8回：【医療領域】人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン
 9回：【医療領域】身寄りがいない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン
 10回：【司法福祉領域】司法ソーシャルワークと意思決定支援
 11回：【司法福祉領域】意思決定支援を踏まえた成年後見人等の事務ガイドライン（1）講義
 12回：【司法福祉領域】意思決定支援を踏まえた成年後見人等の事務ガイドライン（2）演習
 13回：【全般】意思決定支援・代行決定における濫用を防止するための権利擁護（アドボカシー）
 14回：【まとめ】自己決定権と意思決定支援について

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	○
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	○	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

厚生労働省等が発出した以下の意思決定支援に関わるガイドラインについて、各回の前に目を通しておくことが望ましい。そのほか、必要に応じて、授業内で都度指示する。

- ・障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン（2017.3 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部）
- ・認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン（2018.6 厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室）
- ・人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン（2018.3 厚生労働省医政局地域医療計画課）

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% リアクションペーパー:30% 授業への積極的な参加・グループディスカッションにおける寄与度:40% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

名川勝・水島俊彦・菊本圭一=編著 事例で学ぶ 福祉専門職のための意思決定支援ガイドブック 中央法規 2019 9784805859698 ○

テキストのほか、授業内で追加資料を配布します。なお、テキスト内の事例や各ガイドラインの事例を活用して演習を行う場合があります。

参考文献 / Readings

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟=編集 最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度 中央法規 2021 9784805882399

平野隆之, 田中千枝子, 佐藤彰一, 上田晴男, 小西加保留 編著 権利擁護がわかる意思決定支援：法と福祉の協

働 ミネルヴァ書房 2018 9784623083787

公益社団法人日本社会福祉士会 編 ソーシャルワーク実践における意思決定支援: ミクロ・メゾ・マクロシステムの連鎖的变化に向けたエンパワメント 中央法規出版 2023 9784805889220

水島俊彦・児玉洋子 (論文)「成年後見制度と意思決定支援」(実践成年後見 73号, 56-66) 民事法研究会 2018

水島俊彦 (論文)「障害者権利条約 12 条の趣旨に照らした意思決定支援制度の構築のための留意点: 南オーストラリア州支援付き意思決定モデル(S.A.-SDM)から学ぶ(特集 知的障害のある人に対する「意思決定支援」をめぐって)」(発達障害研究: 日本発達障害学会機関紙 40号(2), 126-135) 日本発達障害学会 2018

水島俊彦 (論文)「司法ソーシャルワークと成年後見制度拡充活動: 「佐渡モデル」からみる地域支援への発展プロセス」(総合法律支援論叢 4号, 25-49) 日本司法支援センター 2014

水島俊彦 (論文)「特集: 権利擁護を「当事者参加」の観点から再検証する 「意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン」が目指すもの(社会福祉研究 142号, 45-54) 公益財団法人鉄道弘済会 2021

日本弁護士連合会第 58 回(2015 年)人権擁護大会・シンポジウム第 2 分科会基調報告書・資料集も適宜ご参照ください。 https://www.nichibenren.or.jp/document/symposium/jinken_taikai.html

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

法律知識や支援経験等は特に不要ですが、授業ごとに提供される様々な事例を通じて、他者の考えを受け入れつつ、自問自答しながら考える能力が求められます。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

オンライン接続が可能な PC、タブレットをご準備ください。

その他/ Others

第一回目授業「ガイダンス」にて、授業の方針・進め方を説明します。その際に、履修者全員の了承が取れた場合には、「オンラインのみ」で授業を行うことがあります。ただし、その場合でも「トーキングマット演習」に関しては対面での実施を予定しておりますので、あらかじめご承知おきください。

講義・演習それぞれにおいて動画教材等を適宜活用しながら、初学者の方にもできるだけわかりやすい授業を心がけます。

担当教員が所属する一般社団法人日本意思決定支援ネットワーク HP (<https://sdm-japan.net/>) もご参照く

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス演習 4 5

Practical Application:Global Governance-Risk Governance 45
(環境人文学)

森田 系太郎 (MORITA KEITARO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： VM495
授業形態： ハイフレックス
授業形態 (補足事項)
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 2
科目ナンバリング： SDS5410
使用言語： 日本語
授業形式： 講義
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

環境人文学における代表的な理論や研究アプローチを理解することを目標とする。

This course aims for students to understand relevant theories and research approaches within the environmental humanities.

授業の内容 / Course Contents

毎回、環境人文学の代表的なトピックを 1 つ取り上げる。受講生は事前に指定文献を読み、また各回の指定発表者は授業時にレジюмеを発表 (受講生数によっては応相談)、クラスでは積極的にディスカッションに参加する。

Each class picks one relevant topic within the environmental humanities. Students are expected to read the designated literature in advance, present a summary in class when assigned as a presenter (to be discussed depending on the number of students), and actively engage in in-class discussion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
 2回：環境人文学・序説（1）
 3回：環境人文学・序説（2）
 4回：環境人文学・序説（3）
 5回：環境文学批評（エコクリティシズム）（1）
 6回：環境文学批評（エコクリティシズム）（2）
 7回：環境文学批評（エコクリティシズム）（3）
 8回：マルチスピーシーズ（動物論）
 9回：マルチスピーシーズ（植物論）
 10回：環境と食（フードスケープ [食の風景]）
 11回：環境とジェンダー（エコフェミニズム）
 12回：環境とセクシュアリティ/LGBTQ+（クィアエコロジー）
 13回：人新世
 14回：ポストヒューマン（人間以降）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

初回の授業時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 授業内の発表:25% 授業内ディスカッションへの貢献:15%

3分の2以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

初回の授業時に指示する。

参考文献 / Readings

野田研一・山本洋平・森田系太郎・編著 『環境人文学 I ——文化のなかの自然』 勉誠出版 2017
9784585291282

野田研一・山本洋平・森田系太郎・編著 『環境人文学 II ——他者としての自然』 勉誠出版 2017
9784585291299

結城正美・著 『文学は地球を想像する——エコクリティシズムの挑戦』 岩波書店（岩波新書） 2023
9784004319887

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、ご自身の PC をご持参ください。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討

論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス特講 1

Advanced Seminar on Global Governance-Risk Governance 1

(森林列島再生と社会デザイン)

塩地 博文 (SHIOCHI HIROFUMI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM498

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

カーボンニュートラル社会の実現に向けて、森林資源と木造建築の一体成長を具体化し、それを社会行動へと繋げる人材養成を目標とする。本講義を通じて、受講生諸君が可能となる、身近で、すぐにでも開始できる社会実装の具体案を指し示す。社会実装の具体化とは、受講生自身の社会実装実現能力の向上であり、その行動力の解放こそ、本授業の目標である。

For the achievement of carbon neutrality, forestry resources and wooden buildings grow together for the same direction. In order to performe this target in the real society, practical skills are required. Able person is nurtured through the course.

授業の内容 / Course Contents

社会人として事業経験を有し、今尚、経営者としてカーボンニュートラル実現へ、その社会実装に挑んでいる授業担当者として、以下を講義し、具体的な方法論を紹介する。①森林資源、特に我が国の実情と、最先端 I

CT化の動き。②木造建築の可能性と課題点の抽出。③森林資源と木造建築の融合、そして同時成長の具体化を検証。④再造林化がもたらす社会デザイン。

Through experience of business-man and top management in venture company, the lecture is provided as follows.

1. Forestry resources and ICT growth in Japan
2. Task and challenge of wooden buildings in Japan
3. Integrate between forestry and wooden building
4. Reforestation makes the coming society

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション ～ 年間スケジュールの提示と共有
- 2回：森林資源の理解と社会課題の抽出① ～ 海外木材との対比含めて
- 3回：森林資源の理解と社会課題の抽出② ～ 国内森林資源の実情
- 4回：森林資源の理解と社会課題の抽出③ ～ 林業デジタル化
- 5回：建築生産に於ける社会課題① ～ 木造建築の広がり
- 6回：建築生産に於ける社会課題② ～ 大工の職能の歴史と社会的役割
- 7回：建築生産に於ける社会課題③ ～ デジタル化の広がり
- 8回：森林と建築の融合① ～ 通底する社会課題の抽出と検証
- 9回：森林と建築の融合② ～ 双方の異質分野の抽出と検証
- 10回：森林と建築の融合③ ～ 同時解決の処方と具体化
- 11回：森林と建築の融合④ ～ 融合事例の社会提案
- 12回：森林列島再生と社会デザイン① ～ 再造林の現状と未来
- 13回：森林列島再生と社会デザイン② ～ 森林は誰のもの
- 14回：総括 ～ 講座の総括と未来課題の共有

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

『森林列島再生論』の予習。

授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途行う。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業参加:30% 授業内で指示する小レポート提出:30% 最終レポート割合：40%最終テスト割合：0%

テキスト / Textbooks

塩地博文 森林列島再生論 日経BP 2022 ○

参考文献 / Readings

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

社会の複雑な利害関係に消耗せず、具体的で実践可能な社会実装の在り方を探ってみたい学生を求めています。

その他/ Others

実業界での経験を生かし、「誰でもいつでもすぐにでも開始できる」社会実装の提案を講義したいと思っています。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

グローバル・リスクガバナンス特講2

Advanced Seminar on Global Governance-Risk Governance 2

(メディアリテラシーとファクトチェック)

宮本 聖二 (MIYAMOTO SEIJI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM499

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS5410

使用言語： 日本語

授業形式： 講義

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

メディア・情報空間の混乱は大きな問題だ。

ロシアのウクライナ侵攻、ハマス・イスラエルの武力衝突、福島第一原発の処理水、大地震。こうした出来事のたびに、膨大な量の情報が行き交い、そこに誤情報/偽情報があふれ、私たちの社会に実害をもたらす。

また、LGBTQ やジェンダー、貧困格差、気候変動などの社会課題に対して、そもそもそうした問題はないと言ったデマが拡散する。情報汚染は、社会デザインを進める上でも、社会排除や分断を引き起こす。

ソーシャルネットワーク、動画配信プラットフォームは、もはや私たちが生きていく上で欠かせないインフラとなっている。その情報が行き交う空間を健全化するのは、私たちの大切な役割である。

この演習では、現代の情報の特性と流通の現状・課題を確認しながら、鍵を握るプラットフォームの成り立ちやアルゴリズムについて知識を深める。

さらに、誤情報や偽の情報はどのように生成され、どのように共有・拡散されるのかを把握する。

私たちの社会はさまざまな課題を抱えている。その課題を正しく把握し、皆がその解決の方向に目を向けるようにするためのもの、誤っていたり、意図的な偽の情報を背後に退けなければならない。

まず、メディアリテラシーを身につけた上で、メディア・情報空間を健全化するための「ファクトチェック」の基礎から応用までを学び、「リテラシー向上」の担い手になることを目指す。

Disruption in the media and information space is a major problem.

Russia's invasion of Ukraine, Hamas-Israel armed clashes, treated water at the Fukushima Daiichi nuclear power plant, major earthquakes. With each of these events, a huge amount of information comes and goes, and there is a flood of misinformation/false information that causes real harm to our society.

In addition, falsehoods about social issues such as LGBTQ, gender, poverty inequality and climate change are spread, saying that such issues do not exist in the first place. Information pollution also causes social exclusion and fragmentation in the advancement of social design.

Social networks and video distribution platforms have become an indispensable infrastructure for our lives. It is our important role to ensure the health of the spaces where this information comes and goes.

In this exercise, we will review the characteristics of modern information and the current state and challenges of its distribution, while deepening our knowledge of the origins and algorithms of the platforms that hold the key. Furthermore, you will gain an understanding of how misinformation and false information is generated and how it is shared and spread.

Our society faces a wide range of challenges. In order to correctly identify these challenges and to ensure that everyone looks in the direction of solutions to them, we must also put false information that is incorrect or deliberately false behind us.

The first step is to learn the basics and applications of 'fact-checking' in order to make the media and information space healthier and to become a leader in 'improving literacy'.

授業の内容 / Course Contents

まず、現代の情報空間の特性を概観する。SNS や動画配信プラットフォームでは、膨大な情報が日々飛び交うこと。その中で、アテンションエコノミーやフィルターバブルといった現象が起きて、ユーザーが気づかないうちに、望んでもいない情報や言説に取り囲まれる状況になっていることなどを各種研究やデータで確認する。

情報の中には、ユーザー個人や社会に有害でコストをもたらすものを多く含むことを学び、それらをどのような感知して、より分けるのか、といったリテラシーを獲得する

さらに能動的に情報を精査して共有できるようになるためにファクトチェックの手法を学ぶ。世界的には専門家だけでなく草の根のファクトチェックが広がっている。

ファクトチェックについては講義で基本を身につけ、その後探索、検証、テキスト化、共有まで実習を行う。これらの手法は、教員が基礎から応用まで実例を提示しながら講義しながらワークショップ方式で身につけるようにする。

First, an overview of the characteristics of the contemporary information space is given: the vast amount of information flying around on social networking and video distribution platforms on a daily basis. Various studies and data confirm that phenomena such as the attention economy and filter bubbles are occurring in this context, and that users are surrounded by information and discourse that they do not want, without even realising it.

Learn that some information can be harmful and costly to the individual user and society, and acquire literacy in how to detect and separate it from the rest.

Learn fact-checking techniques to be able to further actively scrutinise and share information. Globally, fact-

checking is spreading to individual grassroots as well as experts.

The basics of fact-checking are taught in lectures, followed by practical training in exploration, verification, textualisation and sharing. These methods are taught in a workshop format, with teachers lecturing on the basics as well as on applications, presenting real-life examples.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：イントロダクション

「情報とは何か」から現代の情報生成と流通の環境を知り、その上で民主主義の基盤たる正しい情報のありようを追求する学びであることを学ぶ。

2回：情報氾濫の時代：アテンションエコノミーとプラットフォーム 情報流通の主要なインフラとなった様々なプラットフォームとそこで起きている現象を確認する。

3回：情報氾濫の時代：プラットフォームのアルゴリズム、フィルターバブル～エコーチェンバー プラットフォームの特性によって起きているフィルターバブルと思考を先鋭化、あるいは時に過激化するエコーチェンバー現象について知る。

4回：私たちの情報処理能力と認知バイアス：プラットフォームの特性による情報流通の中で、時にデマや陰謀論を受容して拡散するのは、私たちの中にある情報と向き合った時のころのありようがある。

5回：マスメディアとUGC：インターネットの登場で、従来のマスメディアがどのような課題を抱えているのか、一方でさらにその役割が重要になっていることを確認する。また、ネット、特にソーシャルネットワークによって個人が作成、発信する情報が存在感を増している。マスメディアと個人生成のコンテンツの関係を分析する。

6回：検索エンジンと動画配信プラットフォーム：情報流通のかぎを今握っているのは Google などの検索エンジンと X やテレグラム、Facebook などの SNS だ。その成り立ちや構造、何を社会にもたらしているのか、さらにどのような（自主、法ともに）基準が議論されているかも確認する。

7回：Disinformation（フェイクニュース）：急激に進む情報汚染とはどういうことなのか、一体情報空間で何が起きているのか、氾濫する誤情報・偽情報について学ぶ。

8回：誤情報 / 偽情報：災害、選挙、紛争など情報汚染のテーマ別の具体例を見ていく。ハマス・イスラエル紛争、ロシアによりウクライナ侵攻、災害、政治（選挙）。どのような Disinformation がどのような組織によって発信、拡散されているのか、各種研究をもとに考える。

9回：パンデミックと陰謀論：新型コロナウイルスをめぐって膨大に現れた偽情報は、時に陰謀論と結びついていた。それら、ディープステート説などともつながっていき、世界を混乱させて、分断を招きつつある。個々の事象で見えていく。

10回：クリティカルシンキング（吟味思考）：このような Disinformation の時代に私たちはどう振る舞えば良いのか、「クリティカルシンキング」をキーワードに考えていく。

11回：「ファクトチェック」とは何か：情報汚染に対して世界でファクトチェックの営みが始まっている。有効とも、情報汚染の悪化のスピードに追いついていないとも言われる。そもそもファクトチェックとは何か、世界でどのように行われているかを先行研究や世界の取り組みとともに見ていく。

12回：言説の検証：ここからファクトチェックの具体手法を学ぶ。まずは、言説を扱う。ウクライナからハマスに武器が渡った、コロナウイルスは益より害が大きい、地震は人工的に起こされた、…。容易に作り出されるこうした言説をどのように検証していくのかを学ぶ。

13回：画像、動画の検証手法：ここ数年で、急激に増えたのが映像による偽情報である。それはどのように、誰が作っているのかを各種研究や報道で学ぶ。さらに AI 加工や生成の映像が登場しているが、それらはどのように作成されているのかを知り、検証手法を各ファクトチェック団体の営みや Google など事業者の研究開

発から確認していく。

14回：ファクトチェックとリテラシーの連携：ファクトチェック手法を身につけることは、メディア、情報リテラシーの手法を主体的に身につけることでもあり、情報リーダー（デジタルシチズンシップの獲得）になることでもある。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

普段から、SNSやネットの情報、さらにマスメディアの報じ方に気を配っておくこと。気になる誤情報や偽情報、言説があれば、メモやアーカイブツールで蓄積しておく。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：011） / Evaluation

レポート試験：50%

平常点割合：50% レポート：10% 発表：20% ファクトチェック実習（記事作成）：20%

実習の際は、ファクトチェッカーでもある教員がきめ細かくアドバイス、指導する。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

坂本旬、山脇武志 メディアリテラシー 吟味思考を育む 時事通信出版局 2021 9784788717978

琉球新報編集局 これだけは知っておきたい 沖縄フェイク（偽）の見破り方 高文研 2017

9784874986363

立岩陽一郎、楊井人文 ファクトチェックとは何か 岩波書店 2013 9784002709826

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

情報摂取で通常のネット利用ができれば大丈夫です。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

デバイスとしてPCとスマホ、さらにGoogle画像検索などツールを活用するが、教員が使い方を指導する。

その他 / Others

SNSが主要な情報インフラになりながら、そこが情報汚染の発信源になっています。しかも、民主主義の基盤を揺るがしかねない偽情報を氾濫させています。しかし、インフラですから無くすわけにはいきません。だとすると私たち、コミュニティのリーダーや主要なアクターであるみなさんが情報健全化の主役になることが求められます。ぜひ、この授業を履修して情報の今を把握しながらリテラシーとファクトチェックに担い手になってもらいたいと考えます。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習1 A

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 1A

(ネットワーク学方法論1 A)

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM521

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

受講者一人ひとりが、自らの立ち位置を意識し、当事者としての自覚をもちながら、 独自の問題関心に沿って、自分自身や社会と誠実に向き合いつつ、独創性に富んだ修士論文・研究報告書を作成することを目標とする。

To develop student capacity to carry out academic research to write master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

ジェノサイド研究, 難民・移民、国際協力, 地球規模課題, 平和構築, 人間の安全保障, 紛争と和解, 移行期正義, 記憶, NGO の諸活動、国際人道法などに関する研究領域を主な指導対象とし、個別指導およびグループ指導双方に重点を置いて、論文執筆のための指導を行う。

The course is designed to provide students with a comprehensive guide to writing master thesis.

The research areas will be those related to genocide studies, refugees and immigrants, international cooperation,

global issues, peacebuilding, human security, conflict and reconciliation, transitional justice, memory, NGO activities, and international humanitarian law, etc. We will provide guidance on writing an academic paper with emphasis on both individual teaching and group teaching.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：【ガイダンス】：学術論文と他の文章（評論、報告書、エッセイ、散文など）、修士論文と学部の卒業論文との違い、剽窃・研究不正の防止について
演習参加者による問題意識・関心の発表（1年次生）
- 2回：学術論文の書き方（1）～研究テーマと研究手法の設定について(講義)
- 3回：「研究テーマ口頭試問会」レジュメ発表①（2年次生～）
- 4回：「研究テーマ口頭試問会」レジュメ発表②（2年次生～）
- 5回：学術論文の書き方（2）～先行研究と分析枠組みについて(講義)
- 6回：学術論文の書き方について（3）～引用文献の表示方法・注釈の付け方、剽窃や研究不正の防止について
- 7回：「研究状況報告会」レジュメ発表①（1年次生）
- 8回：「研究テーマ口頭試問会」の指導を受けての修正内容の発表（2年次生～）
- 9回：「研究状況報告会」レジュメ発表②（1年次生）
- 10回：学術論文の書き方について（4）～調査の方法と分析枠組みについて（講義）
- 11回：共同文献講読／学生中間発表
- 12回：共同文献講読／学生中間発表
- 13回：「研究状況報告会」の指導を受けての修正内容の発表（1年次生）
- 14回：進捗状況の確認・夏休みの研究計画発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

必要に応じて、授業中に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の報告:100%

テキスト / Textbooks

長 有紀枝 入門 人間の安全保障（増補版） 中央公論新社 2021 412192195 ○

参考文献 / Readings

個別に指示・紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習4 A

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 4A

(コミュニティデザイン学方法論2 A)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM524

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

それぞれの研究課題について、発表、討論を重ね、論文および報告書の作成を行う。

参加者それぞれが、独自のテーマを設定し考究を深め、新たな視野が広がる論文および研究報告書の完成を目指す。自らの心の底に眠る想いに気づき、同時に他者との対話を繰り返す中で、新たな視座の発見へと到ることを目標とする。

"The course objectives are to engage in presentations and discussions for each research topic, culminating in the creation of research papers and reports. Participants will individually select and delve into unique themes, aiming to complete papers and research reports that offer new perspectives. The goal is to awaken personal thoughts and, through ongoing dialogue with others, reach the discovery of new viewpoints."

授業の内容 / Course Contents

メディアの意義をどう捉え、そのあり方をどう考えるか？組織あるいは共同体と個人との関係性はどうかあるべ

きか？ AI時代に、人間の意識はどう定義されるのか？その時、倫理は更新されるのか？…社会とは？人間とは？…など、現代社会を生きる上で避けられない課題などから、受講者がそれぞれが「問い」を発見する過程を大事にしたいと思います。調査、資料の分析の経過を発表し合い、議論を重ね、異なる視座を相互に発見し合い、論文および研究報告書の内容へと反映させていきましょう。それぞれの個性、思考法に合ったテーマ、進め方を尊重し、多様な成果が生まれる場となるよう配慮したいと思います。

"How do we perceive the significance of media, and how do we contemplate its existence? What should be the relationship between organizations or communities and individuals? In the age of AI, how is human consciousness defined? In that context, will ethics be renewed? What is society? What is humanity? These are unavoidable challenges in living in contemporary society, and I hope that participants will cherish the process of discovering their own 'questions.'

By presenting the progress of research and analysis of materials, engaging in discussions, discovering different perspectives mutually, let's incorporate these insights into the content of research papers and reports.

I aim to respect each participant's individuality and thought processes, considering themes and approaches that align with their personality, creating a space where diverse outcomes can emerge."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：課題の設定①
- 3回：課題の設定②
- 4回：課題の設定③
- 5回：中間発表と討議①
- 6回：関連文献、映像資料などの研究①
- 7回：関連文献、映像資料などの研究②
- 8回：関連文献、映像資料などの研究③
- 9回：関連文献、映像資料などの研究④
- 10回：中間発表と討議②
- 11回：関連文献、映像資料などの研究⑤
- 12回：関連文献、映像資料などの研究⑥
- 13回：関連文献、映像資料などの研究⑦
- 14回：研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド*（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

それぞれの研究課題について情報収集、研究、その成果を基に発表、対話する、一連の過程を基本とします。参加者の皆さんの背景、志向性などを理解した上で、状況に応じ、各回の進め方など、柔軟に対応したいと思います。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参加:50% 研究成果:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、パソコンを携帯されることを期待します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習5A

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 5A

(コミュニティデザイン学方法論3A)

若林 朋子 (WAKABAYASHI TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM525

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

各々が自らの問題意識に基づいて研究テーマと研究工程を主体的に定め、教員の助言のもと、日々研究を深めていく。研究成果を論文にまとめ、個人の問題意識を世に問い、他者と共有できるところまで到達することを目標とする。

Based on their own awareness of the issue, each student will decide their research theme and research process independently, and will deepen their research on a daily basis based on the advice of faculty members. The goal is to write up the research results in an academic paper, bring to society the student's problem-awareness, and reach a place where it can be shared with others.

授業の内容 / Course Contents

【M1】毎回のテーマを設定し、学術研究・学術論文の思考や作法の基礎習得を目指して、自身の研究テーマにおける問題の所在や研究目的、仮説、研究方法等を言語化する。研究テーマを掘り下げるにあたっては、社会

通念や前例、自身が考える常識や「普通」について注意深く検証することを重視する。また、日頃から言語化・文章化の訓練を重ね、早い段階から着実に論文執筆の準備を行うことを基本的な方針とする。毎回、ゼミ生によるミニ発表も行う。

【M2】研究の進捗（研究の過程で新たに得た知見や課題等）を文書化して発表を行う。教員およびゼミメンバーと討論を重ね、各々の研究を段階的に深めていく。理論と実践の両面から先行研究を深く検討するとともに、調査、執筆を計画的に進める。毎回、ゼミ生によるミニ発表も行う。

[M1] Through each piece of work, students will learn the basics of thinking and methods to create academic research and academic papers, and clearly express the location of problems, the research purpose, hypotheses, and research methods, etc. in their research themes. When exploring research themes, students should focus on carefully examining social concepts, precedents, and their idea of common sense and "normality". In addition, the basic policy of the course is to regularly prepare for academic paper writing from an early stage by repeating the training of expressing ideas and writing text on a daily basis.

[M2] Document the progress of research (new findings and issues, etc. obtained in the course of the research) and make a presentation. Students will repeat discussions with faculty and seminar members to gradually deepen the research. Students will examine the preceding research deeply from both theory and practice, and proceed with research and writing systematically.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：初回ガイダンス、各々の関心領域、研究テーマ発表
- 2 回：学術論文の構造／章立て、研究（論文）のタイプ
- 3 回：研究背景と目的、リサーチクエスチョン、仮説の設定、研究の方法①
- 4 回：研究背景と目的、リサーチクエスチョン、仮説の設定、研究の方法②
- 5 回：先行研究とは、先行研究の探し方、先行研究の検討①
- 6 回：先行研究とは、先行研究の探し方、先行研究の検討②
- 7 回：研究状況報告会レジュメ確認①
- 8 回：研究状況報告会レジュメ確認②
- 9 回：調査方法の選択と設計①
- 10 回：調査方法の選択と設計②
- 11 回：研究状況報告会発表リハーサル
- 12 回：報告会振り返り、研究テーマの探索（新聞データベースの活用）
- 13 回：用語の定義
- 14 回：春学期のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% ゼミでの発表と議論への参加:100%

テキスト/Textbooks

井下千以子 思考を鍛えるレポート・論文作成法（第3版） 慶應義塾大学出版会 2021 9784766425772 -
テキストは毎回持参のこと。

参考文献 / Readings

授業内で紹介する

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習6A

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 6A

(グローバル・リスクガバナンス方法論1A)

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM526

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

修士論文または研究報告書の作成に向けて、受講生が設定したテーマに基づき研究指導を行う。対象領域は主として、以下の研究領域とする。

リスク学、リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、防災政策、危機管理、災害医療・福祉、放射性廃棄物、防災教育、災害情報、情報政策、地理空間情報、オープンデータ、ソーシャルウェア、コミュニティガバナンス、地域活性化、まちづくり、デジタルアーカイブ、オーラルヒストリー、ワークスタイル、テレワーク、モバイル建築など

In this course, students are expected to prepare their master's thesis or research report based on their research theme.

授業の内容 / Course Contents

ゼミ形式での論文の進捗報告と討論及び個別面談指導を行う。

In this course, students are expected to select and set the theme for their master's thesis or research report and conduct individual research under the guidance and advice of the faculty.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：論文作成方法
- 2 回：研究指導
- 3 回：研究指導
- 4 回：研究指導
- 5 回：研究指導
- 6 回：研究指導
- 7 回：研究指導
- 8 回：研究指導
- 9 回：研究指導
- 10 回：研究指導
- 11 回：研究指導
- 12 回：研究指導
- 13 回：研究指導
- 14 回：研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% セミでの報告と討論への参加:100%

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

使用しない

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習 8 A

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 8A

(コミュニティデザイン学方法論 5 A)

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM528

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

修士論文を作成する際の心構えをまず学ぶ。また基本的な考え方や論文作成、プレゼンテーションなどのスキルをレジメ作成とプレゼンを通じて実際に学びながら、それぞれの研究テーマについての調査・分析をすすめる。

Learn skill to write thesis, including logical thinking, methods of writing thesis and presentation, while each will start research on its theme.

授業の内容 / Course Contents

前半は、M2 の勉強会にも一部参加しつつ、論文作成法に関する書籍を輪読。お互いの研究テーマの発表を通じて、論文作成方法を習得し、プレゼンテーションスキルを学ぶ。後半は自分のテーマの深堀りをおこない、研究に必要となる先行研究や参考文献の分野を探索し、研究計画の骨子をまとめ、夏以降の実際の論文作成の準備を整える。

At the first half, read text of their writing methods. By presenting each theme, brush up the ability of writing thesis, as well as presentation skill. The latter half will be the combination of individual training and group presentation of own studies.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション：自己紹介
- 2回：M2のプレゼンテーションに参加、論文の書き方のイメージを作る
- 3回：論文作成法の書籍の輪読
- 4回：論文作成法の輪読
- 5回：論文作成法の輪読
- 6回：研究計画の作成・プレゼン
- 7回：研究計画状況報告会用準備
- 8回：研究計画状況報告会用準備
- 9回：研究計画の指導
- 10回：研究計画の指導
- 11回：研究計画の指導
- 12回：研究計画の指導
- 13回：研究計画の指導
- 14回：M2合同発表会と夏休みの研究計画策定

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特になし。研究に役立つようなイベントなどがあれば随時紹介する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ゼミ参加率・発言・研究内容:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習9A

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 9A

(社会組織理論方法論3A)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM529

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

市民自らが社会の課題を発見し、その解決のための分析と方法論の検討を行い、さらには解決プロセスそのものを自ら担うという、あるべき「社会デザイン」の実現に向けて、受講者自らが社会の中からテーマを選択・設定し、教員の指導の下に個別研究を実施し、修士論文ないし研究報告書につながる研究成果をまとめられるようにすることを目的とする。

私は、シンクタンクにおける政策の研究と具体的な政策等への反映（公共政策、CSR 経営、政策評価・立案、財政・社会保障政策、統治機構等）、NPO マネジメントとして社会デザインの実践や資金調達等に取り組んできた実務家としての経験等を有しており、そうした経験を踏まえ、各自の研究を指導していきたい。

とくに市民セクター、企業セクター、行政セクターが使うそれぞれの言語の違いを踏まえ、社会デザインを具体的に進める上で、市民として何をしていかなければならないのか、そこで求められる意識や能力についても考えていければと考えている。

The goal is for the student themselves to select and set a theme from within society, conduct individual research under the supervision of faculty, and organize the research results into a master's thesis or research report toward the realization of "social design" where citizens themselves discover social problems, carry out analysis and examination of methodologies for the solutions, and take responsibility for carrying out the solution process themselves.

I have experience as a practitioner who has been involved in policy research in think tanks and its reflection to specific policies, etc. (public policy, CSR management, policy evaluation and planning, fiscal and social security policy, governance mechanisms, etc.), and practice and fundraising of social design as NPO management, and I would like to guide students' research based on these experiences.

In particular, based on the differences between the languages used by the civil sector, the corporate sector, and the government sector, I think it is a good idea to think about what we need to do as citizens in advancing social design specifically, and the awareness and abilities required.

授業の内容 / Course Contents

個別指導とグループ演習を組み合わせた指導を行う。

それぞれの研究のフェーズに応じた個別指導に取り組む一方、全体の進捗に応じて、研究の進め方、論文の書き方、調査の方法等の具体的な手法についても、課題発見と課題解決のフレームワークを用いながら指導を行う。

グループ演習では、各自の研究（文献・資料調査や定性的・定量的調査）の進捗に応じて、研究報告会形式で各自のテーマ、関心に沿った報告をしてもらい、受講者の多様な経験等を活かした討議や対話、また、教員からのインプットを行い、それぞれの研究の進化と深化を図っていく。

夏期には研究の参考になると思われる実地調査等を兼ねた合宿を予定している（過去には、住民自治の先進地である北海道ニセコ町、NPOによる住民自治やコミュニティ・サポータード・アグリカルチャーの実践地である宮城県大崎市にて開催）。

We will provide instruction combining individual teaching and group exercises.

While working on individual instruction according to each research phase, we will provide instruction on specific methods such as how to proceed with the research, writing of the paper, and methods of surveying, etc. according to the overall progress. In this process we will use the frameworks of problem discovery and problem solution.

In the group exercises, depending on the progress of the student's research (literature and material research and qualitative and quantitative research), the student will be required to make reports according to their theme and interest in the form of research report meetings, and we will promote the evolution and deepening of the research through discussions and dialog that make use of the student's diverse experiences, etc. and input from faculty.

In the summer, we plan to have a training camp with field surveys that will be useful for research (in the past, we visited Niseko Town in Hokkaido, an advanced area of resident autonomy, and Osaki City, Miyagi Prefecture, which is a practical site of NPO-based resident autonomy and community supported agriculture).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：テーマ設定1

2回：テーマ設定2

3回：テーマ設定3

4回：研究計画の詳細化1

5回：研究計画の詳細化2

6回：研究計画の詳細化3

- 7回：研究報告 1
- 8回：研究報告 2
- 9回：研究報告 3
- 10回：研究報告 4
- 11回：個別指導 1
- 12回：個別指導 2
- 13回：個別指導 3
- 14回：全体のふりかえり、総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：		：		

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習における報告、他者への貢献:100%

テキスト / Textbooks

必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

それぞれの研究テーマに応じて適宜紹介する。

その他 / Others

春学期は1年生と2年生合同でのゼミを主体としお互いに切磋琢磨しながら、それぞれの研究を進める。

秋学期は1年生はゼミ主体、2年生は個別指導主体で、それぞれの研究をサポートしていく。

亀井の専門は公共政策だが、これまでのゼミ生は、この専門と重ならない学生が多い。むしろ、研究の骨格（研究手法の見極めを含む）、具体的な研究方法の設計、実施、分析のサポートをロジカルシンキングを用いてサポートしてきた。こうした点を踏まえ、主指導（ゼミ）を選択されたい。

なお、夏休みと春休みに、他のゼミとの合同ゼミを開催する予定

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習10A

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 10A

(社会組織理論方法論1A)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： VM530
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位： 1
科目ナンバリング： SDS6010
使用言語： 日本語
授業形式： 演習・ゼミ
履修登録方法： その他登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

それぞれの研究課題について、発表・討論を重ね、論文および報告書作成にむけた助言をおこなう。その過程で、自身の研究課題とその背景に関して必要な知識を修得することを目標とする。加えて、自分以外の発表者の報告内容に対して、批判的かつ建設的なコメントを行うための能力を養うことを目指す。

Students will repeat presentations and discussions on each research subject, and we will give advice on writing papers and reports. Through this process, the goal is for the student to acquire the necessary knowledge about their research subject and its background. In addition, we will aim to develop the student's ability to make critical and constructive comments on the content of other presenters' reports.

授業の内容 / Course Contents

各回の発表者が、各自の研究課題に関する報告を繰り返しおこない研究を進めてゆく。特に本演習では、各自の研究課題に関連する文献について、報告してもらうことを中心とする。なお、研究のスケジュールや扱う文

献については、それぞれの研究関心に沿ったものとなるよう配慮する。

Each presenter will repeatedly report on their research subject to advance the research. In particular, in this exercise, we will focus on having students report on documents related to their research subject. The research schedule and documents to be handled should be considered in line with each research interest.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：研究課題の設定 1
- 3回：研究課題の設定 2
- 4回：研究課題の設定 3
- 5回：中間発表
- 6回：関連文献の講読 1
- 7回：関連文献の講読 2
- 8回：関連文献の講読 3
- 9回：関連文献の講読 4
- 10回：研究方法の設定 1
- 11回：研究方法の設定 2
- 12回：個別論文指導 1
- 13回：個別論文指導 2
- 14回：研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自身の研究課題について積極的に情報収集することを基本とするが、詳細は授業内に個別に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への積極的参加:50% 発表内容:50%

平常点は演習時の積極性や出席状況で評価する。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

特に指定しない。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習11A

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 11A

(社会組織理論方法論2A)

三浦 建太郎 (MIURA KENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM531

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

学生各自が自らの研究テーマを定め、十分な研究を経た上で、修士論文もしくは研究報告書をまとめ、提出することを目標とする。

This course aims to help students conduct research on their individual themes and to complete and submit a master's thesis or research report.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマの設定を行うための議論を重ね、選択したテーマに対する研究と論文執筆計画の策定を行う。

個別のテーマに関する研究と論文執筆の進捗や、様々な課題に対応した指導を行う。

また随時、論文の構成、研究と論文執筆の進捗について、他の学生に対する発表を行い、相互に意見交換、アドバイスをすることを通じて、他者の視点を意識することで、客観性を持った質の高い論文を書くためのヒン

トと手がかりを得る場とする。

M1 は、研究状況報告会のレジメ作成を通じて研究計画の策定と論文構成の検討を行っていく。

M2 以上は、研究テーマ口頭試問会の準備に続き、その後は、執筆の取り組み、研究で得た素材から論文にまとめていくための分析の枠組み、方法等を検討していく。

The purpose of this course is for each student to select and set the theme for the master's thesis or research report and to conduct individual research under the guidance and advice of the faculty, while also providing opportunities for mutual advice through discussions among students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション
- 2 回：各受講生の問題意識や関心領域、研究計画の発表
- 3 回：各受講生の問題意識や関心領域、研究計画の発表
- 4 回：研究の途中報告と討論
- 5 回：研究の途中報告と討論
- 6 回：研究の途中報告と討論
- 7 回：研究の途中報告と討論
- 8 回：研究の途中報告と討論
- 9 回：研究の途中報告と討論
- 10 回：研究の途中報告と討論
- 11 回：研究の途中報告と討論
- 12 回：研究の途中報告と討論
- 13 回：研究と論文執筆の進捗と今後の計画の確認
- 14 回：研究と論文執筆の進捗と今後の計画の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

研究と論文執筆を進める

随時、進捗の確認と計画の再考

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究の進み具合で評価する:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

個別に紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討

論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習13A

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 13A

(コミュニティデザイン学方法論4A)

倉本 由紀子 (KURAMOTO YUKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM533

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

学生が各々の研究テーマに基づいた修士論文・研究報告書を作成します。

Students will conduct their research for their master's thesis or research report.

授業の内容 / Course Contents

修士論文・研究報告書作成に向けて、各受講者がテーマを選択・設定し、教員の指導・助言のもと、個別研究を行います。

Each student will select a topic and develop a research proposal for their master's thesis. They will conduct independent research under the guidance of the faculty.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：指導内容についての説明

2 回：各受講者の関心ある分野、研究テーマ、研究方法について個別に協議

- 3回：受講者全員で各受講者の研究テーマについて発表し、情報共有
 4回：各受講者の研究スケジュールについて協議
 5回：中間報告会において研究発表を行い、発表内容について全員で討論を行い、研究内容、方法等の見直しを行い、論文作成に必要なものの見方、考え方を身につける。
 6回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 7回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 8回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 9回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 10回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 11回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 12回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 13回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 14回：仮提出に向け、論文作成に必要な作法等の指導など

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

論文作成法に関するテキスト、立教大学の論文作成のガイドライン等を入手し、事前に学習することをお願いします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の報告:100%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

佐藤郁哉 『社会調査の考え方 上』 東京大学出版会 2015 9784130520263

佐藤郁哉 『社会調査の考え方 下』 東京大学出版会 2015 9784130520270

佐藤郁哉 『質的データ分析法—原理・方法・実践』 新曜社 2008 9784788510951

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松 洋（編集） 『新・社会調査へのアプローチ:論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 9784623066544

各受講者の研究テーマに応じて、随時紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習15A

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 15A

(グローバル・リスクガバナンス方法論5A)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM535

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

受講者が、その関心をベースにしつつ、社会へのインパクトのあるテーマについて、自立的に研究を行い、独創性に富む修士論文、研究報告書を作成することを目標とする。

Participating students will study and create master thesis/research reports based on their intellectual interests.

The study will have good originality based on the independent and socially meaningful research..

授業の内容 / Course Contents

持続可能な社会づくり、環境保全、行政の仕組み/機能、政府や地域のガバナンスなどに関する研究分野を主な指導テーマとし、個別指導、グループ指導を必要に応じ組み合わせ、論文執筆のための指導を行う。

We will provide guidance for master thesis preparation, which covers such research areas as building sustainable society, environmental protection, structure and function of administration, and governance of government and local communities. These guidance will be given through individual and/or group guidance.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
 学術論文の特徴について説明
 演習参加者による問題意識、関心事の発表（1年次）
- 2回：研究テーマ、研究手法の選び方
- 3回：研究テーマの発表と相互レビュー（2年次）
 ①環境テーマ中心
- 4回：研究テーマの発表と相互レビュー（2年次）
 ②ガバナンス中心
- 5回：先行研究、データなど資料の集め方、整理の仕方について指導、議論
- 6回：論文のロジックの立て方についての指導、議論
- 7回：研究計画の発表（1年次）
 ①環境テーマ中心
- 8回：研究計画の発表（1年次）
 ②ガバナンス中心
- 9回：相互レビュー以降の研究の進捗状況の発表（2年次）①環境中心
- 10回：相互レビュー以降の研究の進捗状況の発表（2年次）②ガバナンス中心
- 11回：剽窃防止、研究不正防止について指導、議論
- 12回：共同研究報告の議論
 ①環境に関わるものを中心に
- 13回：共同研究報告の議論
 ②ガバナンスに関わるものを中心に
- 14回：夏休みの研究計画のレビュー

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に、個別に提示する。
 論文作成のどこについて指導を受けたいか整理しておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ
 平常点割合 :100% 授業内の報告:100%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

環境省 令和5年版環境白書 日経印刷 2023 4865793232

授業の中で適宜、提示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

議論への積極的な参加

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習16A

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 16A

(社会組織理論方法論5A)

大熊 玄 (OKUMA GEN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM536

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

学生が選んだテーマをもとに、最終的に修士論文・研究報告書の完成を目標として、基礎的な知識や研究方法を身につける。

The student will acquire basic knowledge and research methods with the goal of finally completing a master's thesis or research report on the theme they have chosen.

授業の内容 / Course Contents

学生は、自身が最も関心のあるテーマを選択し、実際の修士論文・研究報告書のタイトルへと落とし込み、自らの研究を導いてくれる「リサーチクエスト」を創る。また、参考文献 (先行研究) を収集・読解・批評しながら、それらを参考に自らの論文・報告書のアウトライン (骨格) を作成し、執筆を開始し、最終的に論文・報告書の体裁を整えていく。講師は、そのつど学生から研究の進捗状況を聞きながら、研究計画や内容に対して助言・指導・討議を行い、学生はそこから新たな視点を得るとともに、自らの研究を進め深めていく。

The student will select the theme in which they are interested, express it in the title of their actual master's thesis or research report, and create a "research question" that guides their research. In addition, the student will create an outline (framework) of their own academic paper or report referring to references (preceding studies) that they collect, read and criticize, will start writing and finally prepare the format of an academic paper or report. The lecturer will provide advice and guidance and discuss the research plan and its contents while hearing about the progress of the research from the student regularly, giving the student new perspectives to advance and deepen their research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：全体テーマ（方向）の選択
- 3回：具体的目標と規模の決定
- 4回：リサーチクエスションの確認
- 5回：論文構成（序/本/結）の検討
- 6回：アウトライン（目次）の作成
- 7回：研究データベース作成
- 8回：文献の調査・探索
- 9回：文献目録の作成
- 10回：序の検討
- 11回：本論の検討（1）
- 12回：本論の検討（2）
- 13回：本論の検討（3）
- 14回：結論・全体の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期中の進捗状況:50% 学期末の研究成果:50%

テキスト / Textbooks

授業内で別途指示する。

参考文献 / Readings

授業内で別途指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器（ノートパソコン・タブレット）持参が望ましい。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習17A

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 17A

(社会組織理論方法論6A)

品治 佑吉 (HONJI YUKICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM537

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

履修者のみなさんの研究課題に対応した発表・論文執筆の演習を行います。

Students will be required to present and write a paper for each of their research topics.

授業の内容 / Course Contents

学生のみなさんには、自分自身が現在抱えている問題意識や疑問をあらためて異なる視点から学術的な研究課題として位置づけ直すことが求められます。この授業では、各回での発表やレポート執筆を通じて、自分自身の関心をより広い視野から捉え直すと共に、具体的なリサーチクエスチョンを持った論文として情報発信するための能力を身につけます。

Students are required to reconsider their current awareness of problems and questions as academic research topics from a different perspective. In this class, through presentations and writing reports, students will reevaluate their own interests from a broader perspective and acquire the ability to present information as

specific research subject.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：自己紹介、授業の概要
- 2回：テーマ設定①：問題意識の具体化、ブレインストーミングの手法、先行研究の探索方法
- 3回：テーマ設定②：受講者ごとの研究課題・リサーチクエスションの仮設実習（1）
- 4回：テーマ設定②：受講者ごとの研究課題・リサーチクエスションの仮設実習（2）
- 5回：調査：利用可能な情報源（データベース、図書館など）を用いたデータ探索の実習
- 6回：文献購読①：履修者の関心に応じた論文・著作の輪読（1）位置付けと要約
- 7回：文献購読②：履修者の関心に応じた論文・著作の輪読（2）位置付けと要約
- 8回：文献購読③：履修者の関心に応じた論文・著作の輪読（3）感想・コメント
- 9回：文献購読④：履修者の関心に応じた論文・著作の輪読（4）位置付けと要約
- 10回：文献購読⑤：履修者の関心に応じた論文・著作の輪読（5）位置付けと要約
- 11回：文献購読⑤：履修者の関心に応じた論文・著作の輪読（6）感想・コメント
- 12回：報告演習①：履修者による自身の研究テーマに関する報告（1）
- 13回：報告演習②：履修者による自身の研究テーマに関する報告（2）
- 14回：報告演習③：履修者による自身の研究テーマに関する報告（3）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、毎回必ず指定された文献を読み、課題をこなすこと（1時間程度を想定）、授業後には、フィードバックをもとに自分自身の研究をどうブラッシュアップできるかの報告を求めます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 文献報告:20% 個人報告（1回目）:20% 個人報告（2回目）:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ハワード・ベッカー／パメラ・リチャーズ 論文の技法 講談社 1996 9784061592483

テキストは指定しない。なお、「論文作成法」シラバスで挙げた文献も参考にすること。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習1B

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 1B

(ネットワーク学方法論1B)

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM551

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

受講者一人ひとりが、自らの立ち位置を意識し、当事者としての自覚をもちながら、独自の問題関心に沿って、自分自身や社会と誠実に向き合いつつ、独創性に富んだ修士論文・研究報告書を作成することを目標とする。

To develop student capacity to carry out academic research to write master's thesis.

授業の内容 / Course Contents

ジェノサイド研究、難民・移民、国際協力、地球規模課題、平和構築、人間の安全保障、紛争と和解、移行期正義、記憶、NGO の諸活動、国際人道法などに関する研究領域を主な指導対象とし、個別指導およびグループ指導双方に重点を置いて、論文執筆のための指導を行う。

The course is designed to provide students with a comprehensive guide to writing master's thesis.

The research areas will be those related to genocide studies, refugees and immigrants, international cooperation,

global issues, peacebuilding, human security, conflict and reconciliation, transitional justice, memory, NGO activities, and international humanitarian law, etc. We will provide guidance on writing an academic paper with emphasis on both individual teaching and group teaching.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：夏休み期間中の研究成果、調査報告の発表（1 年次生）
仮提出に向けた進捗状況の確認①（2 年次生～）
- 2 回：学術論文の書き方について（確認）
仮提出に向けた進捗状況の確認②（2 年次生～）
- 3 回：引用文献の表示方法・注釈の付け方、剽窃や研究不正の防止について(確認)
- 4 回：先行研究の整理方法について(確認)
- 5 回：調査の方法と分析枠組みについて（確認）
- 6 回：本論文作成に向けた個別指導（2 年次生～）
先行研究・参考文献の書評発表①（1 年次生）
- 7 回：本論文作成に向けた個別指導（2 年次生～）
先行研究・参考文献の書評発表②（1 年次生）
- 8 回：本論文作成に向けた個別指導（2 年次生～）
先行研究・参考文献の書評発表③（1 年次生）
- 9 回：本論文作成に向けた個別指導（2 年次生～）
先行研究・参考文献の書評発表④（1 年次生）
- 10 回：本論文作成に向けた個別指導（2 年次生～）
「研究テーマ口頭試問会」レジュメ作成準備について（講義）（1 年次生）
- 11 回：引用文献の表示方法・注釈の付け方、剽窃や研究不正の防止について(確認)
- 12 回：要旨の作成方法について（2 年次生～）
「研究テーマ口頭試問会」レジュメ・ドラフト発表①（1 年次生）
- 13 回：「研究テーマ口頭試問会」レジュメ・ドラフト発表②（1 年次生）
- 14 回：春休みの調査・研究計画の発表（1 年次生）
- 総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の報告:100%

テキスト / Textbooks

長 有紀枝 入門 人間の安全保障（増補版） 中央公論新社 2021 412192195 ○

参考文献 / Readings

個別に指示・紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習4B

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 4B

(コミュニティデザイン学方法論2B)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM554

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

それぞれの研究課題について、発表、討論を重ね、論文および報告書の作成を行う。

参加者それぞれが、独自のテーマを設定し考究を深め、新たな視野が広がる論文および研究報告書の完成を目指す。自らの心の底に眠る想いに気づき、同時に他者との対話を繰り返す中で、新たな視座の発見へと到ることを目標とする。

"The course objectives are to engage in presentations and discussions for each research topic, culminating in the creation of research papers and reports. Participants will individually select and delve into unique themes, aiming to complete papers and research reports that offer new perspectives. The goal is to awaken personal thoughts and, through ongoing dialogue with others, reach the discovery of new viewpoints."

授業の内容 / Course Contents

メディアの意義をどう捉え、そのあり方をどう考えるか？組織あるいは共同体と個人との関係性はどうかあるべ

きか？ A I時代に、人間の意識はどう定義されるのか？その時、倫理は更新されるのか？…社会とは？人間とは？…など、現代社会を生きる上で避けられない課題などから、受講者がそれぞれが「問い」を発見する過程を大事にしたいと思います。調査、資料の分析の経過を発表し合い、議論を重ね、異なる視座を相互に発見し合い、論文および研究報告書の内容へと反映させていきましょう。それぞれの個性、思考法に合ったテーマ、進め方を尊重し、多様な成果が生まれる場となるよう配慮したいと思います。

"How do we perceive the significance of media, and how do we contemplate its existence? What should be the relationship between organizations or communities and individuals? In the age of AI, how is human consciousness defined? In that context, will ethics be renewed? What is society? What is humanity? These are unavoidable challenges in living in contemporary society, and I hope that participants will cherish the process of discovering their own 'questions.'

By presenting the progress of research and analysis of materials, engaging in discussions, discovering different perspectives mutually, let's incorporate these insights into the content of research papers and reports.

I aim to respect each participant's individuality and thought processes, considering themes and approaches that align with their personality, creating a space where diverse outcomes can emerge."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：課題の設定①
- 3回：課題の設定②
- 4回：課題の設定③
- 5回：中間発表と討議①
- 6回：関連文献、映像資料などの研究①
- 7回：関連文献、映像資料などの研究②
- 8回：関連文献、映像資料などの研究③
- 9回：関連文献、映像資料などの研究④
- 10回：中間発表と討議②
- 11回：関連文献、映像資料などの研究⑤
- 12回：関連文献、映像資料などの研究⑥
- 13回：関連文献、映像資料などの研究⑦
- 14回：研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

それぞれの研究課題について情報収集、研究、その成果を基に発表、対話する、一連の過程を基本とします。参加者の皆さんの背景、志向性などを理解した上で、状況に応じ、各回の進め方など、柔軟に対応したいと考えています。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参加:50% 研究成果:50%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、パソコンを携帯されることを期待します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習5B

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 5B

(コミュニティデザイン学方法論3B)

若林 朋子 (WAKABAYASHI TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM555

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

各々が自らの問題意識に基づいて研究テーマと研究工程を主体的に定め、教員の助言のもと、日々研究を深めていく。研究成果を論文にまとめ、個人の問題意識を世に問い、他者と共有できるところまで到達することを目標とする。

Based on their own awareness of the issue, each student will decide their research theme and research process independently, and will deepen their research on a daily basis based on the advice of faculty members. The goal is to write up the research results in an academic paper, bring to society the student's problem-awareness, and reach a place where it can be shared with others.

授業の内容 / Course Contents

【M1】毎回のワークを通じて、学術研究・学術論文の思考や作法の基礎を一通り習得し、自身の研究の方向性や内容を確立する。研究テーマを掘り下げるにあたっては、社会通念や前例、自身が考える常識や「普通」に

ついて注意深く検証することを重視する。日常的な文献研究と、言語化・文章化の訓練を基本的な方針とする。毎回、ゼミ生によるミニ発表を行う。

【M2】調査結果や仮説検証について教員と討論し、研究をさらに深いレベルにまで掘り下げ、論文執筆を計画的に進める。

[M1] Through each piece of work, the student will learn the basics of thinking and methods to create academic research and academic papers, and establish the direction and contents of their own research. When exploring research themes, students should focus on carefully examining social concepts, precedents, and their idea of common sense and "normality". The basic policy of the course is to conduct daily literature research and training in expressing ideas and writing.

[M2] The student will discuss the results of their survey and hypothesis verification with the faculty, take their research to a deeper level, and proceed with the writing of the academic paper systematically.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究テーマの再確認、研究の進捗と秋学期の研究工程表発表
- 2 回：研究領域の社会調査・統計資料①
- 3 回：研究領域の社会調査・統計資料②
- 4 回：論文らしい表現①
- 5 回：論文らしい表現②
- 6 回：モデル論文（先行研究）の研究①
- 7 回：モデル論文（先行研究）の研究②
- 8 回：調査内容・手法の検討①
- 9 回：調査内容・手法の検討②
- 10 回：研究倫理の踏まえ方
- 11 回：引用作法
- 12 回：文献一覧、図表一覧
- 13 回：章立ての再検討と目次
- 14 回：秋学期のまとめ／M2・M1 最終合同ゼミ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% ゼミでの発表と議論への参加:100%

テキスト / Textbooks

井下千以子 思考を鍛えるレポート・論文作成法（第3版） 慶應義塾大学出版会 2021 9784766425772
 テキストは毎回持参のこと。

参考文献 / Readings

授業内で紹介する

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習6B

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 6B

(グローバル・リスクガバナンス方法論1B)

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM556

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

修士論文または研究報告書の作成に向けて、受講生が設定したテーマに基づき研究指導を行う。対象領域は主として、以下の研究領域とする。

リスク学、リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、防災政策、危機管理、災害医療・福祉、放射性廃棄物、防災教育、災害情報、情報政策、地理空間情報、オープンデータ、ソーシャルウェア、コミュニティガバナンス、地域活性化、まちづくり、デジタルアーカイブ、オーラルヒストリー、ワークスタイル、テレワーク、モバイル建築など

Students are expected to prepare their master's thesis or research report based on their research theme.

授業の内容 / Course Contents

ゼミ形式での論文の進捗報告と討論及び個別面談指導を行う。

Students are expected to select and set the theme for their master's thesis or research report and conduct

individual research under the guidance and advice of the faculty.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究指導
- 2 回：研究指導
- 3 回：研究指導
- 4 回：研究指導
- 5 回：研究指導
- 6 回：研究指導
- 7 回：研究指導
- 8 回：研究指導
- 9 回：研究指導
- 10 回：研究指導
- 11 回：研究指導
- 12 回：研究指導
- 13 回：研究指導
- 14 回：研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% セミでの報告と討論への参加:100%

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

その他 / Others

使用しない

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習 8 B

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 8B

(コミュニティデザイン学方法論 5 B)

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM558

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

修士論文の作成の仕方についてマスターする。実際に先行研究の読み込みを通じて、論文の書き方を学ぶと同時に、引用の仕方、図表の作り方などの論文作成のスキルを身に着ける。

Form skeleton of the thesis and continue research and presentation on components of the skeleton.

授業の内容 / Course Contents

個別指導と全体発表会を組み合わせで行う。自分の研究多方面からを深めると同時に、全体発表会では、他の研究報告をからの学びを得る。また、プレゼンテーションのトレーニングを行う。

Combination of individual advisory session and group presentation.

Group presentation offers chance to learn from others research methods as well as training of presentaion.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：夏休みの研究成果発表

- 2回：夏休みの研究成果発表
 3回：各自の研究計画にそった発表（先行研究、文献調査など）
 4回：各自の研究計画にそった発表（先行研究、文献調査など）
 5回：各自の研究計画にそった発表（先行研究、文献調査など）
 6回：各自の研究計画にそった発表（先行研究、文献調査など）
 7回：各自の研究計画にそった発表（先行研究、文献調査など）
 8回：各自の研究計画にそった発表（先行研究、文献調査など）
 9回：各自の研究計画にそった発表（先行研究、文献調査など）
 10回：各自の研究計画にそった発表（先行研究、文献調査など）
 11回：各自の研究計画にそった発表（先行研究、文献調査など）
 12回：M2 研究テーマ口頭試問会準備
 13回：M2 研究テーマ口頭試問会準備
 14回：春休みの研究計画報告

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

特になし。 研究に役に立つイベントなどは個別に紹介する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% セミ出席、発言、研究報告など:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習9B

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 9B

(社会組織理論方法論3B)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM559

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

市民自らが社会の課題を発見し、その解決のための分析と方法論の検討を行い、さらには解決プロセスそのものを自ら担うという、あるべき「社会デザイン」の実現に向けて、受講者自らが社会の中からテーマを選択・設定し、教員の指導の下に個別研究を実施し、修士論文ないし研究報告書につながる研究成果をまとめられるようにすることを目的とする。

私は、シンクタンクにおける政策の研究と具体的な政策等への反映（公共政策、CSR 経営、政策評価・立案、財政・社会保障政策、統治機構等）、NPO マネジメントとして社会デザインの実践や資金調達等に取り組んできた実務家としての経験等を有しており、そうした経験を踏まえ、各自の研究を指導していきたい。

とくに市民セクター、企業セクター、行政セクターが使うそれぞれの言語の違いを踏まえ、社会デザインを具体的に進める上で、市民として何をしていかなければならないのか、そこで求められる意識や能力についても考えていければと考えている。

The goal is for the student themselves to select and set a theme from within society, conduct individual research under the supervision of faculty, and organize the research results into a master's thesis or research report toward the realization of "social design" where citizens themselves discover social problems, carry out analysis and examination of methodologies for the solutions, and take responsibility for carrying out the solution process themselves.

I have experience as a practitioner who has been involved in policy research in think tanks and its reflection to specific policies, etc. (public policy, CSR management, policy evaluation and planning, fiscal and social security policy, governance mechanisms, etc.), and practice and fundraising of social design as NPO management, and I would like to guide students' research based on these experiences.

In particular, based on the differences between the languages used by the civil sector, the corporate sector, and the government sector, I think it is a good idea to think about what we need to do as citizens in advancing social design specifically, and the awareness and abilities required.

授業の内容 / Course Contents

個別指導とグループ演習を組み合わせた指導を行う。

それぞれの研究のフェーズに応じた個別指導に取り組む一方、全体の進捗に応じて、研究の進め方、論文の書き方、調査の方法等の具体的な手法についても、課題発見と課題解決のフレームワークを用いながら指導を行う。

グループ演習では、各自の研究（文献・資料調査や定性的・定量的調査）の進捗に応じて、研究報告会形式で各自のテーマ、関心に沿った報告をしてもらい、受講者の多様な経験等を活かした討議や対話、また、教員からのインプットを行い、それぞれの研究の進化と深化を図っていく。

夏期には研究の参考になると思われる実地調査等を兼ねた合宿を予定している（過去には、住民自治の先進地である北海道ニセコ町、NPOによる住民自治やコミュニティ・サポータード・アグリカルチャーの実践地である宮城県大崎市にて開催）。

We will provide instruction combining individual teaching and group exercises.

While working on individual instruction according to each research phase, we will provide instruction on specific methods such as how to proceed with the research, writing of the paper, and methods of surveying, etc. according to the overall progress. In this process we will use the frameworks of problem discovery and problem solution.

In the group exercises, depending on the progress of the student's research (literature and material research and qualitative and quantitative research), the student will be required to make reports according to their theme and interest in the form of research report meetings, and we will promote the evolution and deepening of the research through discussions and dialog that make use of the student's diverse experiences, etc. and input from faculty.

In the summer, we plan to have a training camp with field surveys that will be useful for research (in the past, we visited Niseko Town in Hokkaido, an advanced area of resident autonomy, and Osaki City, Miyagi Prefecture, which is a practical site of NPO-based resident autonomy and community supported agriculture).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：テーマ設定1

2回：テーマ設定2

3回：テーマ設定3

4回：研究計画の詳細化1

5回：研究計画の詳細化2

6回：研究計画の詳細化3

- 7回：研究報告1
 8回：研究報告2
 9回：研究報告3
 10回：研究報告4
 11回：個別指導1
 12回：個別指導2
 13回：個別指導3
 14回：全体のふりかえり、総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○ グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:		:	

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

演習時に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習における報告、他者への貢献:100%

テキスト / Textbooks

必要に応じて指示する。

参考文献 / Readings

それぞれの研究テーマに応じて適宜紹介する。

その他 / Others

春学期は1年生と2年生合同でのゼミを主体としお互いに切磋琢磨しながら、それぞれの研究を進める。

秋学期は1年生はゼミ主体、2年生は個別指導主体で、それぞれの研究をサポートしていく。

亀井の専門は公共政策だが、これまでのゼミ生は、この専門と重ならない学生が多い。むしろ、研究の骨格（研究手法の見極めを含む）、具体的な研究方法の設計、実施、分析のサポートをロジカルシンキングを用いてサポートしてきた。こうした点を踏まえ、主指導（ゼミ）を選択されたい。

なお、夏休みと春休みに、他のゼミとの合同ゼミを開催する予定

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習10B

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 10B

(社会組織理論方法論1B)

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM560

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

それぞれの研究課題について、発表・討論を重ね、論文および報告書作成にむけた助言をおこなう。出席者には、報告者の発表内容について積極的にコメントすることを期待する。その過程で、自身の研究および他者の研究に対して、批判的かつ発展的に検討しうる視座を身に着けることを目標とする。

Students will repeat presentations and discussions on each research subject, and we will give advice on writing papers and reports. Attendees are expected to actively comment on the content of the speaker's presentation. Through this process, the aim is for the student to gain the perspective of being able to consider their own research and that of others critically and developmentally.

授業の内容 / Course Contents

各回の発表者が、各自の研究課題に関する報告を繰り返しおこない研究を進めてゆく。特に本演習では、研究課題にまつわる調査や資料の分析の経過について、報告してもらうことを中心とする。その際には、社会調査

を用いた研究方法についても適宜解説する。なお、研究のスケジュールや扱う文献については、それぞれの研究関心に沿ったものとなるよう配慮する。

Each presenter will repeatedly report on their research subject to advance the research. In particular, this exercise focuses on having students report on the progress of their survey and analysis of materials related to the research subject. In addition, research methods using social surveys will be explained as appropriate. The research schedule and documents to be handled should be considered in line with each research interest.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：研究発表1
- 3回：研究発表2
- 4回：研究・調査計画の設定1
- 5回：研究・調査計画の設定2
- 6回：研究・調査計画の設定3
- 7回：中間報告
- 8回：資料の分析1
- 9回：資料の分析2
- 10回：資料の分析3
- 11回：資料の分析4
- 12回：個別論文指導1
- 13回：個別論文指導2
- 14回：研究発表

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

自分の研究課題について積極的に情報収集をすることを基本とするが、詳細は授業内に個別に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業への積極的参加:50% 発表内容:50%

平常点は演習時の積極性や出席状況で評価する。

テキスト / Textbooks

特に指定しない。

参考文献 / Readings

特に指定しない。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Microsoft Office、Zoom

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または

研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習11B

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 11B

(社会組織理論方法論2B)

三浦 建太郎 (MIURA KENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM561

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

学生各自が自らの研究テーマを定め、十分な研究を経た上で、修士論文もしくは研究報告書をまとめ、提出することを目標とする。

This course aims to help students conduct research on their individual themes and to complete and submit a master's thesis or research report.

授業の内容 / Course Contents

学生各自の研究テーマの設定を行うための議論を重ね、選択したテーマに対する研究と論文執筆計画の策定を行う。

個別のテーマに関する研究と論文執筆の進捗や、様々な課題に対応した指導を行う。

また随時、論文の構成、研究と論文執筆の進捗について、他の学生に対する発表を行い、相互に意見交換、アドバイスをすることを通じて、他者の視点を意識することで、客観性を持った質の高い論文を書くためのヒン

トと手がかりを得る場とする。

論文執筆年次の学生は、早期に論文全体の一旦の完成から、再度、完成度を高めるためのブラッシュアップの行程を設ける

The purpose of this course is for each student to select and set the theme for the master's thesis or research report and to conduct individual research under the guidance and advice of the faculty, while also providing opportunities for mutual advice through discussions among students.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：各受講生の問題意識や関心領域、研究計画の発表
- 3回：各受講生の問題意識や関心領域、研究計画の発表
- 4回：研究の途中報告と討論
- 5回：研究の途中報告と討論
- 6回：研究の途中報告と討論
- 7回：研究の途中報告と討論
- 8回：研究の途中報告と討論
- 9回：研究の途中報告と討論
- 10回：研究の途中報告と討論
- 11回：研究の途中報告と討論
- 12回：研究の途中報告と討論
- 13回：研究と論文執筆の進捗と今後の計画の確認
- 14回：研究と論文執筆の進捗と今後の計画の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワー等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

研究と論文執筆を進める

随時、進捗の確認と計画の再考。

M2以上は、仮提出に向けての執筆を進めること、特に研究で得られた素材から分析、考察し、結論をまとめるための枠組みを確実にしていく。

M1はM2の執筆状況、検討状況を参考にしつつ、先行研究の整理と、研究方法、研究計画の検討を行っていく。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究の進み具合で評価する:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

個別に紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習13B

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 13B

(コミュニティデザイン学方法論4B)

倉本 由紀子 (KURAMOTO YUKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM563

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

学生が各々の研究テーマに基づいた修士論文・研究報告書を作成します。

Students will conduct their research for their master's thesis or research report.

授業の内容 / Course Contents

修士論文・研究報告書作成に向けて、各受講者がテーマを選択・設定し、教員の指導・助言のもと、個別研究を行います。

Each student will select a topic and develop a research proposal for their master's thesis. They will conduct independent research under the guidance of the faculty.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：指導内容についての説明

2 回：各受講者の関心ある分野、研究テーマ、研究方法について個別に協議

- 3回：受講者全員で各受講者の研究テーマについて発表し、情報共有
 4回：各受講者の研究スケジュールについて協議
 5回：中間報告会において研究発表を行い、発表内容について全員で討論を行い、研究内容、方法等の見直しを行い、論文作成に必要なものの見方、考え方を身につける。
 6回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 7回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 8回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 9回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 10回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 11回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 12回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 13回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 14回：本提出に向け、論文作成に必要な作法等の指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

論文作成法に関するテキスト、立教大学の論文作成のガイドライン等を入手し、事前に学習することをお願いします。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の報告:100%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松 洋 編著 『新・社会調査へのアプローチ:論理と方法』 ミネルヴァ書房 2013 9784623066544

佐藤郁哉 『社会調査の考え方 上』 東京大学出版会 2015 9784130520263

佐藤郁哉 『社会調査の考え方 下』 東京大学出版会 2015 9784130520270

佐藤郁哉 『質的データ分析法—原理・方法・実践』 新曜社 2008 9784788510951

各受講者の研究テーマに応じて、随時紹介します。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習15B

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 15B

(グローバル・リスクガバナンス方法論5B)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM565

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

受講者が、その関心をベースにしつつ、社会へのインパクトのあるテーマについて、自立的に研究を行い、独創性に富む修士論文、研究報告書を作成することを目標とする。

Participating students will study and create master thesis/research reports based on their intellectual interests. The study will have good originality based on the independent and socially meaningful research..

授業の内容 / Course Contents

持続可能な社会づくり、環境保全、行政の仕組み/機能、政府や地域のガバナンスなどに関する研究分野を主な指導テーマとし、個別指導、グループ指導を必要に応じ組み合わせ、論文執筆のための指導を行う。

We will provide guidance for master thesis preparation, which covers such research areas as building sustainable society, environmental protection, structure and function of administration, and governance of government and local communities. These guidance will be given through individual and/or group guidance.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：夏休み研究活動の報告
 2回：仮提出に向けた進捗状況の確認（2年次）
 3回：先行研究、データなど資料の集め方、整理の仕方（確認）
 4回：論文のロジックの立て方（確認）
 5回：剽窃防止、研究不正防止（確認）
 6回：本論文作成に向けた個別指導（2年次）
 研究関心事についての中間発表（1年次）① 環境保全を中心に
 7回：本論文作成に向けた個別指導（2年次）
 研究関心事についての中間発表（1年次）② 環境保全を中心に
 8回：本論文作成に向けた個別指導（2年次）
 研究関心事についての中間発表（1年次）③ ガバナンスを中心に
 9回：本論文作成に向けた個別指導（2年次）
 研究関心事についての中間発表（1年次）④ ガバナンスを中心に
 10回：本論文作成に向けた個別指導（2年次）
 研究テーマ選定についての確認（1年次）
 11回：引用文献、注釈の付け方（確認）
 12回：研究要旨の作成について指導（2年次）
 研究テーマ発表会（1年次）① 環境保全を中心に
 13回：研究テーマ発表会（1年次）② ガバナンスを中心に
 14回：春休みの研究計画（1年次）
 まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業中、個別に提示する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業での発表：100%

テキスト / Textbooks

特に定めない。

参考文献 / Readings

環境省 令和5年版環境白書 日経印刷 2023 4865793232

授業で個別に提示する。

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的な議論への参加

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習16B

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 16B

(社会組織理論方法論5B)

大熊 玄 (OKUMA GEN)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM566

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

学生が選んだテーマをもとに、最終的に修士論文・研究報告書の完成を目標として、基礎的な知識や研究方法を身につける。

The student will acquire basic knowledge and research methods with the goal of finally completing a master's thesis or research report on the theme they have chosen.

授業の内容 / Course Contents

学生は、自身が最も関心のあるテーマを選択し、実際の修士論文・研究報告書のタイトルへと落とし込み、自らの研究を導いてくれる「リサーチクエスト」を創る。また、参考文献 (先行研究) を収集・読解・批評しながら、それらを参考に自らの論文・報告書のアウトライン (骨格) を作成し、執筆を開始し、最終的に論文・報告書の体裁を整えていく。講師は、春学期に引き続き、そのつど学生から研究の進捗状況を聞きながら、研究計画や内容に対して助言・指導・討議を行い、学生はそこから新たな視点を得るとともに、自らの研

究を進め深めていく。

The student will select the theme in which they are interested, express it in the title of their actual master's thesis or research report, and create a "research question" that guides their research. In addition, the student will create an outline (framework) of their own academic paper or report referring to references (preceding studies) that they collect, read and criticize, will start writing and finally prepare the format of an academic paper or report. Following on from the spring semester, the lecturer will provide advice and guidance and discuss the research plan and its contents while hearing about the progress of the research from the student regularly, giving the student new perspectives to advance and deepen their research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：全体テーマ（方向）の選択
- 3回：具体的目標と規模の決定
- 4回：リサーチクエスションの確認
- 5回：論文構成（序/本/結）の検討
- 6回：アウトライン（目次）の作成
- 7回：研究データベース作成
- 8回：文献の調査・探索
- 9回：文献目録の作成
- 10回：序の検討
- 11回：本論の検討（1）
- 12回：本論の検討（2）
- 13回：本論の検討（3）
- 14回：結論・全体の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で別途指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期中の進捗状況:50% 学期末の研究成果:50%

テキスト / Textbooks

授業内で別途指示する。

参考文献 / Readings

授業内で別途指示する。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

対面参加者も、zoom 接続可能な機器（ノートパソコン・タブレット）持参が望ましい。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

比較組織ネットワーク学集中演習17B

Practical Application: Comparative Study of Network & Social Organization 17B

(社会組織理論方法論6B)

品治 佑吉 (HONJI YUKICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： VM567

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 1

科目ナンバリング： SDS6010

使用言語： 日本語

授業形式： 演習・ゼミ

履修登録方法： その他登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

履修者のみなさんの研究課題に対応した発表・論文執筆の演習を行います。

Students will be required to present and write a paper for each of their research topics.

授業の内容 / Course Contents

学生のみなさんには、自分自身が現在抱えている問題意識や疑問をあらためて異なる視点から学術的な研究課題として位置づけ直すことが求められます。この授業では、各回での発表やレポート執筆を通じて、自分自身の関心をより広い視野から捉え直すと共に、具体的なリサーチクエスチョンを持った論文として情報発信するための能力を身につけます。

Students are required to reconsider their current awareness of problems and questions as academic research topics from a different perspective. In this class, through presentations and writing reports, students will reevaluate their own interests from a broader perspective and acquire the ability to present information as

specific research subject.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション：自己紹介、授業の概要
- 2回：テーマ設定①：問題意識の具体化、ブレインストーミングの手法、先行研究の探索方法
- 3回：テーマ設定②：受講者ごとの研究課題・リサーチクエスションの仮設実習（1）
- 4回：テーマ設定②：受講者ごとの研究課題・リサーチクエスションの仮設実習（2）
- 5回：調査：利用可能な情報源（データベース、図書館など）を用いたデータ探索の実習
- 6回：文献購読①：履修者の関心に応じた論文・著作の輪読（1）位置付けと要約
- 7回：文献購読②：履修者の関心に応じた論文・著作の輪読（2）位置付けと要約
- 8回：文献購読③：履修者の関心に応じた論文・著作の輪読（3）感想・コメント
- 9回：文献購読④：履修者の関心に応じた論文・著作の輪読（4）位置付けと要約
- 10回：文献購読⑤：履修者の関心に応じた論文・著作の輪読（5）位置付けと要約
- 11回：文献購読⑤：履修者の関心に応じた論文・著作の輪読（6）感想・コメント
- 12回：報告演習①：履修者による自身の研究テーマに関する報告（1）
- 13回：報告演習②：履修者による自身の研究テーマに関する報告（2）
- 14回：報告演習③：履修者による自身の研究テーマに関する報告（3）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

予習として、毎回必ず指定された文献を読み、課題をこなすこと（1時間程度を想定）、授業後には、フィードバックをもとに自分自身の研究をどうブラッシュアップできるかの報告を求めます。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 文献報告:20% 個人報告（1回目）:20% 個人報告（2回目）:30% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

ハワード・ベッカー／パメラ・リチャーズ 論文の技法 講談社 1996 9784061592483

テキストは指定しない。なお、「論文作成法」シラバスで挙げた文献も参考にすること。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

社会組織理論特別研究 1 A

Directed study: Social Organization 1A

大熊 玄 (OKUMA GEN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM131
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生自身が、自らの研究テーマをより深化させ、「社会デザイン学」としての「博士論文」を完成させることを目標とする。

The student will acquire basic knowledge and research methods with the goal of finally completing a doctor thesis on the theme that they have chosen.

授業の内容 / Course Contents

博士論文の執筆者は、自らの論文テーマの意味を常に問い続けなければならない。今自らが行っている研究が、その研究者自身にとって、その研究分野において、そしてこの社会にとって、どのような意味を持つのか。また、この博士論文によって得られる学位の名称が「博士（社会デザイン学）」である以上、「社会デザイン学」とは何なのか、それが自らの研究とどのような位置関係にあるのか、これらを問い続ける必要がある。講師は、そのつど学生から研究の進捗状況を聞きながら、研究計画や内容に対して助言・指導・討議を行い、学生は、それによって自らの研究を進めていくとともに、その研究の意味も深めていく。

The student will select the theme in which they are interested, express it in the title of their actual doctor thesis or research report, and create a "research question" that guides their research. In addition, the student will create

an outline (framework) of their own academic paper referring to references (preceding studies) that they collect, read and criticize, will start writing and finally prepare the format of an academic paper or report. The lecturer will provide advice and guidance and discuss the research plan and its contents while hearing about the progress of the research from the student regularly, giving the student new perspectives to advance and deepen their research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：全体テーマ（方向）の選択
- 3 回：具体的目標と規模の決定
- 4 回：リサーチクエスションの確認
- 5 回：論文構成（序/本/結）の検討
- 6 回：アウトライン（目次）の作成
- 7 回：研究データベース作成
- 8 回：文献の調査・探索
- 9 回：文献目録の作成
- 10 回：序の検討
- 11 回：本論の検討（1）
- 12 回：本論の検討（2）
- 13 回：本論の検討（3）
- 14 回：結論・全体の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指定する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

特になし

コミュニティデザイン学特別研究1 A

Directed Study:Community Design 1A

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM133
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が、博士論文執筆に向けた研究を進捗・完成させることにある。そのために、各受講生の段階に合わせた、研究指導を行う。

授業の内容 / Course Contents

博士論文の作成にあたっては、論文を執筆するための基本的な枠組に加えて、自身のテーマに対応する学問分野の整理、国内外の先行研究の批判的検討、複数の投稿論文からなる博士論文全体の構成など、より高度な要素が求められることになる。本授業では、それらのスキルを習得するために必要な指導や助言を行う。なお、本授業では、受講者の状況に合わせた個別指導に加えて、定期的にゼミ形式の発表・討議の機会を設ける。受講生には、それらの機会を積極的に活用し、学会発表や論文執筆に活かすことを期待する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：リサーチクエスションの確認
- 3回：研究計画の作成
- 4回：プレゼンテーション・ディスカッション ①

- 5回：専門分野の研究動向整理
 6回：先行研究の収集
 7回：先行研究の批判的検討
 8回：プレゼンテーション・ディスカッション ②
 9回：研究方法の検討
 10回：研究の実施状況の整理
 11回：研究結果の整理
 12回：プレゼンテーション・ディスカッション ③
 13回：博士論文の構想
 14回：プレゼンテーション・ディスカッション ④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

個別指導や研究発表の機会に向けて、各自の研究を進めておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Microsoft Office、Zoom

コミュニティデザイン学特別研究4 A

Directed Study:Community Design 4A

倉本 由紀子 (KURAMOTO YUKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM136
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生が各々の研究テーマに基づいた博士論文を執筆します。

The doctoral students will conduct their research and write their dissertations.

授業の内容 / Course Contents

博士論文作成に向けて、各受講者がテーマを選択・設定し、教員の指導・助言のもと、個別研究を行います。

Doctoral students work on their research projects for their dissertations and receive guidance and advice from their faculty members.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：指導内容についての説明
- 2 回：各受講者の関心ある分野、研究テーマ、研究方法について個別に協議
- 3 回：受講者全員で各受講者の研究テーマについて発表し、情報共有
- 4 回：各受講者の研究スケジュールについて協議
- 5 回：中間報告会において研究発表を行い、発表内容について全員で討論を行い、研究内容、方法等の見直しを行い、論文作成に必要なものの見方、考え方を身につける。

- 6回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 7回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 8回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 9回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 10回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 11回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 12回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 13回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 14回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

博士論文執筆に関する調査を進め、論文作成法に関するテキスト、立教大学の論文作成のガイドライン等入手し、学習しておくことが望ましいです。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の報告:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

各受講者の研究テーマに応じて、随時紹介します。

危機管理学特別研究 1 A

Directed Study:Crisis Management 1A

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM137
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

博士論文の作成に向けて、受講生が設定したテーマに基づき研究指導を行う。対象領域は主として、以下の研究領域とする。

リスク学、リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、防災政策、危機管理、災害医療・福祉、放射性廃棄物、防災教育、災害情報、情報政策、オープンデータ、ソーシャルウェア、コミュニティガバナンス、地域プロデュース、デジタルアーカイブ、オーラルヒストリー、ワークスタイル、テレワーク、モバイル建築など

授業の内容 / Course Contents

博士論文の進捗報告に基づき個別面談指導を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究指導
- 2 回：研究指導
- 3 回：研究指導
- 4 回：研究指導
- 5 回：研究指導

- 6回：研究指導
- 7回：研究指導
- 8回：研究指導
- 9回：研究指導
- 10回：研究指導
- 11回：研究指導
- 12回：研究指導
- 13回：研究指導
- 14回：研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 博士論文の進捗報告と討論に基づき評価する。:100%

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

使用しない

危機管理学特別研究 2 A

Directed Study:Crisis Management 2A

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM138
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位：
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

受講者一人ひとりが、自らの立ち位置を意識し、当事者としての自覚をもちながら、独自の問題関心に沿って、自分自身や社会と誠実に向き合いつつ、独創性に富んだ研究を行うことを目標とする。

To develop student capacity to carry out academic research to write a doctoral dissertation,conducting a review of the concept of originality.

授業の内容 / Course Contents

人口 80 億人を超える今日の国際社会。しかし世界には本当に 80 億もの人間が存在しているのだろうか。実際には数億の人間と数十億のそうでない個からなっているのではないか。こうした問いかけがなされるほど、今日の世界は階層化が進んでいる。格差が生まれ、弱者がますます困難な状況に追い込まれているのは日本社会も同様である。

では、こうした課題・問題を前に、研究者としての私たちは、どのような対策を講じ、どのような社会をデザインし、構築していくのか。もうすぐ戦後 80 年を迎えようという社会に生きる私たちが、学問や「知」を通じて果たすべき役割とは何か。こうした問題関心に基づき、個別指導に重点を置いて、学位論文執筆のための指導を行う。

The course is designed to provide students with a comprehensive guide to writing a doctoral dissertation, exploring the concept of originality.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：【ガイダンス】 博士学位論文と他の学術論文との違い・剽窃と研究不正に関する注意
演習参加者による問題意識・関心の発表
- 2 回：博士学位論文に求められるものとは（講義）（1）
- 3 回：博士学位論文に求められるものとは（講義）（2）
- 4 回：博士学位論文に求められるものとは（講義）（3）
- 5 回：剽窃と研究不正に関する注意
- 6 回：研究・調査の方法と分析枠組みについて（1）
- 7 回：研究・調査の方法と分析枠組みについて（2）
- 8 回：博士論文作成指導
- 9 回：先行研究・参考文献の書評発表
- 10 回：学生中間発表
- 11 回：博士論文作成指導
- 12 回：先行研究・参考文献の書評発表
- 13 回：博士論文作成指導
- 14 回：進捗状況の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内または個別に指示する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究活動の報告状況:50% 指導中に提出された内容をもとに評価:50%

テキスト / Textbooks

長有紀枝 入門 人間の安全保障 中央公論新社 2021 412192195 ○

長有紀枝 スレブレニツァ・ジェノサイド 東信堂 2020 4798916463 ○

特に指定しない

参考文献 / Readings

個別に指示・紹介する。

社会組織理論特別研究 1 B

Directed study: Social Organization 1B

大熊 玄 (OKUMA GEN)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM151
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生自身が、自らの研究テーマをより深化させ、「社会デザイン学」としての「博士論文」を完成させることを目標とする。

The student will acquire basic knowledge and research methods with the goal of finally completing a doctor thesis on the theme that they have chosen.

授業の内容 / Course Contents

博士論文の執筆者は、自らの論文テーマの意味を常に問い続けなければならない。今自らが行っている研究が、その研究者自身にとって、その研究分野において、そしてこの社会にとって、どのような意味を持つのか。また、この博士論文によって得られる学位の名称が「博士（社会デザイン学）」である以上、「社会デザイン学」とは何なのか、それが自らの研究とどのような位置関係にあるのか、これらを問い続ける必要がある。講師は、春学期に引き続き、そのつど学生から研究の進捗状況を聞きながら、研究計画や内容に対して助言・指導・討議を行い、学生は、それによって自らの研究を進めていくとともに、その研究の意味も深めていく。

The student will select the theme in which they are interested, express it in the title of their actual doctor thesis or research report, and create a "research question" that guides their research. In addition, the student will create

an outline (framework) of their own academic paper referring to references (preceding studies) that they collect, read and criticize, will start writing and finally prepare the format of an academic paper or report. The lecturer will provide advice and guidance and discuss the research plan and its contents while hearing about the progress of the research from the student regularly, giving the student new perspectives to advance and deepen their research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：全体テーマ（方向）の選択
- 3 回：具体的目標と規模の決定
- 4 回：リサーチクエスションの確認
- 5 回：論文構成（序/本/結）の検討
- 6 回：アウトライン（目次）の作成
- 7 回：研究データベース作成
- 8 回：文献の調査・探索
- 9 回：文献目録の作成
- 10 回：序の検討
- 11 回：本論の検討（1）
- 12 回：本論の検討（2）
- 13 回：本論の検討（3）
- 14 回：結論・全体の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指定する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

特になし

コミュニティデザイン学特別研究1B

Directed Study:Community Design 1B

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM153
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が、博士論文執筆に向けた研究を進捗・完成させることにある。そのために、各受講生の段階に合わせた、研究指導を行う。

授業の内容 / Course Contents

博士論文の作成にあたっては、論文を執筆するための基本的な枠組に加えて、自身のテーマに対応する学問分野の整理、国内外の先行研究の批判的検討、複数の投稿論文からなる博士論文全体の構成など、より高度な要素が求められることになる。本授業では、それらのスキルを習得するために必要な指導や助言を行う。なお、本授業では、受講者の状況に合わせた個別指導に加えて、定期的にゼミ形式の発表・討議の機会を設ける。受講生には、それらの機会を積極的に活用し、学会発表や論文執筆に活かすことを期待する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：研究計画の作成
- 3回：論文の目次作成
- 4回：プレゼンテーション・ディスカッション ①

- 5回：専門分野の研究動向整理
 6回：先行研究の収集
 7回：先行研究の批判的検討
 8回：プレゼンテーション・ディスカッション ②
 9回：研究結果の報告
 10回：研究結果の分析・考察
 11回：プレゼンテーション・ディスカッション ③
 12回：論文の執筆
 13回：フィードバック
 14回：論文の修正

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

個別指導や研究発表の機会に向けて、各自の研究を進めておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Microsoft Office、Zoom

コミュニティデザイン学特別研究4B

Directed Study:Community Design 4B

倉本 由紀子 (KURAMOTO YUKIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM156

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期他

単位：

科目ナンバリング： SDS7810

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生が各々の研究テーマについて研究調査し博士論文を作成します。

The doctoral students will conduct their research and write their dissertations.

授業の内容 / Course Contents

博士論文作成に向けて、各受講者がテーマを選択・設定し、教員の指導・助言のもと、個別研究を行います。

Doctoral students work on their research projects for their dissertations and receive guidance and advice from their faculty members.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1 回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導

2 回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導

3 回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導

4 回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導

5 回：各受講者の研究進捗状況を把握し、調査研究のスケジュールを確認

6 回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導

- 7回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 8回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 9回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 10回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 11回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 12回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 13回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 14回：予定論文提出に向け、個別指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

博士論文執筆に関する調査研究を進め、その概要をまとめておくことが望ましいです。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の報告:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

各受講者の研究テーマに応じて、随時紹介します。

危機管理学特別研究 1 B

Directed Study:Crisis Management 1B

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM157
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

博士論文の作成に向けて、受講生が設定したテーマに基づき研究指導を行う。対象領域は主として、以下の研究領域とする。

リスク学、リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、防災政策、危機管理、災害医療・福祉、放射性廃棄物、防災教育、災害情報、情報政策、オープンデータ、ソーシャルウェア、コミュニティガバナンス、地域プロデュース、デジタルアーカイブ、オーラルヒストリー、ワークスタイル、テレワーク、モバイル建築など

授業の内容 / Course Contents

博士論文の進捗報告に基づき個別面談指導を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究指導
- 2 回：研究指導
- 3 回：研究指導
- 4 回：研究指導
- 5 回：研究指導

- 6回：研究指導
- 7回：研究指導
- 8回：研究指導
- 9回：研究指導
- 10回：研究指導
- 11回：研究指導
- 12回：研究指導
- 13回：研究指導
- 14回：研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：002) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 博士論文の進捗報告と討論に基づき評価する。:100%

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

使用しない

危機管理学特別研究 2 B

Directed Study:Crisis Management 2B

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM158
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位：
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

受講者一人ひとりが、自らの立ち位置を意識し、当事者としての自覚をもちながら、独自の問題関心に沿って、自分自身や社会と誠実に向き合いつつ、独創性に富んだ研究を行うことを目標とする。

To develop student capacity to carry out academic research to write a doctoral dissertation, conducting a review of the concept of originality.

授業の内容 / Course Contents

人口 80 億人を超えると推定される今日の国際社会。しかし世界には本当に 80 億の人間が存在しているのだろうか。実際には数億の人間と数十億のそでない個からなっているのではないか。こうした問いかけがなされるほど、今日の世界は階層化が進んでいる。格差が生まれ、弱者がますます困難な状況に追い込まれているのは日本社会も同様である。

では、こうした課題・問題を前に、研究者としての私たちは、どのような対策を講じ、どのような社会をデザインし、構築していくのか。もうすぐ戦後 80 年をむかえる社会に生きる私たちが、学問や「知」を通じて果たすべき役割とは何か。こうした問題関心に基づき、個別指導に重点を置いて、学位論文執筆のための指導を行う。

The course is designed to provide students with a comprehensive guide to writing a doctoral dissertation, exploring the concept of originality.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：演習参加者による夏季休暇中の研究の進捗状況報告（1）
- 2 回：演習参加者による夏季休暇中の研究の進捗状況報告（2）
- 3 回：剽窃と研究不正に関する注意
- 4 回：研究・調査の方法と分析枠組みについて（1）
- 5 回：研究・調査の方法と分析枠組みについて（2）
- 6 回：博士論文作成指導
- 7 回：博士論文作成指導
- 8 回：学生研究発表
- 9 回：博士論文作成指導
- 10 回：博士論文作成指導
- 11 回：学生研究発表
- 12 回：博士論文作成指導
- 13 回：学生研究発表
- 14 回：進捗状況の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内または個別に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究活動の報告状況:50% 指導中に提出された内容をもとに評価:50%

テキスト / Textbooks

長有紀枝 入門 人間の安全保障 中央公論新社 2021 412192195 ○

長有紀枝 スレブレニツァ・ジェノサイド 東信堂 2020 4798916463 ○

特に指定しない。

参考文献 / Readings

個別に指示・紹介する。

社会デザイン学主題別研究 2 A

Special Topics: Social Design 2A

(文化政策論 1)

若林 朋子 (WAKABAYASHI TOMOKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会デザイン研究科
科目コード等：	WM172
授業形態：	ハイフレックス
授業形態 (補足事項)	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	
科目ナンバリング：	SDS7910
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

文化政策は公共政策であることを踏まえ、文化と社会の関係性や、具体的な文化政策の内容について理解を深める。社会デザインの視点で文化政策を捉えなおし、かつ、文化の視点から社会デザインを考える。

Based on the fact that cultural policy is public policy, students will deepen their understanding of the relationships between culture and society, and the specific content of cultural policy. Students will reconsider cultural policy from the perspective of social design, and consider social design from the perspective of culture.

授業の内容 / Course Contents

文化政策が対象とする「文化、芸術、アート」とは何かを考えることからはじめ、国や自治体による公共政策としての文化政策、企業をはじめとする民間の文化の取り組みについて概観する。特に文化政策の歴史的な変遷のなかでも、大きく様変わりした直近 30 年の展開を重点的に扱う。

なお、ここでいう「文化」の範囲は、狭義の芸術文化から、地域社会の歴史に根ざした文化、よりよく生きる

人間の営みとしての文化まで、幅広いものとする。ゲストを迎えてのレクチャーや文化施設等の見学（任意参加）も行う。

Starting with thinking about what is "culture and the arts", that is the object of cultural policy, we will give an overview of public cultural policy by the national and local governments, and civic cultural efforts such as by business companies. Among historical changes in cultural policy, we will focus on developments in the last 30 years when the situation has changed dramatically.

In addition, the scope of "culture" described here shall be wide, stretching from art culture in a narrow sense, to culture rooted in the history of local communities, and culture as a human activity to live better. We will also invite guest lecturers and visit cultural facilities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：文化、芸術、アート
- 2 回：文化政策をめぐって：文化政策の意義、日本の文化政策の変遷
- 3 回：文化政策と法律：文化芸術基本法
- 4 回：国の文化政策①
- 5 回：国の文化政策②
- 6 回：国の文化政策③
- 7 回：ゲストレクチャー①
- 8 回：地方自治体の文化政策①
- 9 回：地方自治体の文化政策②
- 10 回：地方自治体の文化政策③
- 11 回：企業の文化政策①
- 12 回：企業の文化政策②
- 13 回：ゲストレクチャー②
- 14 回：広がる文化政策領域

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への参画（発言・発表・ディスカッション）：100%

毎回のリアクションペーパー（コメント）提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない（随時紹介する）。

参考文献 / Readings

随時紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 3 A

Special Topics: Social Design 3A

(エシカル消費総論－1)

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM173
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位：
科目ナンバリング： SDS7910
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

コロナ禍が収束する一方で、ウクライナ紛争につづき、中東での紛争と地政学リスクが休息に高まり、気候危機による異常気象の影響もあり、エネルギー価格や食料価格が世界的に高騰するなど、世界はVUCAの様相を高めている。台風や洪水、干ばつなどの世界各地での異常気象は加速化し、我々の経済社会生活に大きな影響をあたえつつある。しかしこの異常気象は人間活動がもたらした帰結でもある。人類が農耕生活を始めて以来世界の森林面積の1/3は失われた。また2050年の海には魚よりプラスチックの方が多くなるといわれるように、経済活動は生物多様性を損ね、地球に大きな影響を与えている。また、コロナ禍とウクライナ紛争は、貧困層と環境に打撃を与えて、SDGsのゴール達成を遠ざけている。環境破壊や人権侵害は直接的には企業が引き起こすことが多いが、その背後には消費者のニーズがある。今や政府や企業だけでなく、私たち消費者のライフスタイル自体をサステナブルに変革することが求められている。本コースでは、消費者の立場からサステナビリティの取り組みを考察する。

While Covid-19 turmoil is fading, geopolitical risks are rising due to conflicts in Ukraine and in Middle East triggering food and energy price hikes. On the other hand extreme weathers caused by climate change continues to harm our society, which is caused by human activities. A third of the forest was lost since humans began agriculture. Our global economic value chain enabling mass consumption is damaging the planet by destroying biodiversity and by exhausting natural resource. Covid19 and military conflicts are also harming the lives of vulnerable people such as immigrant workers and small scale farmers and thus widening the income gap, making the attainment of SDGs more difficult. Usually business is to be blamed for climate change and human rights fraud, but business activities are led by consumer needs. Now that not only government and business but consumer must change our lifestyle to more sustainable way.

授業の内容 / Course Contents

そもそも SDGs の S (サステナビリティ=持続可能性) とは何か? 本講義では環境の持続可能性、社会の持続可能性について主要な課題について概観し、現在のグローバル社会を持続可能に転換させるシステム SDGs とパリ協定や生物多様性保全の枠組みなど目的と進捗について理解を深める。それを受けて、消費生活の在り方をどのように変えるべきか検討していく。ライフスタイル全体の見直し、食・衣・住・エネルギーの3つの分野において、サプライチェーンに潜む課題と解決策を考察する。

What is the meaning of sustainability represented by SDGs? In this course we will go over the major environmental and social issues, and study about the role of SDGs and Paris Agreement and biodiversity framework, all of which are intended to transform our society. Then we will discuss the necessary lifestyle change and also ethical consumption on each food, apparel, and housing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：グローバルな社会課題：地球環境問題&人権・人の課題
- 3 回：SDGs、パリ協定 などグローバルなイニシアチブの動向
- 4 回：エネルギー問題
- 5 回：サーキュラーエコノミー
- 6 回：食の課題 1
- 7 回：食の課題 2
- 8 回：食の課題 3
- 9 回：衣の課題 1
- 10 回：衣の課題 2
- 11 回：住の課題
- 12 回：その他消費の課題
- 13 回：エシカル金融
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のリアクションペーパーの提出

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席率・発言・リアクションペーパー提出など:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

ハーマン・デイリー 『持続可能な発展の経済学』 みすず書房 2005 9784622071747

竹村真一 『地球の目線』 PHP 研究所 2008 4569700861

アリス・ウオーターズ 『スローフード宣言』 海士の風 2022 9784909934024

ジャック・アタリ 『食の歴史』 プレジデント社 2020 9784833423618

河口真理子 「SDG sで「変わる経済」と「新たな暮らし」」 生産性出版 2020 9784820121077

その他 / Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 4 A

Special Topics: Social Design 4A

(現代文化と社会デザイン)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM174
授業形態： ハイフレックス
授業形態 (補足事項)
校地： 池袋
学期： 春学期
単位：
科目ナンバリング： SDS7910
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

日本の戦後社会の変化を、主に 60 年代から 90 年代までサブカルチャーを含む様々な事象から多面的に考察する。そのことによって (1) 日本社会の性質、特徴について仮説を立てられるようになること。(2) 歴史の因果関係について考察できる眼を養うこと。(3) オルタナティブなものの見方、多角度からの柔軟な視点を身につけること。

This course aims to comprehensively examine the changes in post-war Japanese society, primarily from the 1960s to the 1990s, through various phenomena, including subcultures. By doing so, students will develop the ability to: (1) formulate hypotheses about the nature and characteristics of Japanese society; (2) cultivate an analytical perspective on the causal relationships within history; and (3) acquire alternative viewpoints and ways of interpreting events.

授業の内容 / Course Contents

私たちは今、どんな社会に生きているのでしょうか？複雑化する現代社会、そして世界情勢。その中で日本は時に「ガラパゴス」などとも呼ばれ、様々な意味で諸外国とは異なる「空気」の中にあるかのように表現されることも多いのはご存知の通りです。日本社会の底に流れる思考様式には、何か独特なものがあるのでしょうか？それを解く為に、意識を過去へと飛ばし、現代との対話を試みませんか？戦後の日本社会の変遷を、特に60年代から90年代の変化に焦点を当てて考えます。サブカルチャーを含む様々な文化的な要素を、残された映像や言葉を通して味わい、時代の「空気」を解読する試みです。戦後の日本人の「自画像」、日本人の「無意識」を読み解き、今これからの社会を考える手がかりをつかむ為の思考の旅に出ましょう。今当たり前を感じる光景から新たな意味を引き出し、歴史や社会を見る遠近法が少しでも変わる体験を皆さんとご一緒できればうれしく思います。

"What kind of society do we live in today? In the complex modern society and global circumstances, Japan is sometimes referred to as "Galapagos," suggesting a unique atmosphere that differs from other countries in various ways. Are there distinctive thought patterns underlying Japanese society?

To unravel this, why not shift our awareness to the past and attempt a dialogue with the present? We will contemplate the transformations in post-war Japanese society, with a particular focus on the changes from the 1960s to the 1990s. This endeavor involves experiencing various cultural elements, including subcultures, through remaining images and words, attempting to decode the "atmosphere" of the times.

Let's embark on a journey of thought to decipher the "self-image" and "unconscious" of post-war Japanese people, grasping clues to contemplate the society that lies ahead. I hope that together, we can derive new meanings from seemingly ordinary scenes and share experiences that may alter our perspective on history and society, even if only slightly."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション 日本社会とは？日本にあってサブカルチャーの可能性とは？
- 2回：60年代①「青春残酷物語」と「ニッポン無責任時代」
- 3回：60年代②「天才バカボン」と「にっぽん昆虫記」
- 4回：60年代③「任侠映画」と「日本の思想」
- 5回：70年代①モーレツからビューティフルへ
- 6回：70年代②オカルトブームと「仁義なき戦い」
- 7回：70年代③ニューファミリーと「モラトリアム人間の時代」
- 8回：80年代①YMOと「おいしい生活」
- 9回：80年代②お笑いブームとコムデギャルソン論争
- 10回：80年代③トレンドドラマと「構造と力」
- 11回：90年代①バブルの余韻の中で
- 12回：90年代②95年という「切断」
- 13回：90年代③「戦後日本社会」とは？
- 14回：まとめ サブカルチャー的な思考から見えてくる「この国」の形

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義、映像で扱う事象、文献などについて、一部受講生の皆さんにその背景などをリサーチしてもらい、その報告をきっかけに議論を深めていくことも予定しています。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

丸山眞男 『日本の思想』 岩波新書 1961 ○

小此木啓吾 『モラトリアム人間の時代』 中公文庫 2010 ○

浅田彰 『構造と力』 ちくま学芸文庫 2023 ○

参考文献 / Readings

加藤周一 『雑種文化 日本の小さな希望』 講談社文庫 1974

丸山俊一 『14歳からの個人主義』 大和書房 2021

丸山俊一 『結論は出さなくていい』 光文社新書 2017

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

必修ではありませんが、「VM365 コミュニティデザイン学演習65（映像ジャーナリズム論）」も併せて履修されると、さらに理解が立体的になると思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、パソコンを携帯してもらえるとありがたく存じます。

その他 / Others

初回受講生の皆さんと対話し、それぞれの学びの背景、目指す目標などを確かめた上で、講義の進め方など調整していきたいと考えます。

また、研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 5 A

Special Topics: Social Design 5A

(社会デザインと福祉課題 1)

三浦 建太郎 (MIURA KENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM175

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位：

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

福祉とは「生きづらさ」を抱える人を支え、人の幸福を高めるための様々な取組と考えられる。その在り方には、明確な正解があるわけではなく、社会で暮らす私たち自身が、どのような社会を望むのかという意思を持ち、試行錯誤を重ねることで進化していく。まさに社会デザインの発想と取組が求められている。

この講義は、福祉に携わる専門家としての知識の習得を目標とするものではなく、社会で日々暮らしている私たち自身が、現代社会に存在する様々な福祉的課題について、ジブンゴトとして認識し、どう考えどう対応していくべきか、自らの意見と行動の判断ができるようになることを目標とする。

There is no right answer in the welfare system.

We have our own will of trial and error, evolution, and the kind of society we want.

This course aims to help students recognize the various welfare issues that exist in modern society and make decisions about how they think and respond.

授業の内容 / Course Contents

- ・福祉の発展の経緯と現状の課題の基本的な知識を学ぶ
- ・時事ニュースや様々な言説を元に、議論を重ね、多様な視点から考える
- ・福祉的課題の解決のための方法について、自分の意見をまとめる
- ・講義の後半では、履修学生同士数名のグループで、現代社会の福祉課題への取組の提案を検討し発表する。
- ・ Learn the background of welfare development and basic knowledge of current issues.
- ・ Continue discussions and think from various perspectives about welfare issues.
- ・ Summarize your individual opinions on methods for solving welfare issues.
- ・ In the final session of the lecture, students will work in groups to discuss proposals to solve the welfare issues of modern society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：「社会デザイン」と「福祉」の視点
- 3回：社会保障と福祉制度の誕生と発展
- 4回：超高齢社会を考える1（現状と未来を確認）
- 5回：超高齢社会を考える2（介護・年金・社会保障）
- 6回：働く世代の生きづらさを考える1（非正規雇用・働き方改革）
- 7回：働く世代の生きづらさを考える2（外国人労働者・移民政策）
- 8回：子どもの生きづらさ、育てづらさを考える1（子育て・児童養護）
- 9回：障がい者の生きづらさを考える2（社会的排除・働き方）
- 10回：企画提案のテーマ決め（社会の福祉課題を選び、その解決の方法を考えて提案する）
- 11回：企画提案プランニング1（グループワーク）
- 12回：企画提案プランニング2（グループワーク）
- 13回：企画提案プランニング3（グループワーク）
- 14回：企画提案発表会（グループ毎に提案を発表）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

時事問題等を通じて、社会の福祉的課題について、関心を払い、自分の意見を考えておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への出席と理解:60% 議論への参加と貢献度:20% 発表内容:20%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

- 宮本太郎 生活保障 排除しない社会へ 岩波新書 2009 9784004312161
 広井良典 創造的福祉社会 ちくま新書 2011 9784480066190

高橋紘士 地域包括ケアを現場で語る 木星舎 2022 9784909317254

講義の中で適宜紹介する。

その他/ Others

オンライン（zoom）での受講も可能なミックス型で実施予定

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 6 A

Special Topics: Social Design 6A

(公共と市民社会)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM176

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位：

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

市民社会をテーマとした社会科学の古典等のテキストを用いた「対話」を通じて、市民（あなた自身）が社会課題に向き合うこと、その解決を担うこととはどういうことなのか、その意義を明らかにする。

社会デザインの前提とも言える「市民社会」については、ややもすればステレオタイプ的あるいは感覚的な理解に留まりがちだが、これに関する古典に立ち返ることを通じて、市民と政府の関係、社会との関係を考える機会とする。

併せて、現代における市民社会が目指していく方向の一つの具体例として、市民自らが地域社会の基本的なルール（法令）を作成した事例を採り上げ、その理念や構造等を学び、自らが社会に対して提言をする基本姿勢を作っていく。

Through "dialog" using texts on social science classics, etc. on the theme of civic society, we will clarify the meaning of what it means for citizens (yourself) to face social issues and to be responsible for their solutions.

Regarding "civic society" which can be regarded as a premise of social design, people tend to stick with stereotypes or intuitive understanding if anything, but this course will be an opportunity for students to think about the relationship of citizens with government and society.

At the same time, as a concrete example of the direction that civic society in the present day aims for, we will take up the case where citizens themselves have created the basic rules (laws) of the local community, and learn their principles and structures, to create a basic position from which students will be able to make recommendations.

授業の内容 / Course Contents

前半は、市民社会の基本的な考え方を理解するため、デモクラシー（民主制）、独立した個人、市民社会の構造等について書かれた古典を読み、受講者相互の対話を通じて、社会と個人の関係を明らかにする。

後半は、そうした理念と優れた実践の積み重ねの集大成とも言える、自治基本条例の先進地である北海道ニセコ町における住民自治の事例を採り上げ、その背景にある考え方や具体的な条文への展開および構造等について、また、条例がその後のまちづくりにどのような影響をもたらしているのかを見ていく。

In the first half, in order to understand the basic way of thinking about civic society, students will read the classics written on democracy, independent individuals, and civic society structure, etc. and identify relationships between society and individuals through dialog among students.

In the second half, we will take up the case of resident autonomy in Niseko Town, Hokkaido, which is an advanced area for autonomy basic ordinances, and which can be said to be a culmination of the accumulation of such principles and good practices. We will look at the development and structure, etc. of the way of thinking and concrete articles behind this case, and what kind of influence the regulations have had on subsequent community development.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション（「小さな政府、大きな社会」等、民による政策提言を必要とする背景等の基本認識の整理）
- 2 回：デモクラシー①（自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等）
- 3 回：デモクラシー②（自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等）
- 4 回：デモクラシー③（自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等）
- 5 回：独立した個人が作る社会像（独立とは何か、社会との関係等）
- 6 回：独立した個人の意味（独立した考え、市民社会における個人像等）
- 7 回：理想社会の実現（理想社会をどこに置くのか等）
- 8 回：正義とは何か（正義のあり方、分配をめぐる考え方等）
- 9 回：市民政府論（市民と政府の関係等）
- 10 回：自治からつくるまち①（まちづくり基本条例から考える自治等）
- 11 回：自治からつくるまち②（まちづくり基本条例から考える自治等）
- 12 回：自治からつくるまち③（まちづくり基本条例から考える自治等）
- 13 回：住民自治の実践例（実践者による講義、対談）
- 14 回：民が担う政策提言の実践に向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト・文献については、授業時の対話において積極的に発言できるよう、事前によく読んでおくことが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・演習時における発表、他の参加者に対する貢献:100%

3 / 4 以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

採り上げる文献・テキスト等としては、以下の著作を予定している。

いずれの文献も PDF ファイルにて授業支援システムにアップするので、対話で発言できるよう、しっかり読んでおくこと。

亀井「企業は社会の公器」（イントロダクション）、トクヴィル「アメリカのデモクラシー」、福沢諭吉「学問のすすめ」、ロック「市民政府論」、木佐茂雄・片山健也ほか「自治基本条例は活きているか!?!—ニセコ町まちづくり基本条例 10 年」他

参考文献 / Readings

その他 / Others

秋学期の「政策立案・評価」は、アドボカシーやその前提となる政策立案や評価に関する理論や方法を学ぶが、本授業では、その基礎となるデモクラシーや社会における意思決定のあり方（統治機構）について、各種テキストを対話形式で読み重ねることを通じて、理解を深める。

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる場合がある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 7 A

Special Topics: Social Design 7A

中野 佳裕 (NAKANO YOSHIHIRO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM177
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期
単位：
科目ナンバリング： SDS7910
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、社会科学におけるポスト構造主義言説分析の応用について学ぶ。特にミシェル・フーコーの言説分析に焦点を当て、その方法論の基礎を習得することを目標とする。また、フーコーの言説分析の応用例として、海外の著名な研究を邦訳と原書を照合させながら読解していく。

In this seminar, students learn post-structuralist discourse analysis in the social sciences. In particular, the seminar focuses on Michel Foucault's method of discourse analysis and discusses its basic conceptual and analytical frameworks. The seminar also discusses a major social scientific work in the English speaking world which applies Foucault's method.

授業の内容 / Course Contents

第1部では、社会科学における言説分析の理論史一般とその中におけるポスト構造主義の位置づけと貢献について学ぶ。第2部では、ミシェル・フーコーの『知の考古学』『性の歴史 第1巻 知への意志』の精読を通じて、その言説分析の方法論的特徴について理解を深める。第3部では、フーコーの方法論の開発研究への応用

例として、アルトゥロ・エスコバルの『開発への遭遇』を精読する。

Part 1 discusses a trajectory of discourse analysis in the social scientific research and the position and contribution of poststructuralism. Part 2 discusses Michel Foucault's method of discourse analysis by focusing on his seminal books *The Archaeology of Knowledge* and *The History of Sexuality Vol. 1 Will to Knowledge*. Part 3 discusses an application of Foucault's method in social research through reading Arturo Escobar's *Encountering Development: The Making and Unmaking of the Third World* (Princeton University Press, the 2011 edition).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：言説分析の理論史（1）
- 3回：言説分析の理論史（2）
- 4回：フーコーの言説分析：『知の考古学』精読（1）
- 5回：フーコーの言説分析：『知の考古学』精読（2）
- 6回：フーコーの言説分析：『知の考古学』精読（3）
- 7回：フーコーの言説分析：『性の歴史 第1巻』精読（1）
- 8回：フーコーの言説分析：『性の歴史 第1巻』精読（2）
- 9回：フーコーの言説分析：『性の歴史 第1巻』精読（3）
- 10回：言説分析の応用：エスコバル『開発との遭遇』精読（1）
- 11回：言説分析の応用：エスコバル『開発との遭遇』精読（2）
- 12回：言説分析の応用：エスコバル『開発との遭遇』精読（3）
- 13回：言説分析の応用：エスコバル『開発との遭遇』精読（4）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題図書を事前に読み、各回の授業に参加すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：002） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義への積極的参加:50% 各回のプレゼンテーション:50%

テキスト / Textbooks

- フーコー 知の考古学 河出書房新社 2012 4309463770 -
 フーコー 性の歴史1 知への意志 新潮社 1986 9784105067045 -
 エスコバル 開発との遭遇 新評論 2022 9784794812018 -
 その他、授業内で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

- Foucault, Michel *The Archaeology of Knowledge* Routledge 2002 0415287537
 Foucault, Michel *The History of Sexuality: 1: The Will to Knowledge* Penguin Classics 2020
 9780241385982

Escobar, Arturo Encountering Development: The Making and Unmaking of the Third World Princeton University Press 2011 9780691150451

その他、授業内で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

1. 構造主義以後の言語学や文学理論に関して、大学学部レベルの基礎知識／一般教養があることが望ましい。
2. 文献精読では、邦訳と原書／英訳を照合させながら読み進めていく。英語文献講読の基礎力があること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講読用に指定した文献を各自準備すること。

社会デザイン学主題別研究 8 A

Special Topics: Social Design 8A

(持続可能な社会と行政ガバナンス)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM178

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位：

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、持続可能な社会づくりに向け政府・行政が果たす役割を多面的に検討、分析することにより、持続可能な社会づくりに当たって求められる様々な関係者との連携、参画を実現するガバナンスのあり方を探り、実践や研究への手がかりを得ることを目標とする。

In this course, participating students will analyze government/administration's role to build sustainable society and will study good governance for sustainable society. Multi-stakeholder cooperation and civic participation are important aspects in this regard. By these studies, students are expected to obtain clues for their action and research.

授業の内容 / Course Contents

SDGs は共通言語と言われるように、持続可能な社会づくりでは、さまざまな関係者が連携しながら取り組むことが重要であるが、その中でも政府・行政が果たす役割は大きい。本授業では環境問題の取組を中心に、政

策立案/実施のありかた、政府と様々な関係者との関わり方などを検討する。持続可能な社会づくりに不可欠なマルチステークホルダーでの取組や、情報公開、意思決定参加、司法アクセスを内容とする環境民主主義の意義を探ることとする。

なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

SDGs are often called "common language". Building sustainable society requires various stakeholders participation, however, government and administration are regarded as major players among them. In this course, participants study policy making and implementation process, and collaborations between government and various stakeholders on mainly environmental issues. Participants will also identify the importance of multi stakeholder participation and "environmental democracy" such as access to information, public participation and access to justice, which are essential for sustainable society.

The themes and order of this course schedule may change according to the interests and questions of the course participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

今日の経済社会における政府/行政の役割についてブレインストーミング

2回：政府/行政の環境問題への取組・事例検討①

公害問題への取組を中心に政府の役割を検討する。

3回：政府/行政の環境問題への取組・事例検討②

自然環境問題への取組での政府の役割を検討する。

4回：1992年リオサミットのインパクト

リオ宣言、アジェンダ21が、政府・行政のあり方、ガバナンスに与えた影響を検討する。

5回：2000年前後の制度改革①

行政手続法、情報公開法などの行政改革とその後について検討する。

6回：2000年前後の制度改革②

国と地方との関わり方について。日本国憲法制定、地方自治法、地方分権改革といった節目を踏まえながら検討する。

7回：2000年前後の制度改革③

省庁再編、独立行政法人制度改革の今日的意義を検討する。

8回：国際的な動きと政府・行政

国際条約、EUなど主要な国/地域の動きのインパクト、国際的な枠組が国内の行政政策に与える影響を考える。

9回：科学と政府・行政

気候変動やコロナウイルス対策など、科学的知見を踏まえた政策決定、実施のあり方について検討する。

10回：司法と行政

裁判が政策や行政のあり方に与える影響を、特に環境関連の裁判例を中心に検討する。

11回：国会/政党と政府/行政

いわゆる政と官の関係について、持続可能な社会づくりの視点から再検討する。

12回：市民参画と政府/行政

市民やNPOが政策決定過程にどう関わるか、過去の事例や仕組みについて検討する。

13回：経済活動、企業と政府/行政

経済活動、企業活動への政府・行政の関わり方について、考察する。

14回：まとめ・クロージング

持続可能な社会づくりと政府/行政の役割について、今後の方向性を探る。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

持続可能性や環境問題に関する政府や行政の動きを常日頃から意識し、課題と思われる事例、興味を持った事例については背景、関係者の反応/動きなどを観察していくこと。

受講生には、1回程度、授業内容に合わせ発表してもらうことを予定している。発表については、受講生の状況・関心を踏まえて、授業の中で示す予定。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：11) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表、質疑:30% 振り返り:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

環境省 令和5年版環境白書 日経印刷株式会社 2023 4865793232

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的に議論に参加してください。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 2 B

Special Topics: Social Design 2B

(文化政策論 2)

若林 朋子 (WAKABAYASHI TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM182

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位：

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインの視点、すなわち、社会との関係性から文化政策を捉え直す。芸術や文化、アートの多様性や創造性が、社会の諸領域とどのように共振し、時代の要請に応答し、あるいは課題提起しているのかを把握し、文化政策の今後の方向性を考える。

Students will reconsider cultural policy from the perspective of social design, that is, the relationship with society. Students will understand how art and culture, art diversity and creativity resonate with social areas, respond to the demands of the times, or pose challenges, and consider the future direction of cultural policy.

授業の内容 / Course Contents

拡張しつつある昨今の文化政策を、文化・芸術・アートと社会の関わり領域の拡大から捉えていく。各回の授業では、「文化、アート×○○○」に該当する現場の実践事例をとりあげ、そうした取り組みの意義を文化政策的観点で考える。各分野の現場で活躍するゲストを招いた講義を行いつつ、ディスカッションで理解を深めて

いく。

Students will understand the current cultural policies that are expanding from the growth of the area of relationships between culture, art, and society. In each class, we will take practical examples from the field corresponding to "Culture, Art + XXX", and consider the significance of such efforts from a cultural policy perspective. Discussion will be the basic format, and we will also have presentations and lectures from invited guests as appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：文化政策概論、拡張する文化政策：文化・アートと社会の関わり領域の拡大／文化・アート×社会包摂①
- 2 回：文化・アート×社会包摂②【ディスカッション】
- 3 回：文化・アート×生きづらさ支援①
- 4 回：文化・アート×生きづらさ支援②【ディスカッション】
- 5 回：文化・アート×医療・福祉①
- 6 回：文化・アート×医療・福祉②【ディスカッション】
- 7 回：文化・アート×障害者支援①
- 8 回：文化・アート×障害者支援②【ディスカッション】
- 9 回：文化・アート×まちづくり・多文化共生①
- 10 回：文化・アート×まちづくり・多文化共生②【ディスカッション】
- 11 回：文化・アート×防災①
- 12 回：文化・アート×防災②【ディスカッション】
- 13 回：文化・アート×介護・高齢者支援①
- 14 回：文化・アート×介護・高齢者支援②【ディスカッション】、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

コミュニティデザイン学演習 14（文化政策論 1）を履修しておくこと、文化政策の背景を理解した上での受講が可能となる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参画（発言・発表・ディスカッション）:100%

毎回のリアクションペーパー（コメント）提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない（随時紹介する）。

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討

論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 3 B

Special Topics: Social Design 3B

(CSR/ESG 金融総論 - 1)

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM183

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位：

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

2015年に成立したSDGsは2030年までの折り返し点を超え、2030年まで後6年である。残念ながら成立当初の盛り上がりとは裏腹、コロナ禍、ウクライナにつづき中東での紛争、世界的な異常気象などにより、世界的なエネルギー価格や食料価格の高騰、移民難民問題の深刻化などにより、ゴール達成は遠のいている。しかし、SDGsが大きなきっかけとなった、経済社会の在り方、ビジネス界金融界の意識の転換の流れは変わらない。岸田内閣でも「新しい資本主義」を標ぼうしているが、20世紀型資本主義の在り方が根本的に転換しはじめていのである。人々の意識もそうであるが、資本主義の根幹である、企業の目的、投資家の求める成果が変わりつつある。財務価値に加えて社会課題解決を企業の目的と考える経営者・投資家が増えている。これらはCSRやSDGs経営、ESG投資、ESG金融といわれる。本講義では、新たな資本主義への転換がなぜ生まれたのか、解決すべき社会課題とはなにか？新たな企業経営と金融の在り方はどうなるのか。考察していく。

SDGs are already less than a half way to go. Unfortunately achieving goals are now less feasible due to COVID-19, and international conflicts in Ukraine and in Middle East, besides extreme weathers damaging our society caused by climate crisis, resulting in price hikes of energy and food and other commodities. However, on the other hand our market based capitalism society has started to transform into a more sustainable one, which Kishida Cabinet called New Capitalism. Not just peoples mind but the purpose of the corporation, and the return investors are seeking are also transforming. Besides financial return, solving social issues will be the purpose of the business, and such social impacts are the return that more and more investors are seeking, which are indicated by CSR, SDGs management, ESG investment and ESG finance. In this course we will see why this transformation to stakeholder capitalism has happened and what are the social issues to be solved and will seek to learn about the new role of business and finance as promoters of sustainable society.

授業の内容 / Course Contents

新たな資本主義と期待されるステークホルダー資本主義においては、気候変動などの社会課題解決が企業の目的となる。本講座では、そもそも SDGs の S (サステナビリティ=持続可能性) の考え方を理解し環境の持続可能性、社会の持続可能性について主要な課題について概観する。そして、現在のグローバル社会を持続可能に転換させるシステム SDGs とパリ協定などの国際的なイニシアチブの目的と進捗について理解を深める。それを受けて、ビジネスの在り方 (CSR・ステークホルダー資本主義) と金融 (ESG 金融) の取り組みについて様々な観点から考察する。

Stakeholder capitalism, which is regarded as new and sustainable capitalism, will require business to solve social issues such as climate change, as their purpose of corporate activities. In order to understand such transformation, we must first ask what is the meaning of sustainability represented by SDGs? In this course we will go over the major environmental and social issues, and study about the role of the international initiatives such as SDGs and Paris Agreement, both of which are intended to transform our society. We will also study the missions and roles of business sector and also of finance to make the society more sustainable.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：サステナビリティからウェルビーイングへ。サステナビリティ SX とはなにか？
更にその先のウェルビーイングとは何か？
- 2 回：持続可能でない社会課題 1：環境問題（気候変動、生物多様性、サーキュラーエコノミー 有害化学物質）
- 3 回：持続可能でない社会課題 2：人権問題
- 4 回：社会転換へのイニシアチブ SDGs、パリ協定、生物多様性
- 5 回：新たな資本主義と企業倫理
- 6 回：CSR 経営 1 CSR の歴史、定義
- 7 回：CSR 経営 2 環境経営
- 8 回：CSR 経営 3 人的資本経営
- 9 回：CSR とコミュニケーション
- 10 回：ソーシャルファイナンス
- 11 回：ESG 金融 歴史と意義
- 12 回：ESG 評価
- 13 回：ESG 投資の実際
- 14 回：サステナブルなビジネスと金融の未来

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

なし

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー:25% 授業態度:25%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

岩井克人 『資本主義から市民主義へ』 ちくま文庫 2014 9784480096197

河口真理子 『ソーシャルファイナンスの教科書』 生産性出版 2015 97848201204380036

高巖他 『CSR 企業価値をどう高めるか』 日本経済新聞社 2004 9784532311810

塚越寛 『いい会社をつくりましょう』 文屋 2004 49900858760034

谷本寛治 『SRI 社会的責任投資入門』 日本経済新聞社 2003 4532350506

名和高司 『パーパス経営』 東洋経済出版社 2021 9784492534366

水口剛 『ESG 投資』 日本経済新聞出版社 2017 9784532357443

その他 / Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 4 B

Special Topics:Social Design 4B

(経済学と人間学)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM184

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位：

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

(1) 不透明感を増している資本主義、その本質をつかむ。(2) 歴史上の経済学、社会思想の巨人たちの発想のエッセンスを理解する。その上で、人間の本質と現代の経済、社会の構造との関係性を探究する。

"The objectives of the course are: (1) To grasp the essence of capitalism, which is becoming increasingly opaque. (2) To understand the essence of economic thought and social ideas from historical giants in the field. Subsequently, to explore the relationship between human nature and the structures of contemporary economics and society."

授業の内容 / Course Contents

現代の経済学と人間に関わる問題の本質を、欲望、市場、合理性などをキーワードに、多角度から考えていきます。その時、人間の居場所はどこにあるのか？システムが強大化し、人々の疎外感が高まっているかに見える現代社会にどこからどのようにアプローチすべきか？かつての「経済学の巨人」たちの思想の可能性を探究

し、併せて社会学、哲学など社会思想のフレームでも問題を捉え直すことで、大きな視野で現代社会の構図の読み解きを目指します。「経済学の父」アダム・スミスの真意はどこにあったのか？ ケインズ、マルクス、シュンペーター、ハイエク、ヴェブレンなど、巨人たちの思想を吟味、現代的な意義を考えます。「経済」という事象も、人と社会と時代が織りなす「物語」として捉え直す時、新たな光景が広がります。人と経済と、人と社会の関係の再構築の為に、皆さんと一緒に考える機会となれば幸いです。

"We will explore the essence of contemporary economics and issues related to human beings by examining concepts such as desire, the market, and rationality from multiple perspectives. At this juncture, where does the place of humans lie? How should we approach the seemingly escalating alienation in modern society, where systems are becoming more powerful?

By delving into the possibilities of the thoughts of past 'giants of economics' and reconsidering issues through the frameworks of sociology, philosophy, and other social sciences, we aim to decipher the composition of contemporary society with a broad perspective. Where did the true intention of the 'father of economics,' Adam Smith, lie? We will critically examine the ideas of giants such as Keynes, Marx, Schumpeter, Hayek, Veblen, and contemplate their contemporary significance.

When we reinterpret the phenomenon of 'economics' as a narrative woven by individuals, society, and the times, new perspectives emerge. I hope that this will be an opportunity for us to think together about the reconstruction of the relationships between individuals and economics, as well as individuals and society."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション 「経済」とは？「近代経済学」とは？今資本主義が直面する問題
- 2 回：「アダム・スミスは間違っていた？」「経済学の父」の真意は？
- 3 回：「ケインズの発想に今何を学ぶ？」大衆社会の本質を考察したその着想の本質は？
- 4 回：「マルクスの可能性をどこに見出す？」“革命家”ではなく哲学者としてのマルクス
- 5 回：「シュンペーターの預言」イノベーションの提唱者が見抜いていた社会構造の変化
- 6 回：「ハイエクが市場に賭けた真意」“新自由主義の教祖”の素顔
- 7 回：「ヴェブレン“異端”の眼差しが捉えていた真理」逆説の経済と人間
- 8 回：「再びスミスへ“見えざる手”を可視化する時」あらためて欲望とは？
- 9 回：マルクス・ガブリエル「倫理資本主義」の可能性
- 10 回：無形資産/AI/ポスト産業資本主義 時代の経済と人間
- 11 回：中間報告/ディスカッション 現代資本主義の可能性と限界 人間の行方
- 12 回：デジタル経済時代の倫理と貨幣論
- 13 回：20世紀アメリカ型資本主義と大衆社会論の系譜
- 14 回：まとめ 最終報告とディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

時に、講義で扱う事象、文献など受講生の皆さんにリサーチと報告を行ってもらい、そこから議論を深めていく予定です。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

丸山俊一 14歳からの資本主義 大和書房 2017 ○

丸山俊一 働く悩みは「経済学」で答えが見つかる SB新書 2022 ○

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義の際は、パソコンを携帯していただけましたら幸いです。

その他 / Others

初回受講生の皆さんと対話し、それぞれの学びの志向性、背景、目指す目標などを確かめた上で、講義の進め方など柔軟に調整していきたいと思えます。

また、研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 5 B

Special Topics: Social Design 5B

(社会デザインと福祉課題 2)

三浦 建太郎 (MIURA KENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM185

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位：

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

福祉とは「生きづらさ」を抱える人を支え、人の幸福を高めるための様々な取組と考えられる。その在り方には、明確な正解があるわけではなく、社会で暮らす私たち自身が、どのような社会を望むのかという意思を持ち、試行錯誤を重ねることで進化していく。まさに社会デザインの発想と取組が求められている。

この講義は、現代社会の福祉的課題を踏まえた上で、高齢化や人口減少、価値観の多様化、科学技術の発展、グローバル化など、社会に既に影響を与えつつある変化、将来、影響を及ぼす可能性のある変化を取り上げ、社会で日々暮らしている私たち自身が、どのような社会になることを望み、どう対応していくべきか、自らの意見と行動の判断ができるようになることを目標とする。

This course aims for students to learn about changes already impacting society, such as aging and declining populations, diversifying values, development of science and technology, globalization, and changes that might affect the future.

The purpose of this course is to be able to judge our own opinions and actions on what kind of society we want to be and how we should respond to change.

授業の内容 / Course Contents

- ・ 想定される社会の変化を踏まえ、今後直面するであろう福祉的課題を考える
- ・ 様々な言説を元に、議論を重ね、多様な視点から考える
- ・ 社会に起こりうる変化に対し、どう対応するべきか、自分の意見をまとめる
- ・ 講義の後半では、履修学生同士数名のグループで、目指す未来社会へ向けての提案を議論する
- ・ Consider the welfare issues that will be faced in the future as society changes.
- ・ Based on various discourses, repeatedly discuss and think about the welfare system from various viewpoints
- ・ Summarize your individual opinions on how to respond to possible changes in society.
- ・ In the final session of the lecture, students will work in groups to discuss proposals for an ideal future society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：日本の現状の福祉課題を確認し未来社会を考える 1
- 3回：日本の現状の福祉課題を確認し未来社会を考える 2
- 4回：人口減少社会を考える
- 5回：人生 100 年時代を考える
- 6回：幸福を考える
- 7回：技術の進化を考える
- 8回：資本主義と民主主義を考える
- 9回：未来社会の予想と創造の方法を考える
- 10回：企画提案のテーマ決め（目指す未来社会を想定し、その社会を実現する取組のステップを考えて提案する）
- 11回：企画提案プランニング 1（グループワーク）
- 12回：企画提案プランニング 2（グループワーク）
- 13回：企画提案プランニング 3（グループワーク）
- 14回：企画提案発表会（グループ毎に提案を発表）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

時事問題等を通じて、社会の変化に関心を払い、起こりうる福祉的課題とその対応方法について自分の意見を考えておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への出席と理解:60% 議論への参加と貢献度:20% 発表内容:20%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

ダニエル・カーネマン ファスト&スロー 早川書房 2014 9784150504106

リンダ・グラットン アンドリュー・スコット LIFE SHIFT(ライフ・シフト) 東洋経済新報社 2016
9784492533871

広井良典 人口減少社会のデザイン 東洋経済新報社 2019 9784492396476

講義の中で適宜紹介する。

その他/ Others

オンライン (zoom) での受講も可能なミックス型で実施予定

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 6 B

Special Topics: Social Design 6B

(対話と社会デザイン)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM186

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位：

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

社会課題を巡ってはさまざまな見方が社会に存在しているが、すべてのステークホルダーから見た真の課題認識とその解決はきわめて困難なのが現代の実情だ。

しばしば「対話」の重要性が説かれるが、私たちは「対話」の本当の意味を理解しているだろうか。そして、その意味を我が身のものとして日々実践できているだろうか。日本人は対話を重ねるのが苦手だというが本当だろうか。対話と議論の違いは具体的になんだろうか。

「対話」をテーマとした古今東西のテキストを題材に、実際に「対話」を体験することを通じて、現代の社会課題に向き合うために不可欠な「対話」とは何か、その本質を探り、身体感覚としての「対話」を自分のものにするプロセスを経ることを目的とする。

There are various views regarding social issues in society, but it is the reality of today that it is extremely difficult to realize the real issues and solutions from the perspective of all stakeholders.

Although the importance of "dialog" is often described, do we understand the true meaning of "dialog"? And can we practice that meaning in our own everyday lives? It is true that Japanese people are not good at building up dialogs? What is the difference between dialog and discussion specifically?

Based on texts from all times and places on the theme of "dialog" as the subject, the aim of the course is to ask what is the essential "dialog" to face contemporary social problems by actually experiencing "dialog", search for the essence, and go through the process of making "dialog" one's own via the physical senses.

授業の内容 / Course Contents

「対話」をめぐる古今東西のテキストを一緒に読みながら、対話に求められること、対話の本質等を明らかにする。なにより、「対話」は、ある種の身体感覚を伴うものであり、自ら体験するしかない。

また、「対話」を通じた社会課題解決についても考える機会を設け、現代社会における課題の本質を明らかにすると共に、「対話」をもって臨む社会課題への向き合い方についても考えていきたい。

While reading texts on "dialog" from all times and places together, we will clarify what is required for dialog and the essence of dialog, etc. Above all, "dialog" involves some kind of physical sensation, and you have to experience it for yourself.

In addition, we would like to provide opportunities to consider about social problem solution cases through "dialog", clarify the essence of the problems in modern society, and think about how to deal with social issues through "dialog".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：総論（いまなぜ「対話」が求められているのか、小さくなる社会と分断・・・）
- 2 回：考えること、感じること（小林秀雄『美を求める心』から）
- 3 回：対話とは何か（猪木武徳『自由をめぐる思想史』から）
- 4 回：対話とは何か（猪木武徳『自由をめぐる思想史』から）
- 5 回：対話のエッセンス、作法等（モンテーニュ『エッセー』から）
- 6 回：よく「聴く」ことを考える（鷲田清一『「聴く」ことの力』から）
- 7 回：よく「聴く」ことを考える（鷲田清一『「聴く」ことの力』から）
- 8 回：日本における対話の源泉（宮本常一「忘れられた日本人」から）
- 9 回：コミュニケーションとは（デヴィッド・ボーム『ダイアログ：対立から共生へ、議論から対話へ』）
- 10 回：対話とは（デヴィッド・ボーム『ダイアログ：対立から共生へ、議論から対話へ』）
- 11 回：自己との対話、考え続けることの意味（映画『ハンナ・アーレント』、アーレントの著作から）
- 12 回：対話とは何だろうか①、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう
- 13 回：対話とは何だろうか②、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう
- 14 回：対話とは何だろうか③、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。対話で用いるテキスト（上記文献の抜粋、各回 20～30 ページ程度）は PDF ファイルの形で Canvas LMS にアップする。

文献・テキストについては、対話において積極的に発言できるよう、事前に熟読しておくことが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・演習における発表や他の発言者への貢献等:100%

3 / 4 以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

授業計画のとおり。

参考文献 / Readings

採り上げる文献は上記授業計画にあるものを予定している。小林秀雄『美を求める心』、猪木武徳『自由の思想史』、鷺田清一『聴くことの力』、モンテーニュ『エッセー』、宮本常一『忘れられた日本人』、デヴィッド・ボーム『ダイアログ：対立から共生へ、議論から対話へ』、ハンナ・アーレントを扱った映画等を採り上げる。対話の材料とするテキストについては、PDF ファイルで事前に授業支援システムにアップする。

その他 / Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる場合がある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 8 B

Special Topics:Social Design 8B

(都市環境生活論)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM188

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位：

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

都市は、大気や水、廃棄物、生物など環境の切り口からも分析することができる。環境面の切り口から都市の特性を考察し、経済や社会からは見えない課題を描き出し、都市の持続性を考える視座を得る。

Cities can be analyzed from environment aspects such as air, water, solid waste and wild life. In this course, participating students will study characteristics of cities from environmental point of view, find hidden issue which economy and society tend to ignore, and obtain good picture of sustainability of cities..

授業の内容 / Course Contents

今や都市地域に居住する人は多数派となり、都市での経済/社会のありかた抜きに現代社会は語れなくなっている。一方で、都市の持続可能性を考える際に、環境問題への取組は、軽視されがちだが欠かすことができない要素である。本授業では、都市のあり方を様々な環境の側面から検討し、その抱える問題点を明らかにし、21世紀の都市の持続性を考えるきっかけを得る。

なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

Major population lives now in urban areas and we cannot get good insight on modern society without reviewing economy and society of cities. On the other hands, when reviewing urban sustainability, environmental issues are often overlooked but essential elements. In this course, participating students will study cities from various environment aspects, realize issues to be tackled, and obtain clues to think about sustainability of cities in 21 century.

The themes and order of the course schedule may change according to the interests and questions of the course participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

都市の定義、都市の特性を議論し、都市の持続性、都市とその外とのつながりを考える。

2回：都市と環境①廃棄物

都市での廃棄物処理問題について、取組の歴史、現在の課題について検討する。

3回：都市と環境②水道、下水道

都市の水インフラである上水道、下水道をめぐる課題を明らかにする。

4回：都市と環境③エネルギー

都市でのエネルギー消費の特徴とその環境への影響、取組の方向性を検討する。

5回：都市と環境④自動車交通と大気汚染

都市での車、トラック利用とそれによる大気汚染について、裁判の歴史や自治体の取組を踏まえながら、考察する。

6回：都市と環境⑤都市の野生生物

都市に生きる野生生物とわたしたちの都市生活との関わりを考察する。

7回：都市と環境⑥土壌・地下水

都市、特に工場跡地での土壌汚染、地下水汚濁とその除去対策を考える。

8回：都市と環境⑦気候変動とその適応

都市での気温上昇、都市型洪水への「適応」の可能性を探る。

9回：都市と環境⑧都市と建築物、アスベスト

都市景観の構成要素でもある建築物のあり方や、多くの建築物に残されてるアスベストといった都市建築物をめぐる問題について検討する。

10回：都市の土地利用・都市農業

都市計画と土地利用のあり方、都市農業について考える。

11回：都市の持続性を担う人々

市民やNPO、町内会といった市民活動、地域活動を担う人々について、その現状、支援や育成について考察する。

12回：都市と海外とのつながり

都市の生活は海外で生産、採取されたものによって支えられており、サプライチェーンによるつながりの現状、問題点を検討する。

13回：都市と地方とのつながり

都市は、地方の自然が提供する生態系サービス（水、大気、防災など）の恵みを受けている。その関係を地域循環共生圏の考えなども踏まえて考察する。

14回：まとめ・クロージング

都市の持続可能性を環境をベースに考え、これからの持続可能な都市づくりの方向性について、検討する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

日々の都市生活について、日頃から環境の視点で見つめ直してみる。

そのほか必要なことは、授業内で提示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：11) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発言、質疑応答など:30% 振り返り:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

環境省 令和5年版環境白書 日経印刷 2023 4865793232

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

議論への積極的な参加

その他 / Others

研究科の学事・行事 (報告会、進学相談会等) と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会組織理論特別研究 1 A

Directed study: Social Organization 1A

大熊 玄 (OKUMA GEN)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会デザイン研究科
科目コード等：	WM331
授業形態：	ハイフレックス
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	SDS7810
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

学生自身が、自らの研究テーマをより深化させ、「社会デザイン学」としての「博士論文」を完成させることを目標とする。

The student will acquire basic knowledge and research methods with the goal of finally completing a doctor thesis on the theme that they have chosen.

授業の内容 / Course Contents

博士論文の執筆者は、自らの論文テーマの意味を常に問い続けなければならない。今自らが行っている研究が、その研究者自身にとって、その研究分野において、そしてこの社会にとって、どのような意味を持つのか。また、この博士論文によって得られる学位の名称が「博士（社会デザイン学）」である以上、「社会デザイン学」とは何なのか、それが自らの研究とどのような位置関係にあるのか、これらを問い続ける必要がある。講師は、そのつど学生から研究の進捗状況を聞きながら、研究計画や内容に対して助言・指導・討議を行い、学生は、それによって自らの研究を進めていくとともに、その研究の意味も深めていく。

The student will select the theme in which they are interested, express it in the title of their actual doctor thesis or research report, and create a "research question" that guides their research. In addition, the student will create

an outline (framework) of their own academic paper referring to references (preceding studies) that they collect, read and criticize, will start writing and finally prepare the format of an academic paper or report. The lecturer will provide advice and guidance and discuss the research plan and its contents while hearing about the progress of the research from the student regularly, giving the student new perspectives to advance and deepen their research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：ガイダンス
- 2 回：全体テーマ（方向）の選択
- 3 回：具体的目標と規模の決定
- 4 回：リサーチクエスションの確認
- 5 回：論文構成（序/本/結）の検討
- 6 回：アウトライン（目次）の作成
- 7 回：研究データベース作成
- 8 回：文献の調査・探索
- 9 回：文献目録の作成
- 10 回：序の検討
- 11 回：本論の検討（1）
- 12 回：本論の検討（2）
- 13 回：本論の検討（3）
- 14 回：結論・全体の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指定する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

特になし

コミュニティデザイン学特別研究1 A

Directed Study:Community Design 1A

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM333
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が、博士論文執筆に向けた研究を進捗・完成させることにある。そのために、各受講生の段階に合わせた、研究指導を行う。

授業の内容 / Course Contents

博士論文の作成にあたっては、論文を執筆するための基本的な枠組に加えて、自身のテーマに対応する学問分野の整理、国内外の先行研究の批判的検討、複数の投稿論文からなる博士論文全体の構成など、より高度な要素が求められることになる。本授業では、それらのスキルを習得するために必要な指導や助言を行う。なお、本授業では、受講者の状況に合わせた個別指導に加えて、定期的にゼミ形式の発表・討議の機会を設ける。受講生には、それらの機会を積極的に活用し、学会発表や論文執筆に活かすことを期待する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：リサーチクエスションの確認
- 3回：研究計画の作成
- 4回：プレゼンテーション・ディスカッション ①

- 5回：専門分野の研究動向整理
 6回：先行研究の収集
 7回：先行研究の批判的検討
 8回：プレゼンテーション・ディスカッション ②
 9回：研究方法の検討
 10回：研究の実施状況の整理
 11回：研究結果の整理
 12回：プレゼンテーション・ディスカッション ③
 13回：博士論文の構想
 14回：プレゼンテーション・ディスカッション ④

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:						

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

個別指導や研究発表の機会に向けて、各自の研究を進めておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Microsoft Office、Zoom

コミュニティデザイン学特別研究4 A

Directed Study:Community Design 4A

倉本 由紀子 (KURAMOTO YUKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM336
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生が各々の研究テーマに基づいた博士論文を執筆します。

The doctoral students will conduct their research and write their dissertations.

授業の内容 / Course Contents

博士論文作成に向けて、各受講者がテーマを選択・設定し、教員の指導・助言のもと、個別研究を行います。

Doctoral students work on their research projects for their dissertations and receive guidance and advice from their faculty members.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：指導内容についての説明
- 2 回：各受講者の関心ある分野、研究テーマ、研究方法について個別に協議
- 3 回：受講者全員で各受講者の研究テーマについて発表し、情報共有
- 4 回：各受講者の研究スケジュールについて協議
- 5 回：中間報告会において研究発表を行い、発表内容について全員で討論を行い、研究内容、方法等の見直しを行い、論文作成に必要なものの見方、考え方を身につける。

- 6回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 7回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 8回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 9回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 10回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 11回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 12回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 13回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 14回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

博士論文執筆に関する調査を進め、論文作成法に関するテキスト、立教大学の論文作成のガイドライン等入手し、学習しておくことが望ましいです。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業内の報告:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

各受講者の研究テーマに応じて、随時紹介します。

危機管理学特別研究 1 A

Directed Study:Crisis Management 1A

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM337
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

博士論文の作成に向けて、受講生が設定したテーマに基づき研究指導を行う。対象領域は主として、以下の研究領域とする。

リスク学、リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、防災政策、危機管理、災害医療・福祉、放射性廃棄物、防災教育、災害情報、情報政策、オープンデータ、ソーシャルウェア、コミュニティガバナンス、地域プロデュース、デジタルアーカイブ、オーラルヒストリー、ワークスタイル、テレワーク、モバイル建築など

授業の内容 / Course Contents

博士論文の進捗報告に基づき個別面談指導を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究指導
- 2 回：研究指導
- 3 回：研究指導
- 4 回：研究指導
- 5 回：研究指導

- 6回：研究指導
- 7回：研究指導
- 8回：研究指導
- 9回：研究指導
- 10回：研究指導
- 11回：研究指導
- 12回：研究指導
- 13回：研究指導
- 14回：研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 博士論文の進捗報告と討論に基づき評価する。:100%

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

使用しない

危機管理学特別研究 2 A

Directed Study:Crisis Management 2A

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM338
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 春学期他
単位： 2
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

受講者一人ひとりが、自らの立ち位置を意識し、当事者としての自覚をもちながら、独自の問題関心に沿って、自分自身や社会と誠実に向き合いつつ、独創性に富んだ研究を行うことを目標とする。

To develop student capacity to carry out academic research to write a doctoral dissertation,conducting a review of the concept of originality.

授業の内容 / Course Contents

人口 80 億人を超える今日の国際社会。しかし世界には本当に 80 億もの人間が存在しているのだろうか。実際には数億の人間と数十億のそうでない個からなっているのではないか。こうした問いかけがなされるほど、今日の世界は階層化が進んでいる。格差が生まれ、弱者がますます困難な状況に追い込まれているのは日本社会も同様である。

では、こうした課題・問題を前に、研究者としての私たちは、どのような対策を講じ、どのような社会をデザインし、構築していくのか。もうすぐ戦後 80 年を迎えようという社会に生きる私たちが、学問や「知」を通じて果たすべき役割とは何か。こうした問題関心に基づき、個別指導に重点を置いて、学位論文執筆のための指導を行う。

The course is designed to provide students with a comprehensive guide to writing a doctoral dissertation, exploring the concept of originality.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：【ガイダンス】 博士学位論文と他の学術論文との違い・剽窃と研究不正に関する注意
演習参加者による問題意識・関心の発表
- 2 回：博士学位論文に求められるものとは（講義）（1）
- 3 回：博士学位論文に求められるものとは（講義）（2）
- 4 回：博士学位論文に求められるものとは（講義）（3）
- 5 回：剽窃と研究不正に関する注意
- 6 回：研究・調査の方法と分析枠組みについて（1）
- 7 回：研究・調査の方法と分析枠組みについて（2）
- 8 回：博士論文作成指導
- 9 回：先行研究・参考文献の書評発表
- 10 回：学生中間発表
- 11 回：博士論文作成指導
- 12 回：先行研究・参考文献の書評発表
- 13 回：博士論文作成指導
- 14 回：進捗状況の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内または個別に指示する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究活動の報告状況:50% 指導中に提出された内容をもとに評価:50%

テキスト / Textbooks

長有紀枝 入門 人間の安全保障 中央公論新社 2021 412192195 ○

長有紀枝 スレブレニツァ・ジェノサイド 東信堂 2020 4798916463 ○

特に指定しない

参考文献 / Readings

個別に指示・紹介する。

社会組織理論特別研究 1 B

Directed study: Social Organization 1B

大熊 玄 (OKUMA GEN)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会デザイン研究科
科目コード等：	WM351
授業形態：	ハイフレックス
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	秋学期他
単位：	2
科目ナンバリング：	SDS7810
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	

授業の目標 / Course Objectives

学生自身が、自らの研究テーマをより深化させ、「社会デザイン学」としての「博士論文」を完成させることを目標とする。

The student will acquire basic knowledge and research methods with the goal of finally completing a doctor thesis on the theme that they have chosen.

授業の内容 / Course Contents

博士論文の執筆者は、自らの論文テーマの意味を常に問い続けなければならない。今自らが行っている研究が、その研究者自身にとって、その研究分野において、そしてこの社会にとって、どのような意味を持つのか。また、この博士論文によって得られる学位の名称が「博士（社会デザイン学）」である以上、「社会デザイン学」とは何なのか、それが自らの研究とどのような位置関係にあるのか、これらを問い続ける必要がある。講師は、春学期に引き続き、そのつど学生から研究の進捗状況を聞きながら、研究計画や内容に対して助言・指導・討議を行い、学生は、それによって自らの研究を進めていくとともに、その研究の意味も深めていく。

The student will select the theme in which they are interested, express it in the title of their actual doctor thesis or research report, and create a "research question" that guides their research. In addition, the student will create

an outline (framework) of their own academic paper referring to references (preceding studies) that they collect, read and criticize, will start writing and finally prepare the format of an academic paper or report. The lecturer will provide advice and guidance and discuss the research plan and its contents while hearing about the progress of the research from the student regularly, giving the student new perspectives to advance and deepen their research.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：全体テーマ（方向）の選択
- 3回：具体的目標と規模の決定
- 4回：リサーチクエスションの確認
- 5回：論文構成（序/本/結）の検討
- 6回：アウトライン（目次）の作成
- 7回：研究データベース作成
- 8回：文献の調査・探索
- 9回：文献目録の作成
- 10回：序の検討
- 11回：本論の検討（1）
- 12回：本論の検討（2）
- 13回：本論の検討（3）
- 14回：結論・全体の検討

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：	
個人発表	：	○	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：	○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：	
上記いずれも用いない予定	：						

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指定する

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

特になし

コミュニティデザイン学特別研究1B

Directed Study:Community Design 1B

中森 弘樹 (NAKAMORI HIROKI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM353
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

本授業の目標は、受講生が、博士論文執筆に向けた研究を進捗・完成させることにある。そのために、各受講生の段階に合わせた、研究指導を行う。

授業の内容 / Course Contents

博士論文の作成にあたっては、論文を執筆するための基本的な枠組に加えて、自身のテーマに対応する学問分野の整理、国内外の先行研究の批判的検討、複数の投稿論文からなる博士論文全体の構成など、より高度な要素が求められることになる。本授業では、それらのスキルを習得するために必要な指導や助言を行う。なお、本授業では、受講者の状況に合わせた個別指導に加えて、定期的にゼミ形式の発表・討議の機会を設ける。受講生には、それらの機会を積極的に活用し、学会発表や論文執筆に活かすことを期待する。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：ガイダンス
- 2回：研究計画の作成
- 3回：論文の目次作成
- 4回：プレゼンテーション・ディスカッション ①

- 5回：専門分野の研究動向整理
 6回：先行研究の収集
 7回：先行研究の批判的検討
 8回：プレゼンテーション・ディスカッション ②
 9回：研究結果の報告
 10回：研究結果の分析・考察
 11回：プレゼンテーション・ディスカッション ③
 12回：論文の執筆
 13回：フィードバック
 14回：論文の修正

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:					

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

個別指導や研究発表の機会に向けて、各自の研究を進めておくこと。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 学期中の進捗状況による評価:50% 学期末における研究成果による評価:50%

学期中の発表や提出物の内容を考慮して評価する

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

PC、Microsoft Office、Zoom

コミュニティデザイン学特別研究4B

Directed Study:Community Design 4B

倉本 由紀子 (KURAMOTO YUKIKO)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM356
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

学生が各々の研究テーマについて研究調査し博士論文を作成します。

The doctoral students will conduct their research and write their dissertations.

授業の内容 / Course Contents

博士論文作成に向けて、各受講者がテーマを選択・設定し、教員の指導・助言のもと、個別研究を行います。

Doctoral students work on their research projects for their dissertations and receive guidance and advice from their faculty members.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 2回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 3回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 4回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
- 5回：各受講者の研究進捗状況を把握し、調査研究のスケジュールを確認
- 6回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導

- 7回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 8回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 9回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 10回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 11回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 12回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 13回：各受講者の研究進捗状況を把握しながら個別およびグループ指導
 14回：予定論文提出に向け、個別指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

博士論文執筆に関する調査研究を進め、その概要をまとめておくことが望ましいです。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業内の報告:100%

テキスト / Textbooks

特になし。

参考文献 / Readings

各受講者の研究テーマに応じて、随時紹介します。

危機管理学特別研究 1 B

Directed Study:Crisis Management 1B

長坂 俊成 (NAGASAKA TOSHINARI)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM357
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

博士論文の作成に向けて、受講生が設定したテーマに基づき研究指導を行う。対象領域は主として、以下の研究領域とする。

リスク学、リスクガバナンス、リスクコミュニケーション、防災政策、危機管理、災害医療・福祉、放射性廃棄物、防災教育、災害情報、情報政策、オープンデータ、ソーシャルウェア、コミュニティガバナンス、地域プロデュース、デジタルアーカイブ、オーラルヒストリー、ワークスタイル、テレワーク、モバイル建築など

授業の内容 / Course Contents

博士論文の進捗報告に基づき個別面談指導を行う。

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：研究指導
- 2 回：研究指導
- 3 回：研究指導
- 4 回：研究指導
- 5 回：研究指導

- 6回：研究指導
- 7回：研究指導
- 8回：研究指導
- 9回：研究指導
- 10回：研究指導
- 11回：研究指導
- 12回：研究指導
- 13回：研究指導
- 14回：研究指導

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワー等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:		ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：2) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 博士論文の進捗報告と討論に基づき評価する。:100%

テキスト / Textbooks

使用しない

参考文献 / Readings

使用しない

危機管理学特別研究 2 B

Directed Study:Crisis Management 2B

長 有紀枝 (OSA YUKIE)

開講年度： 2024
科目設置学部： 社会デザイン研究科
科目コード等： WM358
授業形態： ハイフレックス
授業形態（補足事項）
校地： 池袋
学期： 秋学期他
単位： 2
科目ナンバリング： SDS7810
使用言語： 日本語
授業形式： その他
履修登録方法： 科目コード登録
配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：
他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：
オンライン授業 60 単位制限対象科目：
学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：

授業の目標 / Course Objectives

受講者一人ひとりが、自らの立ち位置を意識し、当事者としての自覚をもちながら、独自の問題関心に沿って、自分自身や社会と誠実に向き合いつつ、独創性に富んだ研究を行うことを目標とする。

To develop student capacity to carry out academic research to write a doctoral dissertation, conducting a review of the concept of originality.

授業の内容 / Course Contents

人口 80 億人を超えると推定される今日の国際社会。しかし世界には本当に 80 億の人間が存在しているのだろうか。実際には数億の人間と数十億のそでない個からなっているのではないか。こうした問いかけがなされるほど、今日の世界は階層化が進んでいる。格差が生まれ、弱者がますます困難な状況に追い込まれているのは日本社会も同様である。

では、こうした課題・問題を前に、研究者としての私たちは、どのような対策を講じ、どのような社会をデザインし、構築していくのか。もうすぐ戦後 80 年をむかえる社会に生きる私たちが、学問や「知」を通じて果たすべき役割とは何か。こうした問題関心に基づき、個別指導に重点を置いて、学位論文執筆のための指導を行う。

The course is designed to provide students with a comprehensive guide to writing a doctoral dissertation, exploring the concept of originality.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：演習参加者による夏季休暇中の研究の進捗状況報告（1）
- 2 回：演習参加者による夏季休暇中の研究の進捗状況報告（2）
- 3 回：剽窃と研究不正に関する注意
- 4 回：研究・調査の方法と分析枠組みについて（1）
- 5 回：研究・調査の方法と分析枠組みについて（2）
- 6 回：博士論文作成指導
- 7 回：博士論文作成指導
- 8 回：学生研究発表
- 9 回：博士論文作成指導
- 10 回：博士論文作成指導
- 11 回：学生研究発表
- 12 回：博士論文作成指導
- 13 回：学生研究発表
- 14 回：進捗状況の確認

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内または個別に指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 研究活動の報告状況:50% 指導中に提出された内容をもとに評価:50%

テキスト / Textbooks

長有紀枝 入門 人間の安全保障 中央公論新社 2021 412192195 ○

長有紀枝 スレブレニツァ・ジェノサイド 東信堂 2020 4798916463 ○

特に指定しない。

参考文献 / Readings

個別に指示・紹介する。

社会デザイン学主題別研究 2 A

Special Topics: Social Design 2A

(文化政策論 1)

若林 朋子 (WAKABAYASHI TOMOKO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会デザイン研究科
科目コード等：	WM372
授業形態：	ハイフレックス
授業形態 (補足事項)	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SDS7910
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

文化政策は公共政策であることを踏まえ、文化と社会の関係性や、具体的な文化政策の内容について理解を深める。社会デザインの視点で文化政策を捉えなおし、かつ、文化の視点から社会デザインを考える。

Based on the fact that cultural policy is public policy, students will deepen their understanding of the relationships between culture and society, and the specific content of cultural policy. Students will reconsider cultural policy from the perspective of social design, and consider social design from the perspective of culture.

授業の内容 / Course Contents

文化政策が対象とする「文化、芸術、アート」とは何かを考えることからはじめ、国や自治体による公共政策としての文化政策、企業をはじめとする民間の文化の取り組みについて概観する。特に文化政策の歴史的な変遷のなかでも、大きく様変わりした直近 30 年の展開を重点的に扱う。

なお、ここでいう「文化」の範囲は、狭義の芸術文化から、地域社会の歴史に根ざした文化、よりよく生きる

人間の営みとしての文化まで、幅広いものとする。ゲストを迎えてのレクチャーや文化施設等の見学（任意参加）も行う。

Starting with thinking about what is "culture and the arts", that is the object of cultural policy, we will give an overview of public cultural policy by the national and local governments, and civic cultural efforts such as by business companies. Among historical changes in cultural policy, we will focus on developments in the last 30 years when the situation has changed dramatically.

In addition, the scope of "culture" described here shall be wide, stretching from art culture in a narrow sense, to culture rooted in the history of local communities, and culture as a human activity to live better. We will also invite guest lecturers and visit cultural facilities.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション：文化、芸術、アート
- 2 回：文化政策をめぐって：文化政策の意義、日本の文化政策の変遷
- 3 回：文化政策と法律：文化芸術基本法
- 4 回：国の文化政策①
- 5 回：国の文化政策②
- 6 回：国の文化政策③
- 7 回：ゲストレクチャー①
- 8 回：地方自治体の文化政策①
- 9 回：地方自治体の文化政策②
- 10 回：地方自治体の文化政策③
- 11 回：企業の文化政策①
- 12 回：企業の文化政策②
- 13 回：ゲストレクチャー②
- 14 回：広がる文化政策領域

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○ グループ発表	：	○ ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：		：

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業内で指示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 演習への参画（発言・発表・ディスカッション）:100%

毎回のリアクションペーパー（コメント）提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない（随時紹介する）。

参考文献 / Readings

随時紹介する。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 3 A

Special Topics: Social Design 3A

(エシカル消費総論 - 1)

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM373

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

コロナ禍が収束する一方で、ウクライナ紛争につづき、中東での紛争と地政学リスクが休息に高まり、気候危機による異常気象の影響もあり、エネルギー価格や食料価格が世界的に高騰するなど、世界は VUCA の様相を高めている。台風や洪水、干ばつなどの世界各地での異常気象は加速化し、我々の経済社会生活に大きな影響をあたえつつある。しかしこの異常気象は人間活動がもたらした帰結でもある。人類が農耕生活を始めて以来世界の森林面積の 1/3 は失われた。また 2050 年の海には魚よりプラスチックの方が多くなるといわれるように、経済活動は生物多様性を損ね、地球に大きな影響を与えている。また、コロナ禍とウクライナ紛争は、貧困層と環境に打撃を与えて、SDGs のゴール達成を遠ざけている。環境破壊や人権侵害は直接的には企業が引き起こすことが多いが、その背後には消費者のニーズがある。今や政府や企業だけでなく、私たち消費者のライフスタイル自体をサステナブルに変革することが求められている。本コースでは、消費者の立場からサステナビリティの取り組みを考察する。

While Covid—19 turmoil is fading, geopolitical risks are rising due to conflicts in Ukraine and in Middle East triggering food and energy price hikes. On the other hand extreme weathers caused by climate change continues to harm our society, which is caused by human activities. A third of the forest was lost since humans began agriculture. Our global economic value chain enabling mass consumption is damaging the planet by destroying biodiversity and by exhausting natural resource . Covid19 and military conflicts are also harming the lives of vulnerable people such as immigrant workers and small scale farmers and thus widening the income gap, making the attainment of SDGs more difficult .Usually business Is to be blamed for climate change and human rights fraud, but business activities are led by consumer needs .Now that not only government and business but consumer must change our lifestyle to more sustainable way.

授業の内容 / Course Contents

そもそも SDG s の S (サステナビリティ=持続可能性) とは何か? 本講義では環境の持続可能性、社会の持続可能性について主要な課題について概観し、現在のグローバル社会を持続可能に転換させるシステム SD G s とパリ協定や生物多様性保全の枠組みなど目的と進捗について理解を深める。それを受けて、消費生活の在り方をどのように変えるべきか検討していく。ライフスタイル全体の見直し、食・衣・住・エネルギーの3つの分野において、サプライチェーンに潜む課題と解決策を考察する。

What is the meaning of sustainability represented by SDGs? In this course we will go over the major environmental and social issues, and study about the role of SDGs and Paris Agreement and biodiversity framework , all of which are intended to transform our society. Then we will discuss the necessary lifestyle change and also ethical consumption on each food, apparel, and housing.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション
- 2 回：グローバルな社会課題：地球環境問題&人権・人の課題
- 3 回：SDG s、パリ協定 などグローバルなイニシアチブの動向
- 4 回：エネルギー問題
- 5 回：サーキュラーエコノミー
- 6 回：食の課題 1
- 7 回：食の課題 2
- 8 回：食の課題 3
- 9 回：衣の課題 1
- 10 回：衣の課題 2
- 11 回：住の課題
- 12 回：その他消費の課題
- 13 回：エシカル金融
- 14 回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド (パワポ等) の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

毎回のリアクションペーパーの提出

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

レポート試験 :60%

平常点割合 :40% 出席率・発言・リアクションペーパー提出など:40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

ハーマン・デイリー 『持続可能な発展の経済学』 みすず書房 2005 9784622071747

竹村真一 『地球の目線』 PHP 研究所 2008 4569700861

アリス・ウオーターズ 『スローフード宣言』 海士の風 2022 9784909934024

ジャック・アタリ 『食の歴史』 プレジデント社 2020 9784833423618

河口真理子 「SDG sで「変わる経済」と「新たな暮らし」」 生産性出版 2020 9784820121077

その他 / Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 4 A

Special Topics:Social Design 4A

(現代文化と社会デザイン)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM374

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

日本の戦後社会の変化を、主に 60 年代から 90 年代までサブカルチャーを含む様々な事象から多面的に考察する。そのことによって (1) 日本社会の性質、特徴について仮説を立てられるようになること。(2) 歴史の因果関係について考察できる眼を養うこと。(3) オルタナティブなものの見方、多角度からの柔軟な視点を身につけること。

This course aims to comprehensively examine the changes in post-war Japanese society, primarily from the 1960s to the 1990s, through various phenomena, including subcultures. By doing so, students will develop the ability to: (1) formulate hypotheses about the nature and characteristics of Japanese society; (2) cultivate an analytical perspective on the causal relationships within history; and (3) acquire alternative viewpoints and ways of interpreting events.

授業の内容 / Course Contents

私たちは今、どんな社会に生きているのでしょうか？複雑化する現代社会、そして世界情勢。その中で日本は時に「ガラパゴス」などとも呼ばれ、様々な意味で諸外国とは異なる「空気」の中にあるかのように表現されることも多いのはご存知の通りです。日本社会の底に流れる思考様式には、何か独特なものがあるのでしょうか？それを解く為に、意識を過去へと飛ばし、現代との対話を試みませんか？戦後の日本社会の変遷を、特に60年代から90年代の変化に焦点を当てて考えます。サブカルチャーを含む様々な文化的な要素を、残された映像や言葉を通して味わい、時代の「空気」を解読する試みです。戦後の日本人の「自画像」、日本人の「無意識」を読み解き、今これからの社会を考える手がかりをつかむ為の思考の旅に出ましょう。今当たり前を感じる光景から新たな意味を引き出し、歴史や社会を見る遠近法が少しでも変わる体験を皆さんとご一緒できればうれしく思います。

"What kind of society do we live in today? In the complex modern society and global circumstances, Japan is sometimes referred to as "Galapagos," suggesting a unique atmosphere that differs from other countries in various ways. Are there distinctive thought patterns underlying Japanese society?

To unravel this, why not shift our awareness to the past and attempt a dialogue with the present? We will contemplate the transformations in post-war Japanese society, with a particular focus on the changes from the 1960s to the 1990s. This endeavor involves experiencing various cultural elements, including subcultures, through remaining images and words, attempting to decode the "atmosphere" of the times.

Let's embark on a journey of thought to decipher the "self-image" and "unconscious" of post-war Japanese people, grasping clues to contemplate the society that lies ahead. I hope that together, we can derive new meanings from seemingly ordinary scenes and share experiences that may alter our perspective on history and society, even if only slightly."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション 日本社会とは？日本にあってサブカルチャーの可能性とは？
- 2回：60年代①「青春残酷物語」と「ニッポン無責任時代」
- 3回：60年代②「天才バカボン」と「にっぽん昆虫記」
- 4回：60年代③「任侠映画」と「日本の思想」
- 5回：70年代①モーレツからビューティフルへ
- 6回：70年代②オカルトブームと「仁義なき戦い」
- 7回：70年代③ニューファミリーと「モラトリアム人間の時代」
- 8回：80年代①YMOと「おいしい生活」
- 9回：80年代②お笑いブームとコムデギャルソン論争
- 10回：80年代③トレンドドラマと「構造と力」
- 11回：90年代①バブルの余韻の中で
- 12回：90年代②95年という「切断」
- 13回：90年代③「戦後日本社会」とは？
- 14回：まとめ サブカルチャー的な思考から見えてくる「この国」の形

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワーポイント等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

講義、映像で扱う事象、文献などについて、一部受講生の皆さんにその背景などをリサーチしてもらい、その報告をきっかけに議論を深めていくことも予定しています。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合 :30%

テキスト / Textbooks

丸山眞男 『日本の思想』 岩波新書 1961 ○

小此木啓吾 『モラトリアム人間の時代』 中公文庫 2010 ○

浅田彰 『構造と力』 ちくま学芸文庫 2023 ○

参考文献 / Readings

加藤周一 『雑種文化 日本の小さな希望』 講談社文庫 1974

丸山俊一 『14歳からの個人主義』 大和書房 2021

丸山俊一 『結論は出さなくていい』 光文社新書 2017

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

必修ではありませんが、「VM365 コミュニティデザイン学演習65（映像ジャーナリズム論）」も併せて履修されると、さらに理解が立体的になると思います。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

毎回、パソコンを携帯してもらえるとありがたく存じます。

その他 / Others

初回受講生の皆さんと対話し、それぞれの学びの背景、目指す目標などを確かめた上で、講義の進め方など調整していきたいと考えます。

また、研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 5 A

Special Topics: Social Design 5A

(社会デザインと福祉課題 1)

三浦 建太郎 (MIURA KENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM375

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

福祉とは「生きづらさ」を抱える人を支え、人の幸福を高めるための様々な取組と考えられる。その在り方には、明確な正解があるわけではなく、社会で暮らす私たち自身が、どのような社会を望むのかという意味を持ち、試行錯誤を重ねることで進化していく。まさに社会デザインの発想と取組が求められている。

この講義は、福祉に携わる専門家としての知識の習得を目標とするものではなく、社会で日々暮らしている私たち自身が、現代社会に存在する様々な福祉的課題について、ジブンゴトとして認識し、どう考えどう対応していくべきか、自らの意見と行動の判断ができるようになることを目標とする。

There is no right answer in the welfare system.

We have our own will of trial and error, evolution, and the kind of society we want.

This course aims to help students recognize the various welfare issues that exist in modern society and make decisions about how they think and respond.

授業の内容 / Course Contents

- ・福祉の発展の経緯と現状の課題の基本的な知識を学ぶ
- ・時事ニュースや様々な言説を元に、議論を重ね、多様な視点から考える
- ・福祉的課題の解決のための方法について、自分の意見をまとめる
- ・講義の後半では、履修学生同士数名のグループで、現代社会の福祉課題への取組の提案を検討し発表する。
- ・ Learn the background of welfare development and basic knowledge of current issues.
- ・ Continue discussions and think from various perspectives about welfare issues.
- ・ Summarize your individual opinions on methods for solving welfare issues.
- ・ In the final session of the lecture, students will work in groups to discuss proposals to solve the welfare issues of modern society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：「社会デザイン」と「福祉」の視点
- 3回：社会保障と福祉制度の誕生と発展
- 4回：超高齢社会を考える1（現状と未来を確認）
- 5回：超高齢社会を考える2（介護・年金・社会保障）
- 6回：働く世代の生きづらさを考える1（非正規雇用・働き方改革）
- 7回：働く世代の生きづらさを考える2（外国人労働者・移民政策）
- 8回：子どもの生きづらさ、育てづらさを考える1（子育て・児童養護）
- 9回：障がい者の生きづらさを考える2（社会的排除・働き方）
- 10回：企画提案のテーマ決め（社会の福祉課題を選び、その解決の方法を考えて提案する）
- 11回：企画提案プランニング1（グループワーク）
- 12回：企画提案プランニング2（グループワーク）
- 13回：企画提案プランニング3（グループワーク）
- 14回：企画提案発表会（グループ毎に提案を発表）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	○	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：					

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

時事問題等を通じて、社会の福祉的課題について、関心を払い、自分の意見を考えておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への出席と理解:60% 議論への参加と貢献度:20% 発表内容:20%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

- 宮本太郎 生活保障 排除しない社会へ 岩波新書 2009 9784004312161
 広井良典 創造的福祉社会 ちくま新書 2011 9784480066190

高橋紘士 地域包括ケアを現場で語る 木星舎 2022 9784909317254

講義の中で適宜紹介する。

その他/ Others

オンライン（zoom）での受講も可能なミックス型で実施予定

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 6 A

Special Topics: Social Design 6A

(公共と市民社会)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM376

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

市民社会をテーマとした社会科学の古典等のテキストを用いた「対話」を通じて、市民（あなた自身）が社会課題に向き合うこと、その解決を担うこととはどういうことなのか、その意義を明らかにする。

社会デザインの前提とも言える「市民社会」については、ややもすればステレオタイプ的あるいは感覚的な理解に留まりがちだが、これに関する古典に立ち返ることを通じて、市民と政府の関係、社会との関係を考える機会とする。

併せて、現代における市民社会が目指していく方向の一つの具体例として、市民自らが地域社会の基本的なルール（法令）を作成した事例を採り上げ、その理念や構造等を学び、自らが社会に対して提言をする基本姿勢を作っていく。

Through "dialog" using texts on social science classics, etc. on the theme of civic society, we will clarify the meaning of what it means for citizens (yourself) to face social issues and to be responsible for their solutions.

Regarding "civic society" which can be regarded as a premise of social design, people tend to stick with stereotypes or intuitive understanding if anything, but this course will be an opportunity for students to think about the relationship of citizens with government and society.

At the same time, as a concrete example of the direction that civic society in the present day aims for, we will take up the case where citizens themselves have created the basic rules (laws) of the local community, and learn their principles and structures, to create a basic position from which students will be able to make recommendations.

授業の内容 / Course Contents

前半は、市民社会の基本的な考え方を理解するため、デモクラシー（民主制）、独立した個人、市民社会の構造等について書かれた古典を読み、受講者相互の対話を通じて、社会と個人の関係を明らかにする。

後半は、そうした理念と優れた実践の積み重ねの集大成とも言える、自治基本条例の先進地である北海道ニセコ町における住民自治の事例を採り上げ、その背景にある考え方や具体的な条文への展開および構造等について、また、条例がその後のまちづくりにどのような影響をもたらしているのかを見ていく。

In the first half, in order to understand the basic way of thinking about civic society, students will read the classics written on democracy, independent individuals, and civic society structure, etc. and identify relationships between society and individuals through dialog among students.

In the second half, we will take up the case of resident autonomy in Niseko Town, Hokkaido, which is an advanced area for autonomy basic ordinances, and which can be said to be a culmination of the accumulation of such principles and good practices. We will look at the development and structure, etc. of the way of thinking and concrete articles behind this case, and what kind of influence the regulations have had on subsequent community development.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション（「小さな政府、大きな社会」等、民による政策提言を必要とする背景等の基本認識の整理）
- 2回：デモクラシー①（自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等）
- 3回：デモクラシー②（自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等）
- 4回：デモクラシー③（自由と平等、個人主義による危機、アソシエーションの価値、地方政治の意義、陪審制、社会に関わる意義等）
- 5回：独立した個人が作る社会像（独立とは何か、社会との関係等）
- 6回：独立した個人の意味（独立した考え、市民社会における個人像等）
- 7回：理想社会の実現（理想社会をどこに置くのか等）
- 8回：正義とは何か（正義のあり方、分配をめぐる考え方等）
- 9回：市民政府論（市民と政府の関係等）
- 10回：自治からつくるまち①（まちづくり基本条例から考える自治等）
- 11回：自治からつくるまち②（まちづくり基本条例から考える自治等）
- 12回：自治からつくるまち③（まちづくり基本条例から考える自治等）
- 13回：住民自治の実践例（実践者による講義、対談）
- 14回：民が担う政策提言の実践に向けて

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワー等）の使用	：	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

テキスト・文献については、授業時の対話において積極的に発言できるよう、事前によく読んでおくことが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 授業・演習時における発表、他の参加者に対する貢献：100%

3/4以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

採り上げる文献・テキスト等としては、以下の著作を予定している。

いずれの文献も PDF ファイルにて授業支援システムにアップするので、対話で発言できるよう、しっかり読んでおくこと。

亀井「企業は社会の公器」（イントロダクション）、トクヴィル「アメリカのデモクラシー」、福沢諭吉「学問のすすめ」、ロック「市民政府論」、木佐茂雄・片山健也ほか「自治基本条例は活きているか!?!—ニセコ町まちづくり基本条例 10 年」他

参考文献 / Readings

その他 / Others

秋学期の「政策立案・評価」は、アドボカシーやその前提となる政策立案や評価に関する理論や方法を学ぶが、本授業では、その基礎となるデモクラシーや社会における意思決定のあり方（統治機構）について、各種テキストを対話形式で読み重ねることを通じて、理解を深める。

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる場合がある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 7 A

Special Topics: Social Design 7A

中野 佳裕 (NAKANO YOSHIHIRO)

開講年度：	2024
科目設置学部：	社会デザイン研究科
科目コード等：	WM377
授業形態：	ハイフレックス
授業形態（補足事項）	
校地：	池袋
学期：	春学期
単位：	2
科目ナンバリング：	SDS7910
使用言語：	日本語
授業形式：	その他
履修登録方法：	科目コード登録
配当年次：	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。
先修規定：	
他学部履修可否：	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。
履修中止可否：	
オンライン授業 60 単位制限対象科目：	
学位授与との関連：	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。
備考：	社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の了承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

本演習では、社会科学におけるポスト構造主義言説分析の応用について学ぶ。特にミシェル・フーコーの言説分析に焦点を当て、その方法論の基礎を習得することを目標とする。また、フーコーの言説分析の応用例として、海外の著名な研究を邦訳と原書を照合せながら読解していく。

In this seminar, students learn post-structuralist discourse analysis in the social sciences. In particular, the seminar focuses on Michel Foucault's method of discourse analysis and discusses its basic conceptual and analytical frameworks. The seminar also discusses a major social scientific work in the English speaking world which applies Foucault's method.

授業の内容 / Course Contents

第1部では、社会科学における言説分析の理論史一般とその中におけるポスト構造主義の位置づけと貢献について学ぶ。第2部では、ミシェル・フーコーの『知の考古学』『性の歴史 第1巻 知への意志』の精読を通じて、その言説分析の方法論的特徴について理解を深める。第3部では、フーコーの方法論の開発研究への応用

例として、アルトゥロ・エスコバルの『開発への遭遇』を精読する。

Part 1 discusses a trajectory of discourse analysis in the social scientific research and the position and contribution of poststructuralism. Part 2 discusses Michel Foucault's method of discourse analysis by focusing on his seminal books *The Archaeology of Knowledge* and *The History of Sexuality Vol. 1 Will to Knowledge*. Part 3 discusses an application of Foucault's method in social research through reading Arturo Escobar's *Encountering Development: The Making and Unmaking of the Third World* (Princeton University Press, the 2011 edition).

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：イントロダクション
- 2回：言説分析の理論史（1）
- 3回：言説分析の理論史（2）
- 4回：フーコーの言説分析：『知の考古学』精読（1）
- 5回：フーコーの言説分析：『知の考古学』精読（2）
- 6回：フーコーの言説分析：『知の考古学』精読（3）
- 7回：フーコーの言説分析：『性の歴史 第1巻』精読（1）
- 8回：フーコーの言説分析：『性の歴史 第1巻』精読（2）
- 9回：フーコーの言説分析：『性の歴史 第1巻』精読（3）
- 10回：言説分析の応用：エスコバル『開発との遭遇』精読（1）
- 11回：言説分析の応用：エスコバル『開発との遭遇』精読（2）
- 12回：言説分析の応用：エスコバル『開発との遭遇』精読（3）
- 13回：言説分析の応用：エスコバル『開発との遭遇』精読（4）
- 14回：まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

課題図書を事前に読み、各回の授業に参加すること。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：2） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義への積極的参加:50% 各回のプレゼンテーション:50%

テキスト / Textbooks

- フーコー 知の考古学 河出書房新社 2012 4309463770 -
 フーコー 性の歴史1 知への意志 新潮社 1986 9784105067045 -
 エスコバル 開発との遭遇 新評論 2022 9784794812018 -
 その他、授業内で適宜紹介する。

参考文献 / Readings

- Foucault, Michel *The Archaeology of Knowledge* Routledge 2002 0415287537
 Foucault, Michel *The History of Sexuality: 1: The Will to Knowledge* Penguin Classics 2020
 9780241385982

Escobar, Arturo Encountering Development: The Making and Unmaking of the Third World Princeton University Press 2011 9780691150451

その他、授業内で適宜紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

1. 構造主義以後の言語学や文学理論に関して、大学学部レベルの基礎知識／一般教養があることが望ましい。
2. 文献精読では、邦訳と原書／英訳を照合させながら読み進めていく。英語文献講読の基礎力があること。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講読用に指定した文献を各自準備すること。

社会デザイン学主題別研究 8 A

Special Topics: Social Design 8A

(持続可能な社会と行政ガバナンス)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM378

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 春学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

本授業では、持続可能な社会づくりに向け政府・行政が果たす役割を多面的に検討、分析することにより、持続可能な社会づくりに当たって求められる様々な関係者との連携、参画を実現するガバナンスのあり方を探り、実践や研究への手がかりを得ることを目標とする。

In this course, participating students will analyze government/administration's role to build sustainable society and will study good governance for sustainable society. Multi-stakeholder cooperation and civic participation are important aspects in this regard. By these studies, students are expected to obtain clues for their action and research.

授業の内容 / Course Contents

SDGs は共通言語と言われるように、持続可能な社会づくりでは、さまざまな関係者が連携しながら取り組むことが重要であるが、その中でも政府・行政が果たす役割は大きい。本授業では環境問題の取組を中心に、政

策立案/実施のありかた、政府と様々な関係者との関わり方などを検討する。持続可能な社会づくりに不可欠なマルチステークホルダーでの取組や、情報公開、意思決定参加、司法アクセスを内容とする環境民主主義の意義を探ることとする。

なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

SDGs are often called "common language". Building sustainable society requires various stakeholders participation, however, government and administration are regarded as major players among them. In this course, participants study policy making and implementation process, and collaborations between government and various stakeholders on mainly environmental issues. Participants will also identify the importance of multi stakeholder participation and "environmental democracy" such as access to information, public participation and access to justice, which are essential for sustainable society.

The themes and order of this course schedule may change according to the interests and questions of the course participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

今日の経済社会における政府/行政の役割についてブレインストーミング

2回：政府/行政の環境問題への取組・事例検討①

公害問題への取組を中心に政府の役割を検討する。

3回：政府/行政の環境問題への取組・事例検討②

自然環境問題への取組での政府の役割を検討する。

4回：1992年リオサミットのインパクト

リオ宣言、アジェンダ21が、政府・行政のあり方、ガバナンスに与えた影響を検討する。

5回：2000年前後の制度改革①

行政手続法、情報公開法などの行政改革とその後について検討する。

6回：2000年前後の制度改革②

国と地方との関わり方について。日本国憲法制定、地方自治法、地方分権改革といった節目を踏まえながら検討する。

7回：2000年前後の制度改革③

省庁再編、独立行政法人制度改革の今日的意義を検討する。

8回：国際的な動きと政府・行政

国際条約、EUなど主要な国/地域の動きのインパクト、国際的な枠組が国内の行政政策に与える影響を考える。

9回：科学と政府・行政

気候変動やコロナウイルス対策など、科学的知見を踏まえた政策決定、実施のあり方について検討する。

10回：司法と行政

裁判が政策や行政のあり方に与える影響を、特に環境関連の裁判例を中心に検討する。

11回：国会/政党と政府/行政

いわゆる政と官の関係について、持続可能な社会づくりの視点から再検討する。

12回：市民参画と政府/行政

市民やNPOが政策決定過程にどう関わるか、過去の事例や仕組みについて検討する。

13回：経済活動、企業と政府/行政

経済活動、企業活動への政府・行政の関わり方について、考察する。

14回：まとめ・クロージング

持続可能な社会づくりと政府/行政の役割について、今後の方向性を探る。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド (パワポ等) の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:	
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:	○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:	
上記いずれも用いない予定	:		:			:	

授業時間外 (予習・復習等) の学習 / Study Required Outside of Class

持続可能性や環境問題に関する政府や行政の動きを常日頃から意識し、課題と思われる事例、興味を持った事例については背景、関係者の反応/動きなどを観察していくこと。

受講生には、1回程度、授業内容に合わせ発表してもらうことを予定している。発表については、受講生の状況・関心を踏まえて、授業の中で示す予定。

成績評価方法・基準 (成績評価方法区分：11) / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表、質疑:30% 振り返り:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

環境省 令和5年版環境白書 日経印刷株式会社 2023 4865793232

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

積極的に議論に参加してください。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 2 B

Special Topics: Social Design 2B

(文化政策論 2)

若林 朋子 (WAKABAYASHI TOMOKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM382

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の上承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

社会デザインの視点、すなわち、社会との関係性から文化政策を捉え直す。芸術や文化、アートの多様性や創造性が、社会の諸領域とどのように共振し、時代の要請に応答し、あるいは課題提起しているのかを把握し、文化政策の今後の方向性を考える。

Students will reconsider cultural policy from the perspective of social design, that is, the relationship with society. Students will understand how art and culture, art diversity and creativity resonate with social areas, respond to the demands of the times, or pose challenges, and consider the future direction of cultural policy.

授業の内容 / Course Contents

拡張しつつある昨今の文化政策を、文化・芸術・アートと社会の関わり領域の拡大から捉えていく。各回の授業では、「文化、アート×○○○」に該当する現場の実践事例をとりあげ、そうした取り組みの意義を文化政策的観点で考える。各分野の現場で活躍するゲストを招いた講義を行いつつ、ディスカッションで理解を深めて

いく。

Students will understand the current cultural policies that are expanding from the growth of the area of relationships between culture, art, and society. In each class, we will take practical examples from the field corresponding to "Culture, Art + XXX", and consider the significance of such efforts from a cultural policy perspective. Discussion will be the basic format, and we will also have presentations and lectures from invited guests as appropriate.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：文化政策概論、拡張する文化政策：文化・アートと社会の関わり領域の拡大／文化・アート×社会包摂①
- 2回：文化・アート×社会包摂②【ディスカッション】
- 3回：文化・アート×生きづらさ支援①
- 4回：文化・アート×生きづらさ支援②【ディスカッション】
- 5回：文化・アート×医療・福祉①
- 6回：文化・アート×医療・福祉②【ディスカッション】
- 7回：文化・アート×障害者支援①
- 8回：文化・アート×障害者支援②【ディスカッション】
- 9回：文化・アート×まちづくり・多文化共生①
- 10回：文化・アート×まちづくり・多文化共生②【ディスカッション】
- 11回：文化・アート×防災①
- 12回：文化・アート×防災②【ディスカッション】
- 13回：文化・アート×介護・高齢者支援①
- 14回：文化・アート×介護・高齢者支援②【ディスカッション】、まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：	スライド（パワポ等）の使用	：	○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	○	ディスカッション・ディベート	：
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：		校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：		：			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

コミュニティデザイン学演習14（文化政策論1）を履修しておくこと、文化政策の背景を理解した上での受講が可能となる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 演習への参画（発言・発表・ディスカッション）：100%

毎回のリアクションペーパー（コメント）提出で出席とします

テキスト / Textbooks

特に指定しない（随時紹介する）。

参考文献 / Readings

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討

論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 3 B

Special Topics: Social Design 3B

(CSR/ESG 金融総論 - 1)

河口 真理子 (KAWAGUCHI MARIKO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM383

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

2015 年に成立した SDG s は 2030 年までの折り返し点を超え、2030 年まで後 6 年である。残念ながら成立当初の盛り上がりとは裏腹、コロナ禍、ウクライナにつづき中東での紛争、世界的な異常気象などにより、世界的なエネルギー価格や食料価格の高騰、移民難民問題の深刻化などにより、ゴール達成は遠のいている。しかし、SDG s が大きなきっかけとなった、経済社会の在り方、ビジネス界金融界の意識の転換の流れは変わらない。岸田内閣でも「新しい資本主義」を標ぼうしているが、20 世紀型資本主義の在り方が根本的に転換しはじめていのである。人々の意識もそうであるが、資本主義の根幹である、企業の目的、投資家の求める成果が変わりつつある。財務価値に加えて社会課題解決を企業の目的と考える経営者・投資家が増えている。これらは CSR や SDG s 経営、ESG 投資、ESG 金融といわれる。本講義では、新たな資本主義への転換がなぜ生まれたのか、解決すべき社会課題とはなにか？新たな企業経営と金融の在り方はどうなるのか。考察していく。

SDGs are already less than a half way to go. Unfortunately achieving goals are now less feasible due to COVID-19, and international conflicts in Ukraine and in Middle East, besides extreme weathers damaging our society caused by climate crisis, resulting in price hikes of energy and food and other commodities. However, on the other hand our market based capitalism society has started to transform into a more sustainable one, which Kishida Cabinet called New Capitalism. Not just peoples mind but the purpose of the corporation, and the return investors are seeking are also transforming. Besides financial return, solving social issues will be the purpose of the business, and such social impacts are the return that more and more investors are seeking, which are indicated by CSR, SDGs management, ESG investment and ESG finance. In this course we will see why this transformation to stakeholder capitalism has happened and what are the social issues to be solved and will seek to learn about the new role of business and finance as promoters of sustainable society.

授業の内容 / Course Contents

新たな資本主義と期待されるステークホルダー資本主義においては、気候変動などの社会課題解決が企業の目的となる。本講座では、そもそも SDGs の S (サステナビリティ=持続可能性) の考え方を理解し環境の持続可能性、社会の持続可能性について主要な課題について概観する。そして、現在のグローバル社会を持続可能に転換させるシステム SDGs とパリ協定などの国際的なイニシアチブの目的と進捗について理解を深める。それを受けて、ビジネスの在り方 (CSR・ステークホルダー資本主義) と金融 (ESG 金融) の取り組みについて様々な観点から考察する。

Stakeholder capitalism, which is regarded as new and sustainable capitalism, will require business to solve social issues such as climate change, as their purpose of corporate activities. In order to understand such transformation, we must first ask what is the meaning of sustainability represented by SDGs? In this course we will go over the major environmental and social issues, and study about the role of the international initiatives such as SDGs and Paris Agreement, both of which are intended to transform our society. We will also study the missions and roles of business sector and also of finance to make the society more sustainable.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：オリエンテーション：サステナビリティからウェルビーイングへ。サステナビリティ SX とはなにか？
更にその先のウェルビーイングとは何か？
- 2 回：持続可能でない社会課題 1：環境問題（気候変動、生物多様性、サーキュラーエコノミー 有害化学物質）
- 3 回：持続可能でない社会課題 2：人権問題
- 4 回：社会転換へのイニシアチブ SDGs、パリ協定、生物多様性
- 5 回：新たな資本主義と企業倫理
- 6 回：CSR 経営 1 CSR の歴史、定義
- 7 回：CSR 経営 2 環境経営
- 8 回：CSR 経営 3 人的資本経営
- 9 回：CSR とコミュニケーション
- 10 回：ソーシャルファイナンス
- 11 回：ESG 金融 歴史と意義
- 12 回：ESG 評価
- 13 回：ESG 投資の実際
- 14 回：サステナブルなビジネスと金融の未来

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワポ等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：
個人発表	：	グループ発表	：	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

なし

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

レポート試験 :50%

平常点割合 :50% リアクションペーパー:25% 授業態度:25%

テキスト / Textbooks**参考文献 / Readings**

岩井克人 『資本主義から市民主義へ』 ちくま文庫 2014 9784480096197

河口真理子 『ソーシャルファイナンスの教科書』 生産性出版 2015 97848201204380036

高巖他 『CSR 企業価値をどう高めるか』 日本経済新聞社 2004 9784532311810

塚越寛 『いい会社をつくりましょう』 文屋 2004 49900858760034

谷本寛治 『SRI 社会的責任投資入門』 日本経済新聞社 2003 4532350506

名和高司 『パーパス経営』 東洋経済出版社 2021 9784492534366

水口剛 『ESG 投資』 日本経済新聞出版社 2017 9784532357443

その他 / Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 4 B

Special Topics:Social Design 4B

(経済学と人間学)

丸山 俊一 (MARUYAMA SHUNICHI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM384

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

(1) 不透明感を増している資本主義、その本質をつかむ。(2) 歴史上の経済学、社会思想の巨人たちの発想のエッセンスを理解する。その上で、人間の本質と現代の経済、社会の構造との関係性を探究する。

"The objectives of the course are: (1) To grasp the essence of capitalism, which is becoming increasingly opaque. (2) To understand the essence of economic thought and social ideas from historical giants in the field. Subsequently, to explore the relationship between human nature and the structures of contemporary economics and society."

授業の内容 / Course Contents

現代の経済学と人間に関わる問題の本質を、欲望、市場、合理性などをキーワードに、多角度から考えていきます。その時、人間の居場所はどこにあるのか？システムが強大化し、人々の疎外感が高まっているかに見える現代社会にどこからどのようにアプローチすべきか？かつての「経済学の巨人」たちの思想の可能性を探究

し、併せて社会学、哲学など社会思想のフレームでも問題を捉え直すことで、大きな視野で現代社会の構図の読み解きを目指します。「経済学の父」アダム・スミスの真意はどこにあったのか？ ケインズ、マルクス、シュンペーター、ハイエク、ヴェブレンなど、巨人たちの思想を吟味、現代的な意義を考えます。「経済」という事象も、人と社会と時代が織りなす「物語」として捉え直す時、新たな光景が広がります。人と経済と、人と社会の関係の再構築の為に、皆さんと一緒に考える機会となれば幸いです。

"We will explore the essence of contemporary economics and issues related to human beings by examining concepts such as desire, the market, and rationality from multiple perspectives. At this juncture, where does the place of humans lie? How should we approach the seemingly escalating alienation in modern society, where systems are becoming more powerful?

By delving into the possibilities of the thoughts of past 'giants of economics' and reconsidering issues through the frameworks of sociology, philosophy, and other social sciences, we aim to decipher the composition of contemporary society with a broad perspective. Where did the true intention of the 'father of economics,' Adam Smith, lie? We will critically examine the ideas of giants such as Keynes, Marx, Schumpeter, Hayek, Veblen, and contemplate their contemporary significance.

When we reinterpret the phenomenon of 'economics' as a narrative woven by individuals, society, and the times, new perspectives emerge. I hope that this will be an opportunity for us to think together about the reconstruction of the relationships between individuals and economics, as well as individuals and society."

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：イントロダクション 「経済」とは？「近代経済学」とは？今資本主義が直面する問題
- 2 回：「アダム・スミスは間違っていた？」「経済学の父」の真意は？
- 3 回：「ケインズの発想に今何を学ぶ？」大衆社会の本質を考察したその着想の本質は？
- 4 回：「マルクスの可能性をどこに見出す？」“革命家”ではなく哲学者としてのマルクス
- 5 回：「シュンペーターの預言」イノベーションの提唱者が見抜いていた社会構造の変化
- 6 回：「ハイエクが市場に賭けた真意」“新自由主義の教祖”の素顔
- 7 回：「ヴェブレン“異端”の眼差しが捉えていた真理」逆説の経済と人間
- 8 回：「再びスミスへ“見えざる手”を可視化する時」あらためて欲望とは？
- 9 回：マルクス・ガブリエル「倫理資本主義」の可能性
- 10 回：無形資産/AI/ポスト産業資本主義 時代の経済と人間
- 11 回：中間報告/ディスカッション 現代資本主義の可能性と限界 人間の行方
- 12 回：デジタル経済時代の倫理と貨幣論
- 13 回：20世紀アメリカ型資本主義と大衆社会論の系譜
- 14 回：まとめ 最終報告とディスカッション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	：○	スライド（パワー等）の使用	：○	上記以外の視聴覚教材の使用	：○
個人発表	：○	グループ発表	：○	ディスカッション・ディベート	：○
実技・実習・実験	：○	学内の教室外施設の利用	：	校外実習・フィールドワーク	：○
上記いずれも用いない予定	：				

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

時に、講義で扱う事象、文献など受講生の皆さんにリサーチと報告を行ってもらい、そこから議論を深めていく予定です。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合：100% 講義内での小レポート／報告:30% 講義内での討議への参加:40% 最終レポート割合：:30%

テキスト / Textbooks

丸山俊一 14歳からの資本主義 大和書房 2017 ○

丸山俊一 働く悩みは「経済学」で答えが見つかる SB新書 2022 ○

参考文献 / Readings

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

講義の際は、パソコンを携帯していただけましたら幸いです。

その他 / Others

初回受講生の皆さんと対話し、それぞれの学びの志向性、背景、目指す目標などを確かめた上で、講義の進め方など柔軟に調整していきたいと思えます。

また、研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがあります。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 5 B

Special Topics: Social Design 5B

(社会デザインと福祉課題 2)

三浦 建太郎 (MIURA KENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM385

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

福祉とは「生きづらさ」を抱える人を支え、人の幸福を高めるための様々な取組と考えられる。その在り方には、明確な正解があるわけではなく、社会で暮らす私たち自身が、どのような社会を望むのかという意味を持ち、試行錯誤を重ねることで進化していく。まさに社会デザインの発想と取組が求められている。

この講義は、現代社会の福祉的課題を踏まえた上で、高齢化や人口減少、価値観の多様化、科学技術の発展、グローバル化など、社会に既に影響を与えつつある変化、将来、影響を及ぼす可能性のある変化を取り上げ、社会で日々暮らしている私たち自身が、どのような社会になることを望み、どう対応していくべきか、自らの意見と行動の判断ができるようになることを目標とする。

This course aims for students to learn about changes already impacting society, such as aging and declining populations, diversifying values, development of science and technology, globalization, and changes that might affect the future.

The purpose of this course is to be able to judge our own opinions and actions on what kind of society we want to be and how we should respond to change.

授業の内容 / Course Contents

- ・ 想定される社会の変化を踏まえ、今後直面するであろう福祉的課題を考える
- ・ 様々な言説を元に、議論を重ね、多様な視点から考える
- ・ 社会に起こりうる変化に対し、どう対応するべきか、自分の意見をまとめる
- ・ 講義の後半では、履修学生同士数名のグループで、目指す未来社会へ向けての提案を議論する
- ・ Consider the welfare issues that will be faced in the future as society changes.
- ・ Based on various discourses, repeatedly discuss and think about the welfare system from various viewpoints
- ・ Summarize your individual opinions on how to respond to possible changes in society.
- ・ In the final session of the lecture, students will work in groups to discuss proposals for an ideal future society.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1回：オリエンテーション
- 2回：日本の現状の福祉課題を確認し未来社会を考える 1
- 3回：日本の現状の福祉課題を確認し未来社会を考える 2
- 4回：人口減少社会を考える
- 5回：人生 100 年時代を考える
- 6回：幸福を考える
- 7回：技術の進化を考える
- 8回：資本主義と民主主義を考える
- 9回：未来社会の予想と創造の方法を考える
- 10回：企画提案のテーマ決め（目指す未来社会を想定し、その社会を実現する取組のステップを考えて提案する）
- 11回：企画提案プランニング 1（グループワーク）
- 12回：企画提案プランニング 2（グループワーク）
- 13回：企画提案プランニング 3（グループワーク）
- 14回：企画提案発表会（グループ毎に提案を発表）

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	○	ディスカッション・ディベート：○
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

時事問題等を通じて、社会の変化に関心を払い、起こりうる福祉的課題とその対応方法について自分の意見を考えておくこと。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 講義への出席と理解:60% 議論への参加と貢献度:20% 発表内容:20%

テキスト / Textbooks

特になし

参考文献 / Readings

ダニエル・カーネマン ファスト&スロー 早川書房 2014 9784150504106

リンダ・グラットン アンドリュー・スコット LIFE SHIFT(ライフ・シフト) 東洋経済新報社 2016
9784492533871

広井良典 人口減少社会のデザイン 東洋経済新報社 2019 9784492396476

講義の中で適宜紹介する。

その他/ Others

オンライン (zoom) での受講も可能なミックス型で実施予定

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 6 B

Special Topics: Social Design 6B

(対話と社会デザイン)

亀井 善太郎 (KAMEI ZENTARO)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM386

授業形態： ハイフレックス

授業形態（補足事項）

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保障するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

社会課題を巡ってはさまざまな見方が社会に存在しているが、すべてのステークホルダーから見た真の課題認識とその解決はきわめて困難なのが現代の実情だ。

しばしば「対話」の重要性が説かれるが、私たちは「対話」の本当の意味を理解しているだろうか。そして、その意味を我が身のものとして日々実践できているだろうか。日本人は対話を重ねるのが苦手だというが本当だろうか。対話と議論の違いは具体的になんだろうか。

「対話」をテーマとした古今東西のテキストを題材に、実際に「対話」を体験することを通じて、現代の社会課題に向き合うために不可欠な「対話」とは何か、その本質を探り、身体感覚としての「対話」を自分のものにするプロセスを経ることを目的とする。

There are various views regarding social issues in society, but it is the reality of today that it is extremely difficult to realize the real issues and solutions from the perspective of all stakeholders.

Although the importance of "dialog" is often described, do we understand the true meaning of "dialog"? And can we practice that meaning in our own everyday lives? It is true that Japanese people are not good at building up dialogs? What is the difference between dialog and discussion specifically?

Based on texts from all times and places on the theme of "dialog" as the subject, the aim of the course is to ask what is the essential "dialog" to face contemporary social problems by actually experiencing "dialog", search for the essence, and go through the process of making "dialog" one's own via the physical senses.

授業の内容 / Course Contents

「対話」をめぐる古今東西のテキストを一緒に読みながら、対話に求められること、対話の本質等を明らかにする。なにより、「対話」は、ある種の身体感覚を伴うものであり、自ら体験するしかない。

また、「対話」を通じた社会課題解決についても考える機会を設け、現代社会における課題の本質を明らかにすると共に、「対話」をもって臨む社会課題への向き合い方についても考えていきたい。

While reading texts on "dialog" from all times and places together, we will clarify what is required for dialog and the essence of dialog, etc. Above all, "dialog" involves some kind of physical sensation, and you have to experience it for yourself.

In addition, we would like to provide opportunities to consider about social problem solution cases through "dialog", clarify the essence of the problems in modern society, and think about how to deal with social issues through "dialog".

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

- 1 回：総論（いまなぜ「対話」が求められているのか、小さくなる社会と分断・・・）
- 2 回：考えること、感じること（小林秀雄『美を求める心』から）
- 3 回：対話とは何か（猪木武徳『自由をめぐる思想史』から）
- 4 回：対話とは何か（猪木武徳『自由をめぐる思想史』から）
- 5 回：対話のエッセンス、作法等（モンテーニュ『エッセー』から）
- 6 回：よく「聴く」ことを考える（鷲田清一『「聴く」ことの力』から）
- 7 回：よく「聴く」ことを考える（鷲田清一『「聴く」ことの力』から）
- 8 回：日本における対話の源泉（宮本常一「忘れられた日本人」から）
- 9 回：コミュニケーションとは（デヴィッド・ボーム『ダイアログ：対立から共生へ、議論から対話へ』）
- 10 回：対話とは（デヴィッド・ボーム『ダイアログ：対立から共生へ、議論から対話へ』）
- 11 回：自己との対話、考え続けることの意味（映画『ハンナ・アーレント』、アーレントの著作から）
- 12 回：対話とは何だろうか①、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう
- 13 回：対話とは何だろうか②、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう
- 14 回：対話とは何だろうか③、対話を社会課題の解決に活かすとはどういうことだろう

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:	校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:	○			

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

授業時に指示する。対話で用いるテキスト（上記文献の抜粋、各回 20～30 ページ程度）は PDF ファイルの形で Canvas LMS にアップする。

文献・テキストについては、対話において積極的に発言できるよう、事前に熟読しておくことが求められる。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 授業・演習における発表や他の発言者への貢献等:100%

3 / 4 以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

授業計画のとおり。

参考文献 / Readings

採り上げる文献は上記授業計画にあるものを予定している。小林秀雄『美を求める心』、猪木武徳『自由の思想史』、鷺田清一『聴くことの力』、モンテーニュ『エッセー』、宮本常一『忘れられた日本人』、デヴィッド・ボーム『ダイアログ：対立から共生へ、議論から対話へ』、ハンナ・アーレントを扱った映画等を採り上げる。対話の材料とするテキストについては、PDF ファイルで事前に授業支援システムにアップする。

その他 / Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となる場合がある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。

社会デザイン学主題別研究 8 B

Special Topics:Social Design 8B

(都市環境生活論)

滝口 直樹 (TAKIGUCHI NAOKI)

開講年度： 2024

科目設置学部： 社会デザイン研究科

科目コード等： WM388

授業形態： ハイフレックス

授業形態 (補足事項)

校地： 池袋

学期： 秋学期

単位： 2

科目ナンバリング： SDS7910

使用言語： 日本語

授業形式： その他

履修登録方法： 科目コード登録

配当年次： 配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。

先修規定：

他学部履修可否： 履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。

履修中止可否：

オンライン授業 60 単位制限対象科目：

学位授与との関連： 各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針 (DP) や教育課程編成の方針 (CP) に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。

備考： 社会デザイン研究科では、教室での対面授業を基本としながら、同時に遠隔地在住の学生の学びを保証するため、オンラインでも受講できる形で授業を行う。なお、履修者全員の下承が取れた場合には、「対面のみ」もしくは「オンラインのみ」で授業を行うこともある。

授業の目標 / Course Objectives

都市は、大気や水、廃棄物、生物など環境の切り口からも分析することができる。環境面の切り口から都市の特性を考察し、経済や社会からは見えない課題を描き出し、都市の持続性を考える視座を得る。

Cities can be analyzed from environment aspects such as air, water, solid waste and wild life. In this course, participating students will study characteristics of cities from environmental point of view, find hidden issue which economy and society tend to ignore, and obtain good picture of sustainability of cities..

授業の内容 / Course Contents

今や都市地域に居住する人は多数派となり、都市での経済/社会のありかた抜きに現代社会は語れなくなっている。一方で、都市の持続可能性を考える際に、環境問題への取組は、軽視されがちだが欠かすことができない要素である。本授業では、都市のあり方を様々な環境の側面から検討し、その抱える問題点を明らかにし、21世紀の都市の持続性を考えるきっかけを得る。

なお、授業で扱うテーマ、その扱う順序は受講生の関心事など踏まえて変更することがあり得る。

Major population lives now in urban areas and we cannot get good insight on modern society without reviewing economy and society of cities. On the other hands, when reviewing urban sustainability, environmental issues are often overlooked but essential elements. In this course, participating students will study cities from various environment aspects, realize issues to be tackled, and obtain clues to think about sustainability of cities in 21 century.

The themes and order of the course schedule may change according to the interests and questions of the course participants.

授業計画(授業計画数：14) / Course Schedule

1回：ガイダンス

都市の定義、都市の特性を議論し、都市の持続性、都市とその外とのつながりを考える。

2回：都市と環境①廃棄物

都市での廃棄物処理問題について、取組の歴史、現在の課題について検討する。

3回：都市と環境②水道、下水道

都市の水インフラである上水道、下水道をめぐる課題を明らかにする。

4回：都市と環境③エネルギー

都市でのエネルギー消費の特徴とその環境への影響、取組の方向性を検討する。

5回：都市と環境④自動車交通と大気汚染

都市での車、トラック利用とそれによる大気汚染について、裁判の歴史や自治体の取組を踏まえながら、考察する。

6回：都市と環境⑤都市の野生生物

都市に生きる野生生物とわたしたちの都市生活との関わりを考察する。

7回：都市と環境⑥土壌・地下水

都市、特に工場跡地での土壌汚染、地下水汚濁とその除去対策を考える。

8回：都市と環境⑦気候変動とその適応

都市での気温上昇、都市型洪水への「適応」の可能性を探る。

9回：都市と環境⑧都市と建築物、アスベスト

都市景観の構成要素でもある建築物のあり方や、多くの建築物に残されてるアスベストといった都市建築物をめぐる問題について検討する。

10回：都市の土地利用・都市農業

都市計画と土地利用のあり方、都市農業について考える。

11回：都市の持続性を担う人々

市民やNPO、町内会といった市民活動、地域活動を担う人々について、その現状、支援や育成について考察する。

12回：都市と海外とのつながり

都市の生活は海外で生産、採取されたものによって支えられており、サプライチェーンによるつながりの現状、問題点を検討する。

13回：都市と地方とのつながり

都市は、地方の自然が提供する生態系サービス（水、大気、防災など）の恵みを受けている。その関係を地域循環共生圏の考えなども踏まえて考察する。

14回：まとめ・クロージング

都市の持続可能性を環境をベースに考え、これからの持続可能な都市づくりの方向性について、検討する。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	:	スライド（パワポ等）の使用	:	○	上記以外の視聴覚教材の使用	:
個人発表	:	○	グループ発表	:	ディスカッション・ディベート	:
実技・実習・実験	:	学内の教室外施設の利用	:		校外実習・フィールドワーク	:
上記いずれも用いない予定	:		:			:

授業時間外（予習・復習等）の学習 / Study Required Outside of Class

日々の都市生活について、日頃から環境の視点で見つめ直してみる。

そのほか必要なことは、授業内で提示する。

成績評価方法・基準（成績評価方法区分：11） / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発言、質疑応答など:30% 振り返り:30% 最終レポート割合 :40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

環境省 令和5年版環境白書 日経印刷 2023 4865793232

履修に当たって求められる能力 / Abilities Required to Take the Course

議論への積極的な参加

その他 / Others

研究科の学事・行事（報告会、進学相談会等）と授業時間が重複した場合、その日の授業についてはオンデマンド講義となることがある。

注意事項

本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし、教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、課題の発表や討論など、授業での積極的な参加を期待する。

本科目は、博士課程後期課程におけるコースワーク科目である。後期課程の受講者は、前期課程の受講者より高度な知識・スキルを身に付けることを目標としたうえで、成績評価基準についても、前期課程の受講者より高度な達成水準を要求する。